

030209その他の建築工事業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
2022	12	12 ～ 14	木造家屋の解体工事において、家屋周辺に足場の設置スペースを確保するため、被災者が道路と家屋を隔てる高さ約1.5m、横幅約4.5mのブロック塀の解体作業を行っていたところ、ブロック塀が倒壊し、下敷きとなったもの。	419	5	1～9
2022	1	12 ～ 14	災害発生日、被災者は打合せ後、修理の部品を取りに新重合槽建屋に行った際、8階から9階に上がる階段の途中（踊り場）でうつ伏せに倒れた状態で亡くなっているのを発見された。工場では設備のメンテナンスを終え、別会社が前日から窒素の充填を行っていたものの、8階にある新重合槽タンクの蓋が仮止めになっており、隙間から窒素が漏れ、建物に充満していたことから酸欠による死亡の可能性が高い。	714	12	1～9
2022	1	12 ～ 14	R C 7 F ビル解体工事現場において、5階の解体作業中に、被災者は5階床面にあけたガラ投下口（1.8m×1.2m）付近で作業を行っていたところ、当該開口部から約10m墜落した。	414	1	1～9
2022	1	8 ～ 10	木造2階建て建物の2階屋根において、事業主と被災者の2名が高圧洗浄機を用い瓦屋根の洗浄作業をしている際、被災者がバランスを崩して、約5メートル下の地面に墜落したもの。	415	1	1～9
2022	2	16 ～ 18	被災者は、塗装を行っていた工場の屋根の端部を移動中、バランスを崩し外部足場の手すり足場板の間から約1.5m下の地面に墜落したもの。外部足場に、中さんおよび巾木はなかった。	415	1	10～ 29
			家屋の解体工事にあたり、被災者はダンプトラックで瓦礫の運搬を行って			

2022	2	16 ～ 18	おり、積込時は現場前の坂道（公道）で車内待機するよう指示されていた。しかし、夕方、ドンと大きな音がしたため、別の作業員が見たところ、ダンプトラックは当初の停車位置より坂道を後部から3メートルほど下り、工事作業中のドラグショベルに当たって止まり、被災者がその間に挟まれ負傷していた。救急搬送されるも数十分後に死亡が確認された。	221	17	10～ 29
2022	3	10 ～ 12	解体を行う店舗建物の屋上に設置されていた鋼製の柵を溶断してロープを結び、高さ約10メートルの当該建物屋上から地上に下ろす作業を行っていた際に墜落したもの。なお、作業では墜落防止措置として、親綱を張り、墜落制止用器具を使用していたが、墜落時にこのランヤードが切断した。	414	1	1～9
2022	3	18 ～ 20	夕方、仕事を終え、建設現場から会社事務所に戻るため、10人乗りの乗用車に1次下請1社、2次下請2社の労働者計6名が乗り合わせ現場を出発。ジャンクションの約500m手前で車の調子が悪くなったため、ブレーキランプ及びハザードランプを点灯させ、路肩に停車していたところ、後方から大型トラックに追突された。	221	17	50～ 99
2022	3	12 ～ 14	倉庫のスレート屋根上において、被災者はコーキング補修を行っていたところ、スレート屋根を踏み抜き、約6.5メートルの高さから墜落したものの。	415	1	1～9
2022	3	14 ～ 16	事業場加工場の裏山の法面（傾斜40度）において、自社の敷地を開墾し、物置き場を作るため、チェーンソーを用いて高さ13.4m、胸高直径約20cmの偏心木の伐木作業中、はね上がった伐倒木に激突したものの。	712	6	30～ 49
2022	3	14 ～ 16	外壁塗装工事において、地上から高さ約6メートルの足場上で作業をしていたところ、何らかの原因で足場板の無い箇所から墜落したものの。	411	1	0
2022	4	14 ～	清掃等の作業を事業場A構内で担う事業者の被災労働者が屋根からの雨漏りを端緒として事業場A工場屋根修理を実施していた。修理に伴い、箒などで土ぼこりを清掃していた被災労働者が樹脂製波板とスレートの重ね合	415	1	1～9

		16	わせ（境界）部を踏み抜き墜落した。			
2022	4	10 ～ 12	鉄骨鉄筋コンクリート造5階建て建物の解体現場において、4階の壁の解体作業を行うにあたり、3面の壁の解体を終え、南面の壁1面を転倒工法により解体するために、南面壁のハツリ作業等を行っていたところ、南面壁が内側に倒れてきたため、ハツリ作業等を行っていた作業員4名の内2名が倒れてきた壁に挟まれ被災し内1名の2次下請労働者が死亡した。	418	6	10～ 29
2022	4	10 ～ 12	解体工事現場にて、騒音防止のための防音シートを足場の外側に張るため、建物最上部の看板の天端（H鋼ウェブ上、幅約25cm、地表からの高さ約32.6m、屋上からの高さ約5.9m）から垂らしたヒモに、防音シート3枚（1枚7～8kgとの証言）を結び、引き上げていた際、看板の天端から5.9m下の屋上に墜落した。	418	1	1～9
2022	5	14 ～ 16	市発注の上下水道工事。振動ローラーの運転者（元請労働者）が操作レバーをニュートラルに入れて停車させエンジンをかけたまま運転席から離れた。現場責任者（元請の社長）がエンジンを切ろうとして振動ローラーの左側から運転席に身を乗り出したところ、突然これが前進し、前方で背中を向けて清掃作業をしていた下請手元作業員（被災者）が下肢から胸部にかけて轢かれ、出血性ショックにより死亡した。	144	7	10～ 29
2022	5	16 ～ 18	個人住宅で、事業主と2人で既存カーポートの屋根板の取付け作業を行っていた被災者が、脚立上（上から2段目の踏さん、高さ1.7m）からコンクリートの地面に墜落し、頭部打撲により急性硬膜下血腫となり死亡した。なお、被災者は墜落防止用の保護帽を着用していた。	371	1	1～9
2022	5	8 ～ 10	屋上防水の補修工事のため、被災者（職長）含め3名で屋上へ上がった。被災者以外の2名が作業準備をしていたところ、現場の確認作業中の被災者が屋根からアスファルトの地面へ墜落して死亡した。	418	1	1～9
2022	6	10 ～ 12	個人宅の屋根等塗装中、被災者が高さ3.8mの足場上で屋根破風の塗装を行っていたところ、足場の外側の地面に墜落し、災害発生から約1か月後に死亡した。	411	1	1～9

2022	6	12 ～ 14	被災者は、冷凍倉庫屋根の改修工事現場において、何らかの原因により、屋根の端部から地上まで、途中、足場に引っ掛かりながら約7m墜落し被災したもの。被災者は昏睡状態のまま入院治療を継続していたが、後日、肺炎により死亡した。	415	1	1～9
2022	6	10 ～ 12	被災者は技能実習生 日本での実労働は3日目、午前中より被災者を含む4名で木造2階建家屋に設置された足場の撤去作業を行っていた。30分休憩取得し、作業再開後、1時間後に被災者の体調不良を認めた同僚労働者が被災者に休憩を取らせていた。その約10分後に作業終了、現場を離れたが被災者の体調が悪化したことから、救急搬送され、入院・治療を続けたが、後日熱中症により死亡したもの。	715	11	1～9
2022	6	16 ～ 18	地上4階建てRC造ビルの解体工事中、同ビルの2階でドラグ・ショベルの作業状況を確認していた被災者が、旋回したドラグ・ショベルのバケットに激突され、地上まで垂直距離で2.2m、水平距離で3.5m跳ね飛ばされて外傷性くも膜下出血等の傷を負った。その後入院治療を続けていたが、後日、災害時の負傷に関連した急性呼吸不全により死亡したもの。	142	6	50～ 99
2022	6	14 ～ 16	個人住宅の外構工事において、コンクリート打設作業を午前中に終了した。被災者は食欲がないと昼食は摂らなかった。その後片付け作業をしていたが、被災者が少し調子が悪そうだったので休憩するよう指示していたところ、数時間後、目を離している間に倒れ、病院に搬送された。後日死亡したもの。水分、塩分の補給は行っていた。災害発生時翌日の調査でWBGT値は30度を超えていた。	715	11	1～9
2022	7	16 ～ 18	木造2階建家屋の解体工事において、解体作業で出たくずを片付けていたところ、その近くで家屋の解体作業を行っていた解体用つかみ機が後進時に横転し、ブームに激突された。	145	6	1～9
2022	7	12 ～	自動車整備業者の敷地内における建屋のスレート屋根改修工事中、スレートを踏み抜き、約5m下の建屋の床に墜落したもの。災害発生当初は意識もあり、会話も可能であったが、災害発生当日の夜に容体が急変し、2日後に死亡した。災害発生当時、屋根上に歩み板及び防網は取り付けられ	415	1	1～9

		14	ておらず、また、被災者は保護帽及び墜落制止用器具を身に付けていなかった。			
2022	7	12 ～ 14	県道を普通自動車にて進行中、交差点において、右側（林道）から進行してきたトラックと衝突した。現場に信号機はなく、トラック側に一時停止の標識があった。	221	17	30～ 49
2022	7	16 ～ 18	気温30°を超える炎天下の中、事業場敷地内にある倉庫の解体作業に従事していた労働者が、社用車で廃材を産廃業者の所有する廃棄物処理場に運んでいる最中に体調を崩して嘔吐した。他の労働者同伴のもと診療所に向かったが、当日の診察が終了しており、救急病院に向かおうとしている車内で意識を失い、救急車で搬送され処置を受けたものの死亡したもの。	715	90	10～ 29
2022	7	14 ～ 16	高所作業車を用い、高さ約6mの鉄骨梁に補強材を取り付ける作業を行っていたところ、高所作業車に積んでいた補強材と、梁の間に頭部が挟まれ被災したものである。被災者は単独で当該作業を行っており、高所作業車の操作は被災者自身で行っていた。	146	7	1～9
2022	7	14 ～ 16	民家の建設工事に付随した民家の庭を舗装する工事現場の片付け作業をしていた際に、被災者がホイールローダーに乗って幅3.7m（アスファルト舗装部分2.4m）の町道を走行していたところ、脇の用水路にホイールローダーごと転落し、被災者はホイールローダーのヘッドガードの下敷きになり、胸部圧迫による窒息が原因で死亡したもの。	141	1	10～ 29
2022	8	16 ～ 18	工場増築工事現場において、新設するストックヤードの折板の屋根葺き工事中に、被災者が折板材同士の継ぎ目部分であるハゼを自動ハゼ締機を使用して締め付け固定する作業を行っていたところ、被災者が屋根の南西側から地上に墜落したもの。	415	1	1～9
2022	8	14 ～ 16	伏越工マンホール築造のための足場組み立て作業において、被災者は、足場資材をトラックの荷台から組み立て作業員に手渡す作業を行っていたが、気分が悪くなったとの申し出があり、30分程度クーラーの効いた車内で休憩させた後、築港にある資材置き場に送り、しばらく横にさせてい	715	11	1～9

			たが、容体が悪化し、119番通報し病院に搬送、その後死亡が確認されたもの。			
2022	8	8 ～ 10	出張先の工事現場に向かうため、事業主（運転者）と被災者（助手席に同乗）が高速道路のジャンクション付近を走行していたところ、前方を走行していたトラックが右側の壁に激突し、横転した。被災者が同乗していた車両は、横転したトラックに巻き込まれ被災したものの。	221	17	1～9
2022	8	14 ～ 16	被災者は木造3階建てアパート解体工事において2階住宅部で高さ1.7mの脚立に乗り、電動チェーンソーを使用し梁を切断する作業を行っていた。下請作業員が床にうつぶせの状態で見つかる被災者を発見したものの。被災者に意識はなく、搬送先の病院で頸椎損傷で死亡した。	415	4	1～9
2022	9	10 ～ 12	ビルの解体工事現場にて、被災者が6階エレベーターシャフトから1階へ廃材を落とす作業をしていたところ、6階エレベーターシャフトの開口部（高さ15.5メートル）から1階へ墜落したものの。	414	1	1～9
2022	9	22 ～ 24	店舗入口風除室の撤去工事において、被災者が脚立を使用し、サッシのガラス板の取外し作業を行っていた。脚立の片側の踏みさん（地面から高さ1.4メートル）に両足を乗せて立ち、ガラスを取り外した後、天板（地面から高さ1.7メートル）に腰かけた際にバランスを崩し、脚立が倒れるとともに地面に墜落し、急性硬膜下血腫により死亡したものである。保護帽を着用していたが、地面に頭部をぶつける前に脱げた。	371	1	1～9
2022	10	12 ～ 14	2階建て住宅兼倉庫（1階が倉庫、2階が木造住宅）の2階住宅部分を解体する工事現場において、被災者は高さ約7メートルの2階屋根に上がって2階屋根の垂木をバールを用いて取外す作業をしていたところ、1階コンクリートの地面に墜落し死亡したものの。災害発生時、足場は設置されておらず、被災者はヘルメットを着用、墜落制止用器具は使用していなかった。	415	1	1～9
2022	10	14 ～	台風で被害を受けた工場建屋のスレート屋根の修理のため、スレート屋根上で被災者を含む作業員3名で作業を行っていたところ、被災者が屋根の明り取り板を踏み抜いて、約15mの下の建屋内に墜落した。被災者は、	415	1	1～9

		16	墜落した際に高さ1.47mのロール機の端に激突した後、コンクリートの土間に墜落した。			
2022	10	16 ～ 18	被災者は個人邸宅の車庫のスレート屋根が破損している個所を修繕していたが、作業終了の連絡がないことを不審に思った施主が様子を見に行ったところ、頭から血を流しながら座り込んでいる被災者を発見した。その後、死亡が確認された。	415	1	1～9
2022	10	14 ～ 16	自社工場の雨漏り補修をするため、被災者含む2名で工場のスレート波板の屋根上で補修作業中、スレート波板の屋根を踏み抜き、8.1メートル下の工場土間に墜落した。	415	1	1～9
2022	10	10 ～ 12	校舎屋上の防水シートを設置する作業を行っていた被災者は、新しく設置する防水シート（幅1.2メートル、全長10メートル）の端部に切れ目を入れて、引っ張りながら切り離す作業を屋上中央部から屋上端部を背に行っていたところ、屋上端部の高さ53センチメートル、幅39センチメートルのパラペットを乗り越えて、13メートル下の植え込みに墜落した。	418	1	1～9
2022	11	8 ～ 10	個人宅の屋根及び外壁の塗装工事現場において、社長が約30m離れた駐車場で塗料の調合作業を行っていた際、施工住宅の方角から音がしたためその方向を見たところ、被災者が地面に横たわっていたもの。被災者は病院に搬送されたものの、出血性ショックにより死亡した。現場の状況から被災者は住宅2階のベランダから梯子で屋根に上がり、屋根の確認中に約6.3m下の地面に墜落したものと推測される。	415	1	1～9
2022	11	10 ～ 12	被災者は、最大荷重1.5トンのフォークリフトのフォークにフレコンバック（重量1トン、中に地盤改良剤が入っていた）をかけた状態で解体工事現場の道路を走行していたが、走行中にフォークリフトが横転し、被災者はフォークリフトのヘットガードと地面との間に頭を挟まれた。なお、被災者は無資格者であった。	222	2	30～ 49
		10	民家（木造三階建て）の外壁等改修工事において、一階屋根上（勾配約25度、地上からの高さ約3.6m）でブロワーと呼ばれる機械で屋根の清			

2022	11	～ 12	掃作業をしていた被災者が、隣家駐車場に墜落したものの。被災者は、保護帽及び墜落制止用器具を着用していなかった。	415	1	1～9
2022	11	～ 14 ～ 16	2階建て木造家屋の雨樋清掃（家主から受注、工事非該当、1日のみ）に被災者一人で訪問していた。頭から出血した被災者が家主に助けを求めて来て病院搬送後、後日外傷性頭蓋骨内損傷で死亡。直後の状況は下屋根軒先（高さ約3m）から、はしご（長さ約4mの脚立兼用）が落ちかかり玄関脇植栽に引っかかっており（下端は軒先より約1.5m低い）、下屋根にはしご支柱と同幅の擦過痕、地面に血痕があった。	371	1	10～ 29
2022	12	～ 12 ～ 14	鉄骨造倉庫の屋根敷設工事に従事していた被災者が、屋根上で屋根材のボルト締め付け作業を行っていたところ、屋根上から約1.1m下方のコンクリート上に墜落し意識不明の状態での病院に搬送され、重症頭部外傷を原因とする肺炎のため死亡したものの。	415	1	1～9
2022	12	～ 14 ～ 16	外壁改修工事において、北面の6段目のシート張り完了後、7段目の組立て中、7段目の作業床から約1.1m墜落したものの。7段目に設置した親綱を腰よりも高い位置に盛り替える前に墜落した。	411	1	1～9
2021	1	～ 14 ～ 16	自動車整備工場の鉄骨平屋建てスレート屋根上において、被災者は単独で足場倒壊防止用の足場最上段を繋ぐロープを張る作業を行っていたところ、歩み板を設けていなかったため、スレートを踏み抜き、高さ5.6メートル下のコンクリート床上に墜落したものの。被災者は病院に搬送されたが、同日死亡したものの。	415	1	1～9
2021	1	～ 14 ～ 16	被災者は倉庫内で予備の型枠材を作成中、重ねた型枠材（高さ20cm）に脚立（天板高さ80cm）を乗せて上り、材料を取出す際、後ろ向きに墜落しコンクリート床面に後頭部を打った。耳・鼻から出血があり、体調不良で早退。週明けに出社せず、代表が自宅を訪ねると施設がなくリビングで倒れていた（既に死亡、死体検案書の死因は頭蓋内損傷、その原因は頭部打撲傷）。	371	1	10～ 29
		8	太陽光パネル設置工事において、被災者が不整地運搬車で運転中に、太陽			

2021	1	～ 10	光パネル架台間を通行するため左折したが、オーバーランのため切り替しをするために後進した際に、後方のパネル架台と不整地運搬車に被災者の胸部が挟まれたもの。	227	7	1～9
2021	1	14 ～ 16	家屋解体工事において、敷地境界線沿いのコンクリートブロック塀を敷地内に倒す作業を行っていた。午前中に反対側の塀を倒し、正午過ぎからドラグ・ショベルでガラの粉碎作業（1名）、同作業のガラを集める作業（被災者含め3名）を始めた。その後、被災者は斫りハンマー（ガソリンエンジン式）で残る塀の土台との境を横に斫り始め、ほぼ斫り終えた箇所で塀（長さ約15m、重量約1.8トン）が敷地内に倒れ下敷きになった。	418	5	10～ 29
2021	1	16 ～ 18	事業場資材置き場において、作業員が、トラックをダンプアップして、荷台上の廃棄物を、一度にコンテナに入れることにした。作業員が、運転席に座らず、地上からエンジンのキーを回したところ、ギアがバックギアになっており、サイドブレーキの引きが甘かったため、トラックが後ろに急発進し、トラックとコンテナの間にいた被災者が挟まれた。	221	7	10～ 29
2021	1	8 ～ 10	焼却炉解体工事現場において、重量のある廃材を、3階（高さ9.3メートル）から1階床面に押し落としていた際、誤って廃材と共に墜落し、死亡したもの。	416	1	1～9
2021	1	6 ～ 8	被災者は、自宅から直接会社の資材置場に行き、当日廃棄物の運搬に使用する2tダンプ車と、自身が乗ってきた車を入れ替えようとしていた。ダンプ車を資材置場出入口前の市道（約7.9度の下り坂）に停車し、原動機を掛けたままダンプ車から降りたところ、ダンプ車が動き出し、被災者はそれを止めようとしたが、ダンプ車の左側前輪に牽かれた。	221	17	1～9
2021	2	10 ～ 12	資材を積んだトラックで改修工事現場に到着した被災者の携帯電話から3次下請の職長の携帯電話に着信履歴があり、職長より折り返し架電したがつながらず、その後、現場への経路として利用していた階段の1階部分の踊り場で頭部から血を流し倒れている被災者が病院の外来患者により発見され、その後死亡した。	413	1	1～9

2021	2	20 ～ 22	混銑車修理工場において、混銑車内側の耐熱煉瓦張替え作業のため、被災者が混銑車の内部に立ち入ったところ、モルタルで貼り付けられていた頭上の耐熱煉瓦が崩壊し、被災者が当該煉瓦の下敷きとなったものである。	418	5	100 ～ 299
2021	2	8 ～ 10	解体途中の発電所の四脚鉄塔支持型煙突において、地上から約40メートルの高さの煙突周囲に設置されていたデッキ上で作業を行っていたところ、デッキ下に設置されていた鉄塔支持用の部材の切断作業のためにデッキ床面に開けられていた開口部（129cm×78cm）から被災者が墜落した。	418	1	1～9
2021	2	8 ～ 10	被災者は、建物内部の配管工事の足場を取り外す作業を行うため、手すり（H=1.1m）に立てかけてあった移動はしごを使い手すりを乗り越えようとしたところ、はしご上で体勢を崩し、はしごとともに高さ36.5m下のコンクリート床に墜落したものの。	371	1	1～9
2021	2	14 ～ 16	工場屋根の修理作業中、屋根スレートを踏抜き、約7メートル下に墜落した。	415	1	1～9
2021	3	10 ～ 12	民家の倉庫の補修のために、高さ2.2mの波板トタン製の屋根に上り、しゃがんで作業を行っていた被災者が、屋根上で移動するために立ち上がろうとしたところ、バランスを崩し、地面に墜落し側頭部を強打し死亡したものの。	415	1	1～9
2021	3	16 ～ 18	中古で購入したバックホウ浚渫船の老朽化したバックホウ上部旋回体部分を解体する作業中、被災者は地上から高所作業車を使用してバックホウのブームに近接させ、高所作業車のカゴからバックホウのブームに移り、解体するブームに安全帯のフックを掛け、ガス溶断作業をしていたところ、切断したブームの落下とともに被災者も地上に墜落し、ブームの下敷きとなったものの。	239	1	1～9
2021	3	6 ～	映画館の通路にて、シアター内の天井レベルを測定するため、待機していたところ、具合が悪くなりしゃがんでいた。映画館スタッフが声をかけると、一度立ち上がったため、同スタッフはその場を離れたが、その直後に	921	90	1～9

		8	仰向けに倒れた。救急搬送翌日、死亡が確認されたもの。			
2021	3	12 ～ 14	3階建て木造住宅の2階の床を解体するため、1階からバールを使用して手ばらし解体中に2階の床が崩落し、逃げ遅れた被災者が下敷きとなったもの。	418	5	1～9
2021	4	14 ～ 16	屋根補修工事のため、スレート屋根上において、雨漏り防止のため二重に設けられたスレート板の一枚目を取り除き、当該スレート板を持ちながら屋根上を歩いていたところ、屋根板を踏み抜いたことにより約6.2m下のコンクリート床面に墜落し、翌日の夜死亡が確認されたもの。なお、墜落時保護用保護帽及び墜落制止用器具は着用していた。	415	1	1～9
2021	4	10 ～ 12	ガスホルダーを解体するためクライマー（移動昇降式足場）を設置するに当たり、ガスホルダーの歩廊の一部をガス溶断する必要があり、被災者はクライマーのデッキ上（地上26.5m）で歩廊撤去に伴う火気養生作業を行っていたところ、デッキの手すりのない箇所から、地上15.2mの第一歩廊上に墜落した。療養していたが、入院先の病院で死亡したもの。	411	1	10～ 29
2021	4	10 ～ 12	既存の建物の改修工事の建屋屋上における防水工事において、被災者と同僚労働者が、屋上に貼る防水シート（ロール状の長さ10メートル）1本を、所定の幅に手で引き裂く作業中、ロールを解きながら2人向き合ってそれぞれ反対方向に後退しながら引き裂いていたところ、被災者が10メートル後退して裂き終えた場所が建屋屋上の北端であり、その場所においてバランスを崩し、7.65メートル下の地面まで墜落したもの。	415	1	10～ 29
2021	4	8 ～ 10	新型コロナウイルス感染症による。同僚の新型コロナウイルス陽性者とともに車に同乗し、後日発熱。PCR検査にて陽性判明。医療機関にて入院中に死亡。	911	90	1～9
2021	5	10 ～	高速道路の料金所の車線表示板のLED化更新工事において、被災者は、ブーム式高所作業車（リース車）に一人で乗り、料金所天井（高さ約5m）付近で作業していた（被災少し前に電気ケーブル格納の天井点検口を	146	7	1～9

		12	開けている監視カメラ映像あり)が、天井に背中を付け、胸がバケット(作業床)上縁(手すり部分)に押し上げられる形ではさまれている状態(胸部圧迫による窒息状態)でいるのが発見された。			
2021	5	12 ~ 14	新築工事現場において掘削した土砂を碎石場まで被災者が2tトラックで運搬していた。6回目の運搬時、碎石場において、被災者がトラックを事務所外に停車させ降車し、事務所内において伝票作成の待機中、トラックが前方に動き始めたため、事務所を飛び出しトラックの前方でトラックを止めようとしたところ止めきれず無人のトラックに轢過され死亡したものの。	221	7	1~9
2021	6	14 ~ 16	700トンバンカー上屋の北面の外壁を張る作業中、被災者が現場からいなくなったため捜索したところ、バンカー内に墜落したことが判明したため、約4時間半後に救出されたが死亡したものの。バンカーの天板の一部が腐食により開口部となっており、被災者は当該開口部からバンカー内に墜落したものと推定される。当該バンカーはコークス工場で製造したコークスを一時貯留する設備であり、災害当時のバンカー内の温度は約140度。	414	1	1~9
2021	6	8 ~ 10	被災者はスレート屋根の上でスレート屋根の交換作業の作業指示や作業補助を行っていた。スレート屋根には、ごく一部に歩み板が設けられていたが、大半の場所に設置されていなかった。作業を行っていたところ、被災者はスレート屋根を踏み抜き、約9m下の工場建屋床面のコンクリートに墜落し、死亡した。	415	1	10~ 29
2021	6	16 ~ 18	被災者ほか1名は、鉄骨造3階建屋の解体作業を屋上階で行っていたところ、屋上の床面が崩壊し、3階部分へ墜落した。その結果、被災者は屋上に設置されていた塔屋の支柱の下敷きになり、もう1名は3階部分へ墜落した際に足首と肩甲骨の打撲を負ったものの。	415	1	1~9
2021	6	8 ~	住宅の屋根及び外壁塗装工事現場で、地面に倒れている被災者が発見されたものの。被災者は一人で外壁の塗装作業に従事しており、ブラケット側足場の3層目から墜落したと思われる。足場には手すりが設置され	411	1	1~9

		10	ていたが中さんはなく、また、被災者は保護帽及び墜落制止用器具を使用していなかった。			
2021	6	8 ～ 10	4階建てのビル解体工事において、被災者は1階でエレベーターの搬器のワイヤーロープを固定していた金物を外したところ、ワイヤーロープが外れてエレベーターのつり合い重りが落下し被災者に当たった。	214	4	30～ 49
2021	6	10 ～ 12	現場責任者で足場の組立て等作業主任者である被災者が、工事で使用したくさび緊結式足場の最上層（3層目）部分の解体作業を行っていたところ、足場の作業床から約7メートル下の地面に墜落した。	411	1	10～ 29
2021	6	8 ～ 10	木造総2階一部3階建住宅の2階下屋及び3階屋根部分の塗装の塗り替え工事に関し、ケレン、洗浄を行う前の屋根の塗装状態の確認作業を行うに際し、被災者が2階下屋から3階の屋根に立て掛けていた脚立はしごに登る途中、脚立はしごもろとも高さ4.7メートル下の地面に墜落した。	371	1	1～9
2021	7	12 ～ 14	被災者と事業主の2名で、事業場内で刈り取った草を運搬する作業を行っていた。被災者はトラクター・ショベル（ホイール・ローダー）を運転し、刈り取った草を事業主が指定した事業場内の山側まで運搬していたところ、その途中、砂利道の路肩から転落し、約15m下の沢の底まで転がり落ち、当該トラクターショベルと地山の間で被災者の身体が挟まれたものの。	141	1	10～ 29
2021	7	16 ～ 18	被災者は、夕方頃、事業場資材置場内で型枠資材の整理作業を終え、敷地内の休憩室に戻ろうとした際、脱水症状を発症、同僚が休憩室内で給水等の手当を施し、被災者は快方に向かったため帰宅したが、翌日、容態が急変し救急搬送され熱中症により死亡した。なお、気象庁発表による当日の気温は32.7度、湿度は43%であった。	715	11	10～ 29
2021	7	10 ～ 12	発電所設備工事の一部を被災者所属事業場が請け負うことができるか確認するため、被災者は元請担当者と2名で徒歩により山中にある現場を訪れていた。現場の確認が完了し、元請担当者とともに下山していたところ、被災者は通行していた経路（幅0.7メートル）で足を滑らせて、崖下に約20メートル転落した。	417	1	10～ 29

2021	7	10 ～ 12	被災者は、浄水場内に設置された高速凝集沈殿装置の補修工事（支柱の腐食箇所補強）を行うため、設置した足場上にて作業を行っていた。足場上に立っていた被災者へ同僚が声をかけたところ反応がなく、突然膝から崩れ、当該足場から約8 m下の沈殿槽底部へ墜落し死亡したものの。	411	1	10～ 29
2021	8	10 ～ 12	解体工事現場において、被災者1名で、当該工事で使用していた防音パネル50枚（重量約500Kg）を木製パレット上に載せ、パレットの下側に単管パイプを通し、その単管パイプの両端にナイロンスリングベルトを掛けて積載型移動式クレーンで吊り、荷台へ積み込む作業をしていたところ、何らかの原因で防音パネルが傾き、被災者が当該パネルと地上に積んであった足場板材の間に胸部を挟まれ、死亡した。	212	6	10～ 29
2021	8	14 ～ 16	小学校の外壁改修工事において足場の2層目で窓枠のコーキングを剥がす作業をしていた3次下請けの作業員が、足場と躯体間の3.4 mの高さから墜落し災害当日死亡したものの。	414	1	1～9
2021	8	14 ～ 16	個人住宅の車庫建築工事において、午前中に車庫の基礎工事部分の型枠の枠組み作業を被災者を含め2名で行ったのち、午後からコンクリート打設作業を事業主含む3名で行った。被災者は猫車を用いてコンクリートの運搬作業を行っていたところ、足がふらついていたため、休ませた。被災者は現場横の日陰で横になったが、約10分後に同僚が様子を見に行ったところ意識がなかったため、緊急搬送されたが、死亡した。	715	11	1～9
2021	8	0 ～ 2	新型コロナウイルス感染症による。事業場（建設現場）にて新型コロナウイルス感染者が発生、濃厚接触者である被災者もPCR検査の結果、陽性判明し、入院、治療の後、死亡した。	911	90	1～9
2021	8	12 ～ 14	アパートの改修工事現場において、1次下請事業場の労働者である被災者は、昼頃体調が悪くなり、事業場の代表者に休憩するよう指示された。被災者は飲料を購入するため、現場近くの自動販売機まで歩いていたところ、道中で意識を失い倒れた。通行人が倒れている被災者を発見し、病院に救急搬送されたが、翌日死亡した。	715	11	10～ 29
		10	災害現場において、被災者は倉庫の屋根の修繕作業を行っていたところ、			

2021	8	～ 12	野地板（屋根本体を保持させるための屋根下地）を踏み抜いて、約4.5メートル下に墜落し、死亡したものの。	415	1	1～9
2021	8	～ 16	工場の屋根に上がって雨漏り箇所の点検をしていたところ、スレート屋根を踏み抜いて、高さ約9.8メートルから地上に墜落した。	415	1	1～9
2021	8	～ 10	埋設されていたボックスカルバートの開口部を仮止めしていたコンクリート壁が突如落下し、立坑内ではつり作業に従事していた被災者がその下敷きとなり、胸腹部圧迫により死亡したものの。	418	5	10～ 29
2021	8	～ 16	一般住宅のカーポートの屋根修繕工事現場で、被災者がカーポートの屋根に上がり、屋根材の波板の張り替え作業を行っていたところ、高さ約2.5メートル下の地面に墜落したものの。被災者は、後日死亡した。	415	1	10～ 29
2021	9	～ 12	校舎屋上の煙突の撤去工事において、約2mのコンクリート製煙突を倒すため、基礎部分を削岩機で斫り、その後鉄筋を切断機で切ったところ、同煙突が倒れ、鉄筋を切っていた被災者が同煙突の下敷きとなった。	418	7	10～ 29
2021	9	～ 18	9階建ビル屋上の解体工事における散水作業中、地下駐車場に設置した高圧洗浄機のエンジンが停止したため、状況確認のため地下駐車場へ降りた被災者Aと連絡が取れなくなり、無線指示を受けて地下駐車場に向かった被災者Bが地下入口で倒れ、Aは地下駐車場奥で倒れているのが発見された。なお、Aは一酸化炭素中毒と診断され、死亡したBについては、司法解剖で死因判断される見込みである。	514	12	10～ 29
2021	9	～ 10	マンションの外壁修繕工事現場において、当該足場の7層目（高さ約12.6m）にて足場部材の解体作業を行っていた被災者が、何らかの原因で墜落したものの。	411	1	1～9
2021	9	～ 12	災害の概要：被災者は建築物解体現場において、ダイヤモンドブレードを装着したエンジンカッター用いて基礎梁を切断し終え、次の基礎梁に移動するため引き上げるようにブレードを抜こうとしたところ、反発したエンジンカッターのブレードが回転した状態で被災者の首に当たったものの。	169	8	1～9

2021	9	12 ～ 14	倉庫の屋根のテント張替え作業中に、隣接する事務所のスレートを踏み抜いて墜落したもの。	415	1	1～9
2021	9	14 ～ 16	工場建設工事現場において、新築のボイラー室内に小型ボイラー（高さ約2.7メートル、重さ約3トン）を据え付けるためにチルローラーに乗せて搬入してから、架台に乗せ換えていたところ、当該小型ボイラーのバランスが崩れ横転し、被災者が下敷きになった。	612	6	10～ 29
2021	10	10 ～ 12	木造2階建て住宅の屋根及び外壁の塗装工事現場において、被災者は屋根塗装作業中、高さ約3.7メートルの足場外側に墜落し、死亡したもの。	411	1	1～9
2021	10	10 ～ 12	コンクリート造の建築物の解体工事現場で、コンクリート圧碎機を用いて、3階外壁及び柱・梁コンクリートを縁切りし、内側に倒す作業を行っていたところ、縁切りしたコンクリート塊が落下し、3階梁及び2階柱にはねて、被災者の運転していたコンクリート圧碎機のキャビンに激突して、被災者が死亡したもの。	145	4	10～ 29
2021	11	10 ～ 12	積み荷を運搬する為にフォークリフトのフォークを積み荷の上段（1枚あたりの重量が約15キログラムの木製パレットを15枚で1組とし、上下に3組ずつ積まれていた。）に差し込んだ際に、フォークリフトの誘導をしていた被災者が、フォークリフトの運転を一時停止させた上で積み荷の前方へ移動した後に、何等かの原因で積み荷（木製パレット1組）が崩壊して下敷きになり、救急搬送されたが病院にて死亡が確認されたもの。	222	5	1～9
2021	11	12 ～ 14	鉄骨2階建ての建築物を解体する工事において、機体重量2.42トンの解体用建設機械を運転していた被災者が、運転席とアタッチメントの間に頭部を挟まれ、死亡したもの。目撃者なし。	145	7	1～9
2021	12	14 ～ 16	被災者が休憩のため解体作業場所から現場事務所に向かう途中、本件工事の発注者の労働者が運転するフォークリフトと接触し轢かれたもの。フォークリフトは専用アタッチメントでフレコンバッグを4つ吊っており、前の視界が制限された状況であった。	222	6	10～ 29

2021	12	10 ～ 12	住宅の建て替えに伴う外壁（コンクリートブロック塀、高さ1.2メートル、幅4.2メートル、厚さ12センチメートル）の解体撤去作業中、突如、外壁が倒れ、労働者1名が下敷きとなり死亡した。当時、事業主と被災者の2名作業、事業主がハンマーでコンクリートブロック塀を叩いたり、電動工具ではつり作業を行い、被災者が地面に散らばったコンクリートブロックの破片を集めトラックの荷台に運搬する作業を行っていた。	418	5	1～9
2021	12	10 ～ 12	木造アパート解体工事現場において、アパート横にあるガスボンベ保管庫（コンクリートブロック製、高さ約1.5m）の解体作業時に発生。被災者は電動ハンマを用いて保管庫壁面のコンクリートブロックをはつる作業を行っていたところ、自立していた保管庫の1側面の擁壁が倒れてきて地面に設置してあったパイプと擁壁の間に首を挟まれた。救急車にて搬送されたが、後日死亡が確認された。	418	5	1～9
2021	12	10 ～ 12	被災者は残土運搬のため、トラックにて産廃処理業者の残土置き場を訪問していた。産廃処理業者の事業主は残土を被災者に引き渡すため、バックホウを運転して残土をフレコンバックに入れ、それを吊り上げて旋回を始めたところ、バックホウが横転した。被災者はフレコンバックをバケットのフックから外すため付近に待機していたが、フレコンバックに激突されて足元の瓦礫の上に倒れているのを発見され、同日死亡が確認された。	142	6	1～9
2020	1	8 ～ 10	被災者は、他の労働者2名とともに、集塵機上の清掃及び足場の設置・解体の作業を行っていた。被災者と同僚1名の2名で7階レベルのマンホールから集塵機内に入場し集塵機の梁材上に設置した足場板や単管を一旦全て撤去し、次の作業を行うため、梁材の上で同僚1名と一緒に待機していた時、被災者は4階レベルの集塵機の屈曲部まで約1.7m墜落したものの。	391	1	1～9
2020	1	6 ～	朝、被災者所属事業場に集合し、ワンボックスカーに7人が同乗して建設工事現場に向かう途中、休憩のため停車していた長距離大型トラックに追突した。ワンボックスカーに乗車していた7人全員が救急搬送され、2列	231	17	10～

		8	目に乗っていた1人が死亡し、他の6人も骨折などのけがをした。大型トラックの運転手にけがはなかった。			29
2020	1	14 ～ 16	外壁の塗装工事現場において、高さ2.84mの屋根上に単管足場を組み立てる作業を行った。被災者は、クランプ1点で固定された長さ4mの建地材をつかみ、足場上に上ろうとしたところ、建地材が回転し、屋根の上から墜落した。保護帽は着用していたが、要求性能墜落制止用器具は着用していなかった。	415	1	10～ 29
2020	1	8 ～ 10	銀行研修所屋根・防水改修工事において、ホイールクレーンの補助ジブの組立作業を一人で行っていた被災者（オペ付きリースとして入場）が、同クレーン車体東側で頭部から出血した状態で倒れていたところを発見されたもの。被災者は災害発生後から意識不明の状態が続いたが、後日死亡した。	212	1	10～ 29
2020	2	14 ～ 16	工場敷地内の樹木を伐倒するため、足場（幅1.8m、高さ3.6m）を組み立て、第二層目（地面から高さ約2.3m）の作業床上で作業を行っている時、バランスを崩し作業床から約4.5m下の用水路へ墜落したと推定される。	411	1	1～9
2020	2	8 ～ 10	屋根改修工事のため、スレート屋根上で資材の荷卸作業をしていた被災者が、スレートを踏み抜いて約5mの高さから墜落したものの。	415	1	1～9
2020	2	10 ～ 12	木造建築物解体現場において、解体用機械（鉄骨切断機）を使用して作業を行っていた。現場に金属ごみの分別等の作業に来ていた被災者が解体用機械の旋回部分に激突され、旋回部分とキャタピラの左後方に胴体を挟まれ、死亡したものの。	145	6	10～ 29
2020	2	14 ～ 16	太陽光発電設備設置現場において、既設の立体駐車場2階床部分に太陽光発電設備を取り付ける作業中、開口面の向かい側へ渡るために使用していた道板（長さ4メートル、幅20センチメートル、厚さ3.5センチメートル、重さ13.2キログラム）を付け替えのため外していた際、4枚の	418	1	1～9

			うち1枚目を持ちあげたところバランスを崩し、高さ約3メートル下のアスファルト面に墜落したものの。			
2020	3	10 ～ 12	被災者4名は工事現場で作業終了し、ワンボックスカーに同乗して自動車道下り線を移動していた。ワンボックスカーが中央分離帯のガードレールに衝突後、走行車線のガードレールに接触し、車体は回転しながら中央分離帯で停止した。	231	17	30～ 49
2020	3	8 ～ 10	被災者は、所在する工業のスレート屋根上にて、屋根の棟部分の補修作業を行っていたところ、スレート屋根を踏み抜き、約9メートル下のコンクリート床に墜落し、搬送先病院にて死亡したものの。	415	1	1～9
2020	3	8 ～ 10	被災者は、トロンメル（土砂が混ざった産業廃棄物を、土砂と土砂以外にふるい分ける機械）を運転させながらチェーン部分に給油していたところ、投入口の受け部分と、回転していた円筒部分の間に巻き込まれ、死亡した。	169	7	1～9
2020	3	16 ～ 18	現場作業終了後、同社資材置場で資材の片付けをしている時、体調が悪くなり、車の中で休んでいる間に呼吸が止まっていた。	921	90	1～9
2020	3	4 ～ 6	新型コロナウイルス感染症により死亡したものの。	911	90	30～ 49
2020	4	10 ～ 12	地上8階建ての病院新築現場において、基礎部分のコンクリート打設作業を行っていたところ、生コン打設に使用していたコンクリートポンプ車の第2ブームが折損し、打設場所の均し作業を行っていた被災者にブームが激突した。	149	6	10～ 29
2020	4	8 ～ 10	工場の雨漏り修繕のため、屋根スレート板の張替え作業中、使用していた工具等を片づけるために屋根上を移動していたところ、スレートを踏み抜き約8.5m下のコンクリート床に墜落したものの。	415	1	10～ 29
		14	塗装工事で使用した足場を解体するため被災者が足場の解体作業を行って			

2020	5	～ 16	いたところ、防護管のない配電線に触れたため、感電したもの。	351	13	1～9
2020	5	～ 16 18	マンション建築現場において、マンション8階西面ベランダの天井スラブ吹付塗装施工後、被災者が同ベランダで3段脚立に乗って塗装済のベランダ内部側壁の養生シートを外していたところ、ベランダ西側の開口部からマンション2階のベランダの高さに停止していたロングスパン工事用エレベーターの搬器に墜落したものの。救急搬送されたが昏睡状態が続き、16日後に死亡した。	414	1	1～9
2020	6	～ 10 12	住宅の修繕作業終了後、傾斜地に設置した高所作業車のアウトリガーの格納作業中、車両後部の操作装置を操作しアウトリガーの格納を終えたところ、車両が後方に動きだし、被災者を押したまま約15メートル自走し停車した際、被災者が車両の下敷きとなったもの。	146	7	1～9
2020	6	～ 16 18	災害発生当日、躯体4階において、上記被災者を含む6名は共同で、R階スラブの型枠解体作業（型枠を解体し、解体したコンパネ又は型枠支保工を台車に乗せて作業構台まで運搬し、作業構台から移動式クレーンにより積み降ろす作業）を行っていた。クレーンオペレーターが被災者が落下しているところを目撃。墜落の瞬間を目撃した者はいない。作業構台上には、コンパネ31枚を乗せた台車（約400kg）があった。	419	1	1～9
2020	6	～ 10 12	被災者は、マンションの西面に設置されたくさび緊結式本足場において、メッシュシートの取り外し作業中、足場床面と手すり（足場床面から高さ90cm）との間から、3.71m下の地面に墜落したものである。	411	1	1～9
2020	6	～ 8 10	解体工事現場において解体用機械を用いて、10トントラックに解体した鉄材を搬入作業中、立入禁止域の外側でケイカル板を袋に詰め直す作業を行っていた被災者が、立入禁止域の内側で倒れている状態で発見された。病院に緊急搬送されたが、胸背部外傷による外傷性ショックにより、災害発生日に死亡が確認された。	418	4	1～9
			被災者は、地面からの高さが18メートルの足場のステージを組立作業に従事していた。ステージは鋼製の根太の上に足場板を乗せた状態で、番線			

2020	6	10 ～ 12	で足場板は固定していなかった。被災者はステージ端部で固定されていない足場板の上で、天秤状態になり、足場板と一緒に地上へ墜落したものである。被災時、手すりや親綱は設置されておらず、墜落防止措置が行われていなかった。被災者は墜落後ただちに病院へ搬送されたが死亡。	411	1	1～9
2020	6	8 ～ 10	新築工事現場14階において、工事用エレベーターを13階から15階までクライミングする作業の準備作業を行っていた被災者が、15階エレベーターピット開口部に設置してあった墜落防止用ネットを取り外すため、エレベーターの搬器上部手すりに設定されていたブラケット足場に上がろうと足をかけたところ、足場が外れ、約60メートル下の地下1階エレベーターピットに墜落したものの。	411	1	30～ 49
2020	7	14 ～ 16	コンビニの駐車場で体調を崩し、救急搬送されたが、搬送から1時間30分後、搬送先の病院で急性心不全にて死亡した。長時間労働が原因で体調を崩したもの（同日の夕方に死亡）。	921	90	1～9
2020	7	14 ～ 16	農業用ビニールハウスの補強工事にて、屋外で金物加工、コーキング及び補強材取付の作業を行っていた作業員1名が熱中症に罹患し、同日に死亡したもの。被災者は当日の朝から作業を開始してお昼頃に重症化した状態で発見されており、その間に1時間15分の休憩を取っていた。当日の天候は晴れであった。	715	11	1～9
2020	7	8 ～ 10	4階建マンションの屋上防水工事において、職長と被災者が屋上（地上から高さ13.43メートル）に上がり、当日の作業内容の説明後、職長は被災者を残し、1人で1階に降り、道具を（高圧洗浄機、電源コード）を持って再度屋上へ上がった。職長は、道具を使用する際の電源や水の準備のため、1階にエレベーターで降りたところ、マンション敷地内で仰向けに倒れている被災者を発見し、同日に死亡が確認された。	418	1	1～9
2020	8	16 ～ 18	被災者はS造2階建集合住宅の解体工事現場にて、解体により生じた廃材を手作業でフレコンバッグに仕分けする作業を行っていたが、夕方ごろフレコンバッグにうつ伏せに倒れているところを代表者に発見された。その	715	11	1～9

			後、救急搬送されたものの熱中症に起因する心筋梗塞により死亡した。			
2020	8	10 ～ 12	被災者は、倉庫屋根上（鉄骨スレート葺）を覆っている木の枝の除去作業を同僚と2名で従事していた。同僚がチェーンソーで木の枝の切断する係を担当し、被災者は切断する木を押さえる係を担当をしていた。被災者は、外部足場から倉庫屋根上に移動し歩いていたところ、屋根に取り付けていた明り取り用波板を踏み抜き、589cm下のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2020	9	10 ～ 12	つり上げ荷重2.33tの積載型トラッククレーンを操作し、荷台に積みだヒューム管（約600kg、60cm（外径）、長さ2.5m）の積み下ろしをしていたところ、移動式クレーンが倒れ、運転席ドア部と地面に挟まれた。	212	6	1～9
2020	9	12 ～ 14	被災者は、フォークリフトを運転しソーラーパネルを設置する架台の運搬作業をしていた。昼休み終了後、降雨により運搬作業を中断し、空荷状態のフォークリフトを駐車場所へ戻すため、傾斜のある作業道（アスファルトの上を泥が覆っている状態）を下っていたところ、斜面でフォークリフトが滑り、バランス崩し横転した。このときフォークリフトに挟まれ死亡したものの。	222	2	1～9
2020	9	14 ～ 16	現場はダムに設置された水門の塗装工事現場である。塗装の前工程として、水門周辺の既設通路の上で水門の養生作業を行っていたところ、4.5メートル下のコンクリート製の取水路に墜落したものと推定する。被災者は脳挫傷により死亡した。	419	1	1～9
2020	9	10 ～ 12	支店の構内にある建屋の屋根の雨漏り補修工事を行うため、雨樋の取付作業を行っていたところ、1次下請の作業員が高さ約5メートルの位置（ベランダの腰壁の上）から誤って墜落し、死亡したものの。	418	1	1～9
2020	10	10 ～	プール遮光ネット取り付け用アンカー取り換えのため、高さ5mほどの箇所のアンカー打設を行っていた。プール脇の床から高さ2.5m～3mの壁（壁幅がプール内側から外側に向かって傾斜がかかっている）に脚立の1段目踏み面を乗せて立てかけ、当該脚立に乗って作業を行っていたと推測	371	1	1～9

		12	されるもの。被災者は当該脚立から屋外側へ墜落し死亡したもの。なお、本工事は体育館仕切ネット修繕の附随工事である。			
2020	11	8 ～ 10	改修工事現場内の機械室屋上において貼り付けた防水クロスの余分な箇所をカッターナイフで切取る作業を行っていた際、誤って自身の左足ふくらはぎ部分をカッターナイフで切創し負傷。止血が困難な状態となって自身の携帯電話で現場監督へ状況を伝え、駆け付けて発見され、消防へ救急を要請。応急処置を図り、病院へ向かったが、救急搬送の途中に出血性ショックにより心肺停止した。	364	8	1～9
2020	11	12 ～ 14	工作物解体撤去工事（建物解体後に残っている基礎部分と人工地盤の解体撤去、自社が元請）において、被災者は、人工地盤に混在している廃棄物（皿等の生活用品）を手作業で分別作業中、人工地盤の端部から高さ約5.79メートル下の地上部分に墜落した。救急搬送先の病院で、多発性外傷からの出血性ショックによる低酸素脳症のため死亡したもの。	418	1	10～ 29
2020	11	16 ～ 18	倉庫のスレート屋根の張り替え工事をしていた被災者が、スレートの取り付けをしようとしたところ、スレート屋根を踏み抜き、約6.3m下のコンクリート床面へ墜落したもの。	415	1	30～ 49
2020	12	12 ～ 14	足場の資材置き場にて、被災者が一人で、足場部材の結束作業をしていたところ、隣に積まれていた支柱の束（高さ1.8m）が倒壊し、下敷きになって死亡したもの。	521	5	10～ 29
2020	12	14 ～ 16	被災者は、工場のスレート屋根の張り替え工事で使用した足場の解体作業を行っていたところ、腐食していた既設点検台の床面を踏み抜いて地面に墜落したもの。	418	1	10～ 29
2020	12	10 ～ 12	被災者は、同僚が運転するトラックに乗車し、事業場へ向けて走行中、運転者が操作を誤り道路脇の支柱に激突したため、助手席に乗車していた被災者が死亡したもの。	221	17	1～9
		8	被災者は、スレート屋根を更新する工事現場において、地上から高さ約15mの場所に位置するスレートを踏み抜き、地上に墜落した。建物周囲に			

2020	12	～ 10	は足場があり、屋根上には3列の親綱が張られていたが、歩み板は無く、墜落防止用ネットを屋根上に広げる作業が途中まで行われていたが屋根を踏み抜いた箇所にはネットがまだ広げられておらず、墜落制止用器具も親綱にかけていなかった。	415	1	1～9
2020	12	10 ～ 12	被災者が単独で脚立を使用し、天井と壁の継目部分の隙間を接着する作業を行っていたところ、何らかの原因により脚立とともに転倒し、頭部を床に打ったもの。被災者は病院に搬送されたものの、硬膜下血腫により死亡した。災害発生時、被災者は保護帽を着用していなかった。	371	1	1～9
2019	1	～ 14	被災者は、建築物の解体工である。災害発生当日、解体工事を請け負った現場で解体作業にあたっており、現場に面した路上に駐車したトラックの中で昼休憩を取るため助手席側にドアを開き乗り込もうとしたところ、後方から走行してきた軽自動車に激突され頭部及び胸部を強打して死亡したもの。	231	17	10～ 29
2019	1	6 ～ 8	化学工場工場棟新築工事現場における作業員用駐車場において、現場作業員が乗っていると思われる車両が炎上した。車両を消火したところ、炎上した車内に焼死体1体が発見された。	513	14	1～9
2019	1	～ 12	被災者が、アパート建築現場の壁材・天井材として用いる石膏ボードを、事業場自社工場においてパネルソーで裁断し、集積して積み上げる作業を行っていたところ、作業場所の近接箇所に積み上げてあった石膏ボード（高さ推定3メートル以上）が崩壊してその下敷きとなり、脳挫傷等により死亡した。	611	5	10～ 29
2019	2	14 ～ 16	6階建ての建物のルーフバルコニーの屋上において、被災者ほか2名で、屋上の周囲に設けられていたフェンスの台風により内側に傾いた部分の補正作業中、被災者は、フェンスの外に出て、中庭に設置された高さ約17mのクサビ式足場上でフェンスを垂直になるよう外側から支える工程を終え、足場の手すりに寄りかかって座り込んだところ、手すり作業床の隙間から、後ろ向きに墜落し、死亡したものである。	411	1	1～9
			祭りのメインステージを製作する作業において、あらかじめ雪像用に用意			

2019	2	12 ～ 14	された雪塊（奥行5.5m、幅8m、高さ6～8m、角が3本）にドラグショベルで荒削りしようと爪を立てたところ、当該雪塊が崩壊（奥行2.5m、幅8m、高さ6m、体積約120m ³ 、重量72t※密度0.6と仮定）して近くにいた作業員2名が下敷きになった。	419	5	50～ 99
2019	2	16 ～ 18	折板屋根修繕工事において、FRP製明り取り折板の交換のため、屋根上で墜落防止用の手すり等の仮設資材設置作業中、被災者は作業が終了したため屋根から降りるまでの間に、設置済みの手すりの外に出て、交換する予定のない劣化した明り取り折板を踏み抜き、約15m下に墜落して死亡した。	415	1	1～9
2019	2	12 ～ 14	鉄骨階段の組立作業中に、鉄骨階段が倒壊し、当該階段上にいた被災者が地面に墜落して被災したもの。	413	1	1～9
2019	2	16 ～ 18	地上8階、地下2階、エレベーター塔屋3階建てのビル解体工事にて、エレベーター塔屋2階のコンクリート支柱の解体作業中、当該支柱下部を斫り、鉄筋を溶断しながらピット内に落とすために支柱上部にワイヤーロープをくくり、向かい側に設置した車両系建設機械で引っ張っていたところ、コンクリート支柱がピット内に倒れ、車両系建設機械がピット内に引かれたはずみで被災者がピット内に投げ出されて、35m墜落した。	145	1	100 ～ 299
2019	2	12 ～ 14	現場において、午後から胃痛を訴え、車内で休んでいたところ、意識消失状態で発見され、病院へ搬送されたが、同日死亡した。	921	90	100 ～ 299
2019	3	12 ～ 14	電波塔を建設する工事において、塔の基礎となる立坑（深さ約6.3メートル、直径1.43メートル）を掘削中、内部の掘削した土砂を容器に入れて搬出するために移動式クレーン（つり上げ荷重2.37トン、カニクレーン）を用いて吊り上げていたところ、巻上用ワイヤーロープが切断したため吊り荷とフックが落下して立坑の底部で作業をしていた被災者を直撃した。	212	4	1～9
			木造戸建住宅新築工事現場において、足場業者の労働者である被災者が、			

2019	3	16 ～ 18	一側足場を組み立て終了後、足場の4層目（高さ約8m）で足場周囲のネットを留めていたところ、墜落したもの。救急搬送後、搬送先の病院で死亡した。	411	1	10～ 29
2019	3	16 ～ 18	防水工事を行う予定になっていたマンションに何らかの作業を行うために被災者が訪れた際、屋上からアルミ製の脚立をはしご仕様にして立てかけ、庇に向かって何段か下ったところ、被災者が下ることにより重心が建物と反対側に移動した。その結果、脚立が建物と反対側に傾き、被災者とともに7.91メートル下の地上まで墜落したものである。なお、脚立はしごは固定することなく使用していた。	371	1	1～9
2019	4	10 ～ 12	資材等を保管するために使用していたコンテナ（高さ約2.4m、幅約3m、奥行約5m）の雨漏りを補修するために当該コンテナ上で作業していた被災者が高さ約2.4mの位置から地面に墜落したもの。	415	1	10～ 29
2019	4	14 ～ 16	自社の資材センター内で、型枠工事に使用する単管パイプ（直径：4.6cm、長さ：3.5m）が積み上げられた高さ2メートルを超える場所において、数十本ごとにチェーンで結束された単管を、チェーンを外さずに一本ずつ引き抜き、上から下へおろしていた際に、被災者が自重で傾いた単管に押し上げられ、墜落したもの。保護帽、墜落制止用器具の着用なし。災害発生後7日後に被災者は様態が急変し死亡に至った。	611	1	10～ 29
2019	4	8 ～ 10	ドラグショベル（以下、「重機」という。）を使用した土木の地ならし作業中、作業員が後退してきた重機に轢かれたもの。重機オペレーターは事業主で、被災者は事業主に連絡事項があり重機に近寄ったあと、重機の後方で電話連絡していた最中であった。	142	6	1～9
2019	5	12 ～ 14	災害時、作業員2名で工場の樋の改修を行ってところ、被災者が鋼管足場の3段目の作業床上（高さ約5m）で、3分割に切断した縦樋の上部を取り外し、地上の同僚に手渡した後、地上の同僚が縦樋を所定位置に運んでいる際に、突然、被災者が地上に墜落した。被災者は被災後、搬送先の医療機関にて死亡した。墜落の瞬間の目撃者はいないが、被災者は作業上、	411	1	1～9

			2段目の作業床に移動する予定であった。			
2019	5	8 ～ 10	倉庫解体工事現場において、被災者一人で歩道の敷鉄板を積載型小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.93t）を用いて当該クレーンの荷台に積み込み作業を行っていた。敷鉄板積み込み作業場所から「ドン」と音がしたので、廃材の仕分け作業を行っていた別の作業員が音のした方を振り向いたところ、被災者が敷鉄板1枚（縦1.53m、横3.05m、重量約800kg）の下敷きになっていたものである。	212	4	10～ 29
2019	7	10 ～ 12	建屋の基礎コンクリートの解体作業において、解体予定の基礎コンクリート上に、破碎されたコンクリートガラが山状に集積されていたため、車両系建設機械（掘削用）を使用し、コンクリートガラを搬出方向へ移動させるため、当該車両系建設機械を右旋回させた際、右旋回経路上にあった廃鉄筋とバケットが接触、緊張した廃鉄筋が飛散し、約2.2m離れた場所において、散水の準備作業をしていた被災者の胸に激突し、死亡したもの	142	4	10～ 29
2019	7	10 ～ 12	建屋の解体工事現場において、屋外に設置された螺旋階段の撤去作業を行っていた。解体途中の螺旋階段から墜落する恐れがあるため、9階の螺旋階段の踊り場に柵を溶接する予定としていたが、作業場所に被災者がいなかったことから探したところ、作業場所直下の1階部分（高低差約3.1m）にある貯水槽（水深50cm）にうつぶせの状態で見つかった。	416	1	10～ 29
2019	7	16 ～ 18	工場2階資材置場に設置されていたパイプ切断機を工場中央部に東西方向にレールが設置されている天井クレーン下まで移動させる作業中、パイプ切断機を斜めに倒した状態でテーブルリフターから降ろした際、パイプ切断機が揺れた反動により、被災者が手すりの間から約6.5m下の1階へ墜落したものの。	416	1	1～9
2019	7	10 ～ 12	解体工事現場において、被災者が解体作業中にバックで移動してきた廃材搬出用の4tトラックに轢かれ死亡したものの。	221	7	1～9
		8	地上高さ6.81mの木造2階建て住宅の屋根に上り、瓦等の点検補修作業を行った後、住宅外周に設置したくさび式足場の建地となる支柱をつ			

2019	7	7 ～ 10	たつて地上へ下りる途中に足を踏み外し、地上高さ3.48mの箇所から墜落したものである。	411	1	1～9
2019	7	10 ～ 12	看板の取り付けを複数名で行っていた。被災者ははしごを使用し看板の位置決め作業を行っていたところ、はしごから4m程度下のアスファルト上に墜落した。被災者は保護帽、墜落制止用器具は未着用。病院へ搬送されたが、その後死亡した。	371	1	10～ 29
2019	7	10 ～ 12	被災者は遅延工事を応援するため社用車で現場へ向かい、屋外北側窓のコーキング作業を開始。午前中の休憩後、西側の横滑り出し窓の取付作業等を開始したが、体調不良を訴え、現場付近の社用車内で休憩を取った。その後元請職員が被災者の乗車した車に気付いたが、既に意識が無く救急車を呼び死亡が確認されたもの。	921	90	30～ 49
2019	7	16 ～ 18	倉庫整理を行っていたところ、倉庫内壁に立て掛けてあった材木（イチョウ、長さ2.6m、幅約40cm、厚さ約15cm）2枚が倒れ、被災者が下敷きになった。その際に被災者は頸髄を損傷し、約1か月後に死亡した。	522	5	1～9
2019	8	10 ～ 12	ビニールハウス組立工事にあたり、被災者は気温31.6℃の環境下で脚立を利用し陸梁を取り付ける作業を行っていたところ、脚立に座り込み、その後ふらついた状態となった。そのため、被災者を病院に搬送したところ入院措置となり、そのまま熱中症とみられる症状により死亡したもの。	715	11	1～9
2019	8	10 ～ 12	災害当日、被災者は、熱中症嚴重警戒環境下において、鉄骨の荷下ろし作業及び仮締め作業に従事していたものであるが、嘔吐の症状が出現。休憩を取得し、飲食店に移動したが、同僚が食事中被災者は車内で待機していた。正午頃、車内に被災者がいないことに気づいた同僚が近隣を搜索したところ、意識を失って倒れていた被災者を発見。医療機関に搬送されたが死亡した。	715	11	1～9
2019	8	14 ～	改修工事において、玄関スロープ敷設のための段差のはつり作業中、コンクリート片をしゃがんで集めていた被災者の動きが鈍いことに気づき、同	715	11	1～9

		16	僚が声をかけるも、発汗がなく、次第に応答もしなくなった。その後、搬送先の病院にて死亡したものの。			
2019	8	14 ～ 16	一戸建て住宅の外壁改修工事の足場解体作業を午前中に作業員3人で行い、昼休憩を取った後に解体した足場材をトラックの荷台へ積み込む作業を行っていたところ、午後、被災者の具合が悪くなり、トラック横の日陰で水を飲んで休憩していたが、午後に被災者を確認するも見当たらず、探していると、約50m離れた住宅駐車場でうずくまっている被災者を発見し、病院へ搬送したが、熱中症により死亡したものの。	715	11	10～ 29
2019	8	12 ～ 14	工場建屋の屋根補修工事において、被災者は同工事で使用するスレート材を手を持ち、同建屋のスレート屋根上に敷かれた幅20センチメートルの歩み板を徒歩で移動し、同材を明り取り窓付近に置いていたところ、同窓を踏み抜き、約7メートル下のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2019	8	14 ～ 16	ホールの吊天井耐震化工事現場において、ホール内に棚足場を設置するのに、最上層の作業床として足場板を敷き詰める工程で、被災者がフローアから高さ9.8メートルの作業床上で、下方から足場板を受け取る作業をしていたところ、作業床の開口部からフローアに墜落して死亡した。	411	1	10～ 29
2019	8	14 ～ 16	伐倒作業を終了し、伐倒した木と掘り起こした木の根を搬出するため、グラップルを運転して木の根をトラックの側面から荷台に積み上げていたところ、重さ約180kgの木根が約3mの高さから、積込作業箇所の反対側に転がり落ちた。その際、トラックの横を歩いていた作業員の背部に木の根が激突し、死亡したものの。	611	4	1～9
2019	9	10 ～ 12	鉄骨造の倉庫解体工事において、被災者は門型に組み立てられた鉄骨の梁部分にスリングベルトにて玉掛するために、フォークリフトのフォークに差し込まれたパレットに乗り、高さ約3.1メートルの個所で作業を行っていたところ、当該鉄骨の基礎部分が腐食していたため、当該鉄骨が突然倒れ、被災者は当該鉄骨と共に地上に墜落し、当該鉄骨と地面との間に挟まれ、死亡したものである。	222	1	1～9
			乗車禁止としている資材運搬用モノレールの台車に労働者4名が乗車し後			

2019	9	16 ～ 18	退により移動中、被災者が装着していた墜落制止用器具の胴綱が台車下に垂れ下がってレール架台のボルトに引っかかり、被災者がレール上に転落、後退してきた動力車と補助レールとの間に挟まれた。	229	1	10～ 29
2019	9	14 ～ 16	建設現場において、コンクリート打設作業を行っていたところ、被災者が倒れた。その後、救急車で搬送されるも死亡に至る。	715	11	30～ 49
2019	9	8 ～ 10	鉄塔の基礎にコンクリートを打設するため、ドラグショベルのアタッチメントに自動生コンホッパーを取り付けて作業を行っていたところ、法肩が崩れドラグショベルが転倒して、その際にドラグショベルのアタッチメント部分に立会者の被災者が激突され死亡したもの。	149	6	10～ 29
2019	9	14 ～ 16	ビルの1階2階テナント跡の改修（原状回復）工事で、作業員2名が1階テナントに設置されていたブロック塀（高さ180×長さ280×厚さ12cm、重量推定600kg、内部は鉄筋が組まれ、鉄筋で床に固定）の下部を、ハンマー等の手工具を使い、はつり作業（最終的に塀を作業員の反対側に倒す前提）中、当該ブロック塀が作業員の方に倒れ、1名が下敷きとなり頭部強打で死亡、1名が倒れてくる塀と接触し軽傷を負ったもの。	418	5	1～9
2019	10	10 ～ 12	民家の解体工事現場において、地上からの高さ2.1mのブロック塀を地上からの高さ0.3mの位置でコンクリートカッターで切断していたところ、長さ約20mに亘ってブロック塀が倒れ、当該ブロック塀が被災者の頭部に激突して死亡したもの。	418	5	1～9
2019	10	14 ～ 16	工場のスレート屋根の補修のため、3名の作業員が屋根上でスレートの穴あけ、ボルト締め等の作業を行っていた。3名の作業員が休憩を取ろうと声を掛け合い、それぞれの作業場所から休憩場所へ移動しようとしていたところ、ドスンと音がした。確認したところ、穴の開いたスレート屋根から約8m下の工場内の床面に倒れている作業員1名が発見された。	415	1	1～9
		10	倉庫の屋根補修作業において、スレート屋根上に上り、ガルバリウム鋼板			

2019	11	11	～	12	を取り付けする作業中、スレート屋根を踏み抜き、高さ約7メートル下のコンクリート床面に墜落した。	415	1	1	1～9
2019	11	11	～	14	12 一般家屋解体工事現場において、庭石をアームロール車へ積込作業を行っていた際に、0.3tから0.4tの庭石を高さ約2mの位置から荷台へ落下させたことで、荷台後方の扉が押し開いて、近くで交通誘導を行っていた被災者に激突した。被災者は搬送先病院にて同日死亡した。	141	6		10～ 29
2019	11	11	～	14	12 被災者は、災害発生日の午前中に屋上パラペットの仮設の手すりを取り外し、午後から屋上パラペット付近の除雪作業を行っていたところ、約12m下のアスファルト路面に墜落した。パラペットの高さは約30cmであった。親綱等の設置はなく安全帯は着用していたものの使用はしていない。保護帽は着用していた。	418	1	1	1～9
2019	11	11	～	12	10 工場新築工事での鉄骨建方作業において、壁の鉄骨（長さ約11mの柱1本に長さ約6mの胴縁14本等を取付。）を地組し、その上に番線で束ねた壁材（折板。長さ7m、幅0.8m、18枚。計約540kg。）を置いていた。これをクローラークレーン2台で共吊りして立て起こし、被災者が地上側の玉掛シャックルを外したところ、鉄骨に固定されていなかった壁材が落下、被災者はその下敷きになった。	611	4	4	1～9
2019	11	11	～	4	2 被災者は、橋梁アーチ部の塗装工事のために使用していた吊足場の解体作業中、高さ約7m地点の作業床から墜落した。	411	1	1	1～9
2019	11	11	～	10	8 被災者は、工場の解体工事現場において、高さ約10メートルの位置にある屋根に上がりスレートを撤去していたところ、スレートを踏み抜いて地面に墜落し、死亡した。	415	1	1	1～9
2019	12	12	～	16	14 住宅ガレージの解体工事現場で発生した残材を搬出するため、現場から4トントラックに残材を積み込んで自社の資材置場に運転して、ガードレールに衝突し、のり面に転落している状態のトラック車内で発見された。	221	17	17	1～9
				8	被災者は、木造家屋の解体工事現場で解体作業に従事中、解体中のゴミ等が隣家に入らないよう、現場を単管パイプとメッシュシートで養生作業				

2019	12	～ 10	中、1階屋根の軒先から3.5m下の地面に転落し、頭部等を強打したものの。その後、病院に搬送されたものの、同日午前死亡が確認された。	415	1	1～9
2019	12	～ 20	二本のH鋼（3.6mと5.4m）をクレーンで連結させる作業を行っていた。H鋼は並列に二本置かれている状態で、その並列で置かれているH鋼の間で連結させた部分のボルトを締める作業を被災者と同作業者の二名で行っていた。連結作業終了後、チェンブロックを巻き上げた際にフックがH鋼に当たり、H鋼が被災者側に倒れ、下敷きになり、死亡した。	212	6	1～9
2019	12	～ 10	個人宅の無線鉄塔の解体作業で、鉄塔上でトラス部材のボルトを緩めた後、移動しようとした際に、緩めたトラス部材にU字吊り用安全帯をかけたため、体重をかけた瞬間に、トラス部材が鉄塔から外れ、安全帯がトラス部材から抜け落ち、約11mの高さから墜落した。被災者は墜落用保護帽を着用していた。	418	1	1～9
2019	12	～ 18	建設現場から帰社するために、ワゴン車で片側1車線の高速道路を走行中、右後輪がバーストして車体のバランスを失い対向車線にはみ出し、対向車線を走行中の大型トラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2019	12	～ 18	建設現場から帰社するために、ワゴン車で片側1車線の高速道路を走行中、右後輪がバーストして車体のバランスを失い対向車線にはみ出し、対向車線を走行中の大型トラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2019	12	～ 18	被災者が、建物の地下ピットにて躯体補強のため行われた増打ちコンクリート除去作業に従事していたところ、倒壊した増打ちコンクリート塊と壁との間にはさまれた。	418	5	1～9
2019	12	～ 12	2階建て木造住宅の塗装工事で使用した足場を解体作業中、被災者は火打ち材を取り外し、火打ち材1本を持って屋根上を移動していたところ、高さ5.95メートルの軒先から地上に墜落したものの。	415	1	1～9
		12	貯酒タンク撤去工事において、貯酒タンク（地上からの高さ約20m）の上部（鏡部）を解体後、胴部分（φ6.8m）を上方から約5mの箇所			
			で、円周方向を12分割してガス溶断して地上に降ろす作業にて、分割し			

2018	1	～	た胴板10枚撤去後、自立していた2枚の胴板がタンク内側に倒れ、倒れたタンク胴板に安全帯を掛けていた被災者が胴板とともにタンク内に墜落した。被災者は足場解体のため足場上（高さ17m）で待機していたもの。	391	1	1～9
2018	1	8 ～ 9	鉄骨造平屋建ガラス温室新営工事において、農用自走式高所作業台の収納式架台（高さ2.38m）で、屋根のアルミ軒樋とアルミ垂木を固定するボルト締め作業を行っていた被災者が、収納式架台上を移動し、安全帯の掛け替えを行おうとしたところ、足を滑らせて地上に墜落した。	149	1	1～9
2018	1	8 ～ 9	豚の尿の浄化槽建屋の屋根補修及び張替工事のため、被災者が屋根上で古いポリカーボネート波板を剥がす作業をしていたところ、波板を踏み抜き、約3.7m下の浄化槽に墜落しておぼれ溺死した。	415	10	1～9
2018	1	12 ～ 13	作業員3人（被災者を含む。）が建物3階壁面解体作業中、被災者が倒れてきた壁と3階の床面との間に挟まれ、死亡したものの。	418	5	10～ 29
2018	2	10 ～ 11	8階建てRC造建築物の外壁改修工事において、足場上で労働者6名で手渡しにより、足場部材（鋼製布板及び単管等）の荷揚げ作業中、足場用墜落防止設備を外していた足場開口部（高さ15.3m）から地面に墜落した。	411	1	10～ 29
2018	2	10 ～ 11	鉄骨造3階建のビルの外壁に設置されたシート状の店舗看板を撤去する工事現場において、被災者は店舗看板を支持している単管に木製足場板を架け、当該足場上でビル屋根上の事業主が切断した単管を受け渡す作業をしていた際、バランスを崩しシート状の店舗看板を突き破り地上まで約9m墜落した。	411	1	1～9
2018	2	16 ～ 17	被災者は、ホール内の既設吊天井の落下防止対策として、当該天井下に落下防止ネットを取り付ける作業中、ホール後部の壁面に沿って張ったワイヤーロープにネットを固定するため、ブラケット足場に乘って上向き姿勢で横方向に移動しながら作業を行っていた時、ブラケット足場とホールの壁との間にできた開口部から6.2メートル下の客席に墜落した。	411	1	1～9

2018	2	8 ~ 9	2階建て一般住宅の塗装工事のため設置したくさび緊結式の側足場を解体するため、作業員3名が各々の場所で足場外面に張られたメッシュシートを剥がしていた。建屋北西面から異音がしたことから作業員2名が駆けつけたところ、隣接アパートの敷地に倒れている被災者を発見したもの。保護帽は被災者の周囲に転がっており、安全帯は着用していなかった。	411	1	10~ 29
2018	3	14 ~ 15	倉庫解体工事において、杭抜機で鉄筋コンクリート製の杭を地面から引き抜いてつり上げた状態にした後、ドラグショベルで杭の下部もつり上げるにより杭を水平にして地面に下ろすため、被災者が杭の下部に玉掛け用ワイヤロープを取り付けていたところ、杭の表面に付着していた砂が落下して被災者に当たった。	143	4	10~ 29
2018	3	12 ~ 13	2階建住宅外壁改修工事現場において、被災者が脚立（天板高さ116cm）を使用し玄関ポーチ下部の養生作業を行っていたところ、ドスンという音が聞こえ駆けつけた同僚が脚立と一緒に倒れている被災者を発見したもの。	371	1	1~9
2018	3	16 ~ 17	事業場敷地内の足場用資材置場において、空荷でフォークリフトを走行させていたところ、フォークリフトが横転し、運転していた被災者がフォークリフトの下敷きになった。	222	2	1~9
2018	4	16 ~ 17	工場解体工事において、屋根上で波型スレートの取り外し作業中に出来た開口部から、約9メートル下のコンクリート床に墜落した。	415	1	10~ 29
2018	4	14 ~ 15	被災労働者は、解体工事現場において現場に隣接した公道（6m道路最大傾斜6度）に車両後部を突き合わせて縦列駐車した2台のトラックの間に立ち資材を搬入するための準備を行っていたところ、同僚が4トントラックを誤操作し4トントラックの後部荷台あたりと3トントラックの後部荷台あたりとの間に胸部を挟まれてしまったもの。	221	7	1~9
2018	5	8 ~	被災者が、普通自動二輪車にて二車線道路を走行中に車両と車両の間をすり抜けようとしたところスリップにより転倒、普通自動二輪車は、先ず、準中型貨物自動車の後部に衝突し弾みで被災者は、別の中型貨物自動車の	231	17	1~9

		9	後輪に滑り込み、後輪に轢かれ死亡したものの。			
2018	5	10 ～ 11	S造3階建アパート新築現場（施主が元請）において、屋上パラペットのコンクリート打設作業のために一時的に取り外していた足場最上階の手すりを同僚1名と復旧しようとしていたところ、当該手すりを取り外してあった箇所より9.5m下の地上に墜落した。被災者は病院に搬送されたが、後日死亡した。	411	1	1～9
2018	5	16 ～ 17	焼却施設の解体工事において、4次下請の鳶工2名が煙突上部周辺（地上から高さ16.4mの位置）で足場の防音シート張り及び開口部に敷き詰めていた木製足場板の撤去作業を行っていたところ、木製足場板の撤去を行っていた労働者が足場と煙突躯体の間に墜落した（墜落の高さ：16.4m）。同僚からは死角となっていたため、墜落した瞬間を目撃した者はいない。	411	1	1～9
2018	6	10 ～ 11	解体工事現場において、ダクトの撤去作業中に、当該ダクトが落下して、被災者の頭部に激突したものの。	419	4	10～ 29
2018	6	8 ～ 9	窓の清掃作業中に梯子から転落したものの（推定）。墜落制止用器具、保護帽は着用していたとのこと。	371	1	1～9
2018	6	6 ～ 7	被災者は営業職として担当していた駅の看板その他の表示物の改修工事の現場から事業場に戻るため社用車を運転していたところ、道路で対向車線にはみ出し、対向車（移動式クレーン）と衝突して死亡した。同乗者はいなかった。	231	17	100 ～ 299
2018	6	22 ～ 23	鉄骨部材（躯体梁となるH形鋼）を搬入したトラック荷台よりフォークリフトで降ろす作業中、鉄骨部材が荷台から落下し、この付近にいた被災者が当該鉄骨部材（約680kg）の下敷きとなり、死亡したものの。当時、鉄骨部材は全22本搬入されており、うち21本は降ろし終え、残された1本が落下したしたものであった。	222	4	1～9

2018	7	16 ～ 17	マンション外壁改修工事（15階建て）において、足場組立て作業中にウインチを用いて足場部材（1200鳥居枠）の荷揚げ作業をしていたところ、13階部分で足場材を取り込む際、スリングベルトがフックから外れ部材が落下し、地上で作業をしていた被災者に当たり被災したもの。	372	4	1～9
2018	7	8 ～ 9	SRC造4階建の建築物を解体する工事現場内において、3階梁部分の解体作業を車両系建設機械（解体用）2台を使って作業していたところ、近くで粉じんの飛散防止作業（散水）をしていた被災者が倒れているのを発見したもの。被災者の着用していた保護帽には、何らかの物体が激突した陥没が残っていた。被災者の死因は、脳挫傷等。	523	4	10～ 29
2018	7	8 ～ 9	被災者外5名が個人住宅屋根に既存する瓦の撤去作業を開始し、休憩した。休憩中、被災者本人から現場に入場していた代表者の息子に入電があり、倉庫裏で嘔吐し動けないとの話しであったため駆けつけたところ、被災者が倒れている状況で発見された。消防へ通報し、約10分後に救急搬送されたが、搬送先の病院で同日死亡が確認された。熱中症が疑われる。	715	11	1～9
2018	7	10 ～ 11	農業用ビニールハウスの建築工事において、組立中のビニールハウスの周囲に止水シートを埋設するため、被災者はドラグショベル（車幅83.5cm）でビニールハウス周囲の地面を掘削していた。ビニールハウスと敷地南側の水路の間の法肩（幅員130cm）で作業を行っていたところ、ドラグショベルが被災者ととともに水路に転落し、被災者が水路の石積とドラグショベルの間に挟まれた。	142	1	1～9
2018	7	14 ～ 15	被災者は災害発生日の午前中、民家改修工事現場で足場設置前の既設ベランダ取り外し作業等を補助し、午後は事業場で足場用資材をトラックに積み込んだ後、上記現場において足場用資材の荷揚げ作業に従事したが、同作業を終了した後に足場上で動けなくなり、病院に救急搬送されたが熱中症による多臓器不全により死亡した。	715	11	1～9
2018	7	10 ～	4階建て商業ビル屋上に設置された広告看板改修のため、看板製造等を行う会社に所属する被災者は、看板下地の鉄骨製作他を行う会社の2名と共に、ビル屋上で採寸他の現場事前調査を行っていた。屋上での作業を終え	413	1	1～9

		11	て、屋上へ上がる際にも使用したビル壁面に設置された垂直タラップを降りていた被災者は、ビル横の河川へ墜落し、心臓破裂により死亡した。			
2018	8	8 ～ 9	被災者は、解体用建設機械のオペレーターと共に、駐車場の周囲にあるブロック塀（13段積み、高さ2.6メートル）上部（上から5段目まで）を撤去する作業を行っていたところ、ブロック塀が崩れ（上から3段目まで）、ブロックが被災者の頭部に当たり、死亡したものである。	418	5	1～9
2018	9	8 ～ 9	被災者は2階建集合住宅の塗装工事現場において、2階屋根の軒先5.5mから、敷地境界に設置されたアルミ柵の上に落下した。現認者不在のため推定であるが、被災者は屋根上の化粧小窓の塗装のため、外部足場から屋根に渡り、傾斜角度25度の屋根上を移動中に足を滑らせ、建物外周に設けられた足場の手すり（約1m）を乗り越えたか、手すりの下をくぐり抜けて墜落したものと考えられる。	415	1	1～9
2018	9	12 ～ 13	台風により損傷した屋根の応急措置としてブルーシートによる養生を行っていた。被災者が屋根の梁部を通行中、誤ってスレート部分に足を掛け、踏み抜き、約1.2mの高さから墜落した。（安全帯装着なし。歩み板なし。）	415	1	1～9
2018	9	12 ～ 13	2階建て木造家屋の解体工事現場において、2階床部分の端で、解体した木材を1階部分に停めていたトラックの荷台に投げ下ろしていたところ、木材に付いていた釘が作業服に引っ掛かり、バランスを崩して木材と一緒に2.6m下のトラックの荷台に墜落した。被災者は医療機関へ搬送され、意識不明の重体であったが、後日死亡した。	418	1	10～ 29
2018	9	16 ～ 17	台風により破損したスレート屋根の応急処置のためビニールシートで養生中、右手をついた箇所のスレートが折れ、約3m下に落下し、後頭部等を強打したものの。	415	1	1～9
2018	9	12 ～ 13	木造2階建て店舗兼住宅の屋根雪止め交換工事において、長さ7.3mの雪止め用丸太を2階屋根上へ上げるため、丸太にロープを掛け、被災者ほか1名が高さ5.44mの2階屋根から引き上げていたところ、被災者が地面へ墜落し、死亡した。	415	1	1～9

2018	9	8 ～ 9	スレート屋根の雨漏り補修工事を鉄骨平屋建ての工場の屋根上で行って たところ、1箇所目の作業が終わり、次の箇所へ移動中にスレート屋根を 踏み抜いて高さ約8メートルの位置から工場内へ墜落して死亡したもの。 現場では歩み板は使用しておらず、被災者は安全帯を着用していたが使用 していなかった。	415	1	10～ 29
2018	9	8 ～ 9	鉄骨造1階建工場建屋建築工事に4人の屋根板金職人のうちの1人として 入場した労働者が、他の3人の職人とともに梁の上に上って鋼板製屋根材 を順次敷設する作業を行っていたところ、鉄骨梁に鋼板製屋根材を固定し ようとした際に、当該屋根板の端部から高さ7.65メートル下の地面 (砂利)に墜落して死亡したもの。	415	1	1～9
2018	9	16 ～ 17	一般住宅に隣接する物置小屋の改築工事において、代表者、被災者、施主 の3名で屋根の上に上り、防水シートを貼る作業を行っていたところ、被 災者が屋根から約4m下のコンクリートの地面に墜落したもの。	415	1	0
2018	9	14 ～ 15	商業ビル解体工事現場において、被災者は7階フロア上にてエレベーター シャフトを利用して解体ガラを投下する準備作業中、何らかの理由により 開口部となっているエレベーターシャフトより解体ガラとともに1階まで 墜落した。	414	1	1～9
2018	9	16 ～ 17	被災者は、農場の建設物の基礎工事現場において、スコップで基礎杭周囲 の土砂の埋戻し作業を行っていたところ、同じく土砂の埋戻し作業を行っ ていたドラグ・ショベル(機体重量15.9トン)が約3m後進して轆か れたものである。ドラグ・ショベルの作業範囲の立入禁止は講じられてお らず、誘導者も配置されていなかった。当該作業に従事していた当該事業 場の労働者は被災者1名のみである。	142	7	1～9
2018	10	16 ～ 17	天井改修建築工事現場において、建屋内部に設置した足場(7層目)の開 口部から切断して束ねた吊りボルトを荷下ろしするため、解体材を移動し ていたところ、体勢を崩し開口部から約1.2メートル下の床面に墜落し た。	414	1	10～ 29
			被災者を含む4名で枠組足場の解体作業を行っていた。被災者は、枠組足			

2018	10	10 ～ 11	場の10段目で交差筋かいと下さん等を取り外し、スリングロープで束ねる作業に従事していたところ、墜落し、約17.4m下のアスファルト路面に激突し、搬送先の病院で死亡したもの。足場には親綱が設置されており、被災者は墜落制止用器具（胴ベルト型一本つり用安全带）を着用していた。	411	1	1～9
2018	10	12 ～ 13	家屋の解体工事現場において、瓦礫を積み込んだ3tダンプトラック（解体工事現場に隣接する勾配12°程の道路に、運転席を下り方向に向けて停車。）の荷台上で、作業員2名が廃木材とその他瓦礫との選別作業をしていたところ、突然、このダンプトラックが下り方向に動き出したため、被災者が、あおりから飛び降りてダンプトラック前方に回り込み、止めようとしたが、転倒して胸部を同ダンプトラックにひかれた。	221	7	1～9
2018	10	12 ～ 13	工場のスレート屋根（明かり取り用）を交換する作業を行っていた労働者が、スレートを踏み抜いて高さ約5.23メートルの位置からコンクリート床に墜落したもの。	415	1	10～ 29
2018	10	16 ～ 17	工場建屋の造改築のために、元方事業場の指示で、工場建屋の壁面に足場（高さ5m×長さ10m及び高さ8m×長さ10m）を組立てる作業を開始した。被災者は、引き込み線設備のある高さ6.8mの足場上で、足場の部材を取り付けようしていたところ、引き込み線設備の碍子絶縁被覆部に、体の胸部分が接触し感電した。	351	13	1～9
2018	10	10 ～ 11	工場にあるテント倉庫の天井が台風の影響で吹き飛ばされたため、ブルーシートがかけられた状態になっていた。ブルーシートに雨水がたまり、たわんでいたため、被災者は、テント倉庫の屋上に歩み板を敷き、柄杓とバケツで水を抜いていたところ、テント内に墜落し、死亡したもの。	415	1	1～9
2018	11	8 ～ 9	被災者は積載型トラッククレーン（ユニック車）を運転して法面養生用の鉄板を現場に搬入する業務に従事していたが、現場に同車両を駐車した際に、同車両が後方へ逸走し始めたため、これを被災者が止めようと車両の助手席ドア部分を押さえていたところ、押さえきれずに車両と共に車両停車位置の側方の路肩下部へ転倒・転落し、車両の下敷きとなったもの。	212	7	10～ 29

2018	11	12	被災者はブラケット足場上で、換気扇の取替え作業に伴う換気口清掃作業を行っていたものであるが、作業中に足場から墜落し、約17.3メートル落下し、死亡したものである。	411	1	1~9
2018	12	10 ~ 11	ログハウス（平屋建て）の屋根葺き作業において、屋根端部から約2.9m下の地上に墜落し、頭部を強打したものの。負傷から11日後に死亡。	415	1	1~9
2018	12	10 ~ 11	個人宅敷地内にある立木（高さ7.5m）を伐倒する作業を作業員2名で行っていたところ、被災者が倒れてきた立木の下敷きになり、骨盤部、頭部等を負傷し死亡したものの。	712	5	1~9
2018	12	8 ~ 9	被災者を含む4名で、個人宅（木建）の解体作業を行っていたところ、土壁が倒壊し、被災者1名が下敷きとなり、心破裂により死亡に至ったものの。	418	5	10~ 29
2018	12	18 ~ 19	国外の出張先において、客先での打ち合わせのため、現地の法人の運転者が運転する車両の助手席に同乗し、移動を行っていた。高速道路上を走行中、センターラインをはみ出してきた対向車両（バス）と正面衝突したものの。病院に搬送されたが、（同乗の運転者とともに）死亡が確認された。	231	17	100 ~ 299
2018	12	10 ~ 11	平屋建ての個人住宅（最大H=4.5m）の屋根上で、1人で屋根の袖（妻面側のふち）の屋根瓦の交換作業を行っていたところ、高さ約3.2mの位置から地面まで墜落した。会社では日常的には安全带等の墜落防止措置を取っていなかった。なお、一人作業での墜落災害であり、墜落時の詳細は不明。	415	1	10~ 29
2018	12	14 ~ 15	RC4階建てビル解体工事現場において、被災者及び作業員2名の3名で内部解体作業を行っていたところ、2階作業床の端から誤って1階に墜落したものの。事故発生状況の目撃者はなく、廃材の回収に来たダンプトラックの運転手が発見し、救急搬送されたが、死亡確認されたものの。	416	1	30~ 49
2017	1	14	鉄塔の基礎撤去工事中、基礎の土砂撤去をするために手掘りで土砂を撤去していたところ、土止め支保工が崩壊し、腹起こし（H鋼）が頭部に直撃	412	5	1~9

		15	し死亡した。			
2017	1	10 ～ 11	<p>養豚場施設解体作業で発生したコンクリート片をドラグショベルでダンプトラックに積込みをするにあたり、被災者所属事業場の労働者が当該ダンプトラックをドラグショベルへ接近させるため後退させようとしたところ、地面がぬかるんで駆動輪が空転して後退できなかった。そのため、元請の代表者が当該ダンプトラックの運転を代わり、一旦前進した後、勢いをつけて後退したところ、木片を一輪車で運搬していた被災者に激突した。</p>	221	6	1～9
2017	2	16 ～ 17	<p>脚立に登ってビス留め作業を行っていたところ、バランスが崩れ脚立が倒れた際、被災者も脚立から墜落した。</p>	371	1	1～9
2017	2	10 ～ 11	<p>被災者は、自動車整備工場の解体工事において、高さ約4.6メートルの箇所にある当該工場の水平材に腰を掛け、庇に葺かれたスレートをハンマーを用いて叩き割る作業をしていたが、昼休憩となったため、地上に降りようとして梁に立てかけられていた梯子に移ったところ、その梯子の上部が梁に固定されていなかったため、梯子が転倒し、被災者も墜落してコンクリートの地面に激突し、重症頭部外傷のため死亡した。</p>	371	1	1～9
2017	2	14 ～ 15	<p>S造5階建雑居ビル解体工事において、車両系建設機械（解体用機械、鉄骨切断機）を使用して5階天井部分から随時解体を行っていたが、鉄骨のガス溶断のために作業していた被災者ががれきの上に墜落した。</p>	418	1	1～9
2017	2	16 ～ 17	<p>一般住宅外壁塗装工事において、養生のため一側足場上で単独作業を行っていた被災者が、現場前の道路上に倒れているところを通行人が発見した。被災者はヘルメット、安全帯を着用していなかった。</p>	411	1	1～9
2017	3	8 ～ 9	<p>2階建アパートの屋根を塗装中、軒先から約6メートル下の地上に墜落し死亡した。</p>	415	1	1～9
			<p>ビル外壁等改修工事に伴い、当時躯体西側の外部足場6層目（地上高11m）の外面に、飛来落下物防護棚（以下「朝顔」）を取付ける作業にて、</p>			

2017	3	14 ～ 15	朝顔の骨組みとなる単管材を「くの字」状に組み、これを足場建地に取付け後、張出し材（単管材下側）に足場板を敷き並べる作業中、「くの字」の先端（張出し材とつなぎ材）を固定するクランプ材が外れ、足場板上にいた労働者2名が、当該板とともに地上に墜落し、死亡した。	419	1	10～ 29
2017	3	14 ～ 15	ビル外壁等改修工事に伴い、当時躯体西側の外部足場6層目（地上高11m）の外側に、飛来落下物防護棚（以下「朝顔」）を取付ける作業にて、朝顔の骨組みとなる単管材を「くの字」状に組み、これを足場建地に取付け後、張出し材（単管材下側）に足場板を敷き並べる作業中、「くの字」の先端（張出し材とつなぎ材）を固定するクランプ材が外れ、足場板上にいた労働者2名が、当該板とともに地上に墜落し、死亡した。	419	1	10～ 29
2017	3	8 ～ 9	工場屋根の葺替工事中、被災者はスレート屋根を踏み抜き、10.8mの高さから工場の土間（コンクリート）に墜落した。	415	1	1～9
2017	4	12 ～ 13	木造2階建て個人住宅の屋根塗装工事において、被災者は1人で現場に入場し、壁に梯子を掛けて高さ7.4mの破風（はふ。屋根の妻部分）部分を塗装していたところ、梯子脚部の滑り止め代わりにしていた枕木（平板ブロックを敷地境界の土止め代わりに埋めて、その上に見栄えを良くするため載せたもの）が崩壊し、梯子脚部が滑動してバランスを崩し、梯子とともに転落し被災した。ヘルメットは未着用。	371	1	1～9
2017	4	14 ～ 15	老朽化したスレート屋根の上に鋼板を張る作業をしており、ほぼ鋼板は張り終えていたが、明かり取り用の塩化ビニル板を踏み抜き、約5.3mの高さから墜落した。病院に搬送されたが死亡が確認された。	415	1	1～9
2017	4	8 ～ 9	ホテル新築工事現場において、地下1階で給水ポンプユニット（重量約1.4t、幅約2.2m、奥行約1.0m、高さ約1.7m）を台車（幅約1.3m、奥行約0.8m）に載せて6名で運搬しようとしていたところ、給水ポンプが倒れて2名が下敷きになり、うち1名が死亡した（もう1名は休業災害）。	612	5	10～ 29

2017	5	10 ~ 11	1 1階建マンションの大規模修繕工事において、外壁周囲に設置されていた枠組足場（一部単管ブラケット足場）の解体作業中、被災者はプレス、別の作業員が取り外された足場板上（地上から10段目 地上からの高さ15.7メートル 建物6階付近）において作業中、地上に墜落し死亡した。	411	1	1~9
2017	5	8 ~ 9	鉄骨造建物の新築工事現場で行っていた鉄骨建方作業において、高さ9.4メートルの鉄骨上で、相番者1名と鉄骨梁の取付作業をしていた被災者に、移動式クレーンで吊られた状態の鉄骨梁（重量4.2トン）が激突し、被災者が頸髄損傷で死亡した。	212	6	1~9
2017	5	8 ~ 9	資材置場の小屋の屋根の上で樹木の枝払い作業を行っていたところ、当該屋根から地上へと約3m墜落した。	415	1	10~ 29
2017	6	10 ~ 11	集塵ダクトの解体工事において、地上に置かれた廃棄ダクト（長さ：6.3メートル、幅：1.9メートル、重量：11トン、形状：J型）を金属板とモルタルに分離し細断化するため被災者2名（溶断者、補助者）が、ガス溶断作業に従事していたところ、突然ダクトの折れ曲がった部分が裂け崩れ、この一部（長さ約3m、重量約2トン）が被災者2名の上に倒れたことから、溶断者は死亡、補助者は足を負傷した。	419	6	1~9
2017	6	12 ~ 13	被災者とオペレーターの2名で高所作業車を使用し、ホテル南面の外壁の修繕をしていたところ、搬器の底部が外壁と接触して動かなくなった。そのため、被災者が搬器の外に出て接触箇所を確認しようとしたところ、バランスを崩し約20メートルの高さから墜落した。	146	1	1~9
2017	6	16 ~ 17	既設建屋の外壁塗装作業に従事していた下請業者の被災者が、建屋1Fピロティの開口部より、深さ約3.7mの地下ピットに貯留していた深さ約2.7mの水面に墜落し、溺死した。	414	10	1~9
2017	7	16 ~ 17	屋根改修工事のため、1F屋根折版上へ外部足場を組立てるため、同場所へ上り歩行中に網入りガラス（厚さ6.8mm）を踏み抜き、7.1m下のコンクリート地面へ墜落した。	415	1	10~ 29

2017	7	8 ~ 9	被災者は鉄筋コンクリート造5階建てマンションの大規模修繕工事において屋上階スラブ面の防水シートの張り替えの作業を行っていた。両面テープが施された防水シートを後ろ向きの座位の体勢で張り替えていたところ、屋上の端部に気づかずにパラペットを乗り越え、約15m下の地上に墜落した。	418	1	1~9
2017	7	10 ~ 11	ビルの5階の雨漏り補修工事を行っていたところ、何らかの原因で脚立ごと落下した。	418	1	0
2017	7	8 ~ 9	解体の作業場から撤去した机や機材等を午前8時より、被災者含む作業員5名で4トントラックに積み込む作業を開始。8時30分ごろ、元請の作業員がトラック後方に仰向けに倒れていた被災者を発見し、救急車にて医療機関へ搬送された。搬送先の医療機関で処置後、被災者自身で自宅近くの医療機関でも受診。その後、帰宅し就寝。翌朝方、容態が急変し死亡した。	221	1	30~ 49
2017	7	6 ~ 7	工事現場に行くため、普通貨物自動車（ワンボックス）で走行していた。トンネル内の走行車線に故障のため停止していた大型トラックに追突し、全身を打ち死亡した。	231	17	1~9
2017	7	10 ~ 11	空調の設置改修工事において、高さ199cmの位置にある脚立の踏み板に乗り、天井に開けた開口部から顔を出し天井裏の状態を確認していたところ、脚立から転落し被災した。被災者は保護帽を着用していなかった。また、被災者は安全帯を着用しており、天井の部材にフックを取り付けることが可能であったが使用していなかった。	371	1	1~9
2017	7	16 ~ 17	屋根改修その他工事において、被災者は屋根上で金属製スレートカバーを運搬する作業を行っていたが、当該作業が終了し、地上にて点呼後、行方不明となったため、他の従業員が捜索したところ、屋根上で意識を失った被災者が発見された（熱中症）。	715	11	1~9
2017	7	8 ~	一般住宅の棟瓦の積直し工事において、資材の屋根への持ち込み等準備作	415	1	1~9

		9	業中、屋根から墜落した。軒の高さ約6m。			
2017	8	8 ～ 9	木造家屋の解体工事現場において、敷地と前面道路（私道）の境界に設置されていたコンクリートブロック塀（長さ2.8m、高さ1.4m、幅10cm）が倒れた。その際に、前面道路に停車していたトラックと倒壊したブロック塀の間にいた労働者が、当該塀とトラックとの間に挟まれ死亡した。	418	5	1～9
2017	8	10 ～ 11	RC造地上3階建新築工事現場において、屋上部の排水溝のモルタル補修作業を行うため、外部足場最上層（7層目）で着用していた安全帯を使用せず、外面側の筋交の一部を取り外し、ウインチを用いて、練ったモルタルが入ったバケツを巻き上げ中、12.7m下の地面に墜落し被災した。	411	1	1～9
2017	8	14 ～ 15	平屋建て家屋の解体工事現場で、作業中の被災者が熱中症により倒れ、コンクリート床上に頭部を強打した。保護帽を着用していたが、あご紐が緩かったため、転倒時に外れた。病院に搬送され治療を受けていたが、頸髄損傷により死亡した。	715	11	1～9
2017	8	6 ～ 7	建築工事に使用する鉄筋を元請所有の加工場で加工するため、事業主及び労働者3名が自家用車（ライトバン）に同乗し国道を西進中、進行方向左側に車両が逸脱しガードレールの端部に衝突後、道路脇の川に転落した。前日から当日未明まで大雨が降っていたことから、道路面が濡れていたほか、川が増水していた。	231	17	1～9
2017	8	6 ～ 7	建築工事に使用する鉄筋を元請所有の加工場で加工するため、事業主及び労働者3名が自家用車（ライトバン）に同乗し国道を西進中、進行方向左側に車両が逸脱しガードレールの端部に衝突後、道路脇の川に転落した。前日から当日未明まで大雨が降っていたことから、道路面が濡れていたほか、川が増水していた。	231	17	1～9
2017	8	6 ～	建築工事に使用する鉄筋を元請所有の加工場で加工するため、事業主及び労働者3名が自家用車（ライトバン）に同乗し国道を西進中、進行方向左側に車両が逸脱しガードレールの端部に衝突後、道路脇の川に転落した。	231	17	1～9

		7	前日から当日未明まで大雨が降っていたことから、道路面が濡れていたほか、川が増水していた。			
2017	9	12 ～ 13	工場建屋2階搬入口からフォークリフトを搬入するための搬入台の設置作業を行っていたところ、何らかの原因により搬入台2層目から墜落し、搬入台の根がらみ付近で頭から血を流して倒れているところを発見された。	411	1	10～ 29
2017	9	10 ～ 11	被災者は、トラックに載せていたドラグショベル（移動式クレーン仕様）を、道板を使用し、降ろしていたところ、道板の片側が掛けていたトラックの荷台から外れ、運転していた被災者ととともに転倒、ヘッドカード付近に頭部をはさまれた。	142	1	1～9
2017	9	14 ～ 15	ビル外壁補修を行う工事現場において、外壁のシーリング工事を行っていた被災者が、足場上の高さ約24.4メートルの地点から足場外周側に張られたメッシュシートを突き破って墜落し死亡した。	411	1	10～ 29
2017	9	12 ～ 13	体育館吊り天井改修主体工事において、足場の組立作業の補助作業を高さ約15.7mの足場上で行っていたところ、体育館既存の梁に頭をぶつけた際にバランスを崩し、足場から墜落した。	411	1	1～9
2017	10	10 ～ 11	被災者及び職長の2名が解体用機械2台を搬入し、内1台のアタッチメントをバケットからブレーカに交換した後、職長が当該解体用機械を当日の解体予定場所まで走行させようとしたところ、ブレーカ先端が解体現場の壁（幅5m×高さ2m×幅15cm、重量4t）に当たり走行方向とは反対の解体用機械側に倒壊し、解体用機械の側面で取り外した後のバケット等を片付けていた被災者が挟まれ死亡した。	418	5	10～ 29
2017	10	10 ～ 11	2階建住宅の外壁塗装工事現場において、足場の作業床（下から2層目、高さ約4m）上にてシャッターの塗装作業を行っていた被災労働者が転落した。	411	1	1～9
2017	10	14 ～ 15	被災者は、RC造3階建集合住宅の屋上防水及び外壁塗装を行う改修工事のため、外部足場（枠組足場）の組み立て作業に従事していたところ、交差筋かいのない足場3段目から地上まで5.3m墜落した。保護帽の着用あり。安全帯は着用していたが使用していなかった。	411	1	1～9

2017	11	14 ～ 15	木造二階建ての切妻屋根の板金張替え作業中、労働者2名が別々の場所で行っていたところ、「ドン」という音がしたので見に行くと、被災者が約6メートル下の地面に倒れていたため救急搬送したが死亡が確認された。	415	1	1～9
2017	11	10 ～ 11	外部足場を解体するため、足場壁つなぎを取り外し、取り外した箇所にタイルを張り、被災者がタイルの紙シートをはがす作業を行っていたところ、くさび緊結式一側足場における幅24センチメートルの足場板上を移動中にバランスを崩し地上まで高さ5.6メートル墜落し死亡した。	411	1	1～9
2017	11	10 ～ 11	トタン屋根の張替作業中、被災者はトタン上に釘を打つ位置の墨出しを行うため、仮止めしたトタン屋根の上で事業主が持つ墨つぼから糸を引き出して屋根端部を移動していたところ、足を踏み外し、約2.7m下の地面に墜落した。	415	1	1～9
2017	11	10 ～ 11	被災者は、同僚3名と建築物（建物木造、基礎鉄骨）の解体工事を行っていた。何等の理由で既設の地下1階部のコンクリート製の階段（高さ2m、幅1.4m、厚さ25cm、重量約1.5t）の裏に入っていたとき、コンクリート製の階段が折れるように上部が倒壊し、その下敷きになり死亡した。	413	5	1～9
2017	12	12 ～ 13	被災者は、二階建て集合住宅の各戸の窓周りのコーキング除去作業において、当該事業場が設置した枠組み足場の2段目の躯体側に、地上から高さ約4mの位置にブラケットを使用し足場板（長さ4m）を設置し作業していたところ、足場板を固定していなかったため、ずれ、傾き、足場の外側に設置した手すりと作業床の隙間から墜落した。	411	1	1～9
2017	12	16 ～ 17	事業場倉庫付近の側溝を流れる水を利用するために側溝の中に入って工具を洗浄中、被災者の姿が見えなくなったため、事業主が探していたところ、8m離れた下流の側溝で、うつ伏せで倒れている被災者を発見した。	418	2	1～9
2016	1	9 ～	RC造4階建て家屋の解体工事にて、コンクリート圧砕機を用いて4階壁の解体を行っていたところ、コンクリート片が飛来し、コンクリート圧砕	145	4	1～9

		10	機の後方で解体木片等の片付けを行っていた被災者に直撃した。			
2016	1	16 ～ 17	店舗兼住宅の解体工事現場において、店舗部（平屋鉄骨造）の屋上ベランダ上で廃材等の清掃を行っていた被災者が、既に梁を外した箇所のスラブに乗ったところ、スラブが長さ約7.2m、幅0.93mにわたって崩落したため、一緒に約3mの高さから墜落した。	418	1	30～ 49
2016	1	8 ～ 9	取引先が所有する資材置場においてトラックで搬送した荷の荷下ろしはい付けを行っていた際、当日以前にはい付けしてあったはいの4段目手前側へ同種の荷（鋼製単管を結束して束にしたもの、一束約250kg）を追加はい付けし、次に隣へ同様に各段2束ずつ合計4段のはいを1段目から積もうとしていたところ、はいが荷崩れし、崩れてきた荷とトラックの間にいた作業者がその間に挟まれて胸部を圧迫され被災した。	611	5	1～9
2016	1	10 ～ 11	塗装補修用の単管足場の設置作業に従事していた労働者が、足場鋼管パイプ用のクランプを取り付けるため、500A配管の上を安全帯を使用することなく移動していたところ、足を踏み外し、10m下の地面に墜落し、死亡した。	391	1	1～9
2016	1	10 ～ 11	被災者は2名で単管と垂木で格子状に組まれた屋外資材置き場屋根の下地上にのり、鋼製波板（0.82×6.15m）1枚と鋼製足場板（幅0.24m）3枚を足場として作業中、同形状波板屋根材を持ち上げたところ、突風に吹かれて高さ4.15mの端部からアスファルト地上面に墜落し、救急車で病院へ搬送後、死亡が確認された。	416	1	1～9
2016	1	16 ～ 17	太陽光発電施設の内部で行う柱、はり等の防錆塗装工事において、塗料の飛散汚れを防ぐためにソーラーパネルのビニール養生作業をしていた被災者が、約10m下のアスファルト路面に墜落した。	418	1	1～9
2016	1	9 ～ 10	木造2階部分の屋根瓦葺き替え工事において、古い瓦を撤去後に屋根をブルーシートで覆ったが、降雨で工事箇所から雨漏りがするため、災害当日、もう一枚ブルーシートを上には掛け固定する作業を小雨の中3人で行った。その際、南面で一人作業を行っていた被災者が、軒先から4.97m下の地上に落ちていたところを事業主に発見され、病院に搬送されたが、	415	1	1～9

			3日後に死亡した。			
2016	2	16 ～ 17	太陽光発電所のフェンスの設置工事に伴い、被災者がフェンスの胴縁（重量計：約470kg）にスリングロープをかけ、車両系建設機械を用いて吊り上げて運んでいたところ、法肩から当該重機が転落し、被災者が当該重機の下敷きとなった。	145	1	1～9
2016	2	11 ～ 12	平屋コンクリートブロック造の壁（3面撤去済み、H=2.7m、L=7.3m）の撤去のため、電動ハンマーで基礎部のはつり作業を行っていたところ、壁が倒壊し作業員2名が下敷きとなった。	418	5	1～9
2016	2	11 ～ 12	平屋コンクリートブロック造の壁（3面撤去済み、H=2.7m、L=7.3m）の撤去のため、電動ハンマーで基礎部のはつり作業を行っていたところ、壁が倒壊し作業員2名が下敷きとなった。	418	5	1～9
2016	2	8 ～ 9	木造2階建て住宅を解体中、ベランダ部分が崩れ下にいた被災者が下敷きになった。	418	5	10～ 29
2016	2	15 ～ 16	マンションの機械式立体駐車場解体現場において、解体した部材を移動式クレーン（つり上げ荷重10t）でつり上げたところ、既存鉄骨梁に引っ掛かりつり上げることが出来なくなったため、被災者が鉄骨梁上に行きバールにてつり荷を引き離したところ、つり荷が振れて被災者に当たり、約5m下の地面に墜落した。	611	6	1～9
2016	3	16 ～ 17	被災者が、S造の解体工事現場で解体作業中、スレートを踏み抜き約4m下に墜落した。	415	1	1～9
2016	3	9 ～ 10	当該事業場が所有する高さ7.1mのテント倉庫の屋根を補修するにあたりビニール製の屋根上を移動していた被災者が屋根を踏み抜いて約7m下のコンクリート地面に落下した。	415	1	30～ 49
2016	3	13 ～	平屋住宅の解体作業中、被災者は梁等に架け渡した歩み板上で屋根材の取り外しを行っていたところ、梁が柱から外れ、歩み板とともに約2.8m	416	1	1～9

		14	の高さから墜落した。なお、被災者は災害発生から5日後に搬送先の病院で死亡した。			
2016	3	13 ～ 14	3階建てのビル解体工事現場において、被災者は屋上階にある階段室内で外壁解体の手元作業にあたっていたところ、窓枠及び外壁とともに9.64m下の地上に墜落して死亡した。	418	1	1～9
2016	3	17 ～ 18	マンション防水工事現場において、高さ14.4mの屋上で塩ビ製シート設置作業に従事していた被災者が、塩ビ製シートロールを持ち後退しながら高さ約38cmの parapet を乗り越え墜落した。	418	1	1～9
2016	4	15 ～ 16	解体工事現場で、地下のピットに溜まった雨水を排出する作業にあたり、地上部分に手摺りを設置していたところ、手摺りが外れ約3.5m下の地中梁上に落下した。	414	1	10～ 29
2016	4	12 ～ 13	12時過ぎ、工場のアスベスト対策工事現場において、つり足場の解体に伴う足場材の荷卸し作業中、高さ約14mの足場（ステージ）上から地上に墜落した。	418	1	1～9
2016	4	11 ～ 12	立体駐車場の解体現場で、元請事業場雇用労働者が被災したものである。被災者は、解体中の建屋の梁（鋼製、幅約70cm、地上高21m）上でアセチレンガス溶接機を用いて、駐車場設備の溶断作業を行っていたところ、誤って地上まで落下して死亡した。	415	1	10～ 29
2016	4	22 ～ 23	被災者は、加工場の1階でエレベーターの搬器上に脚立をたて、壁につり下げられていたドリルを取り、脚立から搬器上に降りたところ、搬器を電動チェーンブロックで吊っていた鋼材の溶接部が外れ、搬器とともに地下1階まで墜落し被災した。	214	1	1～9
2016	5	11 ～ 12	工事現場で打ち合せが終了し、作業員休憩所に向かうため、丁字路交差点（信号機なし）の横断歩道を横断していたところ、走行してきた軽自動車に衝突され、被災した。	231	17	30～ 49
		10	被災者は瓦の補修工事のため、屋根に上り瓦の状況を確認していたところ、頭部から出血し、コンクリート土間に倒れているところを発見され			10～

2016	5	11	る。墜落したのを目撃した者はいないが、一緒に屋根上にいた別の労働者が何か落ちる音を聞いており、音がした方を見ると、被災者がコンクリート土間で倒れていた。	415	1	29
2016	5	16	木造2階建ての牛舎解体工事において、解体用つかみ機を用いて1階部分の壁（コンクリートブロック積み）を倒そうとしていたところ、何らかの原因により当該壁（幅20m、高さ2.4m、厚さ0.15m、推定総重量7.2t）が倒れ、退避していなかった被災者が当該壁の下敷きとなり死亡した。	418	5	10～29
2016	6	14	個人事業主が運転するトラックの助手席に乗り、足場部材を積み込むため資材ヤードへ向け走行中、交差点において、信号待ちをしていたトラックに追突した。	221	17	10～29
2016	7	13	建物庇の解体工事をするため、作業員が建物屋上において電気カッターを用いて庇に切れ込みを入れていたところ、庇が落下し、下で重機の誘導をしていた被災者に落下した。	169	4	1～9
2016	7	16	被災者は外壁塗装工事に伴う屋上手すりの塗装作業中、誤って高圧電線（6600V）の引き込み線の充電部に触れたため、感電し、搬送先の病院で死亡が確認された。	351	13	1～9
2016	7	13	下請として施工中の解体現場から搬出された家屋廃材等を4t車（アームロール）により、事業場に搬入した。所定の位置にダンプアップにより廃材を降ろした後、車両から降り荷台のあおりを閉める作業を行っていたところ、他の作業員が運転するホイールローダーが後進してきたため、被災者は車両荷台とホイールローダーの後部に挟まれた。	141	7	10～29
2016	7	10	木造2階建て事務所解体工事において、被災者は2階床のほりに上がって根太の取り外し作業をおこなっていたところ、約3m下のコンクリート基礎に墜落した。	415	1	1～9
2016	7	13	被災者は、スレート屋根上でビス止め部分にコーティング剤を施す作業を行っていたところ、当該スレート屋根（高さ約8メートル）を踏み抜き墜落した。	415	1	1～9

2016	8	14 ～ 15	木造平屋倉庫の解体工事において、屋根上で屋根瓦の撤去作業中、野地板を踏み抜き約6 m下のコンクリート床に墜落し脳挫傷により死亡した。	415	9	1～9
2016	8	16 ～ 17	ドラグショベルをクレーン代わりに使用し、使用済みのバケットをトラックに積み込む作業中、ドラグショベルのバケットの裏面に取り付けられたフックにチェーンを掛け、その先端にバケットを玉掛けし、ドラグショベルのアーム部分を操作し移動していたところ、吊ったバケットがトラックのあおりに接触して、その反動でフックから当該チェーンが外れ、チェーンとバケットが落下し跳ねて、付近にいた被災者にバケットが当たった。	612	6	1～9
2016	8	11 ～ 12	被災者は、基礎型枠の解体作業において、単管等の資材の受け渡し等の作業に従事していたが、体調が悪くなってうずくまり、その後、その場に倒れこんだ。すぐに救急車を手配して病院へ搬送したが、およそ3時間後に死亡が確認された。被災時の状況等から熱中症によるものと推定される。	715	11	1～9
2016	8	6 ～ 7	被災者は、事業場所有の資材置場にて、倉庫入口の軒下（高さ276 cm）に保管した栈木を地上に降ろす作業中、フォークリフトのフォークの上に渡したコンパネの上（高さ168 cm）から地面に墜落し、死亡した。	222	1	1～9
2016	8	12 ～ 13	解体現場から廃棄物を処分場へ運搬する業務において、4 tトラックを運転していた際に発生したもの。処分場での廃棄終了後、解体現場に向かうため国道を北進していたところ、交差点前にて赤信号のため前方に停止していたワンボックスカーに気づき、ワンボックスカーを避けるため左に急な進路変更をしたところ、左車線に停止していた10 tトラックに追突し、脳挫傷により死亡した。	221	17	10～ 29
2016	9	14 ～ 15	自社の工場建屋の雨樋の交換作業を被災者は他の2名の労働者で行っていたが、その作業が終了し、後片付けを行っている時に、被災者がコーキングガンを持って屋根に上って行き、工場建屋の天井を踏み抜いて天井から工場の床（高さ8.75メートル）まで墜落し、死亡した。	415	1	10～ 29

2016	9	17 ～ 18	工場事務所屋根の防水工事において、被災者は午前8時から当該工事の補助作業に従事していたが、17時頃作業終了後、同僚と現場近くの宿舎に徒歩で戻り、17時50分頃、宿舎エレベーターを降りたところで意識を失い倒れた。直ちに病院に搬送されたが、翌日に死亡。	715	11	1～9
2016	9	5 ～ 6	被災者は早朝、自宅に迎えに来た同僚が運転する社有車の後部座席に乗り、会社に向かっていたところ、交差点を赤信号で進入してきたダンプトラックと社有車が衝突し、死亡した。運転していた同僚も休業した。	221	17	1～9
2016	9	8 ～ 9	被災者ら3名は2tトラックにて現場に向け出発、自動車道を走行中、片側2車線の直線道路で軽ワゴン車と衝突し横転。運転席隣の2名座れる席にいた被災者は車外に投げ出され、搬送先の病院にて死亡した。	231	17	1～9
2016	9	8 ～ 9	被災者ら3名は2tトラックにて現場に向け出発、自動車道を走行中、片側2車線の直線道路で軽ワゴン車と衝突し横転。運転席隣の2名座れる席にいた被災者は車外に投げ出され、搬送先の病院にて死亡した。	231	17	1～9
2016	10	17 ～ 18	スレート屋根の補修等の作業を行うため、同屋根上で作業を行っていた被災者が、スレートを踏み抜き、約5メートル下のコンクリート製床面に墜落した。	415	1	1～9
2016	10	7 ～ 8	会社事務所から乗用車に3名が乗車し、工事現場へ向かう途中、前方車両を追い越した際に車がスリップし、道路左側の路外に逸脱し電柱に衝突した。後部座席に乗っていた被災者が脳挫傷により死亡し、運転手と助手席の2名が負傷した。	231	17	1～9
2016	11	15 ～ 16	工場の屋根修理工事で、被災者と所属会社の社長の2名が、オペレーターが操作する高所作業車にて屋根に登り、歩み板や防網等の危害防止措置を取らずに作業を行ったところ、被災者はスレート屋根を踏み抜き、約9.6メートル下のコンクリート床へ墜落し、死亡した。	415	1	1～9
2016	11	11 ～ 12	アパートの屋上防水改修工事において、被災者が布設されている防水シートをカッターナイフで後退りしながら切断中、墜落防止措置が講じられていなかったため、アパート屋上（高さ9.3m）から地上に墜落した。	418	1	30～ 49

2016	11	14 ～ 15	高台にある資材置き場に停車していたフォークリフトを約1 km先にある別の資材置き場に移動させるため、当該フォークリフトを空荷状態で運転し、勾配11度のアスファルト舗装された直線の私道を前進で下っていたところ、フォークリフトがバランスを崩して横転し、被災者が投げ出され車体の下敷きとなった。	222	2	10～ 29
2016	11	12 ～ 13	被災者は、同僚4名とくさび型足場（5層）による一側足場の組立作業に従事していた。5層目の建地、手すり及び頭つなぎを設置するため、被災者が5層目に作業主任者が4層目、同僚が3層目、2層目及び地上にそれぞれ配置して組立作業を行っていたところ、足場コーナー部で手すりを設置していた被災者が足場上を斜めに横断していた送電線（6,600V）に触れ、感電により死亡した。	351	13	1～9
2016	11	10 ～ 11	会社事務所から本件工事現場へ移動するため、トラックにて高速道路を走行中、前方で交通事故の車輛撤去作業をしていたレッカー車に追突し、運転していた被災者が下肢を切断して死亡、助手席の被災者が胸部等を負傷した。	221	17	10～ 29
2016	11	15 ～ 16	被災者は、建築物の解体工事現場にて事業主とともにダンプのタイヤを洗浄する作業に従事中、ダンプの前方にて当該ダンプ前輪を洗浄していたところ、当該ダンプが発進したため、轢かれた。	221	7	10～ 29
2016	11	11 ～ 12	2次下請けの作業員4名は、トンネル（長さ：2862m、幅：1.8m、高さ：2.0m、水深：約60cm）の入口から150m付近で、坑内に設置した発電機を作動させ、トンネル壁にハンマードリルで削孔する作業を行っていた。午前11時20分頃、1次下請けの作業員が、坑内で倒れている2次下請けの作業員4名を発見した。その後、救急搬送され、死亡1名、休業3名となった。	111	12	10～ 29
2016	11	10 ～ 11	資材置場でつり上げ荷重2.9トンの積載形トラッククレーンを用いて型枠材（600キログラム）の荷卸作業中、玉掛に用いたチェーンが破断したため、つり荷が落下し、被災者の頭部を直撃、被災者は、積載形トラッククレーン荷台から地面に墜落した。	372	4	1～9

2016	12	15	被災者が、鉄製ラック内にある高さ約2.46メートルの外壁パネル上端に移動式クレーンの吊りクランプを掛けるため、鉄製ラック内に入り外壁パネルの開口部分に足を掛け乗り上げたところ、傾斜地に置かれていた鉄製ラックのバランスが崩れ横転し、被災者頭部が鉄製ラックの枠部分と外壁パネルに挟まれ死亡した。	379	5	10～29
2016	12	14 ～ 15	2階建て住宅の屋根上（高さ約6メートル）において、被災者が塗装作業を行っていたところ、外部足場（一側足場）に設けられた中さんの設置位置が高すぎたため、屋根上からその間を通り、さらに落下防止用シートの間をも通過して地上に墜落した。	415	1	1～9
2016	12	10 ～ 11	4階建RC造の解体工事において、屋根が木材等で出来ており、被災者及び2次下請けの労働者3名は屋根上で解体作業を行っていた。被災者は屋根材の切断作業を行い、その他は屋根材を集める作業を行っていた。屋根材を1か所に集めた後、被災者は、車両系建設機械（解体用つかみ機）の運転手に屋根材を下ろしていい旨伝え、その後、つかみ機が廃材をつかみ下ろしている時に被災者が屋根から飛び出して高さ約1.2mから墜落した。	145	1	10～29
2016	12	9 ～ 10	倉庫建築工事の地盤補強作業のため、ドラグショベルを用いて長さ4メートルの丸太の杭をバケットで地面に押し込む作業を行っていたところ、バケットが杭の上面から外れてしまい、バランスを失ったドラグショベルのキャタピラー前部が深さ48センチメートルの溝に落ちてしまった。このとき、被災者は、杭を両手で抱え込んで支えていたため、大きく傾いたドラグショベルのバケットが、被災者の頭部に激突した。	142	6	10～29
2015	5	0 ～ 1	建築工事現場において、石綿建材が用いられた建物や附属施設等の補修及び解体作業中に石綿を吸い、平成27年12月16日に中皮腫により死亡した。	514	12	1～9
		10	地上19階、地下2階建てのRC造建築物の解体工事中、コンクリート片に作業員1名が押し潰されて死亡したもの。コンクリート片は当該建築物17階の床を解体した一部で、ブレーカーを用いて17階から1階に投下			

2015	4	～ 11	されたものであった。エレベーターシャフトを通り落下したコンクリート片は、シャフトの受け口からシャフト外に飛び出し、そのまま現場内を約20メートル転がって被災者に激突し倒れた。	145	6	1～9
2015	9	12 ～ 13	S産業は産業用機械を製造する事業場で約30年前にN産業に砂洗浄機を納入し、メンテナンス等も行っていた。台風でスレート屋根に穴が開き、その補修作業をN産業からS産業へ依頼した。第1日目は殆ど剥がれた屋根へ波鉄板を設置する作業が行われ、第2か3日目にスレート屋根の補修作業を行っている際、被災者が踏み抜き、約5mの地上まで墜落し死亡したものの。	415	1	1～9
2015	1	8 ～ 9	防球ネット改修工事において、防球ネットを支えるコンクリート製の支柱に登り、防球ネットを取り外し、引き続き支柱上部の補強用ワイヤーを取り外す作業を行う際に、高さ約9mから墜落したものの。安全带（U字型）及び墜落防止用の保護帽は着用していた。	418	1	10～ 29
2015	8	16 ～ 17	個人住宅の解体工事現場において、被災者がアルミサッシ（ガラスが入っていた）をフレームごと取り外していたところ、アルミサッシに入っていたガラスが割れ、その一部が被災者の左前頸部（頸動脈）を切創したものの。	418	8	1～9
2015	3	11 ～ 12	工場の解体工事現場において、被災者は運搬車（クローラー式、歩きながら操縦するタイプ）に、廃材を積み込んだ後、地下の出入口へ前進していたが、何らかの要因で運搬機を後退させたところ、建物の梁（高さ1.12メートル）と運搬車の操作パネル部（高さ0.93メートル）との間に頭部を挟まれたものの。	229	7	10～ 29
2015	9	14 ～ 15	木造2階建ての民家の屋根塗装工事において、一人の作業者が2階屋根の上でサンダーがけ作業を行い、被災者が地上でサンダーのコードが引っかからないようにしていたが、しばらくした後、近くにいた施主が、屋根に上がるために設置された移動はしごの傍で、ロープを握ってうつ伏せに倒れている被災者を発見した。目撃者はおらず、移動はしごを上がる途中	999	1	1～9

			か、高さ約3.2mの下屋から墜落し、胸部を強打したものと見られる。			
2015	8	9 ～ 10	被災者はダンプの運転者で、廃材など積み込み中に運転席から降り、粉じん防止のため放水作業を行った。廃材をダンプへ積み込みを行っていたドラグショベルが旋回し、被災者はドラグショベルの後部と壁との間に胸や肩を強くはさまれた。病院へ救急搬送されたが、同日死亡した。	142	6	1～9
2015	8	15 ～ 16	S造2階建住宅解体工事現場において、丸太足場に設置した養生シートのうち、3層目部分を外すため、被災者が丸太足場の3段目に登って作業していたところ、約5メートル下の隣地との境界にある柵に墜落し、さらに約1メートル下の隣地に墜落した。ただし、災害発生前後の目撃者はいない。また、被災者は事業場に対し請求書を提出し報酬をうけていた等により労働者性に疑義があったが、労働者性が認められた。	411	1	10～ 29
2015	3	11 ～ 12	橋の塗装が終了したため、つり足場を解体する作業中に被災者が水面から2.5メートルの高さにおいて足場材を取り外し、橋の上にいる同僚に単管を受け渡す作業を行っていた際、足場から川に墜落し、溺死したものの。	411	1	10～ 29
2015	3	8 ～ 9	既存のスレート屋根部分の改修工事のため、2名でスレート屋根上に上り、墜落防止用のネットをスレート上にかぶせる作業を行っていたところ、スレート屋根を踏み抜き、高さ約5メートル下のコンクリート床面に墜落し、当日13時頃死亡した。	415	1	1～9
2015	11	10 ～ 11	スレート壁及びスレート屋根の解体工事において、取り外したスレート壁を運ぶ作業中、通路としていたスレート屋根を踏み抜き、高さ5.55m下の地面に墜落し死亡したものの。墜落時保護用の保護帽の着用はあったが、安全帯の着用、使用はなかった。	415	1	1～9
2015	4	14 ～ 15	農場屋根壁かぶせ工事において、会社から派遣され、業務に従事していた被災者ら2名の労働者は、鶏舎の屋根上に荷揚げされた屋根材の運搬作業を行うため、当該鶏舎の屋根上に登り二人で屋根材を持ち、はり付け作業を行っていた場所へ運搬していたところ、被災者が足を滑らせ転倒し、そのまま傾斜17度の屋根を端の方へ滑り、屋根の端から7m下の地面に墜	415	1	1～9

			落したもの。			
2015	6	17 ～ 18	1 4階マンションの修繕工事において、1 3階部分の枠組足場2 3段目を組立中、建枠2本を受け取り1本を建て、もう1本を建てるため横移動した際、バランスを崩して墜落したもの。（墜落高さ約3 5 m）	411	1	1～9
2015	1	5 ～ 6	被災者は支店の営業部長を務め、部下、数値目標の管理業務のほか自らも営業業務を行っていた。業務に関連して上司から厳しく注意を受けたこと、業績が上がらないことなどが起きた。家族に仕事を続けられないような話をこぼすようになり、平成2 7年1月1 8日の夕方、会社に出かけるのと告げ入社し、行方不明となった。上司の机の上に退職届が置かれ、市内の山林にてロープで首を吊っていた。	921	90	100 ～ 299
2015	6	18 ～ 19	5階建て共同住宅の屋上において、雨漏り箇所の目視確認作業中、屋上から墜落したもの。	415	1	1～9
2015	4	9 ～ 10	平成2 7年4月1 8日午前9時1 8分頃、被災者が屋根補修作業の一環として2人1組で鉄骨取り付けの準備作業である水系張りの作業を行っていた際、蓋付きの冷氣取り入れ用の機器の挿入口の上に乗ったところ、蓋が開き、約9メートル下の地上に墜落したもの。	414	1	10～ 29
2015	8	9 ～ 10	個人邸の住宅防音工事において、脚立足場（6尺の脚立の1段目に足場板を設置）上で窓のサッシの交換作業を行っていた作業者が、作業床上から墜落したもの。救急車で病院に搬送されたが、死亡した。	411	1	1～9
2015	9	0 ～ 1	被災者は、ビル屋上に設置された足場（手すりあり、昇降設備なし）において看板の撤去作業を行っていたところ、高さ約1 0メートルの足場の作業床から屋上面に墜落し死亡したもの。	411	1	1～9
2015	3	14 ～ 15	商店街アーケードの点検用通路等の試し塗り作業に従事していた際、本通路の外側にある梁上において何らかの作業をしていたとき、バランスを崩し、約7メートル下に墜落したもの。	415	1	1～9
			2階建て一般住宅の塗装工事現場において、被災者は2階屋根上で塗装作			

2015	12	11 ～ 12	業を行っていたが、自らが塗った塗料を踏んで足を滑らせて転倒、屋根を滑り落ちて軒先の雪止めに引っ掛かり一度は止まった。しかし、被災者はその場で立ち上がり、躯体外部に設置してあった単管に飛び移ろうとしたが、単管を掴み損ない、養生シートを突き破って敷地外に飛び出し、約7m下のアスファルト路面に墜落したものの。	415	1	1～9
2015	10	14 ～ 15	牧場搾乳舎の屋根の補修（応急処置）を6名（屋根上4名、高所作業車1名、地上1名）で行っていたところ、風により屋根鉄板が吹き上がり、屋根鉄板の上に乗っていた被災者4名が屋根鉄板とともに吹き飛ばされ、死亡者1名を含む3名が地面に、1名が高さ違いの低い屋根に墜落したものの。なお、屋根は切妻で、地上から棟（頂点）までは12m、軒まで7.25m、死亡者の位置は9.75mであった。	719	1	10～ 29
2015	1	15 ～ 16	国道のトンネルの入口から50m付近を、死亡した被災者が運転し、同僚が助手席に乗車するトラックが対向車線にはみ出し、逆方向へ向かっていたトラックと正面衝突したものの。事故当時、トンネル内は一部アイスバーン状態であった。	221	17	1～9
2015	2	11 ～ 12	首都高速の外壁塗装工事（土木維持補修26-2）において、塗装作業を行っていた2次下請の作業員が火災に巻き込まれ、2名死亡、3名負傷したものの。災害発生時の作業内容は洗浄用ラッカーシンナー（トルエン、メチルエチルケトン、酢酸エチル等含有）による剥離剤の払拭である。	512	16	1～9
2015	1	10 ～ 11	S造4階建の倉庫の解体工事現場において、上層より解体を進め、2階床面で北面の外壁引き倒し作業準備のため、鉄骨柱をガス溶接機により溶断を行っていたところ、外壁（10.8m×3.6m）が内側に倒れ下敷きとなったものの。	418	5	10～ 29
2015	5	15 ～ 16	RC造4階建物の解体作業中、コンクリート圧碎機を解体物（コンクリート片等）から成る山の端部に設置して、爪で鉄筋を挟み移動する作業をしていたところ、機械が後進し、地上レベルとの間に生じた約1メートル下の地面に転倒したものと推定されるもの。被災者は運転席から救出されたが、同日18時ごろ搬送先の病院にて死亡が確認された。死因は「環椎	145	2	1～9

			後頭関節離断」			
2015	9	13 ~ 14	菓子製造会社の工場の増築工事のため、木造建築を行っていた大工である被災者が、屋根上にて垂木にまたがり、下地となる木製板（野地板）を垂木にはり付ける作業を行っていたところ、垂木（3.9cm×8.9cm）が折れ、4.4m下のコンクリート地面に墜落し、全身を打撲し肺血腫により死亡した。被災者は保護帽をしていなかった。墜落防止措置は講じられていなかった。その後の調査により労働者であるとの判断に至った。	415	1	1~9
2015	7	11 ~ 12	農作業小屋のトタン屋根張替工事において、トタンを取り外すために被災者がトタンの上にあがり、トタンを固定しているボルトを外していたところ、トタンが被災者を乗せたまま屋根（勾配32度）から落下し、約4.5mのコンクリート面に激突した。その後病院に搬送され治療を行っていたが、7月18日に多発外傷により死亡した。	415	1	1~9
2015	3	9 ~ 10	個人住宅の屋根瓦葺き替え工事現場において、被災者は作業員4名とともに屋根上で瓦を剥がし、地上に停めたトラックの荷台に降ろす作業をしていたところ、約2.14m下の地面に墜落したもの。	415	1	1~9
2015	11	16 ~ 17	商店街のアーケードの張替工事現場において、被災者を移動式足場（3段組）の二段目（高さ：約3.5m）に乗せたままの状態、当該足場を移動中、地面勾配にあわせて脚部のジャッキを調整したところ、当該足場のバランスが崩れ倒壊した。このため、移動式足場に乘っていた被災者は、移動式足場と共に仰向けの状態で地面に激突し、意識を失った。（9日後、搬送先の病院で死亡が確認された。）	411	1	10~ 29
2015	10	13 ~ 14	型枠組立工場兼資材置場のトラック車庫前において、型枠資材を積載した車両積載型トラッククレーン（最大積載量6,800kg、つり上げ荷重2.9t）の運転席側のドアと座席との間に胸部を挟まれている状態の被災者が発見されたもの。当該ドアはトラッククレーン右前方に置かれた資材に接触し、ドアの外側を資材に押される形となっていた。なお、死体検案書では死亡推定時刻は13時~15時とされている。	212	7	10~ 29

2015	11	14 ～ 15	フレキシブルコンテナバックに充填された地盤改良材2袋（重量約2 t）を仮置きのため、被災者がスリングロープで玉掛けし、解体用機械（コンクリートブレイカー）で揚重作業を行っていたところ、旋回中に被災者が作業半径内に立入っているのが視界に入ったため、旋回を止めたところ、スリングロープが破断し、荷が落下して、被災者が荷の下敷きとなり被災したものの。	145	4	1～9
2015	9	2 ～ 3	被災者は、7階建てのビルに隣接する鉄骨造の立体駐車場の解体工事現場において、鉄骨の外周に設置されている壁パネルの撤去作業中、ビルの屋上部から25.4 m下方の地上に墜落したものの。災害発生時、被災者は墜落時保護用の保護帽を着用していた。また、安全帯は着用していたものの、使用していなかった。	418	1	10～ 29
2015	5	13 ～ 14	被災者は、解体現場において発生した廃棄物を運搬するため、隣接する市に所在する廃棄物処理業者の処分場に向かってトラックを運転していたところ、道路脇の電信柱に激突し、死亡したものである。	221	17	10～ 29
2015	5	8 ～ 9	民家駐車場の屋根改修作業（塩ビの屋根材を張り替える等）にて、作業手順等を決定するため屋根梁上にしゃがんでいた被災者が、バランスを崩してしりもちをつき、手で屋根材を破損し、3.1 m下のコンクリート上に墜落したものの。治療を受けていたが5月27日早朝に肺炎を直接原因として死亡した。保護帽は着用していた模様。	415	1	1～9
2015	3	12 ～ 13	木造平屋農機具倉庫解体作業で、東側、西側、南側の壁を解体後に残っていた北側の土壁（高さ約5 m、幅約6 m）が南側に向かって倒壊した。1階で足場部材の撤去を行っていた作業員と代表が倒壊した土壁の下敷きになった。周辺で分別作業を行っていた2人の作業員が、土壁を撤去して作業員を救出した。代表は自力で脱出し、救急要請した。作業員は意識不明であったが、搬送先の病院で死亡した。	418	5	1～9
2015	12	12 ～	既設めっきライン補修のための塗装工事において、被災者が、薬液槽の上に単管足場を架設する作業を行っていたところ、当該単管足場の作業床先端から、硫酸及びクロム酸等を保有する薬液槽へと墜落し、薬液に身体を	514	12	1～9

		13	浸して全身の65%に3度の化学熱傷を負ったもの。被災者は、翌日、搬送先の病院にてクロム中毒による多臓器不全にて死亡した。			
2015	4	11 ～ 12	6階建てのビル解体工事現場において、解体ガラを搬出するための開口部を設けようと、既設のエレベーターの撤去を行っていた。被災者が1階部分に停止している状態の搬器上で巻上げ用ワイヤーロープ端部の取付け金具（ロッド：6本）をガス溶断した際、搬器が数十センチ落下したことによりバランスを崩し、カウンターウェイト側に墜落。落下してきたカウンターウェイトの下敷きになり死亡したもの。	214	4	1～9
2015	5	16 ～ 17	木造2階建て料亭解体工事において車両系建設機械（解体用つかみ機）を使用していた作業中、当該重機の右側方で被災者が解体後の破片等を袋詰めしていたところ、隣地境界のブロック塀が倒壊し、被災者の後方から覆いかぶさって下敷きになったもの。被災者は、病院に搬送後死亡。	418	5	1～9
2015	1	13 ～ 14	個人住宅の解体工事現場において、2階の屋根の上で瓦おろし作業を行っていたところ、被災者の姿が見えなくなったため、同僚が被災者を探したところ、地面に墜落した被災者を発見した。被災者は、発見時に口と鼻から出血があり、病院に搬送された後、死亡した。被災者はヘルメットを着用していたが、飛来・落下物用兼電気用のものであり、墜落時保護用のものではなかった。墜落時の衝撃により、ヘルメットには割れが生じた。	415	1	1～9
2015	2	11 ～ 12	首都高速線の外壁塗装工事（土木維持補修）において、塗装作業を行っていた2次下請の作業員が火災に巻き込まれ、2名死亡、3名負傷したものの。災害発生時の作業内容は洗浄用ラッカーシンナー（トルエン、メチルエチルケトン、酢酸エチル等含有）による剥離剤の払拭である。	512	16	1～9
2015	10	10 ～ 11	新築木造平屋建ての上棟後、屋根のルーフィング（防水シート）貼りを屋根吹抜け部分5m程を残して終了した。その3日後、未貼部分のルーフィングを貼るため、ルーフィングのロールを持って屋根に上ったところ、未貼付近の雨除けのためブルーシートを張っていた屋根吹抜け部分の開口部（1.77m×1.75m）から約5m下のコンクリート床に墜落し、収容先の病院で死亡したもの。	414	1	10～ 29

2015	6	10 ～ 11	寺社納骨堂外壁改修塗装工事において、被災者が外部足場2層目作業床上（高さ2.73メートル）にて、養生シートをかがんだ姿勢で片づけていたところ、中さん等の設置のない作業床と高さ94センチメートルの手すりの間から後ろ向きに2.73メートル下のコンクリート床に墜落した。	411	1	1～9
2015	4	16 ～ 17	幼稚園建替え工事において、防音パネルの設置を行う作業に従事していた被災者が、1F屋根上で防音パネルの受け渡しをしていたところ、足を滑らせ、屋根妻側端部より墜落、頭がい骨骨折及び第7胸骨骨折により病院に運ばれるが、4月21日午前11時に死亡が確認された。	415	1	1～9
2015	9	19 ～ 20	営業訪問で徒歩移動中、道路の反対にあるコンビニエンスストアに行こうと道路を横断中、道路を走行してきた普通乗用車と接触した。当該道路は片側2車線の市道で、被災者が横断した箇所はカーブで見通しの悪いところであった。	231	17	30～ 49
2015	3	7 ～ 8	建築物の外壁塗装及び改修工事において、被災者を含む労働者4名により建築物全周に設置された足場（鋼管足場）の南面側の上で、外壁の換気用ダクト及び窓枠に付着している塗料（前日までに塗装していたもの）の拭き取り作業を行っていたところ、足場の5層目において作業を行っていた被災者が、前日までに荷上げ用として全層1スパン分足場板が取り外されていた箇所から約9.0m下の地面まで墜落したものの。	411	1	10～ 29
2015	7	15 ～ 16	4階建のショッピングセンターの屋上にある高架水槽の配管の保温工事において、作業者が高架水槽の建屋の屋上から、4.15メートル下のショッピングセンター屋上に墜落した。	415	1	1～9
2015	6	9 ～ 10	国道インターチェンジ付近で改築現場に向かう塗装工2名が乗った普通トラックが、右カーブを曲がった直後に中央車線を越え、対向車線を走行していた中型トラックと正面衝突したものの。普通トラックの助手席に乗っていた塗装工が外傷性ショックで死亡し、運転していた塗装工は顔面打撲の大けがをした。中型トラックの運転手は軽傷。	221	17	1～9
		8	屋根の張り替え工事現場において、被災者が下地材に固定されていない屋根材の上に乗った結果、当該屋根材（スチール製）とともに、約5.2			

2015	4	～	9	メートルの高さからコンクリートの床に墜落した。ドクターヘリにて病院に搬送され、入院し治療を受けていたが、11日後（5月3日）に死亡した。	415	1	1～9	
2015	10	～	10	工場外壁塗装工事現場において、外部足場（くさび式・一側足場部分）の解体作業中、被災者は足場4段目に乗り、解体した足場材を足場3段目にいる作業員に手で受け渡した後、元の位置に戻ろうとしたところ、足場の外側から地上（高さ約6メートル）に墜落した。共同作業者からは死角となっていたため、墜落した瞬間を目撃した者はいない。	411	1	1～9	
2015	8	～	16	17	鉄骨造4階建解体撤去工事（予定工期：7月15日～9月12日、請負金額1,450万円）において、災害発生日当日、元請3名1次下請2名の計5名で、4階フロアの鉄骨溶断・引き倒し等の解体作業を行っていた。被災者は、現場入場1日目で1次下請班長の元で廃材片付けや清掃を行っていたところ、16：30頃、作業中に工事現場で倒れ、搬送された病院で熱中症による死亡が確認された。	715	11	50～99
2015	10	～	10	11	移動式クレーンの吊り荷である足場の交差筋交い約200本が落下、吊り荷搬送用トラック荷台で荷受け作業をしていた被災者がその下敷きになり死亡したもの。交差筋交いは、建柱を単管とワイヤーで固定した簡易な搬器にバラ積みされていたもの。	372	4	1～9
2014	1	～	9	10	鉄骨スレート屋根の倉庫解体工事にて、被災者は、80cm間隔で設けられた母屋材に足を乗せスレート材（181cm×71cm）を外す作業を行っていたところ、スレートを踏み抜き、約7m下のコンクリート床に墜落した。尚、被災者が直前にいた場所には足場板（幅24cm、長さ400cm）が1枚あり、墜落によってできた開口部は縦約80cm、幅約130cmであった。	415	1	1～9
2014	1	～	9	10	リフォーム工事にて、工事現場の隣家敷地内で労働者が倒れているところを発見された。目撃者なし。	415	1	1～9
			11	被災者が運転する普通自動車が、国道の緩やかな左カーブにて、何らかの				

2014	1	～ 12	理由により対向車線にはみ出し、対向してきた大型自動車と正面衝突した。	231	17	10～ 29
2014	1	8 ～ 9	4階建て既設ビルの外部改修工事のための外部足場の組立て作業中、被災者は、足場の6層目にて足場外側に張るための養生シート等を滑車を用いて手動で荷揚げしていた際、11.35m下の地面に墜落した。尚、足場には高さ86cmの手すりのみ外周側に設置されており、中さん、幅木及び養生シートは設置されていなかった。また、安全帯は着用していたが使用していなかった。	411	1	1～9
2014	1	10 ～ 11	被災者は、教室の窓のクリーニングを行っていた。4階底に脚立を立て教室の窓の外側の清掃作業を行っていたところ、地上に墜落した。尚、当該底には手すりがなく、親綱等を含め墜落防止措置を講じていなかった。	418	1	1～9
2014	1	10 ～ 11	外壁の防水、屋根及び壁の塗装工事の一環として、足場3層目の高さに位置するスレートひさし上でシーリングの打設を行っていた被災者は、バリ取りに用いるハンドカッターを1階に置き忘れたため取りに戻り、再度スレートひさし上の作業場所に戻ろうとした際、スレートひさしを踏み抜き、コンクリート地面まで5.5メートル墜落して死亡した。	415	1	1～9
2014	2	11 ～ 12	被災者は、他3名の作業員とともに、同寺院会館の片流れ形状の屋根（幅22.5m、奥行16.15m、高さ最高約9.4m、最低は軒の約4.4m）の端（軒付近）で雪庇を降ろしていたところ、突然、滑り落ちた屋根雪とともに軒下に落下し、他1名とともに埋もれ、窒息により死亡した。	415	1	1～9
2014	2	11 ～ 12	被災者は、ビルの改修工事にて、内装材の撤去作業を3階で行っていたところ、新たに設置するエレベーターの設置予定箇所の開口部から、何らかの理由で、1階まで約5.6メートルの高さを墜落した。	414	1	10～ 29
2014	2	9 ～ 10	建物（4階建）屋上の防水改修工事にて、労働者2名が人力で既設の防水シートを剥がそうと引っ張ったところ、シートが勢いよく剥がれたため、2名がその余力により屋上から高さ約17メートル下の地面にシートと共に	418	1	1～9

			に墜落した。			
2014	2	16 ～ 17	スレート屋根葺き建物の漏水調査のため、屋根に上がり、スレート板上を歩行していたところ、スレート板を踏み抜き、約6m下へ墜落した。	415	1	50～ 99
2014	2	16 ～ 17	鋼材の仕分け業務等を行うため、労働者が塗装作業の行われていた橋形クレーンを運転し、荷をつり上げたまま走行していたところ、走行レール付近を塗装していた被災者に、橋形クレーンのサドル部が激突した。	211	6	30～ 49
2014	2	5 ～ 6	国道交差点にて、被災者が乗るワゴン車が、右折しようとしていた大型トラックの左側面に衝突し、死亡した。	231	17	1～9
2014	2	16 ～ 17	防水改修工事にて、屋上で防水シートの下地（糊）の剥ぎ取り作業を行っていた被災者は、サンダーを接続した延長コードを持ち屋上を後ろ向きに移動していたところ、屋上の立ち上がり部（高さ23センチ）を超え、7メートル下のタイル貼り面に墜落した。	415	1	1～9
2014	3	10 ～ 11	5階建て建物の屋上にて、防水及びシーリング工事前の洗浄作業を実施していた際、パラペット（高さ0.4メートル）の外側スペースより、約1.5メートル下の地上に墜落した。	418	1	1～9
2014	3	8 ～ 9	屋根、外壁塗装工事現場にて、洗浄用の養生シートを張る作業中、被災者は足場から高さ約5m下の敷地に墜落した。	411	1	1～9
2014	3	11 ～ 12	スレート屋根の解体作業を行っていた際、被災者はスレート板を踏み抜き、約4.5m下の土間に墜落した。	415	1	1～9
2014	3	3 ～ 4	中型トラックで自動車道を走行中、運転していたトラックが中央分離帯に接触し、横転した。	221	17	1～9
		7	コンクリートポンプ車で打設準備のため、アウトリガー等のセッティング			

2014	3	8	中、点検のため、ポンプ車の前方から底へもぐりこみ、油圧系統の配管等の点検を行っていた際、ポンプ車底部にあるドライブシャフトの回転部に作業服が巻き込まれ、頭部がシャフト部に当たった。	221	7	1～9
2014	3	10～11	単管で組まれた車庫の屋根波板貼り下地木材設置作業中、体勢を崩し、梁部からコンクリート地面に墜落した。	415	1	1～9
2014	3	13～14	柱廻り、天井裏の断熱用のウレタンフォームから火災が発生し、1階で床の塗装作業の準備をしていた被災者は、逃げ遅れ、死亡した。	332	16	10～29
2014	3	9～10	高所作業車のバスケットに乗り、バスケット内の作業装置を操作し、ブームの伸縮等の操作を行っていたところ、作業装置の運転を誤り、バスケットの手すり天井の梁との間に、頸部を挟み、死亡した。	146	7	1～9
2014	3	13～14	車両系建設機械の車体と排土板の間に挟まれ、死亡した。	145	7	10～29
2014	5	10～11	木造3階建住宅の新築工事現場にて、外壁の下地材の取付を行っていた被災者は、高さ5.75メートルの側足場の足場板から地上に墜落した。	411	1	0
2014	5	13～14	被災者は、ヒマラヤ杉の剪定作業を行っていたところ、ヒマラヤ杉から墜落した。	712	1	1～9
2014	5	10～11	フォークリフトのフォークに積み上げられた4個の漬け物容器の最上段の容器内を足場とし、天井に設置されている火災報知器の取付け、取り外し作業中、バランスを崩し、最上段の容器とともに墜落した。	222	1	10～29
2014	5	14～15	L形に曲げ加工した鉄筋束をワイヤーロープ2本で玉掛けし、天井クレーンでつり上げ、トラックの荷台に載せていたところ、ワイヤーの一方が外れ、荷台上にいた被災者につり荷が接触し、被災者は荷台から墜落し	211	6	1～9

			た。			
2014	5	10 ～ 11	ダンプトラックの荷台上で解体物の木屑を整理する作業を行っていた際、荷台の最後尾から前のめりに地面へ墜落した。	221	1	1～9
2014	5	13 ～ 14	解体中の躯体4階部分に設けられたガラ投下用の開口部から、1階部分まで約10m墜落した。	414	1	1～9
2014	5	6 ～ 7	事業場敷地内へ自転車を止め歩いた際、後ろ向きに転倒し、頭部を打った。	999	2	30～ 49
2014	5	17 ～ 18	墨出し作業及び固定用ボルトの穴開け作業の後片付けの際、はしごを使用し、降りていたところ、地上に墜落した。	371	1	10～ 29
2014	5	9 ～ 10	スレート屋根上の隙間を発泡ウレタンで埋める作業を行っていた際、スレート屋根を踏み抜き、約6メートル下の地面に墜落し、死亡した。	415	1	10～ 29
2014	6	16 ～ 17	被災者は、スレート屋根上に上り作業をしていたところ、スレート屋根を踏み抜き、高さ約4.9mコンクリートの床面に墜落した。	415	1	1～9
2014	6	16 ～ 17	ドラグ・ショベルを使用し、土間コンクリートを解体する作業を行っていたところ、バケットが被災者に接触した。	142	6	1～9
2014	6	15 ～ 16	店舗看板の張替え作業の際、被災者ら2名は、トラッククレーンのジブ先端に取付けられた搭乗設備に乗り、作業を行っていたところ、搭乗設備と取付け治具の溶接部が破断し、約6mの高さから搭乗設備と共にアスファルト上に墜落した。	212	1	1～9
		15	店舗看板の張替え作業の際、被災者ら2名は、トラッククレーンのジブ先			

2014	6	～ 16	端に取付けられた搭乗設備に乗り、作業を行っていたところ、搭乗設備と取付け治具の溶接部が破断し、約6mの高さから搭乗設備と共にアスファルト上に墜落した。	212	1	1～9
2014	6	～ 11	エレベーター改修工事中、エレベーターかご内に貼り付けられた塩化ビニールシートの剥離作業の際、使用された剥離剤にジクロロメタンが含有されていたため、ばく露し、死亡した。	514	12	1～9
2014	7	～ 17	ロングスパンエレベーター設置におけるガイドレール取付用足場の組立て作業中、足場上の被災者が大組足場を受け取り、足元の足場に緊結していたところ、墜落し、死亡した。	411	1	10～ 29
2014	7	～ 10	マンション屋上の防水工事中、屋上床面に防水シートを重ね貼りしようとして、屋上床面の洗浄作業の準備を行っていた際、床面の端からアスファルト地面に墜落し、死亡した。	416	1	1～9
2014	7	～ 12	ビルの解体工事現場にて、外部足場のタラップを使用し、地上に降りた際、躯体と外部足場のすき間に墜落した。	417	1	1～9
2014	7	～ 14	スレート屋根材を取り外し中、被災者は、スレート屋根に上り屋根を移動中、明かり取り部分を踏み抜き、約6.5m下に墜落した。	415	1	1～9
2014	7	～ 9	校舎屋上防水工事のため防水シートを貼る準備中、被災者はロール状の防水シートを伸ばすため、後ろ向きで屋上東側端部へ向かって後退していたところ、パラペットを乗り越え、12.84メートル下の地面に墜落した。	418	1	1～9
2014	7	～ 1	被災者は、建築工事における解体作業及び内装仕上げ作業による石綿ばく露作業に長年従事し、悪性腹膜中皮腫により死亡した。	514	12	30～ 49
2014	7	～	ブロック壁の解体作業中、解体したブロック壁が、解体作業を行っていた被災者の上に崩壊し、崩壊してきたブロック壁と地面との間に体を挟ま	418	5	1～9

		12	れ、圧迫死した。			
2014	7	16 ～ 17	被災者は、建屋周囲の清掃作業中、現場から離れた路上にて、熱中症により倒れていたところを発見された。	715	11	1～9
2014	7	14 ～ 15	スレート葺き鉄骨造倉庫の屋根塗装作業中、屋根頂部付近でスレートを留めるボルトに錆止め塗装を行っていた被災者は、スレートを踏み抜き、約8.7m下のアスファルト床面に墜落した。	415	9	1～9
2014	7	11 ～ 12	建物の屋上端部から2階箇所に、ステージ足場上に建枠をロープで降ろす作業を行っていたところ、墜落した。	418	1	50～ 99
2014	8	14 ～ 15	解体工事の現場にて、内装解体や歩行者誘導等の業務をしていた際、熱中症により死亡した。	715	11	1～9
2014	8	13 ～ 14	不整地運搬車を移動させていたところ、操作を誤り、足場の横流し単管パイプと不整地運搬車の機体の一部に挟まれた。	227	3	10～ 29
2014	8	11 ～ 12	工場建屋のスレート屋根の補修工事中、明かり窓まわりに敷いた足場板を足場にして作業を行っていた際、明かり窓上に身体が移動したところ、明かり窓を踏み抜き、約9m下のコンクリート上に墜落した。	416	1	1～9
2014	8	9 ～ 10	枠組み足場組立て中、被災者がハッチ式布板に付属しているタラップで降りていたところ、背中から足場外部に約5mほどの高さから墜落。足場付近の鉄製フェンスにわき腹をぶつけ、大動脈破裂により死亡した。	413	1	10～ 29
2014	8	15 ～ 16	耐震補強材パネルの搬入作業中、搬入口に仮設スロープを作り、複数名でチェーンブロックを用いて斜め方向に引き、パネルを支え、台車の方向を調整し、スロープ上を移動させていたところ、パネルが転倒。被災者が下敷きになり、死亡した。	521	6	100 ～ 299
		18	工事現場にて、柱筋の地組を行っていた際、組立中の柱筋6台を立てた状			

2014	8	～	態でクランプ留めしていた架台が転倒。柱筋配筋作業に従事していた複数	521	5	1～9
		19	の被災者が、鉄筋等の下敷となり、うち2名が死亡した。			
2014	8	～	18 工事現場にて、柱筋の地組を行っていた際、組立中の柱筋6台を立てた状	521	5	1～9
		19	態でクランプ留めしていた架台が転倒。柱筋配筋作業に従事していた複数			
			の被災者が、鉄筋等の下敷となり、うち2名が死亡した。			
2014	9	～	8 資材を足場最上段から地面に下ろすため、最上段の枠にブラケットが取付	411	1	10～
		9	けられた単管パイプをクランプで固定し、ブラケットにロープを引っか			29
			け、ロープで荷を固縛し下ろそうとしたところ、荷の重さでクランプとと			
			もに単管パイプも回転し、ロープを握っていた被災者が墜落した。			
2014	9	～	15 駐車場の解体工事現場にて、敷地境界のブロック塀の解体作業を行ってい	418	4	1～9
		16	た際、脇で別作業の単管ベース金具を外していた被災者に、ブロック塀が			
			倒れ落ちた。			
2014	9	～	13 手すり等の無いローリングタワーの上にて、屋根の鉄骨及び屋根材を溶接	411	1	1～9
		14	後、溶接位置を移動しようとして躯体を掴み、自力でローリングタワーを横移			
			動させていたところ、脚輪が固定されておらず、ローリングタワーが転			
			倒。約4メートルの高さからコンクリートの地面に墜落した。			
2014	9	～	14 建物のスレート屋根解体作業中、スレート屋根上を移動していたところ、	415	1	10～
		15	スレート屋根を踏み抜き、コンクリート床面まで約8メートル墜落した。			29
2014	9	～	10 木造家屋解体工事現場にて、被災者はガラス戸を取り外す作業を行ってい	418	1	1～9
		11	た際、土間で倒れているところを同僚に発見された。			
2014	9	～	16 住宅の屋根のシート防水補修工事にて、住宅と塀の間に梯子を立て掛け、	371	1	1～9
		17	梯子から屋根に移動中、地面へ墜落した。			
2014	9	～	16 建物解体工事にて、養生用の単管足場の組立て作業中、足場上で作業をし	411	13	1～9
			ていた被災者が持っていた長さ4メートルの足場用単管が高圧電線に触			

		17	れ、感電し、約7メートルの高さから墜落した。			
2014	9	16	木造2階建住居の1階床下にて、大引き材を携帯用丸のこ盤を使用し、切断していたところ、大引き材から撥ねた丸のこ盤が大腿部に接触し、裂傷を負い、失血により死亡した。	131	8	1～9
2014	10	15 ～ 16	トラックのルーフ上にて、解体用つかみ機を運転していた同僚に解体用つかみ機で丸太を荷台に載せる位置を合図していた際、荷台に置かれた丸太が転がり、被災者が転がった丸太を止めようとしたところ、バランスを崩し、丸太と一緒にルーフ上から1.93メートル下の地上に墜落した。	221	1	30～ 49
2014	10	11 ～ 12	スカイプラットフォームをクレーンで移設するため、玉掛準備作業中、高さ約23mの搬入口より落下し、死亡した。	418	1	1～9
2014	10	15 ～ 16	解体用ブレイカーを用いて鉄筋コンクリート造の建物解体を行っていたところ、解体用ブレイカーが転倒し、解体用ブレイカーと地面との間に被災者がはさまれた。	145	2	30～ 49
2014	10	9 ～ 10	マンションの外壁改修工事現場にて、足場の解体作業中、足場6層目より建物2階の底に墜落し、死亡した。尚、被災者は安全帯は着用していたものの、使用しておらず、親綱等の設置も無かった。	411	1	1～9
2014	10	13 ～ 14	工場建屋屋根張替え工事現場にて、屋根上で屋根材の張替え作業中、屋根の下地材である木毛板を踏み抜き、建屋内床に墜落し、死亡した。尚、被災者は安全帯を着用していたものの、使用しておらず、親綱の設置、歩板の設置も無かった。	415	1	1～9
2014	11	10 ～ 11	介護付老人ホームの新築工事現場にて、外部足場の解体作業中、足場の作業床上で建地単管パイプを引き抜いたところ、バランスを崩し、足場から敷地外の歩道コンクリートへ落下し、死亡した。	411	1	10～ 29
2014	11	8 ～ 9	外壁塗装工事現場にて、建物外周に沿って組まれたくさび式足場の養生用メッシュシートの取付け作業中、足場3段目の作業床より地上に墜落した。尚、安全帯は未着用であった。	411	1	1～9

2014	11	11 ～ 12	金属製の棚設置のため、基礎金具据付の準備作業を脚立に跨がった状態で 行っていた際、転落し、頭部、胸部及び腰部を強打し、死亡した。	371	1	30～ 49
2014	11	14 ～ 15	鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の解体工事現場にて、被災者が、建物の5 階で車両系建設機械（解体用）を用いた壁面の引き倒し作業をしていたと ころ、引き倒した壁面の下敷きとなった。	418	5	1～9
2014	12	9 ～ 10	鉄骨造2階建解体工事現場にて、解体作業を行っていたところ、一階ひさ し部分が崩壊し、被災者がひさしの下敷きになった。	418	5	1～9
2014	12	11 ～ 12	マンション外壁改修工事現場にて、外部足場の解体作業中、建地材を持 ち、足場作業床を移動していたところ、足場作業床から地面に墜落した。	411	1	1～9
2014	12	11 ～ 12	足場解体作業中、地上へ降りようと足場上を移動していたところ、足場か ら墜落した。	411	1	1～9
2014	12	11 ～ 12	事業場の資材置き場にて、積載型トラッククレーンの荷台上で足場資材を 下ろす作業中、バランスを崩し、荷台に平積みされた足場板上から地面に 転落した。	212	1	1～9
2014	12	13 ～ 14	住宅屋根雪下ろし作業中、葺屋根から誤って墜落し、死亡した。	415	1	10～ 29
2013	10	13 ～ 14	倉庫の屋根（スレート葺）に設けられている27か所の採光箇所のうち1 3箇所について、波板の葺き替え作業を行っている際、当該波板を踏み抜 いて墜落した。尚、墜落した箇所の高さは約10mであった。	415	1	1～9
2013	8	17 ～ 18	被災者は、同僚1名と戸建て住宅の風呂の解体作業をしていたところ、吐 き気、ふらつくなどの症状が出たため、椅子に座って休憩していたが、椅 子からずり落ちたため、同僚が救急車を要請、病院に搬送されたものの、	715	11	1～9

			熱中症により死亡した。			
2013	9	6 ～ 7	2トントラックに3名が同乗し、建設工事現場へ向かっていたところ、追い越し車線から左に車線変更した際、後方から8トントラックに追突され、横転した。	221	17	1～9
2013	5	19 ～ 20	工場の屋根の張替え工事において、被災者は、屋根に上り既存の屋根材（折板鋼板1枚：幅0.66m、長さ12.5m）を解体する作業を行っていた。解体のため屋根材を切断した箇所に乗ったところ、屋根を踏み抜き、10m下の地上（アスファルト）に墜落した。	415	1	1～9
2013	9	15 ～ 16	新築工事現場において、屋根上で作業員4名が瓦葺き作業を行っていたところ、被災者が足を滑らせ、屋根の端部から約2.5メートル下の地面に墜落した。	415	1	1～9
2013	10	11 ～ 12	被災者は、スレート屋根の上で作業を行っていたが、スレートを踏み抜き、3メートル墜落した。尚、被災者は、保護帽は着用していたものの、安全帯は着用しておらず、歩み板も使用していなかった。	415	1	10～ 29
2013	10	7 ～ 8	ワゴンタイプの軽自動車と、別の軽自動車が正面衝突した。現場は片側1車線の緩やかなカーブがある勾配約3度の坂道で、ワゴンタイプでない軽自動車が、下りの左カーブを曲がりきれずに対向車線にはみ出したため衝突した。この事故で、ワゴンタイプの軽自動車の助手席側後部座席に乗車していた労働者が死亡した。	231	17	1～9
2013	9	15 ～ 16	災害復旧工事現場において、被災者は、同僚とホイールクレーンでホッパーをつり上げ生コン打設作業を行った。作業終了後アウトリガーを収納し、敷板を片付け、作業日報に作業終了の確認のサインを受領するため、パーキングブレーキをかけホイールクレーンのエンジンを停止し運転席から降りたところ、角度9度の坂道に停車していたホイールクレーンが動き出し坂を下り始め、ホイールクレーンに巻き込まれた。	212	7	1～9
2013	7	16 ～ 17	船積設備の地下通路（高さ約1.4m）の埋戻し作業を、ミニドラグ・ショベル（機体重量870kg）を運転して行っていたところ、地下通路の天井とミニドラグ・ショベル運転席の安全バーに首を挟まれた。	141	7	10～ 29

2013	6	15 ～ 16	被災者は、S造平屋倉庫（最高高さ12メートル）のスレート屋根の雨漏り補修工事に従事していた。スレート屋根の雨漏り箇所（約50箇所、穴直径1センチメートル程）を補修材（コーキング剤）で埋める作業を行っていたところ、スレート屋根（厚さ：5mm）を踏み抜き、7メートル下の倉庫内プレハブ事務所上に墜落した。	415	1	1～9
2013	1	9 ～ 10	建築物の解体工事において、ドラグ・ショベル（機体質量約1.4トン）を4階から3階フロアへと屋内階段を使って移動させようとしていたところ、ドラグ・ショベルが前のめりに転落。階段の踊り場で、被災者が4階フロアの鉄骨とドラグ・ショベルの座席背もたれに挟まれた。	142	1	30～ 49
2013	12	8 ～ 9	民家の防水工事現場において、作業の段取りのため道具を取りに行くため2階ベランダから地上に降りる際、架設通路として使用していた鋼管足場の歩み板上から約5.2m下の地面に転落した。	411	1	1～9
2013	12	13 ～ 14	被災者は、解体工事現場の外部養生用枠組足場を解体作業中、地上約17mの足場板上から、取り外した枠組足場の交差筋交いと共に墜落した。	411	1	1～9
2013	8	13 ～ 14	鉄骨2階建ての民家の解体現場において、高さ約5.8メートルの屋上部分の壁にまたがり、2階の天井の梁部分の鉄骨をガスバーナーで切断していたところ、2階の天井が崩れ落ち、崩れ落ちた天井とともに民家1階部分の瓦礫の上に墜落した。	415	1	1～9
2013	10	9 ～ 10	倉庫解体撤去工事現場において、飛散防止用のための養生シートを建物外周の単管足場に取り付ける作業を、被災者は上部、同僚は下部に分かれて行っていた。被災者は、上部のシートを取り付け終了後、スレート屋根上で使用しなかったシートを片付けていたところ、明かり採り用のアクリル製の波板を踏み抜き、約4.3m下のコンクリート土間に墜落した。	415	1	1～9
2013	11	16 ～ 17	納屋屋根葺替工事において、被災者は、高さ5m以上の屋根上で瓦屋根の葺き替え作業を行っていた際、屋根から墜落した。	415	1	1～9

2013	10	8 ～ 9	アーケード改修工事現場にて、老朽化した屋根を撤去する作業に取りかかるにあたり、設置していた親綱に安全帯を取り付けようとした際、バランスを崩し老朽化した屋根の上に倒れ込み、屋根材であるポリカーボネート波板が割れて、約8.2m下に墜落した。	415	1	1～9
2013	2	9 ～ 10	工場の屋根上において、雨漏り補修工事で被災者が天窓の取り替え作業中、古い天窓を引き抜こうとしたところ、足元付近の母屋が折れて約20m下の床面へ墜落し、死亡した。尚、災害発生時、被災者は保護帽及び安全帯を着用しており、親綱も設置していたが、安全帯は使用しておらず、防網も設置していなかった。また、歩み板については一部にのみ設置していた。	415	1	1～9
2013	6	13 ～ 14	地下1階型枠解体作業中、被災者は、足元周りで金物を拾い集める作業を行っていた。地下2階において清掃を行っていた配管工2名が物音を聞き、駆け付けたところ、被災者が仰向けで倒れているのを発見した。	414	1	1～9
2013	5	9 ～ 10	被災者は、集じん機架台の床及び手すりの取り付け工事に従事中、地上からの高さ3.7メートルの架台に登り、架台に立てかけていた手すりとともにアスファルトの地面に墜落した。尚、被災者は、保護帽及び安全帯を着用していたが、手すり設置工事のため墜落時に手すりはなかった。	418	1	1～9
2013	6	9 ～ 10	屋根の雨漏りの確認のため、高さ2.5mの梯子を昇降中、転落し搬送先病院で心臓破裂にて死亡した。尚、被災者が転落したのは、地上から約1.2mの位置からである。また、一昨日の雨で災害発生現場となった庭はぬかるんでいた。	371	1	10～ 29
2013	10	9 ～ 10	被災者は、建物10階付近の一侧ブラケット足場を移動中、25メートルの高さから中庭に墜落した。	411	1	1～9
2013	3	15 ～ 16	被災者は、ビルの屋上にて防水工事を行っていたところ、屋上の端部から地上まで墜落した。	418	1	1～9
		13	高さ180センチメートルのローリングタワー上にて、鉄骨継手部分のボ			

2013	5	～	ルト付け作業を行っていた被災者は、作業場所から移動中、ローリングタワーの端部または昇降部から墜落した。	411	1	1～9
2013	11	～	解体工事現場で使用した足場用の丸太33本の束（約330kg）を、ドラグショベルのバケット背部のフックにワイヤーロープを掛けて吊り上げトラックに積み込む作業中の事故。被災者は、介錯のため丸太束の先端に手を添えて支えながらトラック荷台に上がろうとトラック運転席付近に足を掛けた際、バランスを崩して地面に墜落。同時に吊っていたワイヤーロープがフックから外れ、丸太の束が仰向けに倒れた被災者の胸部に落下した。	142	4	1～9
2013	11	～	工場解体工事現場において、スレート屋根上でスレートを外す作業を行っていたところ、グラスファイバー製の明かり取りを踏み抜き、約6メートル下に墜落した。	415	1	50～99
2013	8	～	被災者は、地上4階建てRC造の建築物（マンション）の解体作業の補助として、コンクリート圧砕機で解体する箇所に対し、当該建物の3階部分から散水作業を行っていた。被災者が作業していた箇所（3階部分）の床とコンクリート壁が倒壊し、当該コンクリート圧砕機と落下したコンクリートとの間に挟まれて死亡した。	418	5	1～9
2013	10	～	個人宅の塗装工事において、1階屋根（1階床面から約2.6メートル、玄関階段下から約6メートル）で作業をしていた被災者は、屋根から玄関階段まで墜落した。	415	1	1～9
2013	9	～	被災者は、足場設置作業中に高さ約5.7メートルの設置中の足場上から墜落した。尚、災害発生時、被災者はブラケット上で地上からの足場資材の受け渡し作業を行っていた。また、作業場所は、幅25センチメートルのブラケット上であった。	411	1	1～9
2013	11	～	被災者は、同僚と鉄骨作業所（平屋）の解体を行っていた。壁・屋根等を手ばらしで外し、骨組み（柱・庇トラス）が残った。その後、庇トラスを溶断、解体するため、庇トラスにワイヤーロープを掛けて重機で吊り上げ固定してから、溶断する予定であった。同僚がワイヤーロープを掛けて少しし	418	5	1～9

		16	た後、庇トラスが倒壊。その横で脚立（高さ1.8m）の上から2段目の踏面（高さ1.5m）に乗っていた被災者に激突し、被災者は墜落した。			
2013	3	7 ～ 8	2階建て個人住宅の屋根瓦の塗装作業のため、外部足場から2階屋根に登ったところ、当該屋根から約2.7メートル下のベランダに墜落した。	415	1	1～9
2013	5	8 ～ 9	鉄骨建屋の2階部分に看板を取り付けるための下地（骨組み）を、溶接作業により行っていた。仮溶接の段階で、取り付け位置が適切かどうかを判断するため、仮溶接した鉄骨の上に乗って各所の寸法を計測していたところ、仮溶接した鉄骨が外れ、約4.5メートル下の地面に墜落した。	418	1	1～9
2013	1	13 ～ 14	3階建住宅のソーラーパネル設置工事において、カラーベストを葺いた屋根（傾斜25度）の上を、架台への取付金具の入った手提げかばんを持って歩いていた被災者（元請現場責任者）が、自身がコーキング材で修復したカラーベストを踏み、カラーベストがずれて態勢を崩し、ブラケット足場に滑り落ち、そのまま仰向けの状態で地上に墜落した。	415	1	1～9
2013	8	14 ～ 15	墓地のリフォーム作業中（玉砂利部分を石貼りに変更する工事）の、石貼り作業に従事していた被災者が石柵にもたれ込んでいるのを工事担当者が発見し、病院へ搬送されたが熱中症により死亡した。	715	11	1～9
2013	5	8 ～ 9	鉄骨造2階建築物の解体工事現場で、コンクリート圧碎具を重機のアームの先に取り付け、建設廃材の入ったフレキシブルコンテナをつまみ上げながら4tトラックのコンテナに移す作業を行っていたところ、圧碎機を固定する2本の金属棒のうち1本が外れ、圧碎機が振り子状に振れたため、コンテナ内で補助作業を行っていた被災者の頭部に激突し、被災者はコンテナから高さ1.2mの地面（コンクリート）に墜落した。	149	6	50～ 99
2013	6	16 ～ 17	マンション屋上において、被災者は他2名と共に、防水下地シートを取り付けたパラペット部分及び塔屋部分へのL型鋼板を取り付けていた。一通り作業を終え最終確認のため、被災者が、塔屋付近で固定し忘れたL型鋼板をビス（ネジ）止めしていた際、誤って同マンション屋上東側のパラ	415	1	10～ 29

			ペット部分から、約15m下の敷地駐車場に墜落した。			
2013	9	9 ～ 10	クローラクレーン（つり上げ荷重59.0t）を解体し、トレーラーに載せて搬送するため、被災者は上部旋回体の下に入りクローラ部を固定するボルトを外していたところ、旋回してきた上部旋回体の旋回フレームとクローラの間で頭部を挟まれた。	212	7	30～ 49
2013	7	20 ～ 21	塗装会社の倉庫に隣接する社員寮で火災があり、居住する労働者1名と居住者の知人女性1名が死亡した。出火原因は調査中。建物はRC3階建て、一部4階建て。2～4階の12部屋に10名の労働者が寄宿していた。火災時、この建物には被災者両名を含めて4名が別々の部屋に在室し、2名が死亡、ほか2名に怪我はなかった。	512	16	50～ 99
2013	11	14 ～ 15	4階建アパート屋上の防水工事を行っていたところ、被災者が屋上のパラペットを越え12m墜落し、死亡した。尚、屋上には高さ32cmのパラペットがあるだけで、足場、手すり、親綱等はなかった。また、被災者は工具を入れるため安全帯を着用していたが、保護帽は被っていなかった。	415	1	1～9
2013	9	13 ～ 14	被災者は、民家の屋根の塗装作業をしていたところ、屋根の移動中に6メートルの高さから墜落した。	415	1	1～9
2013	8	7 ～ 8	出勤してきた社員が、事務所で仮眠を取っていたと思われる被災者を見かけたため、起こそうと声をかけたり体をゆすっても反応がなかったため、救急車にて搬送したものの、死亡が確認された。	921	90	1～9
2013	6	16 ～ 17	建物の新築工事において、被災者は、可搬式作業台（高さ約1.8m）を使用して2階躯体の下り壁の補修作業を行っていたところ、バランスを崩し可搬式作業台が倒れ、コンクリート床面に墜落し、倒れているところを同僚に発見された。尚、被災者のそばには保護帽が落ちていた。被災者は病院に搬送されたが、死亡した。	371	1	100 ～ 299
2013	9	14 ～ 15	被災者は、屋根の上での防水工事において、雨漏りする箇所を探していたところ、足下の明かり取り（建物内に日光を取り入れるために屋根に取り付けられた透明な板）を踏み抜き、約5メートルの高さから墜落した。	415	1	1～9

2013	6	10 11	被災者は、高さ2.4メートルの脚立を用いて、高さ1.7メートルの踏板上に乗り、高さ3.3メートルの天井付近に固定されていた排水管を切断し、取り外す作業に従事していた。固定されていた金具から取り外した排水管を床面におろすため、踏板を一段おりた際、足を踏み外し、この排水管を抱きかかえるような姿勢で約1.4メートル墜落した。	371	1	1～9
2013	9	10 11	被災者は、東面・南面の枠組足場11層目を組立てするため、ウインチで荷揚げされた足場材の運搬と組立て作業を行っていた。運搬のため足場上（作業床幅50cm）を往来していた際、壁つなぎ用アンカーの打設作業を行っていた他の作業者の背後を通過しようとし、足場上から墜落・転落した（墜落高さ19m）。	411	1	1～9
2013	12	1 2	被災者は、イベント用の仮設舞台の設置に伴い、パネルとパネルの継目にクロスを貼る仕上げ作業を行っていた。最後のパネルの端部にクロス貼りをしようとして、被災者は右手に折りたたんだクロス（幅40cm、長さ3mのクロスを折りたたんだもの）を持って脚立に上り、体の向きを変えようとしたところ、脚立がぐらつき、バランスを崩し墜落した。	371	1	1～9
2013	3	16 17	放散塔（煙突状のもの）の補修工事において、被災者は内部の補強のためにゴンドラに乗り、アーク溶接機を使用してプレートの溶接を行っていたところ、アークの火花が安全帯のショックアブソーバーに引火して着衣に燃え広がり、これに慌てた被災者がゴンドラから約40メートル墜落した。	216	1	10～ 29
2013	11	16 17	木造2階建住宅の塗替工事現場において、その日の作業が終了した後、被災者は自分で車を運転して帰宅したが、自宅近くの駐車場に止めた車の中で動けない状態にいるのを家族により発見された。救急搬送されたが、頭部外傷を原因とする急性硬膜下血腫及び脳挫傷により死亡が確認された。	411	1	1～9
2013	12	15 16	マンションの大規模修繕工事現場において足場の解体作業中、地上15階で足場材を受渡した後、足場を移動していた鳶職が、足場の外部から地上16に約42メートル墜落した。	411	1	1～9

2013	11	9 ～ 10	木造2階建新築工事。荷上げ機のレール（梯子）の盛り替えを手伝いに南側の足場に行くため、被災者は北側の屋根から東側の足場に移り、段々になった東側の足場を通っていたところ、足場の南東角辺りでバランスを崩し、足場の南東角の端から墜落し4.4メートル下の地面に落下した。	411	1	1～9
2013	9	15 ～ 16	被災者は、民家の庭先から解体後の足場部材（単管等）を路上に停車していた3トントラック荷台に積み込んでいた。単管は荷台上にて12～24本を1束として番線で緊結し、積み重ねていたが、何らかの理由により単管の束3束（約743kg）が崩れ、別部材を取ろうと荷台を背に屈んでいた被災者を直撃した。	611	5	1～9
2013	3	15 ～ 16	ベルトコンベア（建屋屋上に設置されている）の点検用作業床を修理する工事において、被災者は残材を取りに行くため点検台周囲に設けられた足場板の上を歩いていたところ、足を乗せた板が結束されておらず、板と共に約2.2m下の地上に墜落した。	411	1	1～9
2013	12	13 ～ 14	被災者は、地上約2.5mの屋上で屋根折板を高圧洗浄機を使用して洗浄作業中、屋根端部から墜落した。屋根端部パラペットは20cm～90cm程の高さしかなく、手すりや親綱などの墜落防止措置はなされていなかった。尚、工事関係者の目撃者はいない。	415	1	1～9
2013	8	10 ～ 11	一般家屋の解体工事において、解体工事で発生した廃材の搬出作業を作業員6名で行っていた。休憩を終えたところで、1名の足がふらつくのを現場責任者が認め、様子を伺ったうえで現場内の木陰で再度休憩を取らせた。当該作業が終わり、当該作業員を含め3名がトラックにて会社へ向け現場を出た。その途中、容体が悪くなり搬送されたが、熱中症による多臓器不全にて死亡した。	715	11	10～ 29
2013	3	8 ～ 9	配管工事において、高さ4.5mの作業床に上がるため、アルミ製はしごを登っていたと思われる被災者が、頭部を負傷してはしごの脚部に倒れているところ発見され、脳挫傷により死亡した。	371	1	10～ 29
2013	10	10	工場の屋根改修等の工事において、被災者が作業場所に移動中、スレート屋根を踏み抜き、約1.3m下の配管に激突後、更に3.5m下の倉庫屋根	415	1	1～9

		11	に墜落した。			
2013	1	14 ～ 15	被災者が、一人で、倉庫2階ローリングタワー上（地上からの高さ7.8メートル）において、荷物用エレベータ設置のための鉄骨枠組み作業として鉄骨部材を取り付けようとしたところ、2階床部はエレベータ設置のため開口部となっていたため、1階まで墜落し、頭部等を打って死亡した。	414	1	1～9
2013	12	13 ～ 14	平屋住宅の屋根瓦葺替工事において、荷（瓦）揚機のはしごを使って屋根に上がろうとしたところ、はしごから屋根に移る際、約3.5m下の砂利敷の地面に墜落した。尚、ヘルメットは未着用であった。	229	1	1～9
2013	12	9 ～ 10	堆肥舎の屋根（塩化ビニル製波板）の葺き替え作業中、休憩のため屋根から降りようとした際、歩み板を踏み外したため、当該屋根を踏み抜き、約6mの高さから墜落した。	415	1	1～9
2013	7	11 ～ 12	傾斜地にある霊園内において、墓石の解体・撤去作業に使用する小型移動式クレーン（以下「カニクレーン」と記す。）を走行姿勢で作業場所まで移動していた。被災者が操作して約19度の階段を後退で登っていたところ、カニクレーンがバランスを失い階段下方に回転した際に投げ出され、回転後に横倒しになったカニクレーンの下敷きになった。	212	7	1～9
2013	11	11 ～ 12	損傷した蔵（木造）2棟の内、1棟の解体を終え、がれき等の撤去及び積み込みの作業を行っていた際、袖壁（蔵2棟の間を通行できないようにするレンガ造の壁）が倒壊し、その付近でがれき等の撤去を行っていた被災者が下敷きになり、死亡した。	418	5	1～9
2013	2	9 ～ 10	工場屋根の除雪作業において、被災者は高所作業車のかごから屋根の雪庇部に乗り移り雪庇上を歩行中、突然雪庇が崩れ、雪とともに約8.5メートルの高さから墜落した。	415	1	10～ 29
2013	11	9 ～ 10	一般住宅の屋根塗装の下準備として、2階屋根上において屋根についた水滴を拭く作業を行っていた際、高さ5.8mの屋根の端から地面に墜落した。	415	1	1～9
		9	被災者は、工場の屋根の補修工事において、補修部材を持って、厚さ5m			

2013	6	～	mのスレート波板の屋根の上を補修箇所に向かって移動中、スレート波板	415	1	1～9
	10		を踏み抜き約8.4m下のコンクリートの床に墜落した。			
2013	10	～	被災者は、スキー場のロッジ（3F建て）の屋根の改修工事において、	415	1	1～9
	10		ルーフィング作業を行っていたところ、屋根の端から1F屋根に墜落した			
			（高さ約8メートル）。			
2013	10	～	被災者は、個人住宅の屋根改修工事現場において、嵩上げた屋根部にト	415	1	1～9
	10		タン板を取付ける作業に従事していたところ、屋根の端から約7.3m下			
			の地面へ墜落した。目撃者はいないが、被災者は、下屋又は張出し足場へ			
			墜落し、さらに地面（隣の敷地）まで墜落したものと推測される。尚、保			
			護帽、安全帯は着用していた。			
2013	7	～	被災者は、一般住宅の屋根（傾斜角度45度）の張り替え作業を行ってお	415	1	1～9
	15		り、屋根上に設置したはしご（木製）を降りていたところ、「雪止めス			
	16		トッパー」1個で屋根に固定していたはしごが、雪止めストッパーととも			
			に屋根から外れたことにより地面に墜落した。尚、被災者は安全帯を使用			
			せず、保護帽も着用していなかった。			
2012	10	～	資材置き場（型枠加工場）において、約2mの高さに積み重ねられていた	522	5	10～
	8		木製の化粧合板（コンパネ）が崩れ落ち、その傍で使用済みのコンパネの			29
	9		釘抜き作業を行っていた被災者は、崩れ落ちたコンパネの下敷きとなり死			
			亡した。			
2012	7	～	取付け作業のため、被災労働者と同僚の2名は乗用ワゴン車で客先に向か	231	1	1～9
	10		い、客先の駐車場に駐車しようと駐車場に前進で進入したところ、運転操			
	11		作を誤り、駐車場の端から5m下の畑に車両ごと転落した。この事故で運			
			転手が死亡し、同乗していた同僚も負傷した。			
2012	10	～	塀の改修工事において、塀を解体するため塀の下部を電動ピックハンマー	418	5	1～9
	12		で横方向へ直線状に研っていたところ、塀が幅262cm×高さ105cm（厚さ			
	13		19.5cm、重さ0.7t）にわたって倒れ、研り作業を行っていた被災者が倒			
			れた塀の下敷きとなり死亡した。			
			S造の家屋解体工事において、ドラグ・ショベルを用いて2階屋根スラブを			

2012	8	10 ～ 11	解体中、下がっていたコンクリート片をバケットで下へ引っ張った時、コンクリート片が振り子のように振れ、ドラグ・ショベルの運転席上部へ激突したのち、横で水まきをしていた被災者の頭部に激突、被災者は下敷きとなった。	418	4	1～9
2012	7	9 ～ 10	工場のスレート葺き屋根上で、歩み板を設ける等の危険防止措置を講じることなく、傷んだスレート板の取替作業を行っていたところ、被災者はスレートを踏み抜いて約5m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2012	6	15 ～ 16	被災者は賃貸住宅の退居部屋（9階）の間取り改善工事の仕上げである清掃作業を行っていたが、同室のベランダ部分から約26m下の地上に転落した。	418	1	10～ 29
2012	2	16 ～ 17	木造平屋建ての廃工場の解体作業中、被災者が梁上を移動していたところ、約5mの高さから地面へ墜落した。	415	1	10～ 29
2012	8	10 ～ 11	住宅改修工事において、壁の塗り替え作業の手伝いとして屋根上で壁材等の受け渡しを行っていた被災者は、軒の高さ2.5mの屋根上から墜落した。作業は事業主と2人で行われ、壁を塗る作業をしていた事業主の後方で大きな音がしたため（事業主が）振り返ると、被災者が地面に墜落していた。被災者は材料の受け渡し後、屋根上で待機していたが何らかの原因で墜落した。	415	1	1～9
2012	2	11 ～ 12	店舗改修工事現場において、3段組の枠組足場にかかるため、壁に立てかけられたアルミ製の2連梯子を登っていたところ、2連梯子から仰向けに墜落し、脳挫傷、急性硬膜下血腫により死亡した。なお、被災者の手には鋸が握りしめられていた。また、保護帽は着用していた。	371	1	1～9
2012	6	16 ～ 17	木造2階建の倉庫3棟（北棟、中棟、南棟）の解体工事現場で、中棟を解体するため、現場責任者がグラップルで中棟東側の梁を引き抜いたところ、中棟全体が倒壊し、作業員2名が西側の壁面の下敷きとなり、1名は死亡、1名は負傷を負ったもの。なお、被災者2名は倒壊防止用の控えを設置するため、梯子及び脚立に昇り西側壁面に穴を掘る作業を行っていた。	418	5	1～9

2012	6	12 ～ 13	解体業を営む被災者は、立木を伐木する作業を請け負い、労働者3名と共に伐採作業を行っていた。被災者は、胸高約50cmのケヤキの木を伐採していたところ、倒れた木に激突され死亡した。	712	6	1～9
2012	10	16 ～ 17	鉄筋コンクリート2階建ての解体工事において、内装部品等の撤去後に2階床面に発生した開口部（2.7m×1.7m）から約3m下の1階床面に墜落した。	414	1	10～ 29
2012	11	13 ～ 14	家屋解体工事において、建設機械（ドラグ・ショベルのバケットにアタッチメントのつかみ材を取付）を用い、解体した家屋の木材柱（長さ約2m、重量約10kg）を挟んで旋回したところ、他の木材の柱等を手作業でトラックに積込んでいた被災者の頭部に当該木材が激突した。	149	6	1～9
2012	2	15 ～ 16	アーケード解体工事において、アーケード屋根上部にある消防用の消火足場の解体撤去準備のために消火足場の部材及び付設している消火管の一部を切断する作業を2名で行っていた。1名が切断用電動鋸の刃を交換するためにアーケードより降りた後、残った被災者が消火足場上で電線等の廃材の片づけ作業を行っていたところ、消火足場上からアーケード屋根を破り、約8m下の地上に墜落した。	418	1	1～9
2012	3	15 ～ 16	木造平屋建ての納屋の解体工事中、屋根瓦を撤去し、外壁材である杉板を取り外した状態で廃材の整理を行っていたところ、突然建物が南側に倒壊し、その下敷きになった。	418	5	1～9
2012	4	14 ～ 15	被災者は倉庫の屋根点検作業中に、高さ約6mの位置から墜落した。	415	1	1～9
2012	11	8 ～ 9	瓦の葺き替え工事において、被災者を含む3名で、1階の屋根上で既存の瓦を剥がす作業を行っていた。各々の分担場所に分かれて作業を行うため、分かれて間もなく、責任者が何か落ちる音がしたため、移動はしご付近の軒下を見に行くと被災者が敷石の上に倒れていた。被災者は救急搬送されて処置を受けたが死亡した。	371	1	1～9

2012	1	12 ～ 13	被災者は6階建て鉄骨建屋解体工事において、6階から屋上部分に通じる外部階段を切断する作業中、先行して撤去されていた手すり部分から墜落した。なお、安全帯は装着していたが、使用されていなかった。	413	1	10～ 29
2012	8	7 ～ 8	工作所の工場のスレート屋根上で、雨漏り補修のため、波鉄板を敷き込む作業中、スレートを踏み抜き高さ約5mから墜落し、死亡した。	415	1	1～9
2012	10	16 ～ 17	工場解体工事現場において、足場の組立作業を行っていた被災者は、解体予定の工場のスレート屋根上を移動中、明り取りの塩化ビニル波板を踏み抜き、約8mの高さから工場床に墜落した。	415	1	10～ 29
2012	11	11 ～ 12	倉庫新築工事現場において、被災者は屋根の据え付け工事を行っていたところ、全体の半分くらいまで屋根の据え付けが終了した状況で当該屋根の端の細かな補正作業中、約5m下のコンクリート製の床に転落し、死亡した。	415	1	1～9
2012	1	16 ～ 17	雨樋等補修工事において、片付け作業をしていた被災者は、スレート屋根を踏み抜き、墜落死した。	415	1	1～9
2012	4	8 ～ 9	テント倉庫の屋根修繕工事現場において、被災者がテントシート上で作業していたところ、誤ってシートを踏み抜き、約5m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2012	5	7 ～ 8	被災者はガントリークレーンの塗装工事準備作業として、足場資材を当該クレーン上部に荷上げする準備作業を開始。当該作業は、吊上荷重100 t 移動式クレーンの最長ジブでの作業が必要なため、補助ジブを主ジブ横に取付後、オペレーターが主ジブを起伏した際に補助ジブが外れ、移動式クレーン上の補助ジブ直下付近にいた被災者2名の内1名が、補助ジブとアウトリガーにはさまれ死亡し、他1名は重傷を負った。	212	4	30～ 49
2012	5	11 ～ 12	スレート葺き屋根の修繕工事において、被災者は屋根上に登り雨漏りをすめる箇所を補修を行っていたところ、スレート屋根を踏み抜いて約8m下の床面に落下した。	415	1	10～ 29

2012	11	10 ～ 11	建設工事現場において、荷降ろし後のトレーラー（30 t）が、退場するた めに現場内の通路を50mほどバックし、方向を転換しようとしたところ、 何らかの理由で通路にいた被災者を轢いてしまった。	221	7	1～9
2012	7	8 ～ 9	台風により損傷を受けた工場屋根の修繕工事において、取り替えた屋根部 材を固定するボルトを本締めする作業を予定していた。被災者並びに同僚 の2名で作業を開始したが、その直後に被災者が明り取りとして設置され ていたFRP板を踏み抜き、高さ約13mから工場建屋内のコンクリート面 へ落下した。なお、親綱は設置、安全帯の装着はあったが、使用されてい なかった。	415	1	10～ 29
2012	9	11 ～ 12	コンクリート2次製品製造工場（ED1）の解体工事で使用した足場を解体 する作業において、足場の4層目の作業床にいた労働者が持っていた交さ 筋かい2組のうち、1組が落下し、地上で同筋かいを受け取る役割をしてい た同事業場の被災者の鎖骨を貫通して胸まで到達し、被災者は出血性 ショックで死亡した。	521	4	1～9
2012	10	11 ～ 12	2階建住宅の屋根張替工事現場において、屋根等を外し、新しい屋根の下 地を作成していた。被災者は住宅の南東側の破風板の上部に取付ける板を 釘止めする前に、釘を打込む箇所を側面より確認すべく、住宅の外周に設 けられた一側足場の3層目の手すりの上に両足で乗り、当該個所で屈みな がら、足場の外周に設けられていたネットに寄りかかるようにして確認し ていたところ、固定していたネットの紐が切れ、約6m下に落下した。	411	1	10～ 29
2012	2	14 ～ 15	解体工事において、木造平屋の住宅屋根上で作業していた被災者を隣接す る同じく木造平屋の住宅屋根上（屋根最上部の棟高約4m）に移動させる ために、パワーショベルのバケット（ドラグショベルのバケット逆取付） に搭乗させたところ、労働者がバケットから屋根に完全に乗り移らないう ちにバケットを逆方向に旋回させてしまったため、被災者は約4m下の地 面に墜落し、死亡した。	142	1	1～9
			鉄筋コンクリート造家屋建築工事現場で、地下ピットに溜まった水を排水 ポンプで抜く作業を行っていた被災者は、ピット内に入り、酸素欠乏症に			

2012	8	12 ～ 13	より死亡した。また、死亡した被災者を救出するため、ピット内に入った現場代理人も意識を失ってピット内で倒れたが、救急隊によって救出され、搬送先の病院で治療を受けた。災害が発生したピットに隣接するピットの酸素濃度を測定したところ、酸素濃度は0.2%であった。	714	12	10～ 29
2012	10	7 ～ 8	2 tトラックに運転手及び2名の労働者が同乗し建設工事現場に向かう途中、高速道路出口付近で前方を走行していた大型トレーラーを追い越そうとしたところ、トレーラー最後尾右側と運転していた2 tトラックの左前方が接触した後、2tトラックはトンネル左側壁に衝突し、同乗者が全身打撲により死亡した。	221	17	1～9
2012	10	15 ～ 16	被災者は携帯用丸のこ盤を用いて長さ約1mの建築廃材の切断作業を行っていた際、当該丸のこ盤で自身の右大腿部を切傷し、出血多量で死亡した。	131	8	1～9
2012	12	9 ～ 10	資材置場にて、単管骨組みのコンパネ掲示板を作成する作業を行っていた。一段目のコンパネを取り付け、さらにその上に二段目のコンパネを同様に取り付ける作業を行っていたところ、バランスを崩し転落した。なお、被災者は保護帽（飛来・落下物用、電気用）を着用していた。	371	1	1～9
2012	1	15 ～ 16	資材置場を整地するため、労働者数名でドラグショベル等を用いて作業を行っていた。その整地作業中にて、ドラグショベル運転者が後退したところ、ドラグショベルの稼働範囲内に立ち込んだ被災者と接触してしまった。	142	6	10～ 29
2012	4	15 ～ 16	被災者は共同住宅新築工事現場にて屋根部の施工作业中、屋根で足を滑らせて高さ約8 mから墜落し、全身を強打した。	415	1	10～ 29
2012	11	15 ～ 16	被災者は単管抱き足場解体作業中、取り外した単管を持って移動していたところ、バランスを崩して約30m下の地上に墜落したものの。なお、安全帯は装着していたが使用していなかった。	411	1	1～9
		13	マンションの大規模改修工事において、枠組み足場を解体作業中、被災者			10～

2012	11	～ 14	は足場の13段目から地面まで墜落した。	411	1	29
2012	12	16 ～ 17	解体工事現場にて、防護パネルの支持材となった足場簡易枠7枠を玉掛けワイヤーを用いて、コンクリート圧碎機の爪先に掛け、つり上げ移設しようとした際、アタッチメントが回転し、付近にいた被災者の胸部に激突した。	145	6	30～ 49
2012	2	16 ～ 17	低層棟東面3階部の壁を解体するため圧碎機（油圧ショベルのバケットを外し圧碎機を装着したもの）で柱上部を挟み、壁を内側に倒そうとしたところ、圧碎機が柱から外れた反動で3階壁及床の一部が外側に倒れた際、解体した足場を片付けるため2階床にいた被災者が倒れてきた壁に下半身を挟まれ死亡した。また、当該壁等が外側に倒れた足場が倒壊した際、足場解体作業を行うため外部足場上で待機していた労働者が墜落して負傷した。	149	5	1～9
2012	3	16 ～ 17	木造二階建住宅を解体する工事にて、飛散防止のネットを取り付ける単管を格子状に三層で組み立てる作業中、被災者は、二層目の単管上（高さ約4m）に立って三層目の単管を取り付けようとした際にバランスを崩し、地面まで墜落し、死亡した。	419	1	10～ 29
2012	5	10 ～ 11	3階建マンションの屋上防水工事現場において、同建物の屋上で防水シート貼の作業をしていた作業者が、高さ約30cmのパラペットを超えて、約10m下のコンクリート地面に墜落した。	418	1	10～ 29
2012	8	9 ～ 10	ビル解体工事において、被災者は躯体塔屋解体後の屋上床（8F）にて、エレベーターシャフトの開口（約1m×約1m）から、解体ガラを投下する作業に従事していたところ、当該開口から約25m下の解体ガラ上（1階床下レベル）へ墜落し、即死した。	414	1	1～9
2012	8	8 ～ 9	建築物の屋上（高さ約15m）において、ヘリサイン（屋上に学校名等の場所の名前を書くことにより、災害発生時に救援ヘリコプターの目印の役割を持ったもの）のライン引きのための墨の追い出しで計測作業を複数名で行っていたところ、メジャー片端を持ってパラペット際に移動した被災者	418	1	1～9

			が、建物端部より墜落した。			
2012	12	15 ～ 16	マンションの階段室1階（共用内部階段）において、当該箇所の塗装作業を行っていた被災者は、一酸化炭素中毒により意識を失って倒れた。なお、被災者は階段壁に模様をつける作業を行っていた際、エンジン式コンプレッサーを使用していた。	514	12	1～9
2012	3	17 ～ 18	被災者は遊具の設置工事中、遊具の屋根を固定するため、高さ約2mの作業床にてインパクトレンチを使用してボルトの増締め作業を行っていたが、バランスを崩し地面に頭を強打した。	416	1	1～9
2012	3	6 ～ 7	高炉改修工事にあたり、炉周りに新たなデッキを設置作業中、被災者2名は溶接などにより完全に固定されていないデッキ上で作業を行っていたところ、このデッキが約6m下にある1層下のデッキに転落し、転落したデッキを追うようにして、被災者2名も墜落した。1名は、両側気胸による呼吸不全により死亡、もう1名は胸椎圧迫骨折、肋骨骨折により休業した。	416	1	10～ 29
2012	5	10 ～ 11	災害発生日は作業最終日であり、床清掃後、残っている機材を搬出して終了する予定であった。床清掃が終了後、被災者は複数台あるスタッカークレーン（つり上げ荷重6t）を定位置に戻すべく、運転台にて半自動運転で原点復帰の操作を行った。その後、何らかの理由でラックとスタッカークレーンとの間に頭部、胸部及び腹部を挟まれ死亡した。	211	7	100 ～ 299
2012	8	11 ～ 12	被災者は地上から高さ約6m上方に敷設されているガスを支える支柱の塗装作業を仮設足場上で行っていた際、突然仰向けの状態で倒れ、心肺停止の状態に陥り、救急搬送先の病院で死亡した。	351	13	10～ 29
2012	5	11 ～ 12	テント倉庫（最頂部の高さは約8m）のテントの張り替え作業を行っていた被災者は、足をかけていた梁もしくは骨組の上から墜落した。なお、保護帽、安全帯は装着していた。	415	1	1～9
2012	7	11 ～ 12	被災者は足場の解体作業中、休憩をとるため足場から地上に降りようと建地を伝っていたところ、体調不良を訴え意識を失った。	411	13	1～9

2012	8	14 ～ 15	間仕切りのブロック壁をエアピックハンマーによりはつっていたところ、突然間仕切りのブロック壁が倒壊し、近くでガラ（はつりカス）の片付け作業をしていた被災者がその下敷きとなった。	418	5	10～ 29
2012	9	16 ～ 17	解体現場において、解体用機械（重機）を用いて作業を行っていたところ、バランスを崩した重機が後ろ向きに倒れ、近くにいた被災者がアームの下敷きになった。	145	7	1～9
2012	12	16 ～ 17	解体工事現場において、トラックの荷台に積んだ廃材にロープ掛けをしようと荷台に上がろうとしたところ、車体脇のステップを踏み外して墜落した。	221	1	1～9
2012	3	9 ～ 10	外壁補修及び塗装工事のため設置したくさび型鋼管足場（8層）を解体作業中、解体をしていた足場（6層目）の床からバランスを崩し、約10m下のアスファルト舗装に墜落した。	411	1	10～ 29
2012	6	9 ～ 10	移動式クレーンを現場に向けて林道を走行させていたところ、斜面において移動式クレーンが横転しそうになったことからエンジンを切り、横転する側に被災者他1名で支えに入った。しかし、支え切れずに、逃げ遅れた被災者が移動式クレーンとともに転落し、移動式クレーンの下敷きとなって死亡した。	212	1	1～9
2012	11	10 ～ 11	高さ約60mの送電線用鉄塔の防錆塗装工事において、被災者は準備作業のため、鉄塔に附設されたステージ（地上高さ20m）から身をのり出し、工具箱に入ったサンダーを取ろうとして、地上に墜落して死亡した。なお、被災者の腰には2丁掛けの安全帯が着用されていたが、被災時に使用されていなかった。	418	1	1～9
2012	6	16 ～ 17	被災者は民家の納屋に網戸を取り付ける作業を行っていた。網戸の取付終了後、何らかの理由により、被災者が使用していたトラックが、当該民家敷地内の下り坂（勾配約5度）から市道へ動き出し、被災者が市道にある電柱とトラックに挟まれた。	221	6	1～9
2012	1	9 ～	母屋の雪下ろし作業において、はしごを母屋（軒の高さ約4m）に掛け、はしごの上部をロープで固定するため上っていたところ、はしごの脚部が	371	1	1～9

		10	滑って、はしごと共にコンクリートの地面に墜落した。			
2012	1	13 ～ 14	積載型トラッククレーンを使用し、荷台から小型ドラグ・ショベルを降ろすためにつり上げていたところ、積載型トラッククレーンが転倒して、運転を行っていた被災者は、後方の雪壁と積載型トラッククレーンとの間に挟まれた。なお、被災者は小型移動式クレーンの運転に係る資格を有していなかった。	212	6	1～9
2012	12	15 ～ 16	アルミ製のカーポートを新築する工事中、基礎用の2つの溝内に、梁を取付けた支柱を各4本建てた後、被災者が溝の中に入り、支柱をハンマーで叩き、間口の間隔を調整していたところ、支柱が4本目から1本目まで順次倒れ、被災者の頸部及び胸腹が支柱の間に挟まれた。	418	5	1～9
2012	3	11 ～ 12	被災者は牛舎改修工事現場において、牛舎（D型ハウス）の屋根アーチ鉄骨の積雪に対する補強材を取り付けるための金属板を、高さ約4mの屋根アーチ鉄骨に溶接するため、うまの踏み木の4段目（高さ約2m）に足を乗せて、またがった状態で作業していたところ転落し、コンクリートの床に頭部を強打し死亡した。	371	1	1～9
2012	7	12 ～ 13	被災者は既設建築物外部に枠くみ足場を3段設置し、屋根や壁の塗り替え作業を行っていた。被災者が外部足場に設置された階段枠を使用して地上に降りる際、3段目と2段目の間に設置されていた階段枠が外れたことによりバランスを崩し、3段目の外側の筋かいを超えて、足場から約5m下の歩道に墜落した。なお、安全帯、保護帽の着用はなかった。筋かいのみ設置されていた。	411	1	1～9
2012	10	13 ～ 14	広告塔の看板を張り替える作業中、被災者らは広告塔に備え付けられていた設備（アルミ製のはしごを加工したもの）に乗り、看板の張り替えを行っていたところ、はしごの部材が破断したため同設備ごと地面に墜落し、うち1名が死亡した（地面から看板下端まで約15m）。なお、同設備は看板に設けられているレールにかけられた状態で設置されており、人力により水平方向に移動することができる。	418	5	1～9
			被災者は屋上において、防水設備工事の施工管理の一環として写真撮影を			

2012	10	10	していたところ、作業床の端（パラペット）を越えて地上に墜落した。なお、地上からパラペットの上端まで約30m。パラペットは、高さ50cm	415	1	1～9
		11	×幅20cmであった。また、被災者は保護帽を着用し、安全帯は着用していたが使用していなかった。			
2011	5	8	ドラグショベルでキュービクルをつり上げて移動させる作業中、被災者が			
		9	キュービクルの天板の上でドラグショベルのフックに当該キュービクルを	142	1	1～9
		9	玉掛けした後、当該キュービクルの天板の上から降りようとした際、当該			
		9	キュービクルが回転し、その反動で体勢を崩して、当該キュービクルの天			
		9	板の上から約2.2m下のコンクリート土台上に墜落した。			
2011	11	9	鉄骨造6階建てビルの解体工事現場において、1階部分の外壁を倒す作業			
		10	を行う際に、外壁が倒れ込む区域に被災労働者がいたため、当該外壁に押	418	5	1～9
		10	しつぶされて被災したもの。			
2011	1	9	施設新築工事（鉄骨平屋建）現場において、屋根の造作工事のため、建屋			
		10	の屋根上で屋根材である波板鋼板の取付け作業を行っていた1次下請の労	415	1	10～
		10	働者が、強風により飛ばされた波板鋼板の影響で9.5メートル下のコン			29
		10	クリート構造物に墜落、胸部大動脈破裂により同日死亡したもの。			
2011	2	13	バイパス建設工事において、高架橋床版下のつり足場の解体工事中、足場			
		14	板と足場板を止めているコンパネ板を集めていたところ、つり足場と高所	411	1	10～
		14	作業車のデッキの間から約15メートル下の地上に墜落したもの。			29
2011	4	10	被災者が社用車を運転して、走行していたところ、直進するところを、右			
		11	にそれて中央分離帯にある高速道路の橋脚に衝突し、死亡した。助手席に	231	17	1～9
		11	同乗していた同僚は右膝を骨折した。			
2011	7	9	倉庫屋根の補修工事において、わく組足場材を使用した架設通路兼作業構			
		10	台の最上部に上がり、資材が結び付けられたロープを妻面から引き上げて	416	1	1～9
		10	いたところ、9.65m下の地上に墜落し、2日後に死亡したもの。			
2011	1	6	夜間工事が終了し、工事現場から軽トラックで、帰社する途中、信号のあ			
		6	る交差点を東から西に直進中、北から南に進行してきた乗用車と衝突し、	231	17	30～
		6				

		7	運転していた被災者が3時間後に死亡し、加害者、同乗していた同僚が軽傷を負ったもの。			49
2011	11	10 ～ 11	建屋のスレート屋根の修理中に、被災者がスレート屋根を踏み抜いて約15m下の鉄板上に墜落した。搬送先の病院にて死亡となった。	415	1	1～9
2011	9	6 ～ 7	会社所在地にある寮から、会社の車で同僚を迎えに行き、会社戻る前にトラック置場へ備品を取りに行く途中、片側一車線の道路で前の車に追越をかけた際、その車が右折したため側面に衝突し、外傷性肝障害、下丈静脈損傷で死亡した。当日は特定の工事を行っておらず雑務を行う予定であった。死傷病報告を保留していたが、業務上決定された。	231	17	1～9
2011	11	14 ～ 15	2階ベランダ手すり下の外壁の塗装作業中、ベランダ手すりの外側から、ベランダの鉄骨梁のフランジ部分（高さ約2m40cm、幅5.5cm）にのり、ベランダ手すりの格子（65cm×2cm×1.5cm）を片手でつかんで、手を伸ばして作業を行っていたところ、つかまっていた格子が外れて墜落したものと推定される。	415	1	1～9
2011	11	8 ～ 9	マンション外壁の塗装修繕工事において使用した「くさび緊結式足場」を解体するにあたり、足場9層目から8層目に移動するのに昇降設備を使用せず、足場の外側をつたって移動したところ足を滑らせ約16メートル下の地面に墜落した。	411	1	10～ 29
2011	5	10 ～ 11	7階建てマンションの屋根の改修工事において、ペントハウス部の足場の解体終了後、被災者は頼まれた養生板をペントハウス内に取りに行ってきた後、ペントハウス内のパイプスペースの開口部（幅73cm奥行102cm）から1階まで19m程墜落して死亡していたもの。	416	1	1～9
2011	6	13 ～ 14	既設建物解体工事において、スレート屋根取り外し作業の指示を受けていない被災者が、安全帯を着用・使用せずスレート屋根取り外しのためスレート屋根上に上ったところ、スレート屋根を踏み抜き、約8m下の地面まで墜落したもの。	415	1	1～9
			工場屋根改修工事現場で、工場に隣接する物置（高さ約3.3m）の上に			

2011	9	10 ～ 11	<p>乗り改修作業に際し設置していた養生シートの点検作業を行っていたところ、地面に墜落したものの。作業は一人で行っており被災状況を現認したものはないが、被災日は台風が接近していたため風が強く吹いており、物置上で転倒し地面に墜落した、あるいは地上に降りる際にはしごから墜落したものと考えられる。</p>	371	1	1～9
2011	9	11 ～ 12	<p>鉄骨造4階建物解体作業に伴い、被災者が3階にてガラスの集積・運搬作業に従事していたところ、1.9m×1.2mの開口部上に敷いてあった厚さ6mmのベニヤ板を踏み抜き約7.8m墜落した。その後、病院に搬送されたが、9月23日午後2時2分に亡くなったもの。</p>	414	1	1～9
2011	11	11 ～ 12	<p>貸し倉庫上部屋根のスレート部に鋼製の波板を貼り付ける工事中、約3m先行で貼り付けた後、2束の波板（約1枚40kg）20枚（約800kg）を移動式クレーンで吊り上げ、屋根に仮置きし、3束目の波板を降ろされるのを待っていたところ、強風のため積み重ねていた波板の1枚が跳ね上がりそれと共に約8m下へ墜落したものの。</p>	415	1	10～ 29
2011	12	12 ～ 13	<p>鉄骨造4階建物解体工事現場内の4階において、被災者がコンクリート等のガラ出し用の開口部（約1.3m×1.1m）付近でうまを設置しうまの踏み栈上で、鉄骨に吹き付けられている耐火被覆材をケレン棒にて除去していたところ、うまが倒れ、開口部から1階（高さ約9.3m）に墜落したものの。病院に搬送され入院していたが、12月26日AM1:30頃亡くなったもの。</p>	414	1	30～ 49
2011	8	9 ～ 10	<p>3階建ての建物解体工事中において、3階床面端部から約4.65メートル墜落したものの。</p>	416	1	1～9
2011	6	14 ～ 15	<p>被災者他1名で天井に撮影機材等を吊り下げるボルトの取り付け作業を行っていた。天井に穴を開け、被災者が天井裏に上がり下から差し込んだボルトの固定作業を行った。ボルトの固定作業が完了したので、天井裏から床面に降りようと、45センチ角の開口部から床面に設置しておいた脚立（高さ2.6メートル）に足を掛けて降りようとしたところ、足を踏み</p>	418	1	1～9

			外し高さ3. 3メートルの床面に墜落した。			
2011	5	17 ～ 18	作業場所から約1.5km離れた林道内において、帰社のため2tトラックを運転中、道路走行上何らかの障害（動物の飛び出し等）がありハンドルを谷側に切ったところ、路肩から車両ごと墜落したもの。	221	17	1～9
2011	6	17 ～ 18	平成23年6月25日（土）午後4時30分頃、A邸解体工事現場において、解体作業に当たっていた作業員が熱疲労の症状を発症、建屋内で休憩をさせていたところ、手バラシしで解体していた職長が、大きなイビキ、大声の発生に気付いたため、急ぎ救急搬送するも熱射病により死亡した。	715	11	1～9
2011	9	8 ～ 9	上記発生場所に所在する建設会社事務所屋外階段に設置されている屋根（塩化ビニール製）の張り替え作業を行うにあたり、老朽化した屋根を取り外す作業を行っていたところ、屋根を踏み抜き、約3メートル下のコンクリート製の階段部分へ墜落したもの。なお、当該作業は1人作業であったため、災害概要は推定である。	415	1	1～9
2011	12	9 ～ 10	配送センター外壁・屋根等塗替工事において、足場の解体作業中の災害。足場の12段目の床に外した鳥居枠を仮置きしていたところ、被災者が張り出していたブラケット足場に乘った際、ブラケットの取り付け部分が破損し、21本の鳥居枠と共に墜落し、死亡したものである。また、地上にいた塗装工に落下した鳥居枠があたり、被災したものである。	411	1	1～9
2011	12	9 ～ 10	既設2階建木造家屋の外壁塗装（塗り替え）作業終了後の清掃作業をすべて終え、駐車場に止めてあった車に乗り込もうとした被災者が、1階の屋根上に軍手を置き忘れたことに気づき、当該屋根上まで戻ったところ、足を滑らせて屋根の端から墜落したもの。	415	1	1～9
2011	6	10 ～ 11	個人住宅のブロック塀の解体工事において、当該工事を請負った事業場の代表者が、下請け労働者1名（被災者）と2人で作業を行っていたが、高さ145cm、幅176cm、厚さ15cm、重量680kgのブロック塀の基礎部を代表者がチップングハンマーで研っていたところ、当該ブロック塀が倒れ、近くでコンクリートがらを集積していた被災者がその下敷きとなった。	418	5	1～9

2011	9	16 ～ 17	既存の木造2階建て住宅の屋根及び外壁の塗装工事において、屋根の破風板（はふいた）の塗装作業をくさび緊結式足場の3層目の作業床で行っていた被災者が、高さ約6m下の足場外側の道路面に墜落した。足場外側には高さ135cm及び高さ90cmの手すりがあり、高さ45cmの中さんが取り付けられていた。また、足場外側にはメッシュシートが張られていたが、墜落後にはめくれた状態となっていた。	411	1	10～ 29
2011	3	11 ～ 12	7階建てビルの外壁塗装工事中、足場上でコーキング作業をしていた被災者が、足場とビルの間隙（約40cm）から地面に墜落した。くさび式本足場には、ビル側にも手すりの中さんが設置されていたが、ビル側に設置されていた物体の落下防止用ネットは折りたたまれていた。	411	1	1～9
2011	7	16 ～ 17	被災者が左官工事現場から作業を終え、軽ワゴン車に道具等を積んで事業場へ帰るため、市内の国道を北進中、対向車線を走行してきたトレーラーの牽引車が雨のため、緩いカーブでスリップして対向車線を越え、被災者が運転する軽ワゴン車と正面衝突し、被災者は、大動脈損傷に伴う胸腔内出血により死亡し、トレーラーの運転手も負傷した。	221	17	1～9
2011	10	14 ～ 15	民家解体工事現場において、被災者が屈みこみ、コンクリートのガラを拾う作業を行っていたところ、被災者の後方から後退してきた建設用機械（ドラグショベルのアタッチメントをグラップルに変更したもの）の履帯に轢かれ、被災した。被災日の午後11時頃、搬送先の病院で死亡した。	149	7	1～9
2011	12	13 ～ 14	平屋の工場（鉄骨造）の解体工事現場において、被災者は屋根の上で屋根材（スレート及び明かり取り用のFRP製の屋根材）を固定しているフックとナットを取り外す作業を行っていたところ、明かり取り用のFRP製の屋根材を踏み抜き、高さ約10m下のコンクリート床面に墜落し、頭部を強打して死亡した。当該作業を行うにあたり、歩み板、防網などの踏み抜きによる墜落防止措置は一切講じられていなかった。	415	1	10～ 29
		14	木造2階建家屋屋根塗替工事において、被災者が軒先高さ5.88メートルのトタン屋根上で塗装作業を行っていたところ、公道のアスファルト上			30～

2011	1	15	に墜落した。被災者は緊急搬送され治療を受けていたが、平成23年2月5日午後7時30分ごろ急性硬膜外血腫及びクモ膜下血腫により死亡したものの。	415	1	49
2011	3	17	建物改修工事において、現場作業終了後に施工状況や建物の施錠確認などを行っていた被災者が、建物屋上に設けられている天窓を踏み抜き、9.5mの高さから墜落し、死亡したものの。	418	1	1~9
2011	4	15	脚立に上り非常口の誘導灯の交換作業中、脚立ごと倒れて脚立の内側に墜落し、頭を打って死亡したものの。	371	1	10~29
2011	5	9	葬儀場内部のクロス張替え等修繕工事において、電気工事を請け負った一次下請の労働者（一人親方特別加入者だが専属制、日給制、指揮命令状況からみて労働者の可能性が高い）が、作業開始直後に気分が悪くなり階段に倒れて脂汗をかいていたため、車中で休憩をするために作業仲間に付き添われて建物内部の階段を2階から1階へ降りていた際に、体がふらついて1階の床まで8段転落して頭蓋内損傷により死亡したものの。	413	1	10~29
2011	7	8	2階建て木造住宅解体工事において、周囲を仮囲いしようとしたところ、屋外に設置されていた電気温水器（高さ1.9×幅0.66×奥行き0.66m）が邪魔となった。そのため、3名で移動しようとしたところ、被災者が倒れてきた電気温水器の下敷きとなり死亡したものの。	612	5	10~29
2011	8	15	092RC造4階建て建物の外壁改修工事を請け負っていた建設会社の当該作業所長が、3階吸気口周囲の雨漏れ箇所を補修するため一人で、屋上から親綱とロリップと安全帯を使用し下降しようとしたところ、屋上から約1メートル下の箇所で動けなくなった。自ら携帯電話で救助を求め、約30分後に引き上げられたものの意識不明となり、翌日朝7:34に搬送先病院にて死亡したものの。	379	90	100~299
2011	11	8	物流会社のテント倉庫で、高所作業車を使って屋根の補修作業を行っていたところ、作業員が誤って作業車から転落した。クローラ式高所作業車に乗って屋根の軒先でテント用シートをロープで固縛する作業をしていた	146	1	1~9

		9	が、何らかの原因で高所作業車が転倒し、誤っておよそ7.5メートルの高さから道路へ転落した。11月12日収容先の病院で死亡した。			
2011	4	15 ～ 16	鉄骨平屋建て倉庫の解体作業中、屋根上でスレート板を外す作業をしていた鳶工がスレートを踏み抜き、母屋の間（75センチメートル間隔）から約5.2メートル下のコンクリート床の上に置かれたトタン板上に墜落した。	415	1	100 ～ 299
2011	2	13 ～ 14	建物の外壁補修工事中、高さ3.78メートルの足場の作業床（幅25センチメートル）から地面に墜落し治療中であったが、平成23年2月27日、重症頭部外傷により死亡した。作業床はブラケット足場で、手すりはあったが中さん等が設けられておらず、ネットの緊結も不十分であったため足場の外側に墜落した。被災労働者はヘルメット及び安全帯を着用していなかった。	411	1	1～9
2011	7	9 ～ 10	平成23年7月12日9時45分頃、被災者は2連はしごを使用して、フェンス設置工事に付随した庭木の剪定作業に従事していた際、当該はしごの踏さんから道路のアスファルト上に墜落したものである。被災時被災者の作業を目撃した者はいなかったが剪定した木の幹の高さ、被災者の身長から推定するに被災者は高さ2.45メートルの位置の踏さん上で剪定を行っている際にはしごから墜落したと思われる	371	1	1～9
2011	4	16 ～ 17	太陽光パネルの設置工事に伴い欠けた屋根瓦の撤去作業中、被災者が、高さ3メートル程のはしご中段まで登り、屋根上で作業を行っていた者に声をかけた後、地面に降りる途中で何らかの原因ではしごから転落した。被災者は、左側頭部を強打し、4月28日、急性硬膜下血腫で死亡した。	371	1	10～ 29
2011	5	13 ～ 14	被災者は、鉄骨造の建築物のはりの塗装作業中に、はりの上から墜落（高さ約7m／目撃者なし）したものと推定され、死亡した。	415	1	1～9
2011	9	8 ～	平屋民家のテラスのビニル製波板屋根の張り替えの為、被災者は屋根上で古い波板を取り外していたところ、波板を踏み抜いて2.51m下のコンクリート土間に墜落し、頭部を強打した。その後、病院に搬送され	415	1	1～9

		9	CUで経過を観察していたものの、10月3日午前7時47分に脳挫傷、外傷性くも膜下出血により死亡した。			
2011	10	13 ～ 14	東日本大震災により損傷した瓦にブルーシートをかけて養生してあったが、直前に降った雨などの影響でブルーシートの一部が外れてしまった。このためブルーシート養生の手直しを依頼され、被災者一人で現場へ出張、屋根に登って作業を行っていたところ、足を滑らせ高さ3.9m下の地面に落下、頭部等を強打し翌日死亡したもの。なお、当現場は11月に屋根の修繕工事も当該事業場が行う予定であった。	415	1	1～9
2011	1	6 ～ 7	工事現場から会社事務所に社用車で戻る途中、ハンドルを誤って道路わきのグラウンドのフェンスに激突し、死亡したもの。他の従業員をそれぞれの自宅付近でおろし、最後に被災者が運転して一人で会社に戻る途中であった。	231	17	1～9
2011	4	13 ～ 14	木造2階建て民家兼店舗の屋根瓦撤去工事において、瓦撤去後、被災者を含む3名がブルーシートで屋根を覆う作業を行っていたところ、高さ約6メートルの屋根端部から被災者は墜落した。外部足場の設置、屋根端部の手すりの設置や、墜落時の作業場所で安全帯を使用するための親綱の設置等墜落防止措置が為されていなかった。また、被災者はヘルメットを着用していなかった。	415	1	1～9
2011	11	8 ～ 9	酒の仕込蔵の屋根修繕工事（震災復旧工事）において、屋根瓦及び屋根瓦下の土葺（20センチメートルから30センチメートルの土の層）の撤去作業を行っていたところ、土葺下の杉皮及び野地板を踏み抜き、約6.7メートル下の地面に落下し、出血性ショックにより死亡したもの。	415	9	1～9
2011	1	12 ～ 13	公衆トイレ新築工事において、ピット内部のコンクリート養生のために、練炭を使用していたところ、ピット内に立ち入った労働者が一酸化炭素中毒のために死亡したもの。（一人作業のため現認者なし）	714	12	10～ 29
2011	11	10 ～ 11	橋の塗装工事で使用したつり足場の解体作業中、バランスを崩してつり足場から川に墜落した。（現認者なし）	411	1	1～9

2011	6	12 ～ 13	個人住宅の味噌樽保管小屋（木造平屋）の解体工事中、当該小屋内でチェーンソーを用いて貫を切断していたところ、西側の土壁が倒れてきたはずみで、持っていたチェーンソーが頭部に当たり、脳挫傷で死亡した。当該小屋は、平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震により、損傷を受けたため、解体しているところであった。	136	8	30～ 49
2011	2	11 ～ 12	工場のシャッター上部にある屋根部分（高さ約7m）の除雪作業中、工場建屋の屋根から落雪の危険があり、安全帯を外し梯子を使用して地上に降りようとしたところ、落雪に押されて地上へ墜落したものの。	415	1	10～ 29
2011	7	17 ～ 18	被災者は個人住宅の改修工事現場において、本作業を終え、枠組み足場の3段目において廃材等の後片付けをしていたが、しばらくして再び代表者が見たところ地面に倒れていた被災者を発見したものの。被災者は保護帽を着用しておらず、安全帯については腰巻にロープを取り付けた簡易的なものを装着していたが、使用していなかった。（発生から2日後の7月27日に死亡したものの。）	411	1	1～9
2011	10	8 ～ 9	4階建ての一般共同住宅の屋上防水改修工事現場において、被災者が屋上南東側端部で、仕上げ用防水シートを屋上面に貼り付ける前作業として、屋上面に残っていた雨水を雑巾で拭いていたところ、誤って10.5m下に墜落したものである。	415	1	30～ 49
2010	12	8 ～ 9	工場建屋の屋根補修工事現場において、被災者は屋根上に足場板が設置されていたにもかかわらず、スレート板の部分に乗って棟の部分に留めてあったビスを手で抜こうとした際に、スレート板が割れ、約5m下の工場建屋内の床に墜落した。墜落直後及び病院への搬送後も被災者の意識はあったが、災害発生日から3日後に容体が急変し死亡した。	415	1	1～9
2010	12	8 ～ 9	事業場所有の2tトラックで現場から事業場へ戻るため国道を走行中（片側2車線の第2走行車線）、ブレーキをかけたところ何らかの原因でスリップし第1走行車線走行中の乗用車に接触。その後、街路樹、店舗のフェンスに激突した。	221	17	1～9

2010	12	13 ~ 14	マンション外壁修繕工事の足場解体作業中に、鳶工が枠組足場の16層目に乗って直上の17層目の布板を取り外した際にバランスを崩し、取り外した布板もろとも外側に墜落した。一旦、自転車置場の屋根でバウンドし、地上へ墜落したものである。地上から16層目の作業床までの高さは、27.7mであり、安全帯を使用していなかった。16層目の筋交は外されていた。	411	1	10~ 29
2010	12	14 ~ 15	マンション外壁改修工事にて枠組足場の解体作業をしていた被災者が、取り外した簡易鳥居枠(W=600mm)を両手で持って解体足場最上層(9層目、地上高さ約15m)を移動していたところ、何らかの原因でバランスを崩して鳥居枠とともに地上へ墜落。救急車に搬送されたが、当日深夜死亡した。安全帯を着用していたが使用していたかは不明。	411	1	10~ 29
2010	11	17 ~ 18	ビルの外壁の洗浄・塗装業務で使用していたくさび式の外部足場を解体し、足場材をトラックに積み終えたところ、トラック荷台横の一方のあたりが、積載された荷の重量に耐えきれなくなって、歪んで倒れた。この際、足場材がトラック横にいた作業員の上に崩れかかり、頭を強く打って死亡したものの。	221	4	1~9
2010	11	16 ~ 17	民家(木造2階建)の解体現場において、屋根の瓦を取り除き、その後、屋根(軒先高さ6.9m)から防音シートを張っている単管の壁つなぎと水平材をつたって、2階の部屋(窓枠下部までの高さ、地上から4.7m)へ降りようとした時、下にあるコンクリート溝部分に墜落し、頭を強打し死亡したものの。墜落防止用口リップ、安全帯、保護帽有り。靴は運動靴。	415	1	10~ 29
2010	11	10 ~ 11	地上10階建てマンションの外壁改修工事の事前調査で共用廊下から外壁の状態を診断中、建物内から地上の駐車スペースに墜落し、死亡したものの。なお、墜落直前の被災者位置は不明。	418	1	100 ~ 299
2010	10	16 ~	被災者は木造2階建住宅の屋根補修工事に従事していた。屋根上にモルタルを上げるため、モルタルを入れたバケツを手に持ち、地上から2階屋根にかけた梯子を昇っていたところ転落した。入院して治療を受けていた	371	1	1~9

		17	が、約1カ月半後に炎症を起こして死亡した。現認者がいないため、落ちた高さは不明。ヘルメットを着用し梯子は固定されていた。			
2010	9	9 ～ 10	個人住宅の外壁塗装工事現場において、塗装作業終了後の足場解体作業中、被災者が足場の水平材を伝って移動していた際、足場が建屋側に傾くのを防ぐために建屋の外壁に当てていた単管に足を乗せたところ、当該単管が傾き、被災者がバランスを崩し、2階の屋根にバウンドした後、6.7m下のアスファルト地面に墜落した。病院にて治療中、7日後に死亡した。安全帯などの防護措置を講じていなかった。	411	1	1～9
2010	9	11 ～ 12	9階建ての建築物の解体工事において、屋内のコンクリートブロック製の壁の解体作業中、壁の床に取り付けられていた横木を取り外したために同壁が倒壊し、壁の下敷きとなった。	418	5	100 ～ 299
2010	9	14 ～ 15	建物解体現場において、建設資材廃棄コンテナ（360×190、高さ95cm）に資材廃棄中、被災者が重機後方の旋回範囲内への立ち入り、後方の確認をしなかったため、旋回中の重機（ハサミ）のカウンターウエイト部とコンテナの間に挟まれたもの。	149	7	100 ～ 299
2010	9	13 ～ 14	当該事業場の倉庫の屋根上の物置場の片付け作業中、被災者が屋根上の泥、雨水をスコップでかき落としていたところ、同屋根上で他の者が運転するフォークリフトが木材を運搬しようとフォークですくい上げようとした時、被災者が乗っていた屋根材の鉄板の端をフォークの先が押し、強固に固定されていなかった鉄板がずれて梁から外れ、倉庫内へ被災者とともに落下した。その際、倉庫内の棚が倒れ、被災者は、鉄板と棚の下敷きになった。	415	1	1～9
2010	9	14 ～ 15	被災者は、鉄骨造平屋建の工場棟の解体工事現場において、作業員数5名（被災者含む）がスレート屋根の上で作業中、被災者（安全帯未着用、保護帽着用）がスレート及び木毛板の撤去作業を行っていたところ、屋根の母屋の間から約5.2m下のコンクリート床に墜落した。墜落防止措置を講じていなかった	415	1	10～ 29
		13	くさび式緊束足場に設置した朝顔上で、メッシュシートを張る作業を行っ			

2010	9	～	14	ていたところ、朝顔の端から約7 m下のアスファルト歩道に墜落したものの。	411	1	1～9
2010	9	～	16	県営住宅改修工事の塗装工事現場で、塗装工の作業員が建物4階ベランダ付近の作業床（わく組足場5層目）で作業中、下さん等がない交さ筋かいの下から墜落し、搬送された病院で死亡した。	411	1	1～9
2010	9	～	10	建屋解体工事において、ドラグショベルを使って屋内の居住スペースのコンクリートブロック壁を解体作業中、運転士（現場代理人）の指示でコンクリートブロック壁に立てかけてあったバールを取りに行き、ブロック壁に背を向けて前方へ移動していた際、後方から3列12段積み（幅1.18 m、高さ約2.3 m）のブロック壁（内部の鉄筋が少ない）が倒壊し、被災者はうつ伏せの状態の下敷きとなったもの。	418	5	1～9
2010	9	～	9	被災者は住宅解体工事現場において、屋根に屋根ブロック（親綱を張り、安全帯をかける設備）を取り付けるために、屋根瓦及び屋根瓦の下のベニア板を外し、当該ベニア板を持って屋根上に立っていたときにベニア板が被災者の側に倒れてきた。このため、被災者はその反動で屋根から約5.3 m下の地上に墜落した。墜落防止措置を講じていなかった。	415	1	1～9
2010	8	～	9	トラック（1.5 t車、作業員3名が乗車）と観光バス（運転手1名、乗務員1名、旅行添乗員1名、観光客2名が乗車）が、峠のトンネル内において正面衝突し、トラックの運転者が死亡した。	221	17	1～9
2010	8	～	15	ガソリンスタンド解体工事において、敷地境のブロック塀を解体していた。4次請負労働者2名が手持ちのブレーカーでブロック塀（長さ約13 m、高さ約1.3 m）の下部をはつり、3次請負労働者1名がむき出しとなった内側の鉄筋の溶断を行っていた。13 mのうち約11 mまではつりと溶断が済み、残りをはつっていた際、ブロック塀全体が自立できなくなって手前に倒れ、はつり作業中の1名が死亡、同じく1名が負傷したものの。	418	5	1～9
				牛舎の増築工事における屋根部の作業において、被災者はタイトフレーム（屋根下地の波形の部材）を溶接で取付けるための事前作業である屋根梁			

2010	8	10 ～ 11	部（H鋼）への墨出し作業を高所作業車により行っていたが、自走（クローラ式）により高所作業車のバケットを下降させずに走行させ梁間の移動をしていた際に、進行方向の確認不足により被災者の背部に接近していた梁に気付かず、梁とバケットの手摺の間に首を挟まれ被災したものの。	146	7	1～9
2010	8	14 ～ 15	ビル解体工事（事務所棟）において、9階の梁付近にて作業または移動していたと思われる被災者が、何らかの原因で37.1m下の地上まで墜落した。目撃者はいない。	415	1	10～ 29
2010	8	16 ～ 17	被災者は、わく組足場15段目の足場作業床上から地上に、足場15段目作業床に置いていた足場板と一緒に、高さ27.65mを墜落したものの。足場材等の荷上げに使用していた16段建枠に取付けた滑車にて折り返しているウインチのワイヤーロープを抱きかかえるようにして墜落した。	411	1	10～ 29
2010	8	19 ～ 20	家具量販店の改装工事において、入口軒下天井部の吹付け塗装作業中に高さ5.2mの足場（足場3段目の作業床）の端の開口部（幅110cm、長さ120cm）からタイルが張られた1階床に墜落して死亡したものである。開口部には手すり等の墜落防止措置は講じられておらず、被災者は安全帯を使用していなかった。	411	1	1～9
2010	8	9 ～ 10	中学校の屋上防水工事で、ロール状（1m×16m）の防水シートを貼る作業において、これにより発生する接着面をカバーしていた、剥離紙の片付け、たたみ作業を後退しながらしていた被災者が、屋上（高さ16.2m）の端に気が付かずに端から墜落し死亡した。	418	1	10～ 29
2010	8	10 ～ 11	平屋である長屋のリフォーム工事において、屋根の撤去を行うため、屋根上で瓦を取り外し、瓦の下に敷いていた板等を地面まで落としていたところ、屋根の端から地面まで高さ約2.8m墜落し、1週間後に死亡したものの。	415	1	1～9
2010	7	10 ～	SRC造、地下1階、地上7階、塔屋1階の建物解体工事現場において、5階に設置された強力サポートの撤去作業に従事していた被災者が、梁下に設置された強力サポートを取り外すためハンマーを使って緩めていたと	391	4	30～

		11	ころ、天井に取り付けられていた空調用のダクト内に大量のコンクリートガラが詰まっており、その重量に耐えられなくなったダクトが突然被災者の上に落下し、その下敷きになったもの。			49
2010	7	9 ～ 10	地上から高さ約5.4mの位置において、作業員2名で三角屋根の下地張りのためコンパネのくぎ打ち作業を行っていたところ、屋根上で転倒し、軒先に設置されていた鋼管足場外側の手すりと幅木の隙間から墜落し死亡した。	415	1	0
2010	7	8 ～ 9	被災者は、鉄骨造3階建て建築物の屋根板金工事現場において、屋根の張替え作業に従事中、木製下地の上に敷き並べた屋根材をつなぐべく、同屋根材への両面テープの貼り付けを、屋根上を後退しながら行っていたところ、屋根の端部を乗り越え、9.35m下の地上に墜落した。墜落防止措置を講じていなかった。	415	1	1～9
2010	7	9 ～ 10	2階建て民間住宅の屋根の塗装工事現場において、高さ3m20cmの下屋根の塗装を指示された下請けの塗装工が、同作業終了後、指示されていない屋根上での塗装作業を行うために屋根に上がり、その端部が高さ6m25cmの墜落防止措置のない屋根から地上に墜落した。被災者は病院に搬送されたが当日死亡した。	415	1	1～9
2010	7	9 ～ 10	同僚等3名で工場建屋のスレート屋根の雨漏り補修の事前点検のため屋根に上って確認作業を行っていた。点検箇所は数カ所あり、点検箇所の移動の際には母屋等の屋根の構造梁を伝って行っていたが、構造梁の間隔を見誤りスレート部に足をかけてスレートを踏み抜き、9.3m下の鉄筋部材等の上に墜落し被災した。歩み板を設けていなかった。	415	1	1～9
2010	7	14 ～ 15	倉庫として使用していた建物の鉄骨を解体する作業において、高さが約3mの位置にある天井部分の梁を切断する作業を行っていた。被災者は、梁の片側の根元を僅かに切り残した状態で、もう一方の根元を脚立に乗ってサンダーで切断後、梁を左手に持ちながら脚立から降りようとしたときに、梁の重みでバランスを崩して脚立から墜落してしまった。被災者は、脚立の3段目に立って作業を行っていたと思われる。	371	1	1～9

2010	6	15 ～ 16	男性作業員が、解体中の建築物の幅の狭い鉄骨の梁の上に乗って作業を行っていたところ、約5.2m下のコンクリートに墜落した。足場等の作業床を設けていなかった。	415	1	1～9
2010	6	13 ～ 14	被災者は、木造2階建ての解体工事現場でドラグショベルを運転し、解体作業を行っていた。当該ドラグショベルの運転席右側（ブーム側）の窓ガラスが破損しており、被災者が運転席右側面の窓枠からブーム側に身を乗り出したところ、降下してきたブームと運転席に胸部を挟まれ死亡した。	142	7	1～9
2010	6	12 ～ 13	自社倉庫で技能訓練終了後、ワゴン車に4名が乗車し帰社する途中、片側2車線の緩やかな右カーブの走行車線を走行中、前方の軽自動車を追越すため追越車線に車線変更したとき、大雨の影響でスリップして中央分離帯の縁石とガードレールに接触。軽自動車の前を横切る形で路肩側のガードレールに車両右前方部より激突。さらに右側面をリヤが浮き上がる形で上部のフェンスと激突し、反動で中央分離帯側トンネル入口付近に横転し停車。この事故で1名が死亡した。	231	17	10～ 29
2010	6	16 ～ 17	被災者は、木造2階建ての倉庫解体工事において、2階床を解体することから床部分の根太材をチェーンソーを使用して切り込み作業をしていた。2階部分の床が残っている箇所で小休憩後、再度被災者が作業を行っていた場所での作業再開時に、切り込みを入れていた床部分の根太材に足をかけたところ（推定）、当該床部分の根太材が折れ、3.9m高さから墜落し死亡した。防網等の墜落防止措置を講じていなかった。	418	1	10～ 29
2010	6	14 ～ 15	製品倉庫2階の梁の塗装工事において、仮設足場上で鉄骨梁のケレン作業（塗装の下処理）をしていたときに天井クレーンのトロリー線（200ボルト）で感電した。トロリー線には絶縁チューブが取り付けられていたが、取り付けが不十分であった。	351	13	1～9
2010	6	12 ～	昼休み休憩時間中、被災者の叫び声に現場内で休憩していた労働者が、コンクリートガラ破砕機（長さ約1m、直径20cmのローラーとローラーの間）に右足の股まではさまれている被災者を発見した。レスキュー隊により救出されたが搬送先の病院で死亡が確認されたもの。昼休み前に当該	162	7	10～ 29

		13	機械は運転を停止させていたので、機械の運転再開や被災者の行動は目撃者がおらず不明である。			
2010	6	14 ～ 15	被災者の同僚が、解体したセットバック部の外部足場解体材を外部足場（枠組足場）10段目より荷下ろしをしていた。エンドストッパーを下ろしている時、直下箇所にある一部取り外した状態の垂直ネットに当該材料が引っかかった。その状況を屋上で材料の小運搬作業をしていた被災者が手伝おうとして、荷下ろし箇所（外部足場10段目）に上がって来た。その際に何らかの理由で身体のバランスを崩し、荷下ろし箇所より墜落した。	411	1	1～9
2010	6	9 ～ 10	木造2階建家屋の2階ベランダの高さ105cmの既設の柵内において既存の防水シートをはがす作業を行っていた際に、何らかの理由で既設の柵の外から337cm下の地上に墜落し、死亡した。安全帯を着用する等、墜落防止措置を講じていなかった。	418	1	1～9
2010	6	11 ～ 12	被災者はSRC7階建の建物の解体工事現場の5階床部分において、床面に集積したコンクリート廃材をドラグショベルにより階段口に投下する作業を行っていたが、アームを右旋回させた際に履帯右下の廃材が滑動してバランスを崩し、同階段口からドラグショベルとともに約16m下の1階まで転落し死亡した。階段口には鉄骨階段が設置されていたが、ドラグショベルとともに転落した際、階段ごと抜け落ちたもの。	142	1	1～9
2010	6	10 ～ 11	木造家屋解体工事現場において、高さ約2mの箇所で屋根瓦の解体作業を行っていた被災者が、休憩のため脚立はしご（歪んでいて留め金が壊れていて、固定もせず）を使って地上に降りようとしたところ、脚立はしごが反転し、被災者が地面に墜落した。保護帽を着用していなかった。	371	1	1～9
2010	5	17 ～ 18	被災者が納屋の中2階を掃除するために、ほうきとちり取りを持って移動はしごを昇っている際、バランスを崩し、約3m下のコンクリート土間に墜落した。はしごの転位防止をせず、保護帽を着用していなかった。	371	1	1～9
			照明用電源に内燃機関を有する発電機2台を非常階段の踊り場に設置し、			

2010	5	12 ～ 13	隣接する室内の天井の石膏ボードの撤去作業を行っていた。昼の休憩に入り、被災者が発電機を止めに行ったまま戻ってこなかったため、他の作業員が見に行ったところ、一酸化炭素中毒により倒れている被災者を発見した。階段室には、はめ殺し窓しかなく、室内に入るためのドアがあるが、室内は石綿除去のため養生中であり通風のためドアを開けることができず、換気が不十分だった。	514	12	10～ 29
2010	5	11 ～ 12	マンションの枠組足場の解体作業中、10階～11階に設置された足場上で解体した部材をつり綱を用いて地上に降ろす作業を行っていた労働者が、同足場から地上へ墜落し、死亡した。作業の性質上、被災者が墜落した場所付近の足場には手すりも筋交いも設置されていなかったが、安全帯の取付設備は設置されていたものの、被災者が安全帯を使用していなかった。	411	1	10～ 29
2010	5	14 ～ 15	中型貨物自動車の後部で荷おろし作業中、後退してきたトラクターショベルとの間に挟まれ、死亡した。	141	6	10～ 29
2010	5	17 ～ 18	製鉄所内において、ガス配管支柱等の塗装作業中に発生。被災者は高炉ガス配管フランジ接合部上部に設置されているデッキの裏側の塗装作業中、配管フランジ部分から漏れた高炉ガスを吸入、高炉ガス配管上に倒れているところを同僚が発見したもの。発見後、病院に搬送したが死亡が確認された。高炉ガス（窒素60%、一酸化炭素30%、二酸化炭素10%）が漏洩していることに気付かなかった。	514	12	1～9
2010	4	10 ～ 11	倉庫建築工事において倉庫正面のカーテンをかける為、ローリングタワーを使用し、車庫屋根下部分にカーテンのワイヤーを通すフック等を取付ける作業をしていたところ、高さ3.89mの作業床から墜落、死亡したものの。当該作業には2名（被災者含め）が従事し、2名で屋根に取り付けるアングルを仮止めし、共同作業者が溶接を終えた時、同溶接作業者の右横後方いた被災者が墜落した。ローリングタワーに手すり及び中さん等がなかった。	411	1	10～ 29

2010	4	9 10	被災者は、足場の3層目に同僚1名とともに上がり、倉庫正面の壁にシートを貼る作業をしゃがんだ状態で行っていたが、突然、後方に倒れ、筋交いの下をくぐり抜け、足場3層目から約2.5m下の小屋の屋根に落ち、その後、さらに2.5m下の地面に墜落したもの。下さん及び幅木がなかった。	411	1	1~9
2010	4	8 9	工場建屋の屋根補修工事現場において、被災者は屋根上に足場板が設置されていたにもかかわらず、スレート板の部分に乗って棟の部分に留めてあったビスを手で抜こうとした際に、スレート板が割れ、約5m下の工場建屋内の床に墜落した。墜落直後及び病院への搬送後も被災者の意識はあったが、災害発生日から3日後に容体が急変し死亡した。	415	1	1~9
2010	4	15 16	4階建てビルの屋上に設置してある広告塔撤去工事において、被災者がワイヤロープを持ち広告塔の周囲に設置した丸太足場の養生シートの外側に出ていたところ、強風の影響もあってバランスを崩し、9.9m下の線路脇に墜落した。その際、ワイヤロープが架線に接触したためショートし、「ドン!」という音とともにスパークしたものの。	419	1	10~ 29
2010	3	10 11	倉庫底の梁（H型鋼材）の塗り替え工事のために設置した移動式足場（高さ3.64m）上から地面まで降りる際、建枠の棧を昇降設備として使用していたところ、高さ0.76m地点から足を踏み外して地面に仰向けで墜落し、後頭部を強打した。安全に昇降するための設備が設けられていなかった。	411	1	1~9
2010	3	17 18	鉄骨造工場の屋根の雨漏り部分を補修作業中、作業の最後に補修のチェックを行っていた被災者が、歩み板を持って歩いていたところ、バランスを崩し、屋根のスレート材を踏み抜き、高さ約1.1mからコンクリート床面まで墜落したもの。歩み板はアルミ製、幅24cmで、屋根上へは3枚しか持ち込んでいなかったため、架け渡ししながら移動していた。	415	1	1~9
2010	3	10	排水機場内の水路の上部にあたる開口部の蓋（縞鋼板、長さ2.1m、幅0.95m、重さ約100kg）を塗り替えるため、被災者は他の作業者と2人で開口部の両側から持ち上げ、少しずつ引きずりながら運搬してい	414	1	1~9

		11	たところ、バランスを崩して約7.5m下の水路に墜落し、腹部や背中を負傷してショック死した。安全帯が取り付けられていなかった。			
2010	3	9 ～ 10	橋梁の補修工事現場において、塗装作業に使用していたつり足場（高さ約20m）の解体作業を行っていたところ、同足場から墜落したもの。安全帯の使用等墜落防止措置が不十分であった。	411	1	10～ 29
2010	3	21 ～ 22	被災者は当該事業場が昨年外壁工事を施工した個人宅（約3週間前に工事完了）での社内で行っている点検調査及びインタビューの業務を終え、会社社に社用車を運転して戻る途中、国道上（片側1車線）において、道路左側にある鉄道の陸橋のコンクリート壁に衝突して炎上し、車内から遺体として発見されたもの。当初は身元不明であった。	231	17	10～ 29
2010	3	9 ～ 10	穀類乾燥施設増設工事で被災者らはサイロ用昇降機の水平垂直位置調整作業に従事。被災者は位置調整ため昇降機の上部振れ止め（仮止め）鉄骨材の固定ボルトを緩めるため昇降機側面の補強材（角パイプ）を梯子代わりに昇って行き、下部振れ止めの水平鉄骨材に手を掛けたところ、ボルトが別の鳶工により取り外されていたため鉄骨材とともに約7.0m下のコンクリート床面に墜落したもの。昇降用安全親綱等（ロリップ等）の設置は無かった。	419	1	1～9
2010	2	14 ～ 15	上屋の改修工事現場において、ガス溶断により空調ダクトの撤去作業中、当該空調ダクト上（高さ約3.6m）でガス溶断していたところ、ダクトが一部崩壊し足元が崩れる形で墜落し、その際に後頭部を強打したとみられる。現認者はおらず、被災者が倒れうめき声をあげているのをたまたま現場巡視していた元請けの労働者が発見したもの。病院搬送されたが約12時間後に死亡した。高所作業であるが作業床を設けず、また安全帯を使用していなかった。	418	1	10～ 29
2010	2	11 ～ 12	砂利採取場へ砂を積みに行くため10tダンプトラックを運転中、道路の左側から犬が飛び出してきたため、避けようとしてハンドルを右に切ったところ、対向車線側の電柱に激突した。その際、胸部をハンドルに強打し、3日後に死亡したもの。	221	17	10～ 29

2010	2	15 ～ 16	鉄骨造の工場を解体作業中、屋根のスレート材を取り外す作業を行っていた際、スレート材を踏み抜き、高さ約7mからコンクリート面へ墜落したもの。踏み板、防網及び親綱等の墜落防止のための設備は設置されていなかった。	415	1	10～ 29
2010	2	12 ～ 13	2階建てテナントビルの内装工事中、庇の上に設置した一側足場において、2階外部に取り付ける看板の下地となる鉄骨の溶接後の研磨作業を行っていたところ、足場から約5m下の地上へ墜落したもの。	411	1	1～9
2010	2	16 ～ 17	セメント工場内において、同社から発注のあった「ストックハウス北側出入り口カーテンシート改修工事」で、カーテンシートを取り付けるためのワイヤーを張る作業中、昇降に使っていた梯子から転落して首を骨折し、5日後に死亡した。	371	1	1～9
2010	2	9 ～ 10	枠組足場の解体作業中に、足場3層目床上（高さ約5.2m）から、建枠を持ったままコンクリート上に墜落した。	411	1	1～9
2010	1	16 ～ 17	RC造2階建ての個人住宅新築工事において、2次下請所属の型枠大工3名で型枠建込作業を行っていたところ、浴室で1名で作業を行っていた被災者が、壁際の地面から垂直に設置された鉄筋（直径1cm、長さ67cm、鉄筋先端部が養生されていなかった）の先端部13cmが後頭部に刺さり、地面に座り込んだ状態で、他の場所で作業を行っていた作業員に発見され、約18時間後に死亡したものである。	419	99	1～9
2010	1	11 ～ 12	解体等工事に伴い、トラクションロープ式エレベーター（750kg）を1Fレベルで解体作業中、かご側緊結部ボルトの溶断等を行ったため、張力を失ったカウンターウェイトが落下し、かご上で作業を行っていた事業主と労働者の2名がはさまれ死亡したもの。	214	4	1～9
2010	1	9 ～	移動式クレーン（最大つり上げ荷重25t）にて、1階部分梁の型枠（全長960cm、幅80cm、高さ80cm、推定荷重440kg）を作業半径33mの据付位置へ移動させるため起伏操作を行ったところ、能力を超えて荷を吊るために過負荷防止装置を切って作業を行ったため、起伏操	212	6	10～

		10	作によりブームを倒すことで過負荷状態となった。このため、移動式クレーンが転倒し、荷の据付場所付近にいた被災者の頭部にジブが激突し被災した。被災者は、病院で死亡が確認された。			29
2009	8	14 ～ 15	住居新築工事において、被災者が1階天井の配管取り付けのために高さ1.5mの脚立上で作業中に、脚立が滑ったために脚立ごと墜落した。被災者は作業を継続したが、後日、呼吸障害のために入院し、その後、入院先で死亡した。	371	1	1～9
2009	3	15 ～ 16	火力発電所内での煙道作業で休憩後、煙道内清掃作業の準備に取り掛かろうとしたところ、被災者が行方不明であった。煙道と煙突の取合部から高さ10m下の煙突底部をのぞいたところ被災者はうつぶせに倒れていた。	414	1	1～9
2009	2	15 ～ 16	被災者は、高炉改修工事において地上から高さ86mの高炉上にある排ガスダクト内部（直径3.3m）にて作業床の設置作業中、開口部（1.5m×0.67m）から69m下の高炉底部に墜落した。	414	1	30～ 49
2009	1	14 ～ 15	被災者は、建設現場から会社に帰るため、社用車を運転して国道を走行中、中央線をはみ出し、対向車線を走行していたトラックに衝突した。	231	17	10～ 29
2009	10	10 ～ 11	民家の屋根瓦葺き替え工事において、瓦の止めネジを取り付けるのに使用していたコードレスインパクトドライバの電池が切れかけたため、地上に降りて電池の取り替えを行おうと屋根上を移動していた時、屋根上の瓦等につまずいて転倒し、軒先から高さ約2.9m墜落した。	415	1	1～9
2009	3	12 ～ 13	建築物の外壁改修工事で設置していた外部足場を解体作業中、7層目（高さ約12.7m）から墜落した。被災者は安全帯を装着していたが使用していなかった。	411	1	1～9
2009	10	13 ～ 14	被災者は、店舗解体現場において重機で解体する際の水かけ作業を行っていたところ、後進してきた重機にはさまれた。	149	7	1～9
			小学校教室棟2階トイレにおいて、高さ1.7mの枠組足場上で鉄製ハンマー			

2009	2	16 ～ 17	を使用して、パイプスペースの間仕切りブロック壁を解体作業中、ブロック壁が崩壊し、その反動で足場からコンクリート床まで墜落し、身体を床の段差の角で強打した。	418	1	10～ 29
2009	9	11 ～ 12	高さ約22mの架台上にある小屋の屋根をガス溶断で切断していたところ、作業床を踏み抜いて地上に墜落した。	416	1	30～ 49
2009	8	13 ～ 14	体育館解体工事現場において、被災者が建設用機械の後方で地面に落ちている廃材の収集作業を行っていたところ、後進してきた建設用機械にひかれた。	149	7	10～ 29
2009	7	12 ～ 13	大雨の中、同僚が運転するトラック（5人が乗車）で工事現場から会社へ戻る途中、同僚がハンドル操作を誤り、トラックが道路左側のガードレールを突き破り約3m下の畑へ転落し、後部座席に乗っていた被災者が死亡、残りの同僚4人が負傷した。	221	17	10～ 29
2009	11	11 ～ 12	2階屋根瓦の仕上げ作業中に一旦1階の屋根に墜落、さらに高さ約3.3mの屋根からコンクリート地面に墜落した。被災者は、作業時、保護帽、安全帯は未着用であった。	415	1	10～ 29
2009	6	13 ～ 14	コルゲートタンクの架台をジャッキで支持して、作業者が1人で架台の鉄骨部材の受架台取替作業を行っていたところ、タンク底部の鉄製排出口が突然抜け落ち、一気に大量の砂が流出し、生理めとなった。直後に被災者が助けに入ったところ、再び流出した砂に埋もれた。	418	5	10～ 29
2009	6	13 ～ 14	コルゲートタンクの架台をジャッキで支持して、作業者が1人で架台の鉄骨部材の受架台取替作業を行っていたところ、タンク底部の鉄製排出口が突然抜け落ち、一気に大量の砂が流出し、生理めとなった。直後に被災者が助けに入ったところ、再び流出した砂に埋もれた。	418	5	10～ 29
2009	8	7 ～	構内鋼原料ヤードモニター屋根の一部が崩落したため、復旧後に原因となった堆積粉じん（厚さ約50cm、主に石灰粉じん）を残った屋根から除去する作業を行っていたところ、再び屋根の一部が母屋ごと崩落し、その	415	1	1～9

		8	上で作業していた5人のうち1人がたまたま下にいた鍋つりクレーンの鍋つりフック用ビーム上へ約24.4m転落した。他の4人は安全帯により転落を免れた。			
2009	3	10 ～ 11	スレート屋根上のダクト塗装作業において、歩み板を踏みはずし、明かりとり用の樹脂製波板を踏み抜き、約5m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	10～ 29
2009	11	2 ～ 3	被災者が同僚とともに橋の塗装作業のためのつり足場を組立作業中、足場材をつっていたチェーンが外れ、つりチェーンとともに約15m下の海上に墜落した。	411	1	1～9
2009	9	17 ～ 18	被災者及び事業主の2人は、高さ5.5mのテント（□60角型鋼管を溶接及びボルト結合し組立）を解体するため、事業主が柱脚部をガス溶断し、被災者がフォークリフトのパレット上に乗り上昇させてテント頂部のボルト結合部分を外していたところ、テントが自立できずに被災者を巻き込み倒壊した。被災者はパレット上から墜落し、倒壊したテントと地面の間にはさまれた。	415	5	1～9
2009	8	14 ～ 15	野球場の防球ネットの張り替え工事を行っていた被災者が、防球ネットを取り付ける支柱へ登ったところ、隣接する高圧線（6600ボルト）に接触して感電した。なお、被災者は安全帯を使用していたため支柱から墜落はしていない。また絶縁用保護具については着用していなかった。	351	13	1～9
2009	6	14 ～ 15	庄延工場屋根雨漏り補修工事において、屋根樋補修が終わり歩み板・親綱の撤去作業で歩み板を運搬していたところ、スレート屋根を踏み抜き高さ12mから墜落した。現場には幅40cmの歩み板が敷設されていた。	415	1	10～ 29
2009	2	13 ～ 14	木造2階建て個人住宅の間仕切り変更などの内装工事において、被災者が壁化粧板（石膏ボード：90cm×180cm、1枚約10kg）2枚を持って、住宅内部の階段（高低差2.8m、勾配52度、踏み面22cm、蹴上げ23.5cm）を昇っている途中、階段半ばあたりから転落、1階踊り場の対面する壁に身体を激突した。	413	1	1～9
		16	解体現場の仮設足場上で被災者が鉄骨の溶断作業中、同僚が体調不良を訴			

2009	9	～ 17	え座り込んだため、救援に駆け付けようとしたところ、足場から1.8m下の床に転落した。	921	90	1～9
2009	7	～ 15	倉庫の雨漏りを修理するために、被災者がスレート葺きの倉庫屋根に上って作業をしていたところ、屋根を踏み抜いてスレート及び歩み板とともに約5.4m下の床面に墜落した。	415	1	1～9
2009	7	～ 17	エレベータ撤去後の13階エレベータホールの作業床端において、被災者がH鋼にガス切断機を用いて穿孔作業を行っていた際、軽量の成形セメント（ALC）板が倒れてきたため、被災者はALC板とともに高さ36mの箇所からエレベータピットに墜落した。	416	1	1～9
2009	8	～ 14	被災者は、塗装工事に使用していた足場の解体作業に従事していたが、午後から体調が悪くなり、入院し死亡した。	715	11	1～9
2009	10	～ 15	被災者は、建造ドックの扉船（ドックと海を仕切る部分）内部の塗装を行うため、扉船の上部からはしごを伝って扉船に設けた足場に移ろうとした際、誤って10.75m下に墜落した。	413	1	50～ 99
2009	1	～ 11	タールタンク設置工事現場において、タンク内部の足場を使用してタンク側板の仮付け溶接作業を行った。次のタンク側板の段取りのため、足場上を移動しようとし、そのとき、足場板と手すりの中棧の間（68cm）から、5.23m下のタンク底板上へ墜落した。	411	1	1～9
2009	3	～ 14	被災者はハンドガイド式の土砂運搬車（クローラ式）を用いて土壁を壊した際に出た土砂を運搬していた。土砂を所定場所に押しあげた後、運搬車を方向転換させようと後進させたところ、運搬車に激突され、土蔵の壁との間に身体をはさまれた。	229	6	10～ 29
2009	11	～ 11	被災者は、当日朝にタイムカード打刻後、社内で現場準備及び事務所内での打ち合わせを行っていた。その後、ミーティングルームで倒れている被災者が発見され、心臓マッサージ及び救急車により病院へ搬送したが死亡した。	921	90	50～ 99

2009	11	9 ～ 10	店舗兼住宅の屋根の補修を行うに当たり、下見に行き、屋根に上がったところ、突風にあおられて、高さ4.6mの屋根から墜落した。	415	1	10～ 29
2009	10	10 ～ 11	一戸建ての建物の屋根の面積を計測をしようと、1階の屋根の上に移動はしご（はしご兼用脚立）を立てて2階の屋根に上った。直後に屋根の平米数の資料が依頼主から提示されたため、計測をせずに屋根から移動はしごを使用して降りようとした際に、移動はしごがすべり、移動はしごとともにアスファルトの地面に墜落した。	371	1	1～9
2009	8	17 ～ 18	地下1階資材置場で足場材を軽トラックに積み込み、油圧パンタグラフ式リフト上に当トラックと被災者が乗り、地下1階から地上1階まで上昇させた際、被災者がリフトと地上1階の床にはさまれた。	214	7	1～9
2009	7	13 ～ 14	ドラグ・ショベルのバケットをフォーククラブ（掴み爪型）に付け替えたものを使用して、駐車場の外壁部分を取り壊していた作業場所に被災者が立ち入り、倒れてきた壁の下敷きとなった。当該作業場所には、立ち入り禁止措置はされていなかった。	149	5	1～9
2009	3	10 ～ 11	3人で民家の2階屋根（傾斜約23度）の端で塗装作業中、被災者が足を滑らせ約5m下の地面に墜落した。	415	1	1～9
2009	11	11 ～ 12	外部手すり先行足場の解体作業において、被災者は、足場17段目の床上で空のつり袋を引き上げていた際、つり袋が下方にて引っ掛かったため、足場外側の手すりわくに体重をかけて引き上げようとしたが、被災者及び真下にいた他の作業者が合計6箇所のうち4箇所の手すりわくの固定を外していたため、手すりわくが外れ、約31mの高さから墜落した。	411	1	1～9
2009	3	13 ～ 14	躯体解体工事完了後の土間コンクリート上で、土間上の碎石をドラグ・ショベルで集積作業中、近くで掃き掃除を行っていた解体工が後進するドラグ・ショベルのクローラにひかれた。	141	7	10～ 29
2009	12	9 ～	水管橋補修用のつり足場解体作業中、キャッチクランプを外そうとした	411	1	1～9

		10	際、つりチェーンを外したため足場板が傾き、約2m下の川に転落した。			
2009	11	12 ～ 13	事業場（建設業）に付属する寄宿舍（2階建、プレハブ製）で夜間、火災が発生し、2階部分の2部屋（約24平方m）が全焼、その部屋で就寝中であった作業員1名が逃げ遅れて死亡した。	391	16	30～ 49
2009	7	14 ～ 15	ビル解体工事現場において、重機でデッキプレートを2tダンプに積み込んで現場から搬出する作業中、エンジンを切って停車していたダンプカーの運転席の前で、運転手と被災者が打合せをしていたところ、ダンプカーが動き出したため、2人で運転席を押して停止しようとしたが、停止できずに逃げ遅れた被災者が前輪にひかれた。	221	18	10～ 29
2009	3	10 ～ 11	14階建てマンションの外壁補修工事において、屋上の手すり壁外側にある庇に可搬式ゴンドラを取り付けるため、手すり壁をまたぐ渡り通路を設置した。被災者が、庇上の渡り通路に移動したところ、渡り通路に控え等がなかったため、渡り通路とともに地上に墜落した。	413	1	10～ 29
2009	9	11 ～ 12	民家の外壁等改修工事において、被災者はエアコン配管のカバーを取り付けるため一側足場上（高さは3～4m）を移動していたところ、地上（アスファルト）に墜落した。墜落時の目撃者はいない。	411	1	1～9
2009	4	12 ～ 13	看板板面一部交換工事において、被災者は、看板支柱にはしごを立掛け、当該支柱とはしごをロープを用いて固定しようとはしご上端に昇ったが、固定する前にはしごが支柱から外れたため、はしごと一緒に転倒、支柱下部の花壇が支点となり、路面に激突した。なお、被災者はヘルメットを着用していなかった。	371	1	1～9
2009	3	13 ～ 14	自社敷地内にある物置小屋の解体作業中に高さ1.7mの足場から隣地のコンクリートの地面に墜落した。	411	1	1～9
2009	1	13 ～ 14	8階建てマンション屋上の防水工事において、防水シートを切断する作業中、下敷きとして使用していたコンパネを後ずさりしながら運んでいたところ、屋上の端地上約24mの高さから墜落した。	415	1	10～ 29

2009	7	15 ～ 16	木造2階建住宅のリフォーム工事（外壁、屋根の塗装）において、被災者が屋根の塗装を行っていたところ、バランスを崩し5m80cm下の隣の家のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2009	3	16 ～ 17	鉄骨造平屋建て倉庫の南側スレート屋根部分を約1.5mほど改修する工事中、新設した北側の側壁部分に波板の取付けを2人で行った後、工具等の片付けをしていた被災者がスレートを踏み抜き、約4.7m下のコンクリート床面に墜落した。	415	1	1～9
2009	1	14 ～ 15	建物の解体工事中、天井面に敷いてあった木毛板を踏み抜いて3.42m下のコンクリート地面に墜落した。現場には、幅25cm×長さ4mの歩み板が設けられていた。	415	1	10～ 29
2009	1	16 ～ 17	平屋建住宅の瓦葺き替え作業において、同僚2人とともに既存の瓦を撤去し、野地板上にルーフィングを敷設していた。作業を終えるため、雨漏り防止のブルーシートをルーフィングの上に敷き、ブルーシートの上を歩いていたところ、滑ってバランスを崩し、高さ3.9mの屋根上から地面に墜落し、死亡した。	415	1	1～9
2009	8	8 ～ 9	民家外部塗装工事現場において、2階屋根上で散水用高圧ガンによる屋根の洗浄作業中、足を滑らせ6.7m下の地面に墜落した。なお、保護帽は着用していたが、墜落時に脱げ落ちていた。また、安全帯は着用していなかった。	415	1	1～9
2009	6	10 ～ 11	外壁張替え工事現場において、同僚3人と防水シートの張替え作業中、高さ2.1mの足場上からコンクリート地面に墜落した。	411	1	1～9
2009	6	16 ～ 17	工場新築工事現場において、1階天井内配管工事の作業中、休憩を終えて作業場所へ戻る際に開口部から3.8m下に墜落した。	414	1	1～9
2009	11	8 ～	住宅に隣接した作業小屋（木造2階建て）の屋根葺き替え工事において、事業主と被災者の二人で東側及び西側の屋根にかけていたブルーシートを撤去するため、被災者が南側の屋根から西側の屋根に向けて屋根の上を歩い	415	1	1～9

		9	て移動していたところ、足を滑らせ約5.5m下の地面に墜落した。			
2009	11	8 ～ 9	住宅屋根補修工事現場で使用する資材を購入するため、被災者が社有車で市内のホームセンターに向かう途中、警報器及び遮断機がない踏切を通過しようとしたところ普通列車と衝突した。なお、助手席には当該住宅の修理依頼主が乗車していた。	232	18	1～9
2009	12	16 ～ 17	個人住宅の屋根の改修工事のために屋根上において作業を行っていたが、作業が終了したため屋根に立てかけてあるアルミ製伸縮はしごを降りている途中、はしごが右に滑りそのため被災者はバランスを崩し高さ約4mのはしご上から地面に墜落した。	371	1	1～9
2009	8	14 ～ 15	被災者は、木造2階建個人住宅外壁塗装工事現場において、午後の休憩の後、屋根の破風板の塗装作業を行うため、塗料缶を片手に持ち、住宅西側に設置の枠組足場（3層6スパン、高さ5.12m）の昇降階段を昇る途中、3層目の手前でバランスを崩し、昇降階段から4.35m下の地面に墜落、死亡した。昇降階段には、手すり及び交差筋かいはなく、足場には墜落防止措置が講じられていない箇所が認められた。	419	1	1～9
2009	7	17 ～ 18	空き住宅のリフォームのため、被災者は1階の外壁、事業主は建物2階の塗装を行っていた。事業主が被災者に作業終了を伝えに行ったところ、地面に倒れている被災者を発見した。事業主は救急車を呼び病院へ搬送したが、翌日に死亡した。なお、被災者は保護帽及び安全帯は着用していなかった。	999	99	1～9
2009	6	7 ～ 8	被災者が運転する社用車で会社から建設現場に同僚1人を助手席に乗せ、峠を下っていた。被災者が前方の車を追い越すため、センターラインをはみ出したとき、対向車が来ていたため、それを避けるためハンドルを切ったところ、対向車線側のガードロープの支柱に激突。被災者は死亡、同乗していた同僚は重体（生命に別状なし）。	231	17	30～ 49
		16	木造家屋（旧洋裁工場）の解体工事現場において、被災者は16時ごろに金属廃材を積んだダンプトラックを運転するため入場したが、ダンプトラッ			30～

2009	2	～	ク	の荷が満載になっていなかったため待機することとなった。現場では最	418	5	49
	17		後	の壁2面の解体作業中、グラップルで壁のうち1面を引き倒したと同時に			
			も	う1面の壁が倒れ、付近を歩いていた被災者に柱が当たった。			
2008	1	～	8	個人宅の敷地内に設置されている門の傾きを直し、補強するための門改修	418	5	1～9
	9		工	事現場で被災者が門柱の根元周辺のコンクリートを電動ハンマーで破砕			
			す	る作業を行っていたところ、門が倒壊して当該門が被災者に激突した。			
2008	11	～	13	1階屋根上で木造家屋の解体作業をするため、移動式クレーンで解体した	415	1	1～9
	14		木	材をつって移動させていた。その際、木材をつっていたワイヤーが外れ			
			て	木材が1階屋根上で天秤となった。そのはずみで木材の近くにいた被災			
			者	が高さ約3mの屋根の上から家屋南側の海に墜落して死亡した。			
2008	11	～	11	脚立（最頂部高さ109cm）に乗って民家の玄関上の木格子に防虫剤を刷毛	371	1	1～9
	12		で	塗布中、誤って脚立から墜落して死亡した。			
2008	1	～	14	地上約3.5mの脚立の上で松の庭木の枝切りり作業中、地上に墜落して死	371	1	1～9
	15		亡	した。			
2008	5	～	14	倉庫の屋根改修工事において、午前中まで代表者と共に屋根工事を行なっ	415	1	1～9
	15		て	いた被災者が、午後、周辺民家への営業が終わり、現場へ戻って屋根工			
			事	を再開するため、屋根上に上がって作業していたところ、軒下5.3m下			
			の	地上に墜落して死亡した。			
2008	12	～	8	乗用車で工事現場に向かって国道を走行中、対向車線にはみ出して対向車	231	17	1～9
	9		線	走行中のトラックに衝突した。			
2008	7	～	12	個人宅の外装工事（外壁塗装、屋根漆喰塗り）で、被災者は屋根の漆喰塗	715	11	1～9
	13		り	作業を行っていた。昼休憩を取る直前、体調不良となり病院に搬送され			
			て	容態が回復した。その後、自宅で容態が急変して救急車で近くの病院に			
			搬	送されたが死亡した。			

2008	11	13 ～ 14	木造2階建ての個人住宅の外壁・屋根等の塗装（塗り替え）工事現場において、外部足場（一側足場上）を移動していたところ、作業床を取り外していた箇所から墜落して約2.4m下の地上に墜落した。	411	1	1～9
2008	11	10 ～ 11	木造平屋の解体工事現場において、同敷地内の離れに設けられていたコンクリートブロック造のトイレを解体するために被災者が大ハンマーを用いてコンクリートブロック壁をはつっていたところ、コンクリート製、重量約500kgの天井部が落下して死亡した。	418	5	1～9
2008	8	14 ～ 15	木造2階建ての解体工事現場で、解体現場横の路上にトラック（4t積み）を止めて解体後の廃材を積み込んだ後、ロープ掛けのためにトラックに積んだ廃材の上部（高さ約3.6m）に上がっていた時、バランスを崩してコンクリート路上に墜落した。	221	1	1～9
2008	5	16 ～ 17	住宅解体工事で廃材をコンテナに積み込む作業中、旋回してきたドラグ・ショベルに取り付けた圧搾機が激突して死亡した。	149	6	30～ 49
2008	3	11 ～ 12	S造平屋建て工場の解体工事において、屋根部の解体の段取りのために地上6mの位置にある水平ブレスの上を頭上の小梁（屋根の骨組み）をつかみ、体を支えながら水平ブレスの交点方向へ移動していた時、足を滑らせ墜落した。	415	1	1～9
2008	1	16 ～ 17	被災者は、4階建てマンションの勾配が付いた屋根部分の塗装工事中に屋根から11.3m墜落した。被災者は安全帯を着用していなかった。	415	1	1～9
2008	5	14 ～ 15	エレベーターシャフト5階～8階までの外装タイルを外部足場上で洗浄作業中、7階付近で作業を行っていた被災者が、足場と躯体の隙間から約4.4m下の落下防止柵の足場板上に墜落した。	411	1	1～9
2008	5	14 ～	高さ約30mの建築中の建物の5階部分で、被災者ほか1名が、単管2本を通した木製パレットの上にボルトを詰めた箱（重量約1200kg）を載せ、同単管にワイヤロープをかけて移動式クレーンでつり上げて、床面に置く作業をしていた。その際、ボルトを詰めた箱が木製パレットから滑り落ちて	416	1	10～ 29

		15	床面のデッキプレートを突き破り、その開口部から被災者が地上まで墜落した。			
2008	12	15 ～ 16	傾斜地に建てられた建物の解体工事中、手元工として入場していた被災者が、解体に伴いできた高さ3mの段差の下で倒れているのを発見され、その後死亡した。	418	1	1～9
2008	11	14 ～ 15	1階壁の上部型枠を解体中、床上で足場2段目の他の作業員から降ろされるパネルを受け取る業務を行っていた時、作業員の姿が見えなくなったので確認すると1階床で仰向けに倒れていた。作業場所周辺の1階床上には、コンクリート製のダクトの立ち上がりが40cmあり、中心には50cm四方の開口部があった。開口部には、雨よけのシートがかぶせてあり、そこに足を突っ込んだ状態で倒れていた。	418	1	50～ 99
2008	4	17 ～ 18	8階建てマンションの屋上部において、足場のシートを片付けるためにシート端を持って後方へ移動中、転倒して建物中央部吹き抜け部から落下した。	418	1	1～9
2008	6	9 ～ 10	被災者は、解体工事現場でブラケット一側足場の2段目（GL+3,450mm）上で作業中に足場の開口部より墜落して死亡した。	411	1	10～ 29
2008	5	8 ～ 9	木造2階建て（倉庫部分は1階）倉庫兼住居の解体工事の際、作業開始前に現場周囲の写真撮影をするために1階の屋根に上がった時、明かり取り用の透明波板を踏み抜いて墜落（高さ4.3m）して死亡した。	415	1	10～ 29
2008	5	15 ～ 16	建築物の解体作業現場で被災者が粉じん飛散防止のための散水作業をしていたところ、溶断中の建築物が倒壊し、その下敷きになり死亡した。	418	5	30～ 49
2008	5	9 ～ 10	被災者が解体工事現場にて建物屋根のスレート材を撤去中、スレート屋根を踏み抜いて約8m下の床に墜落した。	415	1	50～ 99
			線路側に面したシート囲いの解体作業中、被災者が高さ約5mの位置で建			

2008	10	14 ～ 15	地の単管（長さ6m、重さ18kg）を抜き取ったところ、電車の架線（AC6,600V）に同単管が接触したため感電して解体中の建物側に墜落して死亡した。	351	13	1～9
2008	7	16 ～ 17	個人住宅の敷地内にあるボイラー室の解体工事において、高さ245cmのボイラー南壁の高さ107cmから上部の壁を解体するためにサンダーで切り込みを入れ、チッパーではつり作業をしていた。その際、高さ（107cm）から上の南壁全面が北側に倒れてきたため、北側で作業をしていた3名にあたって負傷して1名が死亡した。	419	5	1～9
2008	1	16 ～ 17	県庁旧新館の外壁のタイルの補修工事において、被災者は外部足場上（高さ35.7m）でタイル補修作業に従事していた。作業終了後、現場事務所に戻っていた被災者は、当日の作業箇所へ戻っていったが、その後、外部足場に設置してあるウインチの搬路である足場と足場の間の地上部分に倒れていたのを発見された。	411	1	1～9
2008	3	13 ～ 14	建物内部の吹付け石綿封じ込め工事の準備作業において、建物内部に構築されていたコンクリートブロック製の間仕切壁を解体中、当該ブロック壁が幅約4.8m×高さ約2mにわたり倒壊して作業員2名が下敷きとなった。	418	5	30～ 49
2008	8	10 ～ 11	鉄骨スレート葺建物解体工事中、被災者は足場をつたい屋根へ上り、スレート部分に乗って散水しようとしたところ、スレートを踏み抜き高さ約6mからコンクリート土間へ墜落した。	415	1	1～9
2008	9	14 ～ 15	工場の解体工事現場において、被災者がスレートでふかれた屋根の上でスレートの撤去作業をしていたところ、スレートを踏み抜いて高さ6.3mの地点から墜落した。なお、スレート上に歩み板等は設けられていなかった。	415	1	1～9
2008	5	14 ～ 15	一般民家の屋根のリフォーム作業中、事業主が先行してコーキング剤を屋根材の外周部分に塗布を行った後、被災者が余った溶剤の拭取り作業を行っているとき、高さ5.2mから墜落した。なお、外部足場の設置などの墜落防止対策は実施していなかった。	415	1	1～9

2008	10	15 ～ 16	4棟の借家の外壁塗装工事において、同僚と2人で足場を組み立てていたところ、被災者は足場の手すりと建物の戸袋との間に入り、はさまれて死亡した。	411	3	1～9
2008	10	13 ～ 14	鶏舎の解体現場でコンテナにワイヤロープを取り付け、それをグラップルのツメに引っ掛けてつり上げ、グラップルを左旋回させた。旋回させ過ぎたため右旋回して戻そうとしたところ、ツメからワイヤロープが外れてコンテナが落下し、その下で作業していた被災者が下敷きになった。なお、コンテナは建築廃材を入れるためのもので重さが約900kgあった。コンテナは2本のワイヤロープで4点づりしていた。	149	4	1～9
2008	4	8 ～ 9	工場建屋（平屋）改修工事において、被災者は下請業者との段取りを屋根上（頂部付近）で行った後、足場板を抱えて移動しようとしてスレート屋根を踏み抜いて高さ6.05mから床面に墜落した。建屋周囲に足場は設置されていたが、スレート屋根には歩み板、防網等は設置されていなかった。また、被災者の着用していたヘルメットは飛来落下用であった。	415	1	10～ 29
2008	8	14 ～ 15	ガソリンスタンドの解体工事現場において、事務所1階内部の解体作業（小型ドラグ・ショベルによる内装材の解体）で発生した石膏ボード、金物類等を分別して現場内に置かれていた廃棄物を入れるボックスに運搬する作業を行っていた。その際、被災者に手の震え、足元のふらつきがあるのを同僚に発見されて、現場で休憩後に病院に搬送されたが死亡した。	715	11	30～ 49
2008	11	11 ～ 12	建物屋上塔屋で点検口確認作業後、塔屋外壁にある鋼製タラップを降りて庇（幅75cm）の端に右足を掛けたところ、バランスを崩して3.45m下の建物屋上コンクリート面に墜落して死亡した。	418	1	1～9
2008	6	8 ～ 9	ビル外壁改修工事現場において、足場の解体作業中に資材などを受け渡すための1スパンの交差筋交いを取り外し作業をしていた。6層目で当該作業を行っていた被災者が交差筋交い取り外し後の歩行中に墜落して死亡した。	411	1	10～ 29
2008	11	13	冷蔵倉庫解体工事において、3階天井近くの配管を解体するため、プロパンガス・酸素により溶断作業を開始したところ、天井のウレタン保温材に	331	16	50～

		14	引火して火災により死亡した。			99
2008	7	10 ～ 11	老人福祉施設へ自転車で出向きリフォームの打ち合わせをした後、帰社途中の交差点の歩道を横断中に左折してきた大型貨物車と衝突した。	221	17	1～9
2008	7	10 ～ 11	鉄骨2階建て（屋上に塔屋あり）の建築物の解体工事において、塔屋部の鉄骨材を切断して2階屋上の端部から投げ下ろしていたところ、鉄骨材と一緒に約6.3mの高さから墜落した。	418	1	1～9
2008	1	11 ～ 12	倉庫解体現場において、スレートぶきの屋根上に上り、はがしたスレートを5人で集積場所まで運ぶための受け渡し作業をしていたところ、スレートを踏み抜いて高さ9.3m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2008	9	16 ～ 17	SRC造8階建てのビルの解体工事において、8階床スラブの解体等の作業中に圧碎機を装着したドラグ・ショベルでコンクリートガラの小割り作業をしていたオペレーターが、当該ドラグ・ショベルから降りた時、コンクリートガラ等の投下用開口部から約26m下の1階床まで墜落した。	414	1	1～9
2008	9	11 ～ 12	移動式足場に巻上装置を取り付け121kgの鉄骨をつり上げたところ、移動式足場が倒壊して移動式足場上にいた作業者が約3.6m下の床面に転落した。	371	5	1～9
2008	11	13 ～ 14	フルハーネスタイプの懸垂降下用具を使用して6階建てビル外壁の塗装作業中、屋上の塔屋鉄骨階段に取り付けていた用具のつり元が外れて当該ビルの5階部分より墜落した。	379	1	1～9
2008	9	11 ～ 12	既存建物の地下4階の解体作業場所において、解体用重機が後進した際に近接して作業を行っていた被災者がひかれて死亡した。	145	7	30～ 49
2008	3	8 ～ 9	解体工事現場において、ドラグ・ショベルで解体したコンクリートガラをダンプに積み込んで搬送する作業中、荷台で作業していた作業者が地上に降りたところ、動きだしたダンプと建物外壁にはさまれて死亡した。	221	7	1～9
		9				

2008	1	～ 10	外壁修繕工事の終了後、修繕工事の対象となったビルの9階屋上で改修箇所 の確認作業を行っていたところ墜落した。	418	1	1～9
2008	3	～ 13	サイロの解体工事で、サイロの排出口から砂が排出されずに残っていたた め、被災者がサイロに入り下端部をハンマーで叩いていたところ、砂が流 れ出してサイロ内で生き埋めとなった。	418	1	1～9
2008	3	～ 16	工場の改修工事中、不要な電線を撤去するためにスレート屋根に上がり、 電線を切断する箇所へ移動中、高さ5.95mからポリカーボネイト樹脂を踏 み抜いて墜落した。	415	1	1～9
2008	10	～ 15	11階建てマンションの大規模修繕工事において外部足場組立作業中、足場 上で部材運搬しているとき足を踏み外し、部材とともに約27m下の地上 (タイル敷き)に墜落した。	411	1	1～9
2008	9	22 ～ 23	交通安全施設設置工事作業で、道路に設置されている側溝用の蓋に使用す るグレーチングがなかったため、仮設用にベニヤ板を携帯用丸のこ盤を 使って、グレーチングの大きさに切る作業をしていたところ、丸のこ盤に よる切れにより死亡した。	131	8	30～ 49
2008	5	10 ～ 11	個人住宅リフォーム工事のための解体作業で、2階建物の床板をはがして いた際、厚さ3mmのベニヤ板一枚のみの状態となった床を歩いた作業者 が、ベニヤ板を踏み抜いて約4m直下の1階コンクリート床面に墜落して死 亡した。	418	1	1～9
2008	8	～ 18	店舗の外壁用のガラスパネルをトラック上に2人一組で天井クレーンで、 専用のつり具を用いて積み込もうとして地切りした後、移動させ始めた 際、荷が振れ、その上端部が天井クレーンのレール下部のH鋼部にあた り、長さ81cm幅9cmの破片が落下して直下で作業していた被災者に突き 刺さり死亡した。	611	4	1～9
2008	7	～ 13	火災にあった住宅（木造2階建て）の解体現場において、焼け残った柱を 倒すために柱にチェーンソーで切れ込みを入れロープで引っ張ったが倒れ なかった。そこで、被災者自身が、柱の切れ込み付近をハンマー（柄の長	418	5	1～9

		14	さ1m) でたいたところ、柱まわりの壁が落ちてきて、下敷きとなり死亡した。			
2008	8	10 ～ 11	屋根の塗装作業中に足を滑らせ2階の屋根から墜落して死亡した。	415	1	10～ 29
2008	9	16 ～ 17	住宅解体工事現場で車庫の解体作業を行うため、車庫の屋根に上り、トタン板（波板）をはがす作業を行っていたところ、最後の一枚を下ろす際、バランスを崩して高さ2.7mの梁からコンクリート床に墜落して死亡した。	415	1	1～9
2008	9	16 ～ 17	飲食店の看板解体工事において、解体していた看板を支えていた鉄骨が倒壊して、作業を請負った事業主と一緒に作業を行っていた被災者に当たり死亡した。なお、被災者に当たった鉄骨は縦横20cm、長さ322cmのH鋼で重量160kgであった。	418	5	1～9
2008	12	9 ～ 10	自走式駐車場の側溝（幅22cm）補修工事において、フェンスとフェンスの間（幅38cm）からモルタルを塗っていたところ、フェンスが開いて15.8m下のコンクリート地面に転落した。なお、フェンスは消防車が外から開けられるよう外側に取っ手があったが、取っ手が壊れていて番線で縛られていた。	418	1	1～9
2008	9	16 ～ 17	牧場内に堆肥場を新築する工事において、4tダンプトラックで運搬してきた土砂を埋め戻し場所に搬入する作業を行っていた。被災者が運転席で4tダンプトラックの荷台を上昇させたところ、4tダンプトラックが右側に横転しドアにはさまれて死亡した。	221	2	1～9
2008	8	14 ～ 15	2.75tダンプトラックで建築廃材を中間処分場に運搬中、スピードの出しすぎでカーブを曲がりきれずに橋の欄干に激突した。	221	17	1～9
2008	4	13 ～ 14	工場貯鉱舎のスレート屋根補修工事が終了し、工事で使用した歩み板の撤去作業中に屋根上を移動しようとしてバランスを崩しスレートに乗ったため、踏み抜いて約24m下のコンクリート床面に墜落して死亡した。	415	1	1～9

2008	4	8 ～ 9	施工現場に向かう途中で、被災者が元請所有の2tダンプトラックのエンジンを停止してダンプから降りて会社の上司を待っていたところ、停車したトラックが後退してきて、その下敷きとなり死亡した。	221	6	1～9
2008	2	17 ～ 18	一般住宅に隣接する車庫の屋根の雪下ろし作業を同僚3人と行い、作業終了後に屋根の点検作業をしている際に2.9mの高さの屋根（勾配約10度）から転落した。	415	1	1～9
2008	2	9 ～ 10	墓誌の設置工事を終了し、同社の加工工場に軽トラックで向かっていた途中の国道で対向車線にはみ出して、対向してきた大型トラックに正面衝突した。	221	17	10～ 29
2008	11	16 ～ 17	工事現場から戻り、事業所の倉庫内で工事現場で使用した道具の片付けと倉庫内の道具の整理を行っていたところ、二階で作業していた被災者が90cm×181cm開口部から約2.3m下のコンクリート床に墜落した。1階で片付け作業をしていた上司が後ろで音がしたので振り向いたところ被災者が倒れていた。	414	1	10～ 29
2008	8	14 ～ 15	鉄筋コンクリート造4階建ての建築物解体工事現場において、被災者は油圧碎機（ベースはドラグ・ショベル）を地下を解体した廃材の上で運転し、2、3階の外壁の柱、梁及びスラブの一部をカッター付アームを用いて引き倒したところ、柱等が2階床に倒れたはずみで更に地上に落下し、その一部が油圧碎機のキャビンに直撃した。	418	5	10～ 29
2008	2	13 ～ 14	高さ41mの既設分譲マンションにおいて、マンション管理会社から委託された事業場の作業者が、屋上の屋根からはね出していた雪庇をスコップで落としていたところ、地上へ墜落した。安全帯は使用していなかった。	418	1	10～ 29
2007	9	14 ～ 15	自社資材倉庫内にて、カートリッジ式ガスバーナー（ボンベ部を取り外した状態のもの）の清掃中、誤って着火ボタンを押したため、清掃に使っていた缶内のシンナーに引火、建物に延焼するとともに、作業者の着衣に燃え移った。	512	16	10～ 29
		10	倉庫のスレート屋根の破損箇所に、その補修工事を開始するまでの間、雨			

2007	1	11	漏り防止のため、ブルーシートをかけて養生していたが、その養生シートがはがれたため、再度、屋根に上ってシートをかけ直していたとき、スレートを踏み抜き、7.5 m下の床に墜落した。	415	1	1～9
2007	11	14～15	木造2階建住宅新築現場において、作業員4名により内装工事と瓦ふき作業が行われていた。瓦ふき作業は、3名の作業員がそれぞれの担当場所に分かれ単独作業を行っていたが、その内の一人の被災者が足場3段目の作業床（高さ5.4 m）から敷地内地面に墜落した。	411	1	10～29
2007	2	10～11	自社所有ホテルの内部改装工事において、居室内の浴室側面にあったコンクリートブロック製の壁を撤去するため、被災者が壁をハンマーで叩いていたところ、当該壁が被災者側に倒壊し、下敷きとなった。	418	5	30～49
2007	8	11～12	工事現場に軽貨物自動車（軽トラック）で向かっていたところ、対向車線をはみ出してきたトラックと正面衝突した。	231	17	10～29
2007	9	16～17	2階の屋根の上で野地板を打っていた被災者が、足を踏み外し道路まで転落した。	415	1	10～29
2007	3	16～17	校舎屋根の防水改修工事現場において、校舎北側の屋根の防水シートを貼り替えるため、被災者が屋根の上にある基礎台の側面に防水シートを貼り付ける作業をしていた時、校舎の屋根から高さ約1.2 m下に墜落した。	415	1	1～9
2007	1	16～17	ドラグ・ショベルの機体にグラップル型アタッチメントを取り付け、解体されたレールの集積作業を行っていた。当該重機で分岐器（レールの一種）を掴み、90度右旋回し、西方向に約3 m横移動したとき、被災者が重機の移動方向におり、クローラにひかれた。	149	6	10～29
2007	7	14～15	送電線鉄塔工事現場で深礎掘削作業中、深さ約10.5 mの深礎工中において、被災者が掘削した土をアーム伸縮式クラムシェルで排土しようとしたところ、深礎工中に入れたクラムシェルが底部に接地した際、アーム接続部とクラムシェルの接続部が折れ曲がり、被災者に激突し、当該接続部とライナープレートとの間にはさまれた。	142	6	10～29

2007	12	16 ～ 17	被災者は、現場の塗装工事が終了した後、軽トラックを運転して会社事務所へ向かう途中、県道上の道路幅が狭くなっている所で停車していた対向車の軽トラックに衝突し、横転した。	221	17	1～9
2007	10	12 ～ 13	建物解体作業中、隣地の駐車場との間の養生シートばらし作業のため、最上段（高さ4.68mの位置にある）の単管（長さ175cm、径5cm）を取り外そうとして、建地に取り付けられた昇降用タラップに足をかけていたところ、バランスを崩し約3m下のコンクリート上へ墜落した。	419	1	10～ 29
2007	8	14 ～ 15	高さ約4.5mのはしご上で電線の結線を行っていた被災者が、作業を終えてはしごを降りようとした際、滑り落ちた。	371	1	1～9
2007	12	8 ～ 9	工場改修工事（鉄骨及び天井塗装）を行うため、ローリングタワーの組立作業中、ローリングタワーの作業床位置の高さを決めるため、工場中2階作業床から工場の天井高さを測定中、手すりの無い同作業床（高さ約3m）の端から墜落した。	416	1	1～9
2007	8	11 ～ 12	スレート張替工事において、張替前のスレート（高さ5.4m）を踏み抜き落下した。	415	1	1～9
2007	5	14 ～ 15	既設建物の6階にあった張り出し足場解体中、足場とともに16m下に墜落した。	411	1	1～9
2007	3	14 ～ 15	4階建て事務所ビルの解体工事において、4階フロアの解体時に3階に落とした鉄骨梁の付いたデッキプレートが横に立った状態になり、引き倒そうとドラグ・ショベルにワイヤーを掛けて引いたが倒れず、様子を見に行った作業員2名がその後倒れてきたデッキプレートの下敷きになった。	418	5	0
2007	12	12 ～ 13	ビル改修工事現場にて、窓に貼った目張りシールを撤去中に、4階ベランダから墜落した。	419	1	1～9

2007	11	11 ～ 12	マンション屋上、ペントハウス内部の塗装作業において、壁面のルーバに脚立を開いてはしご状にしたものを立てかけて、ケレン棒を持ってケレン作業中、はしごより転落した。	371	1	1～9
2007	10	11 ～ 12	屋上の塗装作業に従事していた被災作業者が、屋上に設置されているキュービクル（高圧受電設備）内部の塗装を行っていたところ、充電部に接触、感電した。	352	13	1～9
2007	1	9 ～ 10	被災者が建物8階の片開き窓と壁の間の狭い場所で天井下地打ちを行っていたところ窓から6.8m下の6階セットバックのスラブに墜落した。	371	1	10～ 29
2007	3	16 ～ 17	ワンルームマンション新築工事現場において、被災者はガソリンエンジン搭載のコンプレッサーを用いて、6階共用部壁面の吹付け作業を行っていたところ死亡した。作業中、コンプレッサーは屋内に設置し、かつ、換気を行っていなかった。	514	12	1～9
2007	9	13 ～ 14	家屋解体撤去処分工事現場において、被災者はガス溶接機を使用して鉄骨等の溶断を行っていた。被災者の近くでコンクリート壁のハツリ作業を行っていた作業者が現場1階で倒れている被災者を発見した。	921	90	1～9
2007	9	13 ～ 14	漏水補修工事において、高所作業車（床の高さが10m以上）に乗り外壁シール補修完了写真を撮影中に誤って墜落した。	146	1	1～9
2007	3	8 ～ 9	グラップル装備の解体用重機オペレーターをしていた被災者は、他の作業員3名と共に木造平屋家屋の解体作業を行っていた。同家屋の北壁及び西壁の解体作業を開始し、被災者は重機で西壁を地面に倒した後、重機から降りて他の作業員と共にガラの分別作業を行っていたところ、続いて解体する予定であった北壁が南側へ倒壊し、被災者は倒壊した壁の下敷きになった。	418	5	30～ 49
2007	4	10 ～	被災者は、屋根の補修工事を行うため、スレートぶきの屋根に昇り、スレートの上に新しく張り付ける金属製の屋根材（65cm×750cm）を運ぶ作業を行っていたところ、スレートを踏み抜き高さ9.96m下の	415	1	1～9

		11	工場内に墜落した。			
2007	3	8 ～ 9	庇増築工事にて、被災者は、移動式足場に乗り作業を行っていた。被災者が通りかかった元請責任者に声を掛け、元請責任者が移動式足場を登っているときに、移動式足場が動き、被災者が移動式足場から墜落した。	418	1	10～ 29
2007	1	8 ～ 9	高さ10mの陸橋から道路に飛び降りた。	921	90	30～ 49
2007	8	8 ～ 9	つり上げ荷重4.9tの移動式クレーンを用いて材木23本(約800kg)を移動中、過負荷警報ブザーが鳴ってブームが停止した。運転士はスイッチを切り替えて無効化し、ブームを下げたところ、クレーンが傾き、足場等に当たって止まった。材木を降ろそうと巻き下げて土場に置いた数分後に、無負荷状態となったクレーンが元に戻って材木が動き出し、被災者に激突した。	212	6	1～9
2007	11	8 ～ 9	工場のスレート屋根に設置された避雷針2本の撤去作業を行っていたところ、スレートを踏み抜き、約14m下の鉄板上に墜落した。	415	1	1～9
2007	8	9 ～ 10	中学校南校舎耐震補強工事に伴う屋上階段室の解体工事において、被災者は朝のミーティングを終えた後、移動式クレーンの養生のために使用する敷き鉄板をレンタル会社に借りに行き、現場で敷き鉄板を設置した後、解体作業が行われている屋上の階段室へ向かい、ブレーカー等の工具の整理をしていた。その後、屋上8m下の1階倉庫の屋根に落ちているのを同僚が発見した。	415	1	10～ 29
2007	11	8 ～ 9	スレート屋根(庇含む)等の塗装工事の準備作業として、洗浄水等の飛散防止用としての養生シートを庇軒先に設けるために丸太仮設物を3人で組み立てる作業中、被災者と同僚が軒先より40cm内側の庇に敷いた木製歩み板上(24cm×4m)で建地に水平材を番線で緊結しようとしたところ、被災者が軒先付近の庇を踏み抜き約4m下の地面に墜落した。	415	9	1～9

2007	11	8 ～ 9	寺社建物の塗装工事において、被災者がくさび緊結式足場の一層目（高さ1.95m）で2階ベランダの軒先のシーラー（下地）塗り作業を行っていたところ、コンクリート床に墜落した。	411	1	1～9
2007	7	14 ～ 15	鉄骨塗装作業中、クサビ式足場の3段目にて作業を行っているときに、約5.6m下の地面に墜落した。	411	1	1～9
2007	2	15 ～ 16	木造2階建て住宅の外壁等の塗装作業において、被災者が、1階屋根の水切り部分の塗装を終え、足場の手すり鋼管等を伝って降りようとしていたところ足を滑らせ、生け垣の西側の住宅敷地内駐車場に墜落した。	411	1	1～9
2007	8	14 ～ 15	店舗解体工事現場において、被災者が解体建屋の2階を西から東に歩いて行くのを目撃されたのを最後に所在が不明になり、工事関係者及び警察・消防で捜索していたところ、2日後、解体中のエスカレーターの間から発見された。	999	99	10～ 29
2007	4	8 ～ 9	民家の車庫の屋根葺替工事において、被災者は、車庫に隣接する物置の屋根から車庫の屋根に移ろうとしたところ、高さ3.3mの屋根上から墜落した。	415	1	1～9
2007	5	15 ～ 16	火事で焼け残った家屋を解体・撤去し、整地作業をしていたところ、被災者が地面に残った草木の根を枝切りしていたときに、近くで、整地作業を行っていたドラグ・ショベルが後退してきて、ひかれた。	142	7	1～9
2007	4	10 ～ 11	開閉式アーケード屋根上でアーケードのひび割れ箇所を確認しようと、ポリカーボネート板（厚さ3mm）に乗ったところ、当該板が割れ、これを踏み抜き、約9.1m墜落した。	418	1	1～9
2007	6	13 ～ 14	工場駐車場の敷き均し工事が終了し、工場で不要となった暖房用ヒーター（高さ約3m、縦1.16m、横1.66m、重さ1.15t）を引き取ることになり、2.9tつり車両積載形トラッククレーンでヒーター本体に玉掛ワイヤロープを一重に巻き付けてつり上げ、トラックの荷台に置こうとクレーンを横引きした時に、ヒーターのバランスが崩れ、近くにいた被災者に激突した。	212	6	1～9

2007	2	9 ～ 10	現場に仮囲いを設けるため、ドラグ・ショベルを使って鋼管（長さ1.5 m）の打ち込み作業中、15本目の鋼管を打ち込むため、被災者が支えていた鋼管にドラグ・ショベルのバケットを近づけたところ、被災者がバケットの下に身を乗り出してきたため、とっさにオペレーターがバケットを持ち上げようとして、誤ってバケットを下げてしまい、バケットと地面との間にはさまれた。	142	6	1～9
2007	7	19 ～ 20	工事現場から会社に帰る途中、会社のステーションワゴン（定員8名）に乗って高速道走行中、タイヤがバーストしたため、車両がガードレールに衝突横転した。	231	17	10～ 29
2007	12	8 ～ 9	9階建てビルの防水工事において、塗料缶を持って片手で避難用はしごを使用してビルの5階から6階に登る途中、手を滑らせて約1.6 m下の道路上に墜落した。	371	1	10～ 29
2007	1	15 ～ 16	天井にボードを設置する作業を行うために、被災者が高所作業車2台を平行に並べ、高所作業車の作業床に設置された手摺りに足場板を架けることにより足場を設置して作業を行っていた際、墜落した。	146	1	1～9
2007	9	14 ～ 15	工場の屋根（鉄板）上で作業をしていたところ、屋根の明かり取りから墜落した。	415	1	1～9
2007	3	10 ～ 11	工業屋根工事において、スレートの屋根を鉄板で覆う作業の際、屋根から降りようと屋根の上を移動していた被災者が高さ約5.4 mの屋根の端から墜落した。	415	1	1～9
2007	3	16 ～ 17	研究所敷地内道路上にて積載形トラッククレーンとトラックを前後に並べて駐車し、足場材の積み込み作業を行っていた。足場材の積み込みが終了したので、トラッククレーンのアウトリガーを上げたところ、現場は勾配約5度の坂道であったため、トラッククレーンが後退し、積み込み作業を行っていた被災者が荷台の車両の間にはさまれた。	221	7	1～9
		9	鉄筋コンクリート建築物の5階の解体工事に伴い、鉄筋の溶断を行って			

2007	9	～ 10	た作業者が倒れてきた壁にはさまれた。	418	5	1～9
2007	1	10 ～ 11	被災者は、11階建ての建物の10階のベランダで、11階部分をはつたガラを片付けていた。10階で作業をしていたのは、被災者1名であり、他の作業者は11階で作業をしていた。休憩終了後に、作業につこうとした他の作業者が11階から下の様子をのぞいたところ、5階部分のベランダとベランダに掛け渡されていた木製の足場板の上に倒れている被災者を発見した。	416	1	30～ 49
2007	5	15 ～ 16	被災者が解体された建物のガラの分別作業を行っていたとき、ガラの搬出作業のため後進してきた重機（アタッチメントにコンクリート破碎機を装着したもの）にひかれた。	141	7	1～9
2007	6	14 ～ 15	倉庫外装工事のための足場（単管抱足場）組立作業中、被災者は一段目の布（高さ約2.3m）で2段目の布取り付けのためのクランプを取り付けた後、部材を取りに降りようとした際にはしごから墜落した。	413	1	1～9
2007	11	11 ～ 12	解体によって生じたガラを1階スラブに設けられた開口部から重機を用いて地下へ投下していた。被災者は開口部から離れた箇所でガラの中の鉄筋を取り除く作業を担当していたが、開口部付近に近寄り、開口部から約3.5m墜落して、死亡した。被災者が作業していた開口部付近には親綱が設置されていたが、被災者は安全帯を着用していなかった。	414	1	1～9
2007	8	12 ～ 13	客先の屋根の補修作業に係る事前の現地調査のため、被災者を含め計3名で屋根上で調査作業を実施していた。屋根の構造は折板であり、一部明り採りとして厚さ6mmの金網入りガラスが設けられており、被災者は当該明り採り部を踏み抜き、約11m下の建物内に設置された鉄筋加工用コンベヤー上に墜落した。	415	1	30～ 49
2007	12	14 ～ 15	自動車修理工場（平屋建て、高さ4.84m）の解体工事の現場において、ハンマーで壁面のスレートを解体していた被災者が、工場に隣接する道路上で倒れているところを発見され、病院で死亡した。	418	1	1～9
			事業場が所有し、被災者が専用で使用していたダンプトラック（最大積載			

2007	10	8 ～ 9	量 2 t) を被災者が事業場の敷地内で一人で点検をしていた。被災者から廃品を受け取るために来社した顧客が被災者がダンプトラックの荷台とシャーシの間にはさまれているのを発見した。	221	7	1～9
2007	10	13 ～ 14	ビニールハウスのフィルムの張り替え作業中、フィルムを張り、スプリング（止め金具）でフィルムを固定していたところ、ビニールハウスの頂上（高さ約 6 m）より、墜落した。	415	1	10～ 29
2007	2	14 ～ 15	個人住宅の外装工事において、親方が壁のひび割れのモルタル補修を、被災者が塗装の準備作業である養生シートを敷く作業を離れて行っていた。親方が西側で作業をしていると「ドスン」という音がしたため、東側へまわってみると車庫前で被災者がうつ伏せに倒れていた。	418	1	1～9
2007	2	7 ～ 8	被災者は当日会社に出勤し、工事現場に向かう途中会社の倉庫に立ち寄って当日使用する資材を取りに行ったところ、倉庫内で転倒し、意識不明の状態であったところを同僚に発見された。	921	2	1～9
2007	2	13 ～ 14	営業所内にあるテント倉庫の屋根シート交換修理工事において、被災者は他 1 名と共に屋根上でシートの交換取付作業を行っていた。作業中、屋根上を移動した際に、シート地を踏み抜き墜落し、約 10 m 下のコンクリート床に打ちつけられた。	415	1	1～9
2007	7	11 ～ 12	ガソリンスタンド解体工事現場において、給油場所上部の屋根の解体のため、ローリングタワーの高さ 4.8 m に設置された作業床の上で H 形鋼の梁をガス溶断していたところ、バランスを崩し、コンクリート製土間に墜落した。	416	1	1～9
2007	5	13 ～ 14	アパートの外壁塗装工事において、1 階ベランダの天井隅をうまに乗り、一人でコーキング作業を行っていたところ、高さ 73 cm から足を滑らせ転落し、その際、ベランダに置いてあった植木鉢の園芸用支柱が刺さり死亡した。	371	1	1～9
		11	エチレンプラントの分解炉の 10 階にある AOVバルブの仕切板抜き作業			
			をチェーンブロックを使って行っていたが、チェーンブロックのチェーン			

2007	12	～	が誤ってA O Vバルブのスイッチに触れ、バルブが開いたため、クエンチ	512	16	1～9
	12		オイルが仕切板が入っていたフランジ部から漏洩し、漏洩したクエンチオ			
			イルに火が付き、被災者の衣服に引火した。			
2007	12	～	エチレンプラントの分解炉の10階にあるA O Vバルブの仕切板抜き作業	512	16	1～9
	12		をチェーンブロックを使って行っていたが、チェーンブロックのチェーン			
			が誤ってA O Vバルブのスイッチに触れ、バルブが開いたため、クエンチ			
	12		オイルが仕切板が入っていたフランジ部から漏洩し、漏洩したクエンチオ			
			イルに火が付き、被災者の衣服に引火した。			
2007	12	～	エチレンプラントの分解炉の10階にあるA O Vバルブの仕切板抜き作業	512	16	10～
	12		をチェーンブロックを使って行っていたが、チェーンブロックのチェーン			29
			が誤ってA O Vバルブのスイッチに触れ、バルブが開いたため、クエンチ			
	12		オイルが仕切板が入っていたフランジ部から漏洩し、漏洩したクエンチオ			
			イルに火が付き、被災者の衣服に引火した。			
2007	12	～	エチレンプラントの分解炉の10階にあるA O Vバルブの仕切板抜き作業	512	16	1～9
	12		をチェーンブロックを使って行っていたが、チェーンブロックのチェーン			
			が誤ってA O Vバルブのスイッチに触れ、バルブが開いたため、クエンチ			
	12		オイルが仕切板が入っていたフランジ部から漏洩し、漏洩したクエンチオ			
			イルに火が付き、被災者の衣服に引火した。			
2007	5	～	9 建築工事現場内の3階床面において、コンクリ柱の補修作業中、隣にある	514	12	30～
			産業廃棄物処理場の焼却炉の煙突から排出された刺激性ガス吸引して以			49
	10		降、体調不良の状態に陥り、約3ヵ月後に死亡した。			
2007	9	～	17 3階建て校舎の屋上において、枠組み足場に小型ホイストを取り付け、コ	219	1	1～9
	18		ンパネ(40kg)を荷卸していたところ、枠組み足場の重心が崩れ、被			
			災者は足場ごと高さ11.75mから墜落した。			
2007	8	～	10 木造住宅の解体工事現場において、解体により生じた廃材を手作業により	521	9	1～9
	11		集積していたところ、釘を踏み創傷した。翌日から痛みと腫れがひどくな			
			り入院治療を行っていたが死亡した。			
			9 墓石の土台を作成するために、小型ハンドガイド式不整地運搬車を用いて			

2007	5	～	生コンクリートを後ろ向きにて運んでいた。方向転換を行ったところ背面	141	7	1～9
		10	にあった他家の墓石と小型ハンドガイド式運搬車にはさまれた。			
2007	9	～	住宅（木造二階建て）の屋根塗装工事において、1階屋根上に「脚立足	411	1	1～9
		14	場」を組立て、2階屋根の塗装作業を行っていたところ、足を踏み外し高			
		15	さ約5.5mの足場上からコンクリート地面に墜落し、死亡した。ヘル			
			メットの着用はなかった。			
2007	10	～	屋根塗装工事の屋根の高圧洗浄作業において、先輩大工の手元として洗浄	415	1	1～9
		10	機のホースを移動していた際、屋根上（高さ2.57m）で転倒し地面ま			
			で墜落した。			
2007	1	～	被災者ら3名は、工事現場に向かうためワゴン車に乗り国道を走行中、緩	231	17	10～
		14	い左カーブで対向車線にはみ出し、対向車の大型トラックと正面衝突し			29
			た。			
2007	1	～	被災者ら3名は、工事現場に向かうためワゴン車に乗り国道を走行中、緩	231	17	10～
		14	い左カーブで対向車線にはみ出し、対向車の大型トラックと正面衝突し			29
			た。			
2007	1	～	被災者ら3名は、工事現場に向かうためワゴン車に乗り国道を走行中、緩	231	17	10～
		14	い左カーブで対向車線にはみ出し、対向車の大型トラックと正面衝突し			29
			た。			
2007	1	～	生コン工場の機械設備等解体工事において高さ5.78mのミキシング室	419	1	1～9
		9	のブラケット張り出し足場の上に設置された操作室の解体をガス切断で			
		10	行っていた時に、被災者と反対側のブラケットがはずれ落下し、その反動			
			で被災者側の網鋼板が持ち上がり、作業床から墜落した。なお、被災者は			
			安全帯を着用していたが、使用していなかった。			
2007	10	～	屋根解体作業を行うにあたり、設置していた枠組足場が重機作業の邪魔に	411	1	30～
		10	なることから、建枠及び手すり材の単管を取り外している時に足を踏み外			49
			し、約10m下の地面に墜落した。			
		11	3階建てマンションのエアコン室外機の吊り金物及びベランダの鉄製支柱			

2006	12	～ 12	の塗装作業において、3階部分の作業を行っていた被災者がアスファルト道路面に倒れているのを近隣住民に発見された。被災者は長さ7mのはしごを使用して3階ベランダに出入りしていた。	371	1	1～9
2006	10	～ 8	被災者は、始業までに多少の時間があつたため、喫煙していたところ、下駄箱に向かって突然倒れた。周りの者が声をかけたが、返事がないため、救急車を手配し、病院へ搬送されたが、死亡した。	921	90	～ 9999
2006	12	～ 12	2階建て木造住宅屋根改装工事において、被災者は一人で高さ約6mの当該屋根（4寸勾配）の上でコンパネを運ぶ作業をしていたが、コンパネとともに地面に墜落し倒れているところを発見された。	415	1	1～9
2006	12	～ 14 15	団地浴室の防水工事において、他の部屋で作業していた同僚が様子を見に来たところ、浴室で倒れている被災者を見つけた。作業場所は、電気は使用できない状態であったため、浴室でグラインダと集塵機を使用するために、発電機を使用していた。	111	12	1～9
2006	12	～ 9 10	塗装工事現場を施工するため、トラックに機械を積んで労働者3名で現場へ向かっている途中、トラックが車道を走行中に車道の左脇にあった樹木に衝突し、助手席に搭乗していた被災者が死亡し、運転手及び同乗者が軽傷を負った。	221	17	1～9
2006	12	～ 14 15	鉄筋コンクリート造9階建てビルの解体工事現場において、圧碎機を使用して解体を行っていた。前日、9階部分北側の外壁を切り離し、エレベーターシャフト開口部を塞ぐ形で倒した。当日、被災者がその上を通行した際、倒した壁の中心部に取り付けられていた換気口のサッシ枠ごとエレベーターシャフト1階まで約2.5m墜落した。	414	1	1～9
2006	12	～ 10 11	被災者が、製鐵所内工場建屋の屋根断熱材処理工事（石綿除去）中に、屋根上の開口部から約1.7m墜落した。	414	1	1～9
2006	12	～ 14 15	被災者は工場の解体工事にて、解体した廃材を運搬のためトラックの運転等業務に従事していたが、鉄骨平屋根に葺かれていたFRP製波板を踏み抜き、約6メートルの高さからコンクリート土間に墜落した。	415	1	10～ 29

2006	12	14 ～ 15	木造平屋建ての民家を、ドラグ・ショベルのアタッチメントをアイアンフォークに取り替えた重機を用いて解体する作業中、重機の後方を横切り、通り抜けようとした被災者が転倒し、バックしてきた重機のクローラー部分の下敷きとなった。	149	7	1～9
2006	12	1 ～ 2	トイレの改修工事として女子トイレの壁と天井の内装張替え作業中、壁に塗った下地（パテ）をガストーチで乾燥させる傍らで下地が乾いた壁に塩ビシートを張るため、有機溶剤で希釈した接着剤（プライマー）をローラーで塗りつけていたところ、揮発した有機溶剤にトーチの炎が引火し、改装中の女子トイレ部分が全焼した。火災により作業していた労働者のうち1人死亡した。	512	16	1～9
2006	9	15 ～ 16	リフォーム工事現場において、玄関ひさし上で撤去した外壁コーキング材を清掃作業中、バランスを崩し約2.5m下のコンクリート土間に墜落した。	415	1	1～9
2006	12	11 ～ 12	スレート屋根の谷部分にある樋上に鉄製樋を被せる工事において、被災者が屋根上に揚げてあった鉄製樋（コの字型の樋で長さ3m程度）を施工する位置まで運んでいたところ、スレート屋根を踏み抜き約1.1m墜落した。	415	1	10～ 29
2006	11	15 ～ 16	4階建てのビルの解体工事において、屋上の塔屋の解体作業中、撤去したアルミドア（180.3cm×80.3cm）を被災者が屋上の開口部（1.05m×1.23m。屋上から1階まで吹き抜け）から投棄したとき、アルミドアと共に開口部から約1.2メートル下の1階に墜落した。	414	1	1～9
2006	11	0 ～ 1	単管足場の架設作業中、長さ10mの建地を組み立てる際、建物屋上から2m1本と4m1本を摩擦接合式の単管ジョイントで接合したものを下ろし、下から建てた4mの単管と接合させるときに、ジョイント部分が外れ、4mの単管（重量約11kg）が落下し、地上部分で単管を支えていた被災者を直撃した。	521	4	1～9
		15	鉄骨造倉庫の改造工事においてスレート屋根設置作業中、事業主が屋根に			

2006	11	～	仮置きしたスレートの歪みを確認するため移動足場上に上がったところ一	411	1	1～9
		16	緒について上がった被災者が墜落した。			
2006	11	～	工場改修工事において、廃止エレベーター昇降路の2階開口部にデッキプ	214	6	1～9
		14	レートを敷くに当たり、同エレベーターの巻き上げワイヤロープが邪魔で			
		15	あるため、被災者が溶断したところ、上部よりカウンターウエイトが落下			
			してきて、被災者に接触した。			
2006	11	～	移動式クレーンを運転し、イベント設営のため、現場へ向かう途中、バイ	212	17	1～9
		5	パス下りのスロープ部でガードレールに激突し、助手席に乗車していた被			
		6	災者が、約8メートル下の崖へ墜落した。			
2006	10	～	鉄工会社の工場内において、被災者は橋型クレーンの塗装を行うためのつ	411	1	1～9
		8	り足場（作業床の高さ6.3メートル）に、墜落防止用の安全ネットを取			
		9	り付けるための準備作業中、つり足場に乗り開口部より墜落した。			
2006	8	～	物置小屋（単管骨組に波型鋼板の屋根を取り付けたもの、軒高3.7m）	371	1	1～9
		10	新設に伴う屋根葺き工事を行うにあたり、はしごで屋根に上ろうとしたと			
		11	き、はしご上の高さ約2メートルの箇所から墜落した。			
2006	11	～	屋根の改修工事において、1階の屋根上でルーフィングシート張り作業を	415	1	1～9
		16	行っていた被災者が、高さ3.5Mの屋根の端から地面（コンクリート			
		17	面）に墜落した。			
2006	10	～	既設6階建店舗兼住宅の外壁改修工事において、足場組立中に高さ約15	411	1	1～9
		14	mの足場最上部（幅約20cmのくさび緊結式一側足場）の布板上よりア			
		15	スファルト歩道上に墜落した。被災者は、地上より足場部材（壁つなぎに			
			使用する長さ約1メートルの鋼管）を屋上に運搬するため、足場最上部に			
			位置していた。			
2006	10	～	型枠材のアルミ製ゲージを25tラフテレーンクレーンの補巻を使用して	212	4	10～
		8	つり上げ、地上高1.5mの位置で旋回移動中、2点吊りを行っていた玉			29
		9	掛けワイヤロープから、ゲージが抜け落下し、一方が地面に接触し、その			
			反動で被災者側に倒れてきて挟まれ死亡した。吊っていたゲージは、2束			
			（17本と71本がそれぞれ結束されている計91本）、総重量約900			

			k gであった。			
2006	10	13 ～ 14	工場の出入口のシャッターの塗装業務を行うにあたり、高さが329cmローリングタワー上で、シャッターボックス（高さ494cm）の上塗り作業をしていた時、墜落した。	411	1	1～9
2006	10	11 ～ 12	解体現場建物内において、積載荷重3.3トンのトラックに廃材の畳を積み込み、トラックを移動させるときに、被災者は積んでいた畳が建物内の梁に当たらないことを確認するため、荷台の端部上に上がり、運転者が被災者と合図をしながらトラックを移動させていたところ、被災者が梁と畳に挟まれた。	221	7	10～ 29
2006	9	15 ～ 16	被災者は、建設現場にてコンクリートポンプ車によるコンクリート圧送業務を終え他の建設現場に移動中、自宅前に寄り、ポンプ車の洗浄作業のため圧送管内に投入したスポンジの吐き出し作業を行っていたところ、当該ホースが振れ被災者に激突し、転倒時に地面で強打した。	149	6	1～9
2006	9	16 ～ 17	高さ3.8メートルのローリングタワー上で、天井吊のダクトをガス溶断で解体作業中、ダクトを吊り下げていたステーを溶断で切断したところ、ダクト全体が落下したことにより、若しくは、落下したダクトがローリングタワーに激突したはずみで、コンクリート床に墜落した。	411	1	50～ 99
2006	9	9 ～ 10	既存の平屋建て資材倉庫の塗装工事現場において、被災者はスレート屋根に設置された歩み板上にて、屋根を塗装していたところ、スレートを踏み抜き約5メートル下の地面に墜落した。	415	1	1～9
2006	9	13 ～ 14	コンクリートポンプ車の整備中に車両が動き出し、車両とブロック塀の間に挟まれた。	149	7	1～9
2006	9	9 ～ 10	直径6.7メートルの円筒形石油タンクの塗装工事に使用した外周足場の解体作業中、被災者が取り外した足場部材（踏板）を足場最上段にて積み上げていたところ、部材を乗せていた鋼製の踏板が変形し、積み上げていた足場部材が落下した。当該足場部材の落下とともに被災者も14.36	411	1	1～9

			メートル下の地上へと墜落した。			
2006	8	9 ～ 10	雑居ビル内にある店舗の改修工事において、被災者が建物に設置してあるエレベーター（積載荷重1トン・15人乗り）を使用して1階より5階へ、ベニヤ板等の資材を搬入していたとき、5階部分エレベーターホールから地下1階部分のピットまで昇降路内を墜落した。	214	1	1～9
2006	8	15 ～ 16	一戸建て住宅の改修工事現場において、1階の軒を解体するため、被災者が足場上で外壁に沿って取り付けられていた外部引込み線（100V）を外そうとして、バールで引込み線を手前に引っぱったところ、引込み線の絶縁被覆コードを損傷し、感電した。	351	13	1～9
2006	8	15 ～ 16	木造住宅1階テラス屋根の塩ビ波板張り替え中、昇降用はしごを立てかけていた木製の支柱が外れ、はしごと共に倒れ、約3m下方の道路に墜落した。	371	1	1～9
2006	7	15 ～ 16	車庫のスレート屋根葺き替え作業中、スレートを踏み抜き約6メートル下に墜落した。	415	1	1～9
2006	8	10 ～ 11	焼却炉内の耐火モルタル及び耐火煉瓦の修繕等の作業において、被災者が、焼却炉内の単管足場の最上層床で、ベビーサンダーでバリ取り作業中に倒れているのを同僚が発見した。使用していたベビーサンダーより漏電が検出された。	159	13	10～ 29
2006	8	16 ～ 17	小学校解体工事現場の浄化槽撤去跡の窪地において、ドラグ・ショベルを用いて解体ガラを再利用して底部へ降りるためのスロープを作っていると、ドラグ・ショベルの運転席後部に鉄筋があたり異音が出たため、オペレーターが後方を見ながら左旋回させたところ、バケットが被災者に激突し、バケットと壁に挟まれた。	142	6	30～ 49
2006	8	9 ～ 10	車庫2階部分の改修工事の見積りのため、車庫の2階部分を計測していた被災者が、鉄骨を踏み外し、天井材ボードを突き破って4.1m下のコンクリート床に墜落した。	418	1	50～ 99

2006	8	15 ～ 16	木造家屋解体工事現場にてホースで廃材等に水撒きをしていた被災者は、気分が悪くなり、足元がふらつく等して水撒きができない状況になったため、同僚が現場に止めていたダンプカーの車内でエアコンを効かせ5分程休ませた後、同ダンプカーで被災者の自宅近くの病院に搬送中、車内でぐったりとなったので、直ちに救急車で病院に搬送したが、死亡した。	715	11	1～9
2006	7	16 ～ 17	木造2階建アパートの解体工事現場において、カラベストと呼ばれる屋根の石材板を剥がし、地上に投下する作業を行っていたところ、高さ5.83mの軒先から地上へ墜落した。	415	1	10～ 29
2006	8	13 ～ 14	現場駐車場内において、作業者が車両積載型トラッククレーンをバックで方向転換した際、後ろにいた被災者に激突した。	212	6	1～9
2006	7	13 ～ 14	工場解体現場において、スレート屋根上にてスレート屋根の取り外し及び集積、片付け作業を行っていたところ、当該スレート屋根が割れ、割れたスレートの破片とともに墜落した。	415	1	1～9
2006	7	2 ～ 3	建物解体工事現場にて、間仕切りのコンクリートブロック（高さ298cm、幅370cm、厚さ20cm）の撤去作業中、コンクリートブロックが作業員の方向に倒れてきた。作業員は下敷きになり、死亡した。	418	5	10～ 29
2006	7	14 ～ 15	事業場内の焼却炉の付近において、建築廃材を焼却作業中、被災した。	715	11	1～9
2006	7	14 ～ 15	高炉の改修工事にて、関連設備（鉍石中継室）の新築建屋から隣接する建屋への渡りデッキを取り付ける作業中、移動式クレーン（25t）でデッキ枠に縞鋼板を2枚のせた状態の荷をつり上げ、チェーンブロックを使用して位置決めをしていたところ、デッキの上ののせていた縞鋼板1枚（2185×1290×4.5：重さ約101kg）が約11m落下し、地上にいた被災者にあたった。	212	4	10～ 29
2006	6	14 ～	解体工事現場において、再生碎石（廃コンクリートを小割したもの）の山をならす作業を行っていたドラグ・ショベルのバケットが、山の中腹で非	142	6	1～9

		15	鉄金属片等を拾っていた労働者に激突した。			
2006	6	13 ~ 14	事務所改築工事において、被災者が室内の改築工事現場における間仕切り の撤去作業を一人で行うにあたり、「うま」を2台並べ、それらの上に乗 り、高さ約283cmの天井にある間仕切りのガイドレールの撤去作業を 行っていたところ、当該「うま」から墜落し、コンクリート床で強打し た。	371	1	1~9
2006	6	10 ~ 11	隣家との境にある立木2本のうち1本目を伐倒し終わり、2本目を伐倒す る作業を行っていた際、立木の枝に引っかかった切り枝を外そうと被災者 は高さ約5メートルの屋根から立木の枝の上に移動して当該切り枝を外す 作業を行っていたところ、約5.7メートル下の地上に墜落した。	712	1	1~9
2006	5	9 ~ 10	被災者が高さ9.95メートルの樹木の枝に足を掛け、木の幹を高さ1 1.15メートルの部分で切断し、切断部分に巻かれた介錯ロープを下に いた別作業員に引っ張らせ、切断部分を下ろそうとしたところ、被災者の 使用していた安全帯が切断部分に掛けられていたため、切断部分に引っ張 られるようにして墜落した。	712	1	1~9
2006	5	8 ~ 9	解体した廃材を、フォーククロー（油圧ショベルのバケットを解体工事用 のアタッチメントに付け替えた機械）で掴み、仮置場からトラックの荷台 に積み込む作業を行っていたところ、仮置場に廃材を人力にて運搬してい た被災者が、フォーククローのフォーク部分に接触した。	149	6	1~9
2006	5	11 ~ 12	スレート屋根に屋根材の鉄板を敷くにあたり、墜落防止用ネットを先行し て張っていたところ、被災者がスレートを踏み抜き、約8.5mの土間 （鉄骨資材置き場）に墜落した。	415	1	10~ 29
2006	5	9 ~ 10	鉄骨スレート敷駐車場の解体現場において、単管足場に防塵シートを敷設 中、被災者が屋根スレート部分を踏み抜き4.2メートル転落した。	415	1	10~ 29
2006	5	12	木造家屋の解体工事現場において、午前の作業が終了し、昼休みに解体工 事現場内で休憩中、被災者が休憩していた付近の壁（高さ270×幅31	418	5	1~9

		13	3 厚さ12センチ)が被災者側に倒壊し、その下敷きになった。			
2006	3	9 ～ 10	粉砕場の複数のバグフィルター塗装工事において粉砕場北西のフィルターの歩廊(高さ10m)と南西のフィルターの歩廊(高さ9m)間には通路がなかったが、被災者は北西フィルターの歩廊手すりを乗り越え南西フィルターの歩廊へ渡ろうとした際、10m下のコンクリート床に墜落した。	419	1	10～ 29
2006	4	9 ～ 10	民家の石塀設置工事において、馬足場の上(高さ133cm)で塀のモルタル塗りを行っていたところ、小型移動式クレーンによりクランプでつり上げられていた御影石(重量200kg)が、クランプから外れて落下し、被災者を直撃し、馬足場から地面に墜落した。	372	4	1～9
2006	4	17 ～ 18	マンション新築工事現場にて、被災者は同僚と2人で9階屋外鉄骨階段部(高さ約23m)の外壁及び梁の塗装作業を行っていた。同僚が被災者に背を向けて作業を行っていたところ、突然、ガタンと音が鳴ったので、振り向いて階段吹抜部を覗くと、被災者が墜落していた。	418	1	1～9
2006	4	9 ～ 10	外壁修繕工事で、足場組立作業において、建物の外周に亘る3層までを組立てた後、1スパンだけを最上層の9層目まで先行して組立て、被災者は8層目の床上で、その後の足場資材を取り込むための荷揚げ設備であるホイスト(約20キログラム)をロープで引き上げ中に、6層目の上部の足場が倒壊し、7層目から9層目の足場と共に道路上に墜落した。	411	5	1～9
2006	3	11 ～ 12	積載形トラッククレーン(最大つり上げ荷重2.9トン)を用いて、車両系建設機械(自重1.96トン)をつり上げたところ、ナイロンスリングが切れ、落下した車両系建設機械のキャタピラが積載形トラッククレーンの荷台あおりに当たったため、車両系建設機械が横倒しとなり、被災者が落下した車両系建設機械と地面の間に挟まれた。	372	4	1～9
2006	4	9 ～ 10	スレート屋根とスレート屋根の間に設けられたステンレス製の谷樋に溜まったゴミを除去するため、幅約64センチの谷樋上に上がっていたところ、谷樋に接するスレート屋根を踏み抜き約6.7メートル下のコンクリート床に墜落した。	415	1	10～ 29
			木造一部2階建家屋の屋根瓦葺替工事現場において、被災者ほか2名で屋			

2006	4	11 ～ 12	根瓦の葺替作業を行っていたところ、被災者が2階の屋根上から1階の屋根上に墜落し、さらに1階の屋根上からコンクリート製の地面上に墜落した。被災者が墜落した2階の屋根上から地面までの高さは3.9メートルであった。	415	1	10～ 29
2006	4	13 ～ 14	瓦葺き替え工事現場において、瓦葺き作業を行っていた被災者が軒先瓦に足を乗せた時、滑って約3.3m下の地面に墜落した。	415	1	1～9
2006	4	16 ～ 17	個人住宅の新築に際して旧家屋の木造平屋建ての建物の解体作業時に、屋根上で作業中、屋根の端から約3.5m下のコンクリート面に墜落した。	415	1	1～9
2006	4	13 ～ 14	ビルの改修工事現場の布板一側足場において、足場の解体作業中、大筋交いの単管（長さ5.5メートル、重さ15キログラム）を足場4層目にいた被災者と足場5層目にいた同僚の2人ではずし、そのまま2人ではずした単管を地上にいる別の労働者に渡すため順送りで降ろしていたところ、単管を1人で保持した被災者が8メートルの高さから地上へ墜落した。	411	1	1～9
2006	3	10 ～ 11	ビル屋上にある冷却塔の塗り替え工事において、塔の手摺内部から身を乗り出した時屋上部に墜落した。	418	1	1～9
2006	1	6 ～ 7	営業に行く途中の高速下り車線で、車が出口分流地点にあるサンドクッションに衝突し、死亡した。	231	17	1～9
2006	3	10 ～ 11	マンションの防水工事で屋上にて下地処理剤を塗る作業を行っていたところ、墜落した。	418	1	1～9
2006	2	14 ～ 15	スレート屋根の改修工事の見積を行っていた被災者が、スレート屋根上上がり、写真撮影をしようとしたところ、当該スレートを踏み抜き、墜落した。	415	1	50～ 99

2006	3	16 ～ 17	店舗兼家屋新築工事現場の屋上において、被災者がFRP防水工事施工を行っていたところ、使用溶剤（有機溶剤）が発火したこと等により火災となり、被災した。	512	16	1～9
2006	3	10 ～ 11	木造住宅（一部二階建）の解体作業中、2トンダンプの荷台で木材の整理作業をしていたがバランスを崩し約2メートル転落し、反動でダンプの燃料タンクに強打した。	221	1	1～9
2006	3	10 ～ 11	鉄骨・コンクリート造3階建て集合住宅の3階部分及び屋上部分を解体していたところ、手摺付3段コンクリートブロックが丸太足場側に落下し、当該足場が当該ブロックの激突した振動で揺れたため、当該足場の上に乗っていた被災者はバランスを崩し、前方の3階スラブ上に飛び降りたものの、上方から落下してきたコンクリートの塊に強打され、4.72メートル真下の地面に転落した。	418	5	1～9
2006	2	14 ～ 15	橋梁の橋桁塗装塗り替え工事のために、橋桁下部に設置するつり足場の組立てを行っていたが、被災者が単管と単管とをクランプで留めていたところ、足場板上から5.7メートル下部の河川に墜落し、行方不明となった。その後、現場下流で発見された。	411	10	1～9
2006	3	13 ～ 14	4階建ビル解体工事現場内の3階の部屋で、脚立に乗って壁面に取り付けてあった木製カーテンボックスを手で取外す作業中、カーテンボックスの北端で溝にはめ込まれて固定された部分からカーテンボックスが抜けた反動で、バランスを崩し脚立ごと転倒。廃棄物を投下するために床に設けられていた1.75m四方の開口部から約7.3m下のコンクリート床に墜落した。	414	1	10～ 29
2006	2	16 ～ 17	木造倉庫を解体し、廃材の片付け作業のため、4トントラックに廃材を積み込む作業中、トラックの荷台への積載を容易にしようと、トラックを移動させるため後退させたところ、後方にあったドラグ・ショベル（解体のアタッチメントを付けたもの）とトラック後部の間に被災者がはさまれた。	221	7	10～ 29
			コンクリート造ビル解体工事現場で、被災者は運転してきたトラックの			

2006	2	15 ～ 16	キーを1階で窓ガラスの解体をしていた労働者に手渡そうとして、開口部（コンクリート屑を落とすために設けたもの）から足を滑らせ、約4メートル下の地下1階に墜落した。	414	1	1～9
2006	2	13 ～ 14	木造住宅解体工事において、家屋周囲の立木（高さ約15m、胸高直径約50cm）を傾斜面に伐倒し、同僚と二人で枝払い及び玉切り作業を行っていたところ、同伐倒木が半回転しながら約1.5m落下し、被災者が前方にあったガードレールの支柱との間に挟まれた。	712	6	10～ 29
2006	2	9 ～ 10	木造2階（一部1階）建住宅兼店舗の解体作業中、ドラグ・ショベルのアタッチメントを取り替えた重機のオペレーターが、運転席から立ち上がり作業指示を行なった後、運転席に座ったところ、着用していたジャンパー裾の紐が操作レバーに引っかかったことにより重機本体が左旋回し、解体した資材を手作業で集めていた被災者にアタッチメントが激突した。	149	6	1～9
2006	2	10 ～ 11	ホテルの室内改装工事において、トラックで運搬してきた壁の下地用木製パネル（コンパネ：大きさ1800×900×12ミリ、重さ約10キロ）を屋内に搬入中、仮置きのために廊下の壁に重ねて立てかけた木製パネルが雑然と40枚ほど重なっていたので、はい替えしようと木製パネルを一旦垂直に立てたところ、うち20枚ほどが被災者側に倒壊してきて木製パネルと背後の壁に挟まれた。	522	5	1～9
2006	2	11 ～ 12	温泉にて、除雪及び源泉からお湯を供給するとの修復作業を行っていた被災者Aと同作業を手伝っていた被災者Bが雪崩に巻き込まれ、Aは救助されたものの、Bは意識不明の状態で見つかり、その後、死亡が確認された。	719	5	1～9
2006	1	7 ～ 8	ドラグ・ショベルのアームの先端にバケットの代わりに取り付けられていた建築解体用のはさみ形状のアタッチメントをアームから取り外し、地上に置いた後、このアタッチメントに取り外したピンを取り付けていたところ、アタッチメントが自重で急に開き、被災者が挟まれた。	149	7	10～ 29
		12	無線設備に係る鉄塔の塗装工事現場において、被災者は塗装作業で使用する			

2006	2	～ 13	る単管足場を鉄塔下部に組み立てる作業を行っていたが、昼休憩をとるため4層目の足場上から地上へ降りるために足場を移動中、2層目の足場から約3.7m下のコンクリート面に墜落した。	411	1	1～9
2005	5	～ 16	民家の屋根瓦葺替え工事現場において、屋根に上げていた瓦を屋根上で移動させていたところ、バランスを崩し、高さ4mの屋根の軒先から下のアスファルト路面に墜落した。	415	1	1～9
2005	10	～ 17	車両積載形トラッククレーンを後退させたところ、起こしていたジブが建屋の出入り口のシャッターの収納箱に当たったため、ジブの上に乗し、破損状況の確認中、高さ3mのジブの上からコンクリート床に墜落した。	212	1	1～9
2005	6	9 ～ 10	建築工事現場において、ブル・ドーザーで整地作業を行っていたところ、ブル・ドーザーが後方にあった高さ35cmのコンクリート擁壁を乗り越えて1.5m下の歩道に転落し、被災者が運転席より投げ出されたところを転落してきたブル・ドーザーにひかれた。	141	1	10～ 29
2005	12	～ 14	枠組足場2層目より躯体内に移動する際、躯体に移動するための安全通路を使用せず、足場筋交部から身を乗り出したところ、3.5m下の地面に墜落した。	411	1	1～9
2005	10	9 ～ 10	外壁改修工事現場において、塗装作業を行う際、鋼管本足場より墜落した。	411	1	1～9
2005	7	16 ～ 17	木造平屋住宅の解体作業において、重機で解体後の木屑拾いを行っていたところ、痙攣を起こし、死亡した。	715	90	30～ 49
2005	12	11 ～ 12	スレート屋根の補強作業中、スレートを踏み抜き、8m下の床に墜落した。	415	1	1～9
2005	2	～ 13	倉庫のスレート屋根上において、屋根補修作業をしていたところ、スレートを踏み抜き、5m下のコンクリート床上に墜落した。	415	1	10～ 29

		14				
2005	3	15 ～ 16	屋根スレート補修作業後、屋根上を移動していたところ高さ17mの屋根を踏み抜き、倉庫内に墜落した。	415	1	1～9
2005	3	0 ～ 1	マンション解体工事現場において、廃材を運搬する貨物自動車のタイヤを洗浄するため当該貨物自動車の運転手に後退を合図した被災者が後退してきた貨物自動車と出入口のコンクリート壁との間に挟まれた。	221	7	1～9
2005	5	7 ～ 8	角材足場の組立に用いる番線を取りに行くための移動中、道路に面した箇所から4m下の道路上へ墜落した。	415	1	1～9
2005	12	13 ～ 14	橋梁の塗装工事のためのつり足場の組立作業中、組立中のつり足場上で足場板の受渡しを行っていたところ、バランスを崩し20m下のダム湖面に墜落し、自力で岸に向けて泳いでいる途中で溺れた。	411	1	1～9
2005	2	11 ～ 12	鉄塔解体工事で、鉄塔に取り付けられているアンテナを下ろすため、デリックでつりながら固定ボルトを取り外す作業をしていたところアンテナが下方にずれ被災者に激突した。	418	6	10～ 29
2005	3	16 ～ 17	スレート屋根上で作業床等の組立作業中、スレートを踏み抜き、16m墜落した。	415	1	1～9
2005	3	14 ～ 15	倉庫のスレート製の屋根の雨漏り箇所の修理作業において、スレートを踏み抜き、13m下のコンクリート土間に墜落した。	415	1	1～9
2005	3	8 ～ 9	軽トラックで国道を走行中、センターラインをはみ出してきた対向の乗用車と衝突した。	231	17	10～ 29
2005	4	10 ～	工事看板を持って移動中に、突然しゃがみ込み、そのまま倒れた。	911	90	30～ 49

		11				
2005	5	15 ～ 16	解体作業現場において、油圧ショベルのアタッチメントである鉄骨カッターをダンプトラックに載せるために、圧碎機を装着した油圧ショベルを使用して同カッターをつり上げたところ、ワイヤロープが外れて同カッターが落ち被災者に激突した。	149	4	1～9
2005	5	10 ～ 11	スレート屋根の解体作業中、移動式足場の最上層（高さ4m）からコンクリート床面に墜落した。	411	1	1～9
2005	2	10 ～ 11	一般住宅敷地の地盤改良工事において、工事に用いるボーリングマシンを所定の場所へ移動させる作業中、ボーリングマシンのバランスが崩れて倒れ、すぐそばでマシンの運転をしていた被災者が下敷きとなった。	143	6	1～9
2005	2	11 ～ 12	車庫解体工事において、梁等を溶断した後に自立していた前面枠を車両積載形クレーンでつり上げるため繊維スリングで玉掛作業中、前面枠が急に倒れ、前面枠とクレーンのアウトリガーとの間に挟まれた。	418	5	1～9
2005	12	10 ～ 11	住宅の屋根及び雨どい等の塗装作業のため、丸太足場を組立作業中、2mの高さから墜落した。	411	1	1～9
2005	11	14 ～ 15	鉄筋コンクリート造建築物の解体工事において、内部の壁材、天井材等の解体及びその廃材を3階から地上のダンプトラックに投げ捨てる作業を行っていたところ、廃材とともに墜落した。	416	1	50～ 99
2005	8	17 ～ 18	社用車で走行中、前方で料金所待ちのため停止していたトラックの後部に激突した。	231	17	10～ 29
2005	11	11 ～ 12	外壁改修工事現場において、工場の屋根を通路として歩行中、屋根の明かり取りのFRP製の屋根を踏み抜き、9m墜落した。	415	1	1～9
		15	体育館内部の板材取り外し解体作業を行っていたところ、体育館軒先から			30～

2005	3	～ 16	300kgのスチール板が剥がれ落ち、被災者に激突した。	418	4	49
2005	3	11 ～ 12	工場南壁面塗装工事現場において、塗装の補助作業をしていたところ、高さ4mの足場から墜落した。	411	1	1～9
2005	7	11 ～ 12	水道管の補修作業を行っている際に、延長コードと簡易投光機の接続部分に、被災者が身に付けていたネックレスが接触したため感電した。	359	13	10～ 29
2005	3	10 ～ 11	外壁補修工事において可搬式ゴンドラを使用して作業していたところ、ゴンドラが傾き作業者が墜落した。	216	1	10～ 29
2005	3	0 ～ 1	店舗解体工事において、ブロック造壁を引き倒す直前に、引倒し場所に入り込み、壁が自重で倒れ、下敷きとなった。	418	5	1～9
2005	11	16 ～ 17	解体工事現場において、9階で重機を用いてコンクリートガラの小割り作業を行っていたところ、廃材投下用開口部から墜落した。	418	1	1～9
2005	3	14 ～ 15	資材置場にロープを取りに行き、作業場所へ戻る途中で足場から墜落した。	411	1	10～ 29
2005	1	16 ～ 17	ビル屋上に設置された看板の解体工事において、移動式クレーンにてつり上げられた鉄骨部材が、内側に傾き、建物に当たりそうになったため被災者が荷のタラップ部分をつかんで、傾きを修正しようとしたところ、突然、荷が外側に飛び出し、荷をつかんでいた被災者は荷とともに屋上の外側に振られ、そのままビル屋上から25m下の駐車場に墜落した。	418	1	1～9
2005	8	9 ～	キュポラの耐火物の解体撤去工事中、溶断したI型鋼片が炉内に落下し、炉内で作業中の被災者に当たった。	521	4	10～ 29

		10				
2005	2	10 ～ 11	展示室の壁に、脚立を広げてはしごの状態にして立てかけ、1.7m高さに足をかけて作業指示をしていたところ、踏み面から足を踏み外し、バランスを崩して墜落した。	371	1	1～9
2005	9	14 ～ 15	既存建物内の改装工事において、軽作業を行っていたところ、体調がすぐれなくなって、こん倒した。	715	90	1～9
2005	8	11 ～ 12	マンションの金網張替え工事において、廊下の壁の上で作業していたところ、足を滑らせ12m下の地上へ墜落した。	416	1	1～9
2005	11	16 ～ 17	原料棟設備の撤去工事において、ホッパー（重さ1.2トン）にワイヤをかけ、フォークリフトのフォークにワイヤを掛けてつり上げたところ、当該ホッパーが傾き、近くにいた被災者に、傾いたホッパー上部の天板が激突した。	612	7	1～9
2005	6	13 ～ 14	倉庫建築工事現場において、伐木済みの大木株を削る作業を行っていたところ、手持ち丸のこで被災した。	131	8	1～9
2005	4	10 ～ 11	駐車場に軽トラックを駐車した後、駐車場と反対車線側にある建設工事現場に移動しようと、渋滞中の道路を横断していたところ、建設工事現場側の車線を走行してきた乗用車にはねられた。	231	17	1～9
2005	3	9 ～ 10	宅地造成地フェンス取付け工事において、高さ4mの擁壁の上で電動ドリルを用いて穴を開ける作業中、バランスを崩して擁壁下へ墜落した。	418	1	1～9
2005	3	16 ～ 17	携帯電話用無線鉄塔にケーブルを配線する作業において、鉄柱の梁上（高さ22m）で、ケーブルを固定していたところ、墜落した。	418	1	1～9
		9	住宅の屋根、外壁塗替え工事において、屋根の上に立ち高圧水洗浄を行っ			10～

2005	11	～	ていたところ、屋根の軒先から6.3m下の駐車場アスファルト上に墜落した。	415	1	29
2005	8	10 ～ 11	塗装用の足場組立のため、天井クレーンがじゃまになるのでクレーンを動かそうとクレーンのメインスイッチを入れたところ、誤ってすでに足場が完成していた別の建屋のクレーン電源を入れたため、別の建屋の天井部分で塗装を行っていた被災者が、トロリ線に触れて感電した。	211	13	10～ 29
2005	5	10 ～ 11	工場倉庫の改装工事で、はしごとローリング足場に木製の足場板を掛け渡そうとした被災者が、はしごの2mの高さから地上に墜落した。	371	1	1～9
2005	8	9 ～ 10	屋根改修工事において、屋根材のタキロンとスレートをはがす作業中、スレートの下の胴縁がないところに足をついたところ、スレートを踏み抜き、15.2m下のコンクリート床面に墜落した。	415	9	1～9
2005	11	10 ～ 11	集合住宅の外壁の塗装工事を行うにあたり、地上に高圧水洗浄機を設置して、住宅の周囲に設置した足場（高さ12m）で被災者が水を噴射するホースを地上から引き上げていたときに、バランスを崩して足場の隙間から地上へ墜落した。	411	1	1～9
2005	11	10 ～ 11	ごみ処理再生工場の新築工事現場において、移動式クレーンでつられてきた建築資材を屋根の上に下ろす作業を行っていたところ、同クレーンのアウトリガーの敷板が割れ滑ったことから、つり荷とつり具が急に屋根に着地してバウンドし、当該つり具が屋根の上にいる被災者に当たり、屋根の上から地上に墜落した。	212	6	1～9
2005	11	14 ～ 15	建築物の解体工事において、簡易リフトの撤去作業のため搬器の上に乗り、ワイヤロープを手工具で切断したところ、カウンターウエイトが落下し被災者を直撃した。	214	4	10～ 29
2005	11	11 ～ 12	フォークリフトで市道を走行中、道路右側の田んぼに転落し、フォークリフトの屋根の下敷きとなった。	222	17	1～9

2005	10	9 ～ 10	ガス溶断用のホースを片付ける際、3階グレーチング敷き部分から11m下の1階へ墜落した。	414	1	10～ 29
2005	4	9 ～ 10	高さ4.7mの屋根上にて瓦吹き替え作業で、しゃがみ込んだところ、バランスを崩し墜落した。	415	1	1～9
2005	8	17 ～ 18	山道上で小型移動式クレーン移動させていたところ、小型移動式クレーンがスリップし、小型移動式クレーンの脇で補助していた被災者に激突した。	212	1	1～9
2005	4	10 ～ 11	工場屋根を直す作業において、屋根の一部に葺かれていたスレート部分を踏み抜き、7m下の土間コンクリートに墜落した。	415	1	1～9
2005	8	8 ～ 9	化学工場のプラント解体工事において、プラントに隣接した配管上から9.5m下に墜落した。	415	1	1～9
2005	4	17 ～ 18	ライトバンで国道を走行中、センターラインからはみ出し、対向車線を行っていたトラックと衝突した。	231	17	10～ 29
2005	1	8 ～ 9	建物解体工事現場において、飛散防止用単管が完了している状態の1階下屋部分で、飛散防止用の養生シートを使用場所へ配付する作業中、安全帯を使用していなかったため、足を滑らせ転落した。	419	1	1～9
2005	3	14 ～ 15	サイロの塗装工事において、旧塗装のケレン作業をブランコを使用して行っていたところサイロの下に転落した。	391	1	1～9
2005	7	18 ～ 19	乗用車で工事現場から帰社するため高速自動車道を走行中、左後輪がバーストしたため車両が横転した。	231	17	50～ 99

2005	7	16 ～ 17	抱き足場（高さ22m）で作業中、足場から墜落し、隣の建物の屋上を滑り落ち、地上に墜落した。	411	1	1～9
2005	4	13 ～ 14	個人住宅の外部塗装工事において、塗装作業の準備のため、枠組足場の1段目から2段目に材料を持ち上げようとしたところ、足場（高さ1.8m）から転落した。	411	1	1～9
2005	8	15 ～ 16	住宅の解体工事現場において、高さ10mの枠組足場作業床上で散水作業をしていたところ、躯体と反対側に墜落した。	411	1	10～ 29
2005	6	10 ～ 11	建造物の解体作業中、高さ11mの外部足場において防音パネルを取り外す作業を行っていたところ、ブレスの隙間から地面に墜落した。	411	1	1～9
2005	4	10 ～ 11	路上に車を駐車させ夜間工事の立会いのため、待機していたところ車内で意識不明になった。	921	90	1～9
2005	12	18 ～ 19	移動式クレーンを使用し、ステージ足場最上層に水槽を置く作業中、水槽を受け取るため1段下の足場に移動しようとした被災者が高さ11mの足場より墜落した。	411	1	1～9
2005	10	11 ～ 12	建物解体工事において、7階で解体作業に従事していた重機オペレーターが資材上げ下ろし用開口部から14m墜落した。	414	1	10～ 29
2005	10	13 ～ 14	鉄骨の解体作業において、小型移動式クレーンのフックにつりクランプ取り付け用ワイヤを玉掛けし、H鋼の中心付近に1点つりをしながら溶断作業中、突然フックからつりワイヤーが外れ鉄骨が下にいた被災者に当たった。	212	4	1～9
2005	4	16 ～	民家の改修工事において、被災者は民家脇の道路でベニヤ板の墨つけを行っていたところ、左折してきた自動車にはねられた。	231	17	1～9

		17				
2005	5	8 ～ 9	工場建物のスレート葺き屋根上において、一部スレート交換のため既存のスレートを取り外す作業を行っていたところ、既存のスレートを踏み抜き、10m下のコンクリート舗装された建屋内の地上に墜落した。	415	1	1～9
2005	3	22 ～ 23	2階建て寄宿舎において、部屋内で火災が発生し、2階にいた被災者が逃げ遅れた。	911	16	1～9
2005	11	14 ～ 15	マンション新築工事において、3階フロアでリフトにより上げられた額縁材の運搬作業を行っていたところ、リフト荷台下の地面に転落した。	214	1	10～ 29
2005	4	15 ～ 16	資材置き場において、積み上げてある資材に上り、下りようとしたところ、不安定であった布板に手をかけてしまい、布板の束とともに転落し、下敷きとなった。	521	1	1～9
2005	10	11 ～ 12	屋根の張替え作業で、プラスチック製の波板を屋根に設置中、古い波板を踏み抜き、5m下のコンクリート面に墜落した。	415	1	1～9
2005	1	11 ～ 12	全面ガラス張りの建屋の屋根を清掃中、ガラス板を踏み抜き、5m墜落した。	415	1	30～ 49
2005	8	2 ～ 3	自宅において就寝中に具合が悪くなり、救急車で病院に搬送されたが、死亡した。発症前1カ月間の時間外労働が長時間に及んでいた。	911	90	1～9
2005	10	5 ～ 6	ビル解体工事に使用する重機をトラックの荷台から降ろす作業を行った直後に転倒、トラックに激突した。	221	3	10～ 29
2005	11	13	2階建て納屋解体作業現場にて、解体された建材の分別作業に従事中、煉瓦壁の上部に固定されていた角材を重機で撤去したところ、突然煉瓦壁が	418	5	1～9

		14	倒壊し、当該壁と重機との間に挟まれた。			
2005	6	18 ～ 19	製油所内において電気集じん機の通電テストを実施したところ、集じん機の内部で清掃作業をしていた下請会社の作業者が感電した。	391	13	30～ 49
2005	11	15 ～ 16	センター屋上の機械設備を保護するためのアルミルーバー設置作業中、被災者はバランスを崩し、アルミルーバー取付け箇所を設置していた作業床から後方にあったバルコニー及び室外機置き場の開口部へ5m墜落した。	414	1	10～ 29
2004	7	13 ～ 14	研磨機を使用した床の研磨作業において、研磨機につないだ移動電線の接続のために使用していたブレーカを持ち上げて移動しようとしたところ、感電した。	351	13	1～9
2004	4	10 ～ 11	電気炉解現場において、電気炉建屋の3階でダクトに取り付けられたダンパー等の取り外し作業を行っているときに墜落した。	414	1	10～ 29
2004	1	13 ～ 14	トラックで走行中、道路脇の電柱に激突し、同乗者であった被災者が車外に投げ出された。	221	17	1～9
2004	9	10 ～ 11	屋根修繕工事において、瓦屋根の手前にある車庫のスレート屋根上にたまった砂の清掃作業をしていたところ、スレート屋根を踏み抜き、高さ約3m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2004	9	10 ～ 11	浄化槽を設置する作業において、掘削した場所（直径約5m、深さ約3m）に槽を設置後、槽の設置箇所補強のための支柱のベース配筋にたまった土砂を取り除く作業を行っていたところ、地山の崩壊防止措置が講じられていなかったため地山が崩壊し、被災者が崩壊した地山に埋まった。	711	5	1～9
2004	6	11 ～ 12	工場の屋上に設置されている雨樋の清掃作業を行っている際に、約9m下の地面に墜落した。	415	1	1～9
		9	理容店のテント張替え工事を、高さ約3mのテント上に設置した道板の上			

2004	4	～ 10	で行っていた作業者がコンクリート舗装された地面に墜落した。	416	1	1～9
2004	3	9 ～ 10	民家の屋根の塗装工事において、2階屋根上にて一人で塗装作業をしていた被災者が、約6.5m下の地面に墜落した。	415	1	10～ 29
2004	12	10 ～ 11	スレート屋根の台風による補修工事において、スレート屋根張替えを行っていたところ、スレート屋根を踏み抜き高さ、8.87m下に墜落した。	415	1	1～9
2004	10	14 ～ 15	台風被害による工場スレート屋根の補修作業のため、屋根上にて親綱張り作業中、ワイヤロープが不足したので、仮置きしていたワイヤロープを取りに行き、肩に担いで作業場所へ戻ろうとしたところ、スレート屋根を踏み抜き、12.5mの高さから工場床面に墜落した。	415	1	10～ 29
2004	9	9 ～ 10	タイヤリサイクルセンターの敷地内で、コンクリートブロック擁壁の設置工事のため、設置個所の敷砂を敷均中、既存の3段積コンクリートブロック擁壁（重量1.35t）が倒壊し被災者にコンクリートブロックが直撃した。	711	5	1～9
2004	3	15 ～ 16	住宅の室内塗装工事において、浴室の塗装作業を行っていたところ有機溶剤中毒となり、浴室内の浴槽と壁の間に倒れた。	514	12	1～9
2004	2	14 ～ 15	鉄骨組スレート葺きの工場、一部解体工事において、スレート外壁を鉄骨の横桟の上に乗って、手持ちハンマーで破碎していたところ、当該作業箇所から墜落した。	418	1	1～9
2004	7	13 ～ 14	鉄骨コンクリート造2階建の2階床上において、鉄骨の溶断作業中、1辺約1.2mの正方形をした開口部から約3.3m下の1階コンクリート床面に墜落した。	414	1	10～ 29
2004	5	9 ～	工場のスレート屋根上において、スレート屋根の補修個所の寸法取り作業中、スレート屋根を踏み抜き、工場内の精米機に激突し、約8.5m下のコ	415	9	1～9

		10	ンクリート床上に墜落した。			
2004	5	0 ～ 1	自社の駐車場においてコンクリートポンプ車を点検中、ポンプを空廻ししていたところ、先端のホースが跳ねて被災者を直撃した。	149	6	10～ 29
2004	6	15 ～ 16	鴨居の取付け作業を行うため、3脚の脚立に足場板（杉材）を通して作業床を設置して（高さ1.1m）、当該作業床上を移動していた際に足を踏み外し、床に墜落した。	411	1	1～9
2004	5	13 ～ 14	火災現場から出た廃棄物を4tトラックで運送中、堤防上の県道から道路下の用水路に転落した。	221	17	10～ 29
2004	9	0 ～ 1	台風に備え、シートの掛け直し作業を行った後に屋根から地上に降りようと移動していた際に足を滑らせて、墜落した。	415	1	10～ 29
2004	11	11 ～ 12	工場屋根葺き替え工事において、スレート屋根の撤去作業中、屋根の明り取りとして設けられていたガラス繊維製の板を踏み抜き、約7m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	10～ 29
2004	9	0 ～ 1	屋上防水補修工事において、3階建て建屋の屋上で、清掃、片付け等の雑役作業を行っていたところ、屋上の端から地上に墜落した。	415	1	1～9
2004	10	16 ～ 17	テレストシュートの除去工事中、作業効率を上げるため、事前に溶断作業を行っていたところ、誤ってチェーンを溶断してしまい、バランスウエイトの重さでシュートが動き、シュートとフレームに挟まれた。	169	7	10～ 29
2004	9	9 ～ 10	台風により破損した工場屋根の補修工事において、スレート屋根上で、破損したスレートの破片を回収していたところ、スレートを踏み抜き、高さ約9mの屋根上より、工場床上（コンクリート上）に墜落した。	415	1	1～9
2004	7	13 ～	工場のスレート屋根の雨漏り補修作業を行っていたところ、スレートを踏み抜き、約6m墜落した。	415	1	1～9

		14				
2004	11	11 ～ 12	台風被害による工場屋根の補修工事のため、高さ11.5mの屋根上で作業を行っていたところ、スレートを踏み抜き、工場内のコンクリート床に墜落した。	415	1	10～ 29
2004	9	9 ～ 10	台風被害による屋根の補修工事（小規模の穴や亀裂等を確認しながらコーキング材等を用いて補修を行っていく作業）を高さ約12mの屋根上で行っていたところ、コンクリート製スレート板を踏み抜き、工場内のコンクリート床に墜落した。	415	1	10～ 29
2004	8	6 ～ 7	4tトラックで高速道路を走行中、トンネル出口の側壁に接触し、約70m先の中央分離帯のガードレールに衝突した。	221	17	10～ 29
2004	1	11 ～ 12	屋根葺き替え工事現場のスレート屋根において、屋根葺き替え工事に伴って出た土やゴミを清掃作業中、スレート屋根を踏み抜いて、墜落した。	415	1	1～9
2004	9	9 ～ 10	高さ約2mのブロック塀を縦に必要箇所切断し、その後ドラグ・ショベルで倒壊させる工事において、被災者は、倒壊させるより前に、そのブロック塀付近で準備作業を行っていた時に、ブロック塀が幅約5mにわたって倒壊し、その下敷きとなった。	418	5	1～9
2004	11	13 ～ 14	鉄骨造平屋倉庫を解体作業中、解体中の屋根の状況を確認するために屋根上に上がった被災者が、屋根断熱材として葺かれていた木毛板を踏み抜き、高さ約4mの位置から墜落した。	415	1	1～9
2004	9	16 ～ 17	屋根の雨漏り防止用の養生措置作業において、高所作業車に戻ろうとした途中、スレート屋根を踏み抜き、直下の工場床面へ約11m墜落した。	415	1	1～9
2004	2	9 ～ 10	ホテル内プール棟8階ベランダ上に仮設されていた足場を解体するため、被災者はベランダの手すりを乗り越え、腰壁（高さ約20cm）上で防網を取り外す作業を行っていたところ、誤って足を踏み外し、ベランダから約	418	1	1～9

			19m下の隣棟3階の屋上に墜落した。			
2004	7	15 ～ 16	中学校の大規模改修工事現場において、校舎3階のトイレのはつり作業に伴うガラの撤去作業を行っていたところ、休憩時間中に気分が悪くなり、同僚の車で病院に搬送されたものの熱中症で死亡した。	715	11	50～ 99
2004	10	9 ～ 10	工場屋根を補修するために屋根上に上がっていてスレート板を踏み抜き、約11m下の工場床上に置いてあった金属くず入れの上に墜落した。	415	1	1～9
2004	3	9 ～ 10	階段取付作業中、階段の仮溶接が終了したので、被災者は階段をつついていたワイヤーを外そうと仮付けしたばかりの階段に載りワイヤーを外したところ、クレーン2基で階段をつついていたのでワイヤーを外したことにより一方のクレーンに階段が引っ張られて跳ね上がり、その弾みで階段から墜落した。	413	1	10～ 29
2004	3	11 ～ 12	重油タンク解体作業中、屋根板のガス溶断を行っていたところ、屋根板および梁が落下し、その上で作業していた3名が被災し、うち2名が死亡した。	418	1	1～9
2004	3	11 ～ 12	重油タンク解体作業中、屋根板のガス溶断を行っていたところ、屋根板および梁が落下し、その上で作業していた3名が被災し、うち2名が死亡した。	418	1	1～9
2004	8	11 ～ 12	自動車販売会社の建屋改修工事において、足場組立業者の手元作業をしていたところ、バランスを崩して2階屋根から約8m墜落した。	415	1	1～9
2004	12	14 ～ 15	鉄骨2階建の解体工事にて、床の穴空けでドラグ・ショベルに装着していたブレーカーアタッチメントを、再びバケットに取り替えた被災者が、バケット装着ピンのズレに気づき、調整するためにショベル座席にいた運転者に声をかけ、運転者が被災者の話を聞こうと座席を立ったところ、誤ってレバーに当たりバケットが動きだし、被災者がバケットと背後の壁に挟まれた。	142	7	1～9

2004	7	9 ～ 10	工場内の集じん機入替工事において、高さ4.5mの集じん機の上で作業をしていたところ、墜落した。	416	1	1～9
2004	1	11 ～ 12	店舗正面のひさしに取り付けられていたテントの撤去作業を脚立の上で行っていたとき、突然テントがずれ落ち、被災者はバランスを崩し脚立から約1.1m下の地面に転落した。	371	1	1～9
2004	9	9 ～ 10	ビル解体工事現場において、床を支持するためのパイプサポートを3階にウインチにて搬入中、3階開口部から墜落した。	414	1	1～9
2004	10	10 ～ 11	物置として使用している高さ（最高）3.5mの1階スレート葺き建屋の解体作業において、トラック荷台に乗って、屋根スレートを1枚ずつ引き落とそうとして墜落した。	221	1	1～9
2004	9	13 ～ 14	地上にてトラックの荷台に積まれていた材料（角材、重さ約80kg）を一人で下ろす作業をしていた時、材料の下敷きとなった。	522	4	1～9
2004	8	15 ～ 16	トラックで国道を走行中、渋滞で前方に止まっていた競走馬輸送トラックに追突した。	221	17	10～ 29
2004	1	10 ～ 11	4階建てビルの屋上防水工事において、屋上ペントハウス部の外壁を塗装作業をしていた被災者が、ビルの屋上（高さ約12m）端部に脚立を設置し、ペントハウス西側の上部の壁を塗ろうと脚立に登ったところ、突風にあおられ、はしごから転落し、そのまま屋上から地上に墜落した。	371	1	1～9
2004	2	9 ～ 10	建物の解体工事における飛散防止養生のため、布枠を足がかりに登り、足場板に乗ったところ、足場板が外れたため、その拍子で8.7m下のアスファルトの上に墜落した。	411	1	10～ 29
2004	10	11	公営住宅の改修工事において、枠組み足場からパネル部材を滑車で下ろす作業をしていたところ、滑車に取り付けられた同部材を足場外側へ押し出	411	1	1～9

		12	したはずみに地上へ墜落した。			
2004	4	16 ～ 17	工場屋内に設けられた足場上で、箒とサンダーを使って梁や柱の錆び落とし作業を行っていたところ、足場の作業床（高さ8.6m）から、工場床面へ墜落した。	411	1	10～ 29
2004	10	16 ～ 17	建築工事現場において、コンクリートポンプ車を使用したコンクリート打設終了後、同ポンプ車の清掃をするため、車両後方のステップ上でカバーをはずしてホッパー内にある攪拌機を起動させたまま、ホッパーの表面に付着したコンクリートをブラシを使って落としている際、攪拌機の羽根部分に巻き込まれた。	149	7	1～9
2004	11	11 ～ 12	農道改良工事現場において、被災者は、盛土・転圧を終えた状況をドラグ・ショベルの後方で写真撮影を行っていたところ、被災者の指示により退避させていたドラグ・ショベルが被災者の方向に移動してきてクローラ部分にひかれた。	142	7	30～ 49
2004	11	11 ～ 12	木造2階建住宅の外壁塗装工事において、建物周囲に設けた単管抱き足場にメッシュシートを取り付ける作業中、地上4mの作業場所からコンクリート道路上に墜落した。	411	1	1～9
2004	4	13 ～ 14	倉庫塗装工事において、枠組足場の組立作業途中、上方で作業する労働者が足場資材を落下させ、下方で作業していた被災者に激突した。	521	4	10～ 29
2004	10	9 ～ 10	台風の接近に備えて、足場の周囲に設けられていた飛来落下防止用のメッシュシートを一時的に取り外す作業に従事していたところ、足場とメッシュシートを緊結していたひもを外していたとき足場から約16m下の駐車場に墜落したもの。	411	1	1～9
2004	9	14 ～ 15	5階建ビルの改修工事中、地下1階部分において天井材、配管等を撤去していたところ、都市ガスが漏れガス爆発が発生し、1階部分にて作業していた労働者2名が爆風により現場外の道路まで吹き飛ばされ、地下にて作業していた下請の役員1名が爆発によりがれきの下に埋まった。	513	14	10～ 29

2004	9	14 ～ 15	5階建ビルの改修工事中、地下1階部分において天井材、配管等を撤去していたところ、都市ガスが漏れガス爆発が発生し、1階部分にて作業していた労働者2名が爆風により現場外の道路まで吹き飛ばされ、地下にて作業していた下請の役員1名が爆発によりがれきの下に埋まった。	513	14	10～ 29
2004	11	14 ～ 15	RC造4階建住宅解体工事において、階段室の側壁を解体していたところ、突然壁が被災者の方に倒壊し、下敷きとなった。	418	5	1～9
2004	10	15 ～ 16	2階建て物置の屋根部分の解体作業を2階床（高さ約2m）で内側から行っていたとき、1階土間部分に墜落した。	418	1	1～9
2004	8	0 ～ 1	午前中の作業終了前に3階の外壁が傾いたので倒壊を防止するため、重機のアームで押さえワイヤーを架ける作業を開始しようとしたところ、外壁がさらに傾き、重機で支えきれず足場と共に崩壊したため、被災者は逃げ切れずにそのまま被災した。	149	5	50～ 99
2004	8	0 ～ 1	マンション屋上の防水工事の積算のために、一人で脚立を使用して5階廊下から屋上を見ていたところ、脚立から転倒した。	371	1	30～ 49
2004	4	13 ～ 14	既存建物の改造工事（鉄骨造り2階建）において、脚立と建物境界の塀との間に架け渡した足場板に乗り、外壁モルタル下地材のビス止めを行っていたところ、約1.7m下の地面に墜落した。	411	1	1～9
2004	4	1 ～ 2	SRC造のビル解体工事において、5階部のコンクリート柱の内部の鉄筋および鉄骨をガス溶断作業中、同柱が壁と共に倒壊し、被災者が挟まれた。	418	5	1～9
2004	8	11 ～ 12	住宅のエアコン取付工事において、下屋の屋根で室外機の配管に真空ポンプを接続するために接続部のボルトをスパナで緩めていたところ、下屋の屋根から地上に墜落した。	415	1	1～9
		11	校舎増築工事の鉄骨建方作業において、鉄骨支柱を移動式クレーンを用い			

2004	5	～ 12	てつり上げ、地面に垂直に据え、各部のボルト締めを行っていたところ、支柱が倒れ、上部で作業をしていた被災者が支柱もろとも地面に叩きつけられた。	418	5	1～9
2004	7	13 ～ 14	倉庫兼住宅の解体工事中、1階倉庫の2階床梁を解体するため梁の東端をガス溶断により一部を残して切断後、ついで西端を切断したところ、突然東端の切り残してあった部分が自重により破断し、梁の東端が下方に落下、梁の下で廃材の整理をしていた被災者が梁の下敷きとなった。	415	4	1～9
2004	7	15 ～ 16	民間木造2階建て住宅のリフォーム工事において、コンパネ貼り作業の補助を行っていたところ、熱中症となった。	715	11	1～9
2004	10	9 ～ 10	工場内の部品倉庫で雨漏れ対策のビニールシートを撤去し、改めてブルーシートを張る作業において、スレート屋根の梁上（ボルトの出ている場所）を移動中、屋根の明かり取り部分から、約8m下の倉庫内（コンクリート床）に転落した。	415	1	1～9
2004	7	6 ～ 7	雨中の国道をダンプで走行中、車線変更したところスリップしたので慌ててハンドルを切り返したところ、そのまま中央分離帯を乗り越えて対向車と衝突した。	221	17	1～9
2004	2	10 ～ 11	工場の屋根の塗装作業をしていた被災者が、誤って屋根の採光窓のガラスを突き破り、高さ7.2mの屋根から床に墜落した。	418	1	1～9
2004	9	10 ～ 11	工場内に組まれた足場の解体作業中、建地のクランプの一部を取り外した状態の張出し部分の作業床に誤って上がったところ、当該足場の枠が回転したため、工場の床面に墜落した。	411	1	1～9
2004	10	17 ～ 18	資材置場において、ドラグ・ショベルで廃材を集積し焼却炉に投入する作業を行っていたところ、廃材の山の上から、ドラグ・ショベルとともに転落、ドラグ・ショベルの下敷きとなった。	149	1	10～ 29
		14	事業場建屋の外部配管の塗装作業中、高所作業車のバケット操作を誤り、			

2004	3	～ 15	地上から高さ5mの配管とバケット手すりに挟まれた。	146	7	1～9
2004	8	16 ～ 17	建設工場のストックヤードで、資材整理をするために小型移動式クレーンを用いて足場用鋼板21枚に玉掛けワイヤーを一本掛けし、地上から約1.2mの高さにつり上げて約6m移動したところで、玉掛けワイヤーが切断、荷を介添えしてクレーンを誘導していた被災者につり荷が激突した。	372	4	10～ 29
2004	2	11 ～ 12	一般家屋の解体工事で工具を取りに行った被災者が、圧鉄機付ドラグ・ショベルの周囲に立入り、同ショベルの旋回によりカウンターウエイトと解体中の家屋との間に挟まれた。	145	7	10～ 29
2004	6	9 ～ 10	RC造2階建の既存建物にエレベーターを設置する工事において、鉄骨支柱の設置作業中、屋上でクレーン運転者に無線により指示を出していた被災者が、見やすい位置に移動しようと安全帯を外し移動する際、エレベーター室用開口部から、ピット内を約8m墜落した。	416	1	30～ 49
2004	12	8 ～ 9	資材置場で、トラックの窓拭き作業中、脚立（高さ1.3m）の2段目から転落した。	371	1	1～9
2004	7	10 ～ 11	炉頂外壁改修のため設置した単管足場の解体作業において、約35m下に墜落した。	411	1	1～9
2004	2	8 ～ 9	鉄骨柱部材（重量2.5t）の塗装作業に先立ち、マスキングテープを貼るために、当該柱部材に取り付けられているプレートに足を掛けたところ、その荷重で柱部材が被災者側に倒れ、隣の同種部材との間に挟まれた。	521	7	1～9
2004	10	9 ～ 10	船から石炭を荷上げた際に所定場所まで運ぶ専用のベルトコンベアの塗装工事において、ベルトコンベアに付着した石炭の残りをベルトコンベアから取り除くために稼働させたところ、ベルトとベルトの間に入りコンベアの鉄骨部分の塗装作業を行っていた被災者がベルトとローラーの間に挟まれた。	224	7	1～9

2004	9	11 ～ 12	雨漏りの修理の見積り作業で、伸縮式のアルミ製のはしごで屋根に上ろうとしたときに墜落した。	371	1	1～9
2004	4	17 ～ 18	工場の屋根上（高さ約14m）における作業終了後に地上に降りるため建屋外壁に既設の垂直はしごに乗り移ろうとした際、はしごの上端に設けられていた手すりが腐食していたため脱落し、地上に墜落した。	371	1	10～ 29
2003	12	8 ～ 9	建設解体会社の資材置場で、4tダンプの運転席と鉄柱との間にはさまれた。	221	7	1～9
2003	11	10 ～ 11	公園トイレの雪囲い作業の下見作業中に、ハチに刺された。	719	90	50～ 99
2003	11	14 ～ 15	煙突塗装工事において、塗装終了後に道具、ゴミ等をホイストを使用して降ろすため、作業床となっていたグレーチングの一部を外して約80cm四方の開口部を作って荷を降ろしていたときに、開口部から約14m下のコンクリート床に墜落した。	414	1	1～9
2003	11	13 ～ 14	工事現場から他の工事現場へ向かうため堤防道路を軽トラックで走行中、車線をはみ出してきた4tトラックと正面衝突した。	221	17	1～9
2003	10	14 ～ 15	木造家屋の2階部分の雨樋の受け金具取り替えのため、はしごに乗って作業を行っていたときに高さ6mの位置から墜落した。	371	1	10～ 29
2003	10	10 ～ 11	コンクリートブロック塀（高さ1.8m、幅約5m、質量約1.6t）解体で、エアーチッパーを使用して基礎部分をはつっていたときに塀が倒壊し下敷きになった。	418	5	1～9
2003	10	10 ～	住宅の玄関上部の瓦葺き替え作業中で、2層に組んだ鳥居枠の上に鋼製布板を敷いて手すりを設けていない足場（高さ約3.5m）から墜落した。	411	1	1～9

		11				
2003	10	10 ～ 11	倉庫の大屋根採光用波板張替工事において、平屋倉庫（高さ約7m）の棟部分の採光用波板を取替えているときに、誤って母屋のないところに乗ったため体重の重みで石綿スレートが破れ地上に落下した。	415	1	1～9
2003	10	14 ～ 15	地上約30mの外部足場上（建物12階部分）で、補修のため吹き付け塗装した個所を、ローラーで他の個所と模様を合すための作業を行っていて、足を踏み外し地上まで墜落した。	411	1	1～9
2003	9	10 ～ 11	ビリヤード場から外部駐車場へ通ずる出入口を閉鎖するため、築造されていたコンクリートブロック壁（積み上げブロック4列12段、幅183cm×高さ241cm×厚さ15cm）を撤去していた「はつり工」2名が倒れてきたブロック壁の下敷きになり、うち1名が死亡した。	418	5	10～ 29
2003	9	14 ～ 15	ゴルフ場内の練習場の鉄筋コンクリート製支柱を油圧ショベル（リッパ、クラッシャ）を用いて撤去しているときに、支柱が油圧ショベルの運転席に倒れてきて下敷きになった。	418	5	1～9
2003	9	10 ～ 11	躯（く）体の周りに設けられた足場上で作業中に、足場と躯（く）体の隙間（約50cm）から7.65m下の地面に墜落した。	411	1	1～9
2003	9	15 ～ 16	農業用倉庫の建築工事で、鉄骨組立後に高さ8mの屋根部分の頂上部まで垂木に足をかけて登り、垂木を釘で鉄骨に固定する作業中にバランスを崩して墜落した。	415	1	10～ 29
2003	9	14 ～ 15	女子大学の塗装工事で、塗装工が4階建建物の屋上の手すりを乗り越えて、屋上の軒上でペントハウスの外壁の塗装作業中に、約19m下の植え込みに墜落した。	416	1	10～ 29
2003	9	8 ～ 9	建物外壁の改修工事において、足場上で建物窓サッシのクリーニング作業を行っていたときに、足場作業床と建物間の開口部（幅1.0m、奥行き0.4m）から約6.6m下の建物入口の屋根に墜落した。	411	1	1～9
		9	軽ワゴン車で県道を走行中、緩やかな左カーブの坂道で対向車線をはみ出			

2003	9	～ 10	し大型トラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2003	9	～ 16	工場改修工事において、スレート屋根の塗装作業中にスレート屋根を踏み抜いて約5m下に墜落した。	415	1	1～9
2003	8	～ 12	防水工事の見積もりのため、県営住宅（RC造4階建）の屋上で巻尺を持って西端に立っているときに、高さ31cmのパラペットを越え約12m下の地上に墜落した。	418	1	1～9
2003	8	～ 9	解体工事で、圧碎機（フォーク状の爪）を取り付けたドラグ・ショベルで廃材をトラックに積み込んでいたときに、付近で散水していた者が作業中のドラグ・ショベルと停止中のドラグ・ショベルの間にはさまれた。	149	7	10～ 29
2003	8	～ 17	校舎屋根の雨漏り補修工事中に、ガラス張りの屋根が割れて約15m下の多目的ホールの床上に墜落した。	415	1	1～9
2003	8	～ 11	2階建アパートの瓦葺き替え工事において、瓦の撤去したのち屋根上で屋根板を打っていたときに7mの高さから墜落した。	415	1	10～ 29
2003	8	～ 17	倉庫内に設置されていた天井クレーンのランウェイガーダの一部（長さ約3.5m、重さ約520kg）を切断して床に落とす作業において、高所作業車からガーダの両端をガス溶断して落下させようとしたが落下しなかったため、ガーダにワイヤロープを取り付けて重機で引っ張って落すため床上でワイヤロープを重機に取り付けようとしていたときに、溶断したガーダが落下し下敷きになった。	418	4	10～ 29
2003	8	～ 12	3階建屋の屋上で、5mスケールを使って二人一組で長尺部を測量中20mmの高さのパラペットにつまずいて地面に墜落した。	415	1	50～ 99
			牧場の飼料堆積場の新設工事において、ドラグ・ショベルのバケットの			

2003	8	9 ～ 10	フックにワイヤロープで玉掛したL字型コンクリートブロック（質量1.8t）をつり上げて布設位置まで走行中に、コンクリートブロックに取付けていたアイボルトが強度不足により切断してコンクリートブロックが高さ約1mから落下して壁面部が折損して倒れたため、つり荷の状態を見ながら一緒に歩行していた者が下敷きになった。	372	4	1～9
2003	8	15 ～ 16	スレート屋根の修理のため、2階屋根に登って作業をしようとしたときに、スレートを踏み抜き3.5m下に墜落した。	415	1	10～ 29
2003	8	10 ～ 11	ゴルフ練習場周りのネット用鉄柱の梁部分（地上より高さ21m）塗装が終わり、その近くの交差筋かい部分の塗装を行う準備中に突然痙攣し始め、病院に搬送したが死亡した。（熱中症）	715	11	1～9
2003	7	11 ～ 12	倉庫屋根の雨漏り個所の補修で、スレート屋根に上り作業を行っていたときに、スレート屋根を踏み抜き7.2m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	50～ 99
2003	7	10 ～ 11	倉庫内において、天井走行クレーン（つり上げ荷重2.8t）で型枠材料（木製パネル）の片付け作業を行っていたときに、つり上げた荷が落下して激突された。	372	4	10～ 29
2003	7	11 ～ 12	工事現場へ向かうため普通貨物自動車で行中、緩やかな左カーブで対向車線に飛び出し普通貨物自動車（ごみ収集車）と衝突した。	221	17	10～ 29
2003	7	16 ～ 17	小学校（鉄骨鉄筋コンクリート造3階建）の耐震改修工事において、校舎壁の窓枠を取り外す作業や校舎壁から削り取られたモルタル屑を拾い集めてトラックに積み込む作業を行っていた者が午後4時30分頃に熱中症になり全身を痙攣させ倒れた。	715	90	1～9
2003	7	10 ～ 11	円筒形のタンク（直径18m、高さ25m）の塗装のため、外部足場の11段目（高さ17m）で枠組足場材を運搬中に、足場から墜落した。	411	1	10～ 29

2003	7	10 ～ 11	資材置場にある建屋内において、車両積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）を用いて荷台に積んでいた鉄筋1束（長さ5.5m、重さ1.84t）の積み卸し作業中に、車体が傾いたため前方にあった作業台と車体との間に胸部と頸部をはさまれた。	212	2	10～ 29
2003	7	16 ～ 17	8階梁上で鉄骨組立作業を行っていた者が現場で行われる安全大会に参加するため、梁から地上へ降りようとしたときに本設の鉄骨階段横の梁（高さ17m）から墜落した。	418	1	1～9
2003	7	16 ～ 17	発注者宅のアトリエの階段部分に防腐剤の塗布作業を行い、午後に雨樋の清掃をされていてはしごから転落した。	371	1	10～ 29
2003	6	13 ～ 14	ガソリンスタンドの屋根雨漏り修理工事の下見で、高さ5.22mの屋根から隣接する洗車場のひさし（高さ3.6m）に降りようとしたときに、足を滑らせて地上に墜落した。	418	1	1～9
2003	6	9 ～ 10	2階建木造家屋の解体工事において、粉じん飛散防止のため山積みになされたタン上（高さ1.2m）からホースで散水中に、誤って墜落し、後進してきた解体用建設機械に巻き込まれた。	149	7	10～ 29
2003	5	13 ～ 14	木造2階建て従業員寮の解体作業で、フォーク・グラップルを取り付けた車両系建設機械で最後に残った2階部分の屋外通路を支えていた梁（H鋼）の西側部分の解体をはじめたところ、通路東側部分が突然崩壊し、通路下で残材片付け作業をしていた者が下敷きになった。	418	5	10～ 29
2003	5	13 ～ 14	駐車場の改築工事において、駐車場2階の鉄骨屋根の梁を溶接する作業で、同僚が高所作業車を使用して溶接を行うため、梁材（10cm四方角パイプ、長さ5m60cm、質量約31kg）を水平に支えているときに、約4m下の地面に墜落した。	418	1	10～ 29
2003	5	16 ～ 17	ペンションの屋根葺き替え作業で、作業終了間際の休憩中にトイレに行くために地上へ降りようとしたときに、屋根上で足を滑らせて転倒し、そのまま6m下の地上へ墜落した。	415	1	1～9

2003	5	16 ～ 17	鉄骨造ビルの解体工事において、2階梁付近の外壁材（石材90cm×60cm×2cm、質量26.8kg）が落下し、地上にいた作業者の頭部に激突した。	529	4	10～ 29
2003	5	8 ～ 9	資材倉庫用のシートハウス（幅約18m、奥行き約38m、高さ約7.5m）のシートの張り替え工事で、高所作業車のバスケットから屋根部に登って換気扇の取外しを行っていたときに、古いシートが破れて7.5m下に墜落した。	415	1	1～9
2003	5	15 ～ 16	地上45mに設置された鉄塔の外柱鉄骨接合部用の架設足場の解体準備作業中に、地上高さ17mまで組み立てられた枠組足場上へ墜落した。	411	1	1～9
2003	4	18 ～ 19	個人住宅の風呂場において、窓やドアをビニールで養生して天井・壁の塗装作業を行っていたところ、防毒マスクなしで作業をしていたため有機溶剤（トルエン含有）中毒で意識を失った。	514	12	1～9
2003	4	15 ～ 16	携帯電話中継用の鉄塔設置工事において、鉄塔の高所部のリング状ステージ（高さ約51m）で、資材をつり上げるためのデリックの誘導をしていたときに鉄塔の内部側に墜落した。	418	1	1～9
2003	4	17 ～ 18	新築工事現場の2階屋根スラブ上で玉掛け作業中に、屋根スラブの開口部を覆っていた断熱材を踏み抜いて1階コンクリート床に墜落した。	414	1	10～ 29
2003	4	16 ～ 17	社宅解体工事において、トビ職が足場組立作業中に約7.4mの足場上から墜落した。	411	1	30～ 49
2003	4	14 ～ 15	高炉改修工事に伴う高炉の間接系浄水場着水池の清掃作業で、作業員7名で着水池であるピット内にたまった汚泥をかき集め屋外へ排出する作業を行っていたが、作業中に1名がいないことに気づいて探したところ、鉄製の仕切網（スクリーン）の開口部（幅40cm、高さ70cm）を潜り抜けた隣の着水池（深さ1.7m）でうつ伏せで浮いた状態で発見された。	713	10	10～ 29

2003	4	9 ～ 10	住宅の屋根葺き替えのため、2階大屋根上で屋根瓦を撤去していたところ、滑ってバランスを崩し約5.8m下の地上に墜落した。	415	1	1～9
2003	4	14 ～ 15	鉄筋コンクリート造3階建社宅解体工事において、本館解体のための外足場の組立作業中に、横で前日解体したガラをダンプ・トラックに積込む作業を行っていたドラグ・ショベルのアームが旋回してきて、アームの肘の部分が組立中の足場の3段目に接触したために足場がずれ、はずみで足場4層目で5層目の組立作業をしていた者が7.2m下のコンクリート土間に墜落した。	411	1	10～ 29
2003	4	16 ～ 17	工場内のごみ焼却炉解体工事で、焼却室内の鋼製煙道（長さ2.75m、径0.9m、質量約500kg）を架台から取外すため、煙道の片端と中央を天井のフレームからチェーンブロックとワイヤでつり、片側端を車両系建設機械（ブレーカ）で手前にずらして降ろそうとしたときに、片側のチェーンブロック上部フックが外れて煙道が落下し、下方で誘導をしていた者が下敷になった。	361	4	1～9
2003	4	14 ～ 15	2tトラックを事務所付近に停車させ、運転席から降りて納入先の労働者とトラック荷台の土砂を確認したあと、もう1台のトラックのところに行こうと歩いているときに、2tトラックが後方に動き出したため、後部あおりを両手で押えて止めようとしてひかれた。	221	7	1～9
2003	4	14 ～ 15	鉄骨コンクリート3階建建物の解体で、2階道路面の壁を解体して側面の壁を引き倒すため、鉄骨柱2本目の根元のフランジを溶断していたときに壁が倒壊して2名が下敷きになった。	418	5	1～9
2003	4	14 ～ 15	鉄骨コンクリート3階建建物の解体で、2階道路面の壁を解体して側面の壁を引き倒すため、鉄骨柱2本目の根元のフランジを溶断していたときに壁が倒壊して2名が下敷きになった。	418	5	1～9
2003	3	10 ～	家屋解体で出た柱・梁等を搬出する作業で、ダンプ・トラックの荷台上でグラップル付建設機械でつかんだ梁（松材、質量270kg）を外してグラップルを引き抜いたときに、梁が回転しその反動で梁とともに墜落し、落下	221	1	1～9

		11	してきた梁で頭部を強打した。			
2003	3	10 ～ 11	営業用軽トラックで工事現場に向かう途中、下りカーブを曲りきれずに道路脇に設置してあるガードレールの支柱に正面より激突し、フロントガラスを破って車外に放出され、約5m下の雑木林に転落した。	221	17	1～9
2003	3	14 ～ 15	ゴルフ練習場近辺で局所的な竜巻が発生し、防球ネットを支える支柱の上部が折れたり落下したりしたので、その個所の撤去、修復、支柱全体の補強の作業のため、各支柱の上部に足場を設置して破損した支柱最上部でガス溶断中に足場から墜落した。	411	1	1～9
2003	3	9 ～ 10	公民館の屋根塗装工事において、屋根（長さ約21m、幅約42m、勾配約25度、鋼板横葺）の塗装作業中に、トイレに行くため屋根上を移動していた足滑らせ、約8m下の地面に墜落した。	415	1	1～9
2003	3	15 ～ 16	2階建パチンコ店兼住宅の解体工事において、解体作業で出た木片を拾い集めていたところ、コンクリートブロックでできている壁が高さ約1.7m付近から上の部分（高さ約2m×幅約3.9m）が倒れてきて下敷きになった。	418	5	1～9
2003	3	10 ～ 11	木造平屋建て住宅の解体工事において、建物のブロック壁の解体に伴って内側に10度ほど傾いていた壁に取り付けられていた木材板をバールで取り外していたところ、突然壁が倒れて下敷きになった。	418	5	10～ 29
2003	3	15 ～ 16	2階建住宅の屋根瓦の補修作業で、2階屋根の上で瓦の下に漆喰を詰める作業をしていて、風にあおられ屋根の端から6.9mほど下に墜落した。	415	1	1～9
2003	3	16 ～ 17	資材置場の入口付近で、入口の鍵を置こうとしていたときに、バックで資材置場に車両積載型クレーンが進入してきて、入口の壁と車両積載型クレーンとの間に頭をはさまれた。	221	7	10～ 29
2003	2	10 ～ 11	地下駐車場を式場に改修する工事において、1階から自動車用油圧式エレベーターで家具を積み込む作業中、エレベーター搬器の端部と躯（く）体とのすき間（35cm）から約6.5m下の地下ピットに墜落した。	214	1	1～9

2003	2	9 ～ 10	ビル屋上の鉄塔塗装工事で、塗装材料を地上からつり上げるため、鉄塔付近から巻き上げ機がある場所へ移動していたときに、高さ19.5mのビル屋上から墜落した。	416	1	1～9
2003	2	17 ～ 18	現場での作業を終えて6人乗りトラックで会社にもどる途中の国道交差点付近で、前方の道路工事のため渋滞となっていたところに、4tトラックが突っ込み関係車両4台の追突事故となった。	221	17	1～9
2003	1	13 ～ 14	木造2階建の社宅解体作業で、解体用建設機械を誘導していて、解体用建設機械のカウンターウェイトの左後方と既存建物に立て掛けてあった足場材との間にはさまれた。	145	7	1～9
2003	1	8 ～ 9	プール新設工事のためワゴン車で国道を走行中、凍結した路面でスリップし、はずみで反対車線に飛び出し横転した。	231	17	1～9
2003	1	13 ～ 14	コンテナ倉庫上（高さ約2.7m）での資材整理で、木材（3cm×6cm×4m）を引っ張りあげようとしたときに、小雨で濡れていたコンテナ上で足を滑らせて地上に落下した。	418	1	1～9
2003	1	8 ～ 9	工事現場に行くため原付バイクで県道を走行中、道路右側のブロック塀に衝突した。	231	17	10～ 29
2003	1	9 ～ 10	店舗の改修工事において、ローリングタワー上で壁のはつりの墨出し寸法の確認作業を終え、足場に取り付けられた昇降はしごで土間（アスファルト）に降りようとしたときに、足場から1.75m下に墜落した。	411	1	100 ～ 299
2003	1	17 ～ 18	屋外の旗掲場ポール設置工事において、ビニールシートで覆って密閉した作業場内で練炭を燃焼させ、打設した基礎コンクリートの養生をしているときに、作業場内に入ってコテで仕上げ作業を行っていた一酸化炭素中毒で死亡した。	514	12	10～ 29
2002	7	9 ～	RC造4階建店舗の内外装改修工事において、廃材を運搬する空の一輪車を3階に持っていくため、階段を後ろ向きで一輪車を引っ張って登っていた	414	1	1～9

		10	ときに、エレベーター設置のために階段近くの2階床に当日開けた開口部（1m四方）から1階に墜落した。			
2002	12	10 ～ 11	高さ約6.8mのところ足場の解体作業中に、移動しようとして足を滑らせ墜落した。	411	1	10～ 29
2002	10	11 ～ 12	鉄筋を固めたスクラップ（長さ約2m、直径約1mの円筒状）7個を解体用機械でダンプに積み込んでいたときに、スクラップの下敷きになった。	149	6	50～ 99
2002	12	8 ～ 9	会社のトラックで工事現場に向って走行中、コンビニエンスストアに寄るため右折したときに、直進のトラックと激突し助手席の同僚が死亡した。	221	17	1～9
2002	12	7 ～ 8	普通貨物自動車に6人が同乗して工場現場に向けて走行中、運転を誤って流出車線に入ったので走行車線に戻ろうとしたところ、走行車線を車両が走行していたため、これを避けようとして流出車線と走行車線を分岐しているガードレールに衝突、転倒し3人が死亡した。	221	17	1～9
2002	12	7 ～ 8	普通貨物自動車に6人が同乗して工場現場に向けて走行中、運転を誤って流出車線に入ったので走行車線に戻ろうとしたところ、走行車線を車両が走行していたため、これを避けようとして流出車線と走行車線を分岐しているガードレールに衝突、転倒し3人が死亡した。	221	17	1～9
2002	12	7 ～ 8	普通貨物自動車に6人が同乗して工場現場に向けて走行中、運転を誤って流出車線に入ったので走行車線に戻ろうとしたところ、走行車線を車両が走行していたため、これを避けようとして流出車線と走行車線を分岐しているガードレールに衝突、転倒し3人が死亡した。	221	17	1～9
2002	12	8 ～ 9	9階建マンションの外壁等塗装工事において、屋上に設置したゴンドラで塗装作業の準備、養生作業を行っていて、9階でゴンドラから909号室のベランダに移ろうとしたときに、手掛かりにしていたパイプサポートが外れたため墜落した。	216	1	1～9

2002	11	11 ～ 12	6階建てホテルの解体工事中に、各階の床面に設けられた廃材投下用開口部（1.5m四方）の5階開口部から約13m下の1階床面の廃材の山（高さ1.5m）の上に墜落した。	414	1	30～ 49
2002	12	9 ～ 10	木造建築家屋の解体作業において、グラップルで家屋から梁を外すため梁の右端をグラップルで掴み持ち上げたところ、反対側の左端が思わぬ方向へ外れ、外れた梁を切断するために準備をしていた者に激突した。	415	6	1～9
2002	12	13 ～ 14	休止中の塔形水平引込式クレーン（定格荷重40 t）解体のため、クレーン上部にある機械室を上下にガスで溶断していたときに、切断部分の下半分が口が開くように傾いて宙ぶらりんとなったため作業員2名が約26m下に墜落した。	211	1	1～9
2002	12	13 ～ 14	休止中の塔形水平引込式クレーン（定格荷重40 t）解体のため、クレーン上部にある機械室を上下にガスで溶断していたときに、切断部分の下半分が口が開くように傾いて宙ぶらりんとなったため作業員2名が約26m下に墜落した。	211	1	1～9
2002	12	11 ～ 12	川に架かった水管橋の上で、塗装工事用の足場設置のための親綱を張っているときに、水管と作業通路を結ぶ鉄骨の開口部から約13m下の地面に墜落した。	418	1	30～ 49
2002	10	11 ～ 12	台風で被害を受けた平屋建て民家の屋根補修工事中、屋根または2段の枠組み足場作業床の何れかから地上のコンクリート床へ墜落した。	415	1	10～ 29
2002	12	15 ～ 16	作業場の1階床面に従業員が仰向けに倒れているのを、通りかかった隣の事業場の従業員が発見した。	418	1	10～ 29
2002	12	8 ～ 9	8階建てマンションの屋上塔屋塗装工事において、塔屋下のマンション屋上の端で塗料飛沫の拡散防止用養生シートの設置作業を2人で行っていて、一人が屋上の端から約23m下のアスファルト舗装の駐車場に墜落した。	418	1	1～9

2002	12	15 ～ 16	地上10階建てホテルの新築工事において、建物屋上の広告塔（高さ約15m）設置に使用する足場（8段・高さ約14m）の組立作業で、広告塔鉄骨の最上部に設けられているステージ（幅1.5m）を歩行中に、昇降用タラップの開口部（縦85cm、横81cm）から建物屋上（約12m下）に墜落した。	414	1	10～ 29
2002	11	9 ～ 10	牛舎新築工事において、トタン屋根の敷設作業中に下地のベニヤ板（厚さ9mm）を踏み抜き、約8m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2002	10	9 ～ 10	農作業小屋の屋根トタンの張替え工事において、屋根上でアンテナを外そうとしていたときに腐食してもろくなっていたトタンを踏み抜き約4m下の土間に墜落した。	415	1	1～9
2002	12	16 ～ 17	高校の耐震補強工事において、3階トイレのパイプスペースの隔壁（ブロック積、モルタル仕上げ）の下部をコンクリートブレーカーで破碎していたときに、隔壁の一部（1m×3m×14cm、約540kg）が突然崩壊しその下敷きになった。	418	5	50～ 99
2002	11	11 ～ 12	公民館ホールの屋根（勾配約32度、鋼板横葺）の塗装工事において、塗装作業前に高圧洗浄機で屋根の洗浄作業を2名で行っていたが、親綱の長さが足りなくなったため伸ばそうと思って、反対側の屋根の雪止めに向かって移動していたときに足を滑らせ約10m下の地上に落下した。	415	1	1～9
2002	11	14 ～ 15	工場天井付近の内部足場解体作業中に、足場から約10m下の工場床面まで墜落した。	411	1	10～ 29
2002	11	12 ～ 13	鉄橋塗装工事用の足場を設置するため、電車運転終了後に同僚とともにトロッコに資材を積んで鉄橋の上り線のレール上を進んでいたときに、鉄橋中央付近で上り線と下り線のレールの間から約12m下の河原に墜落した。	414	1	1～9
2002	12	9 ～ 10	同僚が手運搬をしてきた受水槽パネルの仕分け状況を確認するため1階の開口部養生用の蓋の上を歩行中に、蓋がずれたため地下1階コンクリート床へ墜落した。	414	1	1～9

2002	11	14 ～ 15	邸宅の解体工事において、養生ネットを張るため設置していた丸太を解体 し、約5mの高さから墜落した。	419	1	30～ 49
2002	10	15 ～ 16	8階傾斜屋根の防水シート貼り作業中、7階屋根の吹抜部分から1階床まで 墜落した。	414	1	1～9
2002	11	15 ～ 16	屋根しっくい工事を同僚と一緒に軒高6.18mの2階屋根上で行って、 軒高2.93mの1階屋根部に一度墜落し、さらに地面まで墜落した。	415	1	1～9
2002	7	11 ～ 12	本社社屋において、屋根として使用していた塩化ビニール製波板の張替作 業中に波板を踏み抜き5m下の床に墜落した。	415	1	1～9
2002	10	11 ～ 12	倉庫のスレート屋根の補修工事において、破損した屋根のスレートの撤去 のためスレートの止め金具をカッターで切断中に、スレートを踏み抜いて 7.6m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2002	10	17 ～ 18	仮設駅の建設工事において、仮設ホーム下部のジャッキベースと敷板を固 定する作業を行っていて、高さ約1mのホーム上に乗り上がろうとしてい たときに特急電車と接触した。	232	18	1～9
2002	10	10 ～ 11	倉庫解体作業で、骨組みの丸太梁の両側をチェーンソーで切断し、金属の パイプ（長さ2.3m）でつついて落とそうとしたときに丸太梁が金属の パイプの先端に落下したため、その反動で金属のパイプの先端が右首に激 突し、倒れた時に地面に頭を強打した。	521	3	1～9
2002	10	23 ～ 24	トラックを駐車場へ駐車するため後退しているときに、何かにぶつかって 乗り上げたような衝撃があったので運転席から降りて見ると、労働者がト ラックの下に横たわっていた。	221	7	10～ 29
2002	9	16 ～	屋根の塗装作業に使用した足場の解体作業で、解体した布杵を足場上の一 個所に運んで積む作業中に足場の作業床から10.60m下に墜落した。	411	1	10～ 29

		17				
2002	8	11 ～ 12	住宅新築工事において、型枠解体作業中に急に現場から姿が見えなくなり、現場から約400m離れた場所で倒れていた。(熱中症)	715	11	10～ 29
2002	8	6 ～ 7	現場倉庫内の資材を整理するためライトバンに3人が乗って走行中、交差点で前方から右折してきた乗用車と衝突し1人が死亡した。	231	17	10～ 29
2002	7	9 ～ 10	屋上防水工事の資材を足場に設置した巻上機を使用して屋上に荷揚げする作業中、4階屋上部分で資材を受け取るためにパラペット上に立っていて体調不良を訴え、その直後に約12m下の通路上に墜落した。	411	1	1～9
2002	8	13 ～ 14	寿司店改装のため厨房カウンター、冷蔵庫、厨房、看板等の撤去作業中、1階の流し台の正面に設置してある蛍光灯をワイヤーカッターで配線を切断し感電した。	351	13	1～9
2002	8	14 ～ 15	取壊した建築廃材の袋詰め作業中、作業者の異常に気付いて床に座るよう指示をしたが意識が無い様子で、数人で横にすると嘔吐して意識不明になったため、病院に運んだが死亡した。	715	11	50～ 99
2002	7	11 ～ 12	型枠の解体作業で、解体材の整理作業を行っていて突然体調不良を訴え、現場内の休憩所で約1時間休憩したのち、病院に移送したが死亡した。	715	11	1～9
2002	7	11 ～ 12	家屋の解体工事に先立って畳、ふすま、サッシ等を取り外して運搬車に積み込む作業中、屋根上で転倒して停めてあった運搬車のアオリで強打した。	418	2	10～ 29
2002	7	16 ～ 17	中学校体育館の解体工事において、近隣への騒音対策として枠組足場に取り付けて設置しておいた防音パネルを4段目の作業床で上部のパネル(90×180cm 重さ約10kg)を取り外そうとしたところ、下部パネルも同時に外れてパネルごと7.12m下に墜落した。	419	1	10～ 29
		10	転炉内の耐火煉瓦解体工事において、7名が炉内に入り、炉に付着した銅			

2002	7	～ 11	の不純物等除去のための発破穿孔作業中、耐火煉瓦が長さ8m、幅1.5mにわたって崩落して全員が生き埋めとなり5名が死亡した。	341	5	1～9
2002	7	～ 11	10 転炉内の耐火煉瓦解体工事において、7名が炉内に入り、炉に付着した銅の不純物等除去のための発破穿孔作業中、耐火煉瓦が長さ8m、幅1.5mにわたって崩落して全員が生き埋めとなり5名が死亡した。	341	5	1～9
2002	7	～ 11	10 転炉内の耐火煉瓦解体工事において、7名が炉内に入り、炉に付着した銅の不純物等除去のための発破穿孔作業中、耐火煉瓦が長さ8m、幅1.5mにわたって崩落して全員が生き埋めとなり5名が死亡した。	341	5	1～9
2002	7	～ 11	10 転炉内の耐火煉瓦解体工事において、7名が炉内に入り、炉に付着した銅の不純物等除去のための発破穿孔作業中、耐火煉瓦が長さ8m、幅1.5mにわたって崩落して全員が生き埋めとなり5名が死亡した。	341	5	1～9
2002	7	～ 11	10 転炉内の耐火煉瓦解体工事において、7名が炉内に入り炉に付着した銅の不純物等除去のための発破穿孔作業中、耐火煉瓦が長さ8m、幅1.5mにわたって崩落して全員が生き埋めとなり5名が死亡した。	341	5	1～9
2002	8	9 ～ 10	2階建倉庫の塗装工事で、枠組み足場の先に単管で作られたブラケット足場に立ったときに歩み板が外れ、歩み板とともに5.8m墜落した。	411	1	1～9
2002	11	～ 12	11 瓦を取り除く作業で、トラック荷台から玄関先の底上に上がり移動しながら、さらに樋に足を掛けて屋根上に登ろうとしたときに樋が破損し約2.8m下に墜落した。	415	1	50～ 99
2002	7	～ 17	16 駅の建築修繕工事において、駅の底上に足場を設置するため6段目の交差筋交いを取付けようとしていたときに、誤って5段目布板上から8.81m下の底に墜落し、さらに4.15m下の地上に落下した。	411	1	10～ 29
2002	7	6 ～ 7	小学校体育館屋根の防水工事準備のため体育館屋根の parapet 上を歩行中、高さ約7mの屋根上より墜落した。	415	1	1～9
		14	橋梁補修工事において、橋脚上に足場板を掛け渡すためにチェーンで吊ら			10～

2002	7	～ 15	れた足場板上を移動しているときに、バランスを崩して12m下の川へ墜落し溺死した。	411	1	29
2002	4	～ 10	清掃工場の解体作業において、ゴミ焼却灰を地下に搬送するシューターの一部（質量約1 t）を溶断する作業をしていたところ、シューターが転倒したため地上との間に挟まれた。	418	5	1～9
2002	7	～ 11	8階建マンション屋上の防水工事において、防水テープの増し張りを行っていた者が休憩中には約20m下の地面に墜落した。	418	1	1～9
2002	5	～ 9	アスファルトプラント解体工事において、吊上げ荷重40tのクローラクレーンにバイブロハンマーを取り付け、基礎杭の引き抜き作業を行うため左旋回したところ、吊上げたバイブロハンマーが4.7mの高さから地上に落下し、バウンドしたバイブロハンマー（質量約3.5t）が側を歩いていた者を直撃した。	143	6	10～ 29
2002	3	～ 11	プレハブ倉庫の撤去工事で、倉庫の骨組みとなっていた門型鉄骨（高さ2.5m×幅2.5m、質量約160kg）の梁部分にロープをかけて手で引っ張ったとき、その鉄骨の下に歩いてきた者が倒壊した鉄骨が激突した。	418	5	1～9
2002	3	～ 11	解体した枠組み足場を部材ごとトラック上のクレーン（つり上げ荷重2.93t）で積み込み、積み荷にワイヤーロープをかけるため2名が地上でワイヤーロープが外れないように手で押さえ、1名が荷に上がりレバーブロックで締め付けたときに、ワイヤーロープが掛かっていなかった部材の束（筋かい、質量約444kg）が落下し地上の1名を直撃した。	521	4	1～9
2002	7	～ 10	車庫解体工事において、軽量鉄骨梁にワイヤーロープを掛けるため踏面のない脚立の2段目（高さ91cm）に上がって作業をしていたときに、バランスを崩してアスファルトの地面に墜落し、墜落する途中で鉄骨梁に触れたため鉄骨枠が倒れてきて梁部分の下敷きになった。	418	5	10～ 29
2002	4	～ 9	木造家屋解体工事において、水撒きをしていた者が「がら」を搬出していたバックホーの旋回体後部と民家の壁との間に背中を挟まれた。	142	7	1～9

2002	4	8 ～ 9	スチームエジェクターの蒸気配管を取替えるため4名で足場の組立作業を行っていたところ、足場の1段目階段を昇っていた1名が気を失って地上に落下、続いて3名も相次いで倒れ、1名が死亡した。（スチームエジェクターであるホットウェルから一酸化炭素が大気中に排出されていた。）	514	12	10～ 29
2002	1	16 ～ 17	既設住宅の外壁塗装作業において、1階の屋根上（無落雪建築のほぼ平らな屋根）で2階東側の外壁をローラーを使用して仕上塗装作業中に、高さ約5.4mの屋根の端から半地下の車庫のコンクリート路面上に墜落した。	415	1	1～9
2002	4	13 ～ 14	工場解体用の足場を組立てたのち、養生用のシートを取り付けるためスレート葺きの屋根上でシートを運搬中に、スレートを踏み抜き7.6m下の土間に墜落した。	415	1	1～9
2002	3	8 ～ 9	ホテルの解体工事現場において、圧碎機（ドラグショベルのアタッチメントを換えたもの）で5階建てビルの屋上に設けられたエレベーターの機械室を解体中、機械室に設置されていた重さ約1tのエレベーター昇降用電動機が圧碎機のアームとブームを伝わって落下し、12.4m下の圧碎機運転席に直撃した。	149	4	30～ 49
2002	1	9 ～ 10	農業用倉庫の補強及びシャッター出入口の改修工事で、側壁をよじ登って高さ5.30mにある幅6cm、厚さ4cmの胴縁に足を掛け、高さ6.34mの屋根裏に新しくタルキを設置しているときに、バランスを崩しコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2002	4	15 ～ 16	橋桁工事用のつり足場に設けられたネット上にボルトが落ちていないかを約41m下の地上から双眼鏡を覗きながらチェックし、橋上にいる現場作業員に携帯電話で連絡していた者から連絡がないので探したところ、海に沈んでいた。	417	10	300 ～ 499
2002	4	16 ～ 17	鉄骨スレート葺1階建て駐車場解体のため屋根上でスレートの撤去を行っていたときに、明かり取り（塩ビ製波板）を踏み抜き高さ5.1m下の1階土間コンクリートへ墜落した。	415	9	50～ 99
		9	社宅新築工事で、既設木造2階建建物を解体して出た廃材を搬出するた			

2002	4	～ 10	め、10 t ダンプトラックの荷台に乗り、クランプアタッチメントを取り付けたバックホーでの廃材積みの誘導及び荷台上の廃材の整頓作業を行っていたときに、荷台上から約3m下のアスファルト上へ墜落した。	221	1	1～9
2002	1	17 ～ 18	焼却炉の減温塔を清掃するための足場を内部に組立中、開口部より墜落して2.3m下の補強用プレートに当たり、さらに2m下の足場上に墜落した。	414	1	10～ 29
2002	2	11 ～ 12	鉄骨造3階建て建物の解体工事で、鉄骨柱のアンカーボルト部分を溶断中、柱（高さ3m）部分とそれに附帯する2階床スラブ（厚さ13cm、幅1.2m）が建物中央方向に倒れその下敷きとなった。	418	5	1～9
2002	2	15 ～ 16	地下水槽をコンクリートブレーカーで解体中に、幅14m、高さ6m、厚さ0.3mに亘ってコンクリート壁が倒壊し作業員に激突した。	142	5	1～9
2002	2	9 ～ 10	家屋の屋根の瓦が風等で飛ばないようにラバーで瓦同士を接着する作業のため、屋根（2.5分勾配、軒先の高さ地上から2.9m）に登ったときに、屋根上で転倒し地上に墜落した。	415	1	1～9
2002	2	7 ～ 8	宿舎から会社所有のワゴン車で現場に向け走行中、アイスバーンによりスリップして進行方向右側の路外へ逸脱し、1名が死亡し3名が負傷した。	231	17	1～9
2002	3	13 ～ 14	道路排水施設工事において、U字側溝（長さ4m、重さ2 t）の高さ調整のため車両積載型クレーン（2.93 t）に戻す作業を行っていたときにU字側溝が落下し、吊荷の下で誘導していた者が大腿部から腰にかけて下敷きになった。	529	4	1～9
2002	2	15 ～ 16	寺の建設工事（SRC1階建て、最高高さ55m、軒の高さ32m）において、天井先端化粧パイプ養生材の撤去を行うため足場の昇降設備を降りていたときに、枠組み足場の交差筋交いの隙間（高さ15.6m）から墜落した。	413	1	1～9
2002	4	9 ～	物流倉庫トラックヤード底部分の塗装工事の品質・進捗状況管理のため、底の上で写真を撮影していたときに、誤って底に設けてある明かり取りの	415	1	1～9

		10	天窓（トップライト）のガラスを踏み抜き、8.5m下の地上部分に墜落した。			
2002	2	11 ～ 12	工場軒下の鉄骨塗装作業のため、高所作業車の作業床より足場板を張り出し、その上で塗装作業を行っていたときに、3m下のコンクリート床に墜落した。	411	1	10～ 29
2002	2	6 ～ 7	9人が2台のワゴン車に分乗して建築現場に向う途中、乗用車3台による追突事故の手前で停車していたトラックに、ワゴン車の1台が追突した。	231	17	30～ 49
2002	2	16 ～ 17	ケーソン製作用枠組足場解体のため、枠組足場4列3段をクローラークレーンで吊り仮置場に移動し、足場に上がって玉掛用ワイヤロープを外し、クレーン運転者に巻き上げの合図を行ったところ、ワイヤロープが足場に引っ掛かって足場が転倒し頭部を強打した。	411	1	1～9
2002	3	9 ～ 10	二階建てアパートの屋根・外壁塗り替え工事で、棟木（屋根の頂上）側から北面の屋根を塗りながら降りてきたところ、高さ5.5mの軒先から墜落した。	415	1	1～9
2002	1	13 ～ 14	一部平家の2階建て住宅解体作業中、解体用のアタッチメントを取り付けたバックホーの作業範囲内に立ち入り、2階建屋の外壁と右旋回した重機の旋回体との間に挟まれた。	145	7	10～ 29
2002	4	16 ～ 17	木造平屋建て家屋の屋根の防水塗装中、3.5m下に転落した。	415	1	1～9
2001	7	15 ～ 16	高さ約1.5mのうま型の脚立上で10tトラックに会社名の入ったシールを貼り付けているときに、脚立から転落し、地面で後頭部を強打した。	371	1	1～9
2001	12	16 ～ 17	個人住宅のリフォーム工事において、高さ1.8mの脚立に載って柱のビスの撤去作業を行っていたときに脚立から転落した。	371	1	1～9

2001	12	9 ～ 10	解体工事現場において、既存の杭を撤去した後に、撤去の状況を写真撮影後、次の場所へ移動中、杭穴(1. 65m×3. 05m、深さ3m)に転落し杭穴周辺の土砂が崩れ生き埋めとなり死亡した。	414	1	10～ 29
2001	11	9 ～ 10	ビル解体の際に生じた深さ4. 76mのコンクリートの基礎掘削坑内で、ステンレス製浴槽に解体で生じたコンクリート片及び鉄筋を入れて地上のフォークグラブ(掘削用機械のアタッチメントを替えたもの)で吊り上げて搬出中フォークグラブがバランスを崩して坑に転落した。	149	1	1～9
2001	12	8 ～ 9	建築工事現場に向かうため走行中、インターを通り過ぎてしまったため急いでハンドルを切って車が横転した。	231	17	10～ 29
2001	11	18 ～ 19	足場組み作業を終了しダンプ(2t)で自動車道を走行中、右後輪がバーストして車両が横転し、助手席にいた者が車外に放り出されて全身打撲を負った。	221	17	1～9
2001	12	11 ～ 12	会館の解体で解体物の飛散を防ぐため建物の周囲にシートを張るための鋼管組み立てを行っていて、高さ11. 9mの鋼管の上から墜落した。	419	1	100 ～ 299
2001	12	11 ～ 12	屋根の改修作業を行うため、屋根上に積もった雪を1階屋根上で降ろして、足を滑らせて2. 72m下のコンクリート地面に墜落した。	415	1	1～9
2001	11	13 ～ 14	小学校のプール建設工事において、整地運搬車の荷台からU字溝8本(総質量652kg)をパワーショベルを使用して吊上げ、右旋回したときにパワーショベルが転倒し、オペレーターが投げ出されて約9m下の道路に墜落した。	142	2	1～9
2001	10	13 ～ 14	解体現場の散水作業に使用する給水用ポンプを始動するため工場内貯水プールへと向かった者が戻らず、プールの水面にヘルメットが浮いていたため、プール内を捜索したところ水中に沈んでいるのを発見した。	391	90	50～ 99
		10	工場建屋のスレート屋根上で破損したスレート部分5箇所の補修作業を行			

2001	10	～	い、補修を終えてスレート片、ボルト等残材の片付けを屋根上で行って	415	1	1～9
		11	たときにスレート屋根を踏み抜いて建屋内へ約9m墜落した。			
2001	3	9	家屋の解体現場においてダンプカーから工具をおろす作業中に、足を滑ら	221	1	1～9
		～	して転落し、頭部を強打した。			
		10				
2001	11	18	既存建物と増築建物との連絡通路の仮囲いの工事において、仮囲いの屋根	415	1	10～
		～	(石膏ボード)にクロスを貼るため屋根に乗ったときに屋根が抜け			29
		19	て、3. 1m下の床に墜落した。			
2001	9	15	低温倉庫の外部改修工事において、外部足場の部材等の片付け作業をして	419	1	10～
		～	いたときに、足場からアスファルト地面に転落した。			29
		16				
2001	10	10	ホテルの外壁塗り替え工事において、ホテル4階の客室窓ガラス外面に付	418	1	1～9
		～	着した汚れを拭き取る作業中に、約10m下の玄関前の大理石盤上に墜落し			
		11	た。			
2001	9	11	増築中の建物屋根上で屋根材の取付作業中に屋根のルーフファン開口部	414	1	1～9
		～	(大きさ1m四方)から約6. 4m下のコンクリート地面に墜落した。			
		12				
2001	10	14	重油タンクの外面塗装工事に使用する外部枠組足場の組立て作業におい	411	1	1～9
		～	て、4段目の鋼板布わく(高さ約7. 5m)上で建枠を設置していたとき建枠			
		15	の内側のジョイントが先に入ったため外側のジョイントが入らなくなった			
			ので、内側のジョイントを抜こうとして力をいれたところジョイントが突			
			然抜け、その反動でバランスを崩し地上に墜落した。			
2001	10	13	塗装作業の終了後、塗り忘れの箇所があったため、庇の上に脚立を載せて	371	1	1～9
		～	作業中に、バランスを崩し庇の上に墜落した。			
		14				
2001	10	17	作業が終了した積載形トラッククレーンを敷地内から後進で県道へ出すた	221	17	10～
		～	め後方の県道センターライン付近で誘導していたとき、右側より進行して			29

		18	きた2tトラックに跳ねられて17m飛ばされた。			
2001	9	8 ～ 9	工場の解体工事現場で、廃材を運搬するため敷地内の道路を後退していたダンプに作業者がひかれた。	221	7	10～ 29
2001	10	13 ～ 14	倉庫改修工事において、スレート屋根をはがす作業を行っていたときにスレートを踏み抜き約5m下に墜落した。	415	1	1～9
2001	9	8 ～ 9	住宅屋根瓦の塗装のため、1階屋根上で準備作業中に約3.25m下のコンクリート歩道に墜落し頭部を強打した。	415	1	1～9
2001	8	17 ～ 18	排ガス処理設備の建設工事において、焼却炉架台上で2次焼却室上部ダクトサポート用柱(質量83・8kg)を取り付けるため、柱の先端部にクランプを付けて移動式クレーンで仮置場から移動させていたとき、柱のベースプレートが焼却炉上部の梁に引っかかったためクランプが外れて柱が激突した。	372	4	1～9
2001	9	13 ～ 14	倉庫の屋根材(トタン板)の解体撤去作業中に、腐食した屋根を踏み抜き約7m下のコンクリート面に墜落した。	415	1	1～9
2001	9	16 ～ 17	ビル解体工事において、ほこり防止のための水撒き作業を行っていた者が解体していた躯体と外部足場との間から墜落した。	411	1	30～ 49
2001	9	9 ～ 10	高さ10.2m、直径10.3mの重油タンクを解体するため周囲の枠組足場のうち不用になった上部の足場を解体中に解体した足場板を持って高さ8.55mの足場上を移動していてタンク内に墜落した。	411	1	1～9
2001	9	10 ～ 11	解体廃材を木片と金属とに分別する作業で、長さ5m、外径7.5cmの鋼管を重機(アイアンホーク)でつかんだときに鋼管が反転し、近くで中腰にて分別作業を行っていた者に激突した。	149	6	10～ 29

2001	9	14 ～ 15	個人住宅2階屋根のコロニアル葺き替え工事において、道路面から2階屋根に立て掛けた移動梯子を登る途中で墜落し頭部を強打した。	371	1	1～9
2001	9	14 ～ 15	建築工事現場において、足場の3層目での塗装作業中に、塗料が不足したので足場外の塗料置場へ行き、戻る途中で足場の3層目から墜落した。	411	1	1～9
2001	7	21 ～ 22	現場作業を終え高速道路を会社の車で走行中、車が突然パンクし横転したので助手席に乗っていた者を救出するため降車して横転した車輛の前方で救出していたときに、後続の車がその車に衝突し、その反動で横転した車が動いて激突した。	231	17	1～9
2001	8	13 ～ 14	住宅新築工事現場に向かうため車で国道を走行中、対向車線を越えて道路右側の電柱に衝突した。	231	17	10～ 29
2001	8	17 ～ 18	外壁の修理工事において、足場の4段目の筋かいの間隙から外壁の塗装作業を行っていてバランスを崩し足場と外壁の間から約7m下の1階屋根部分に墜落した。	411	1	1～9
2001	8	16 ～ 17	RC造5階建ビルの基礎部分の解体作業中、土砂崩壊防止のため土留め用の支柱として単管パイプをブレーカで押し込もうとしたが破碎したコンクリート片が障害になったので当該ブレーカでコンクリート片の位置をずらそうとしたときに単管パイプを持って待機していた者の胸部にブレーカのアタッチメントが激突した。	145	6	10～ 29
2001	7	14 ～ 15	店舗の改修工事において、8名で店舗内部壁の間仕切りボードを解体し残材の搬出作業を行っていたところ、気分が悪くなり倒れたので病院に移送したが熱中症により死亡した。	715	11	1～9
2001	7	13 ～ 14	移動式クレーン(4, 9t)のジブの先端に取付けたゴンドラに搭乗して外壁を点検し、同乗の作業員に劣化したコンクリートのはつり作業を指示し、ゴンドラから布製テントの上(3, 6m)に降りたときに布を突き破って墜落した。	415	1	1～9

2001	8	15 ～ 16	工場の増築工事において、樋を取り付けるための金物を取付場所それぞれに配置していたときに、桝組足場の6段目(高さ10.55m)から地上に墜落した。	411	1	1～9
2001	7	10 ～ 11	新築マンション建設のための旧建物の解体作業において、使用していたドラグ・ショベルが後退して来たところに粉じん発散防止のために水を散水していた作業者がいて、キャタピラに巻き込まれ、ドラグ・ショベルの下敷になった。	142	7	10～ 29
2001	7	18 ～ 19	工事現場から同僚の運転するワゴン車に同乗し国道を走行中、右カーブで道路左側のガードレールに衝突し、車外に投げ出された。	231	17	1～9
2001	7	10 ～ 11	RC造の浄化槽の天端において、やぐらを解体し、ビニールシート(約10m角)をたたんで片付ける作業をしていたときに、天端にあった1m×60cmの開口部から浄化槽の底(コンクリート)まで約5m墜落した。	414	1	10～ 29
2001	7	16 ～ 17	炎天下、刈払機で国道の法面の除草作業を行っていたところ、突然気分が悪くなり、病院に移送されたが、熱中症で死亡した。	715	11	1～9
2001	7	14 ～ 15	セメントの原料を予熱するサイクロンの補修工事において、サイクロン内の底から単管で高さ約20mの足場を組み作業員8名が足場の最上階の作業床上でピックハンマーを使用して耐火性レンガのはつり作業を行っていたところ、足場が崩壊し作業員8名の内7名(うち1名は単管につかまり墜落を回避)が約20m下のサイクロン底に転落し、同時に廃材のレンガ等の下敷きになった。	411	1	30～ 49
2001	7	14 ～ 15	セメントの原料を予熱するサイクロンの補修工事において、サイクロン内の底から単管で高さ約20mの足場を組み作業員8名が足場の最上階の作業床上でピックハンマーを使用して耐火性レンガのはつり作業を行っていたところ、足場が崩壊し作業員8名の内7名(うち1名は単管につかまり墜落を回避)が約20m下のサイクロン底に転落し、同時に廃材のレンガ等の下敷	411	1	30～ 49

			きになった。			
2001	7	14 ～ 15	セメントの原料を予熱するサイクロンの補修工事において、サイクロン内の底から単管で高さ約20mの足場を組み作業員8名が足場の最上階の作業床上でピックハンマーを使用して耐火性レンガのはつり作業を行っていたところ、足場が崩壊し作業員8名の内7名(うち1名は単管につかまり墜落を回避)が約20m下のサイクロン底に転落し、同時に廃材のレンガ等の下敷きになった。	411	1	30～ 49
2001	7	15 ～ 16	住宅地の造成工事において、掘削箇所をスコップで均す作業や埋戻し土の転圧作業を行っていて休憩のため作業を中断したときに、座り込んで意識がなくなったので病院に移送したが熱中症で死亡した。	715	11	50～ 99
2001	7	11 ～ 12	住宅の外壁塗装工事において、足場の2層目で塗装を終了した箇所の目張りを剥がす作業を行っていてバランスを崩し6m27cm下の農道に墜落した。	411	1	1～9
2001	7	10 ～ 11	木造住宅の解体工事で出た廃材等をトラックに積み込む作業をトラックのプロテクター(運転席のガード)の上で行っていて、杉の丸太(長さ5.7m、直径36cm)を載せたときに丸太もろとも転落した。	221	1	1～9
2001	6	14 ～ 15	汚水処理場解体工事において、最終沈殿槽上部の手すり及び目隠し用のグラスウール製波板をガスで溶断しながら撤去していて、深さ4.65mの槽内に墜落した。	414	1	10～ 29
2001	3	18 ～ 19	ビル改修工事の現場を終えて帰る途中、地下鉄の駅を降りて道路を横断中、右から走ってきた原付バイクに跳ねられた。	231	17	10～ 29
2001	6	17 ～ 18	神社の神楽殿(木造平屋建)の屋根葺き替え工事において、高さ2.94mの庇の先で瓦葺き替え作業を行っていて地面に墜落した。	415	1	1～9
2001	4	8 ～	鉄骨3階建ビルの解体工事において、2階天井スラブの梁の溶断作業中スラブが崩落し、瓦礫の下敷きになった。	418	5	1～9

		9				
2001	4	14 ～ 15	軒高7. 2mのスレート屋根上に単管足場を組立てる作業中に、スレートを踏み抜いて約8mの、コンクリートの土間に墜落した。	415	1	10～ 29
2001	2	11 ～ 12	家屋解体工事で、隣接家屋を破損させないように古い防波堤の上に立って合図を行っていたところ、足を滑らして転落し解体中のコンクリートブロックに頭を強打した。	418	1	1～9
2001	5	8 ～ 9	木造2階建住宅の増改築工事において、トタン屋根の葺き替えのためバールを使用してトタン屋根の解体作業中に高さ6. 59mのところから転落した。	415	1	1～9
2001	2	11 ～ 12	塗装用の外部足場組立作業において、屋根の軒下に壁つなぎを取り付けているときに11m下の地面に墜落した。	411	1	10～ 29
2001	3	8 ～ 9	山門屋根葺き替え工事において、古い屋根瓦の撤去をほぼ終了し、残りの瓦土、桟木及び杉皮を撤去するため、山門周囲に架設された鋼製本足場が上がったときに、足場上から3. 3m下の石畳に墜落した。	411	1	1～9
2001	4	15 ～ 16	小型移動式クレーンを用いて看板を取り付けるため、クレーンで支柱の上部まで看板を吊り上げ、支柱に隣接して設置された移動式足場の上から身を乗り出して寸法合わせを行っていたときに、バランスを崩して5.13m下に墜落した。	411	1	1～9
2001	2	15 ～ 16	建物のリフォーム工事において、屋根の仕上げ塗装中に屋根端から地上まで約5m墜落した。	415	1	10～ 29
2001	2	16 ～ 17	清掃工場のガス処理設備棟の外部足場の解体において、クレーンで外部足場を吊って倒壊しないようにしてから壁つなぎを外す手順であったところを先に壁つなぎを外したため、壁つなぎを外した箇所の外部足場が倒壊し、付近で作業を行っていた者が足場と作業床との間にはさまれた。	411	5	50～ 99

2001	2	9 ～ 10	橋改良工事のため、橋桁下面に設置してあった床版改良工事用の吊り足場を解体しているときに、約3.6m下の運河に墜落し溺死した。	713	10	1～9
2001	4	15 ～ 16	軽トラックで農道を走行中、交差点でコンクリートミキサー車と衝突した。	221	17	10～ 29
2001	4	0 ～ 1	事業場建屋の軒下に約1.7mほど残っていた残雪の除雪作業で、スコップでためき掘りしながら雪を片づけていたため雪山が崩れ埋もれた。	715	5	50～ 99
2001	3	16 ～ 17	工場屋根(軒高4.6m)のトタンふき作業で、ルーフファン用のトタン下地材の取付け作業を終えて屋根(勾配約22度)上を移動中に、降雨のため濡れていたため足を滑らせ墜落した。	415	1	1～9
2001	3	10 ～ 11	工場の解体工事で、浄化槽の解体のため浄化槽の脇をドラグショベルで掘削作業中オペレーターが掘削箇所の確認のため掘削床に下りたときに、浄化槽の側面が崩壊し生き埋めになった。	711	5	10～ 29
2001	2	17 ～ 18	個人住宅の改築工事で、浄化槽を埋めるために使用したドラグショベルをトラックの荷台に積み込んでいるときにドラグショベルが転倒し、下敷きとなった。	142	2	10～ 29
2001	2	10 ～ 11	木造2階建住宅の2階屋根上において、瓦の葺き替えのため古い瓦の撤去作業を行っていて、軒先から約4.6m下のアスファルト道路に墜落した。	415	1	1～9
2001	1	14 ～ 15	高さ20mのクライミングクレーンの頂部でリミッター装置の調整を行っていて、安全帯の小綱がジブの起伏ワイヤードラムに巻込まれたため腹部を圧迫された。	211	7	30～ 49
2001	1	8 ～ 9	プラント外壁の塗装用足場の解体作業中に、プラント西面の鋼管足場(24m)から地上3.8mにある配管の上に墜落した。	411	1	10～ 29

2001	1	10 ～ 11	ガソリンスタンドの高さ5.7mに位置する車寄せ屋根の除雪作業を行って、屋根にあった開口部(明り採り)が積雪のため気がつかず、開口部から墜落した。	415	1	10～ 29
2001	1	13 ～ 14	工事の打合せを行うため寮から自家用車で支店に向かって走行中、交差点で左にカーブしたときに車がスリップして対向のトラックと衝突した。	231	17	30～ 49
2000	10	7 ～ 8	吊り上げ荷重2.9tの積載型トラッククレーンのサイドあおりを倒して、クレーンで鉄板(質量800kg)の積み込み作業中、鉄板を荷台に降ろしたときにスリングロープが鉄板の穴から外れ、荷台横の路上にいた者が鉄板とブロック塀との間に挟まれた。	212	4	1～9
2000	7	16 ～ 17	木造平屋新築工事において、セメント瓦をトラックから瓦上げ機を使用して屋根に上げ運搬中に、バランスを崩して墜落し、トラックの側面あおりに足が当り、その反動で頭から地面に墜落した。	415	1	10～ 29
2000	12	10 ～ 11	吊り足場の解体作業中、右足をころばし単管に乗せて約1m先の足場板を取ろうとしたときに、バランスを崩し約50m下の谷川に墜落した。	411	1	10～ 29
2000	5	11 ～ 12	道路側壁に落石防止網を取付ける作業において、次の箇所へ移動するために垂らしてあった親綱にロリップをかけたところ、先端が緊結されていなかったため高さ7mの位置から転落した。	711	1	10～ 29
2000	3	9 ～ 10	駐車場の新設工事において、型枠の建ち上げ作業のためにパイプサポートの設置作業中に、工事現場と水路に接する幅175cmの平地の端から深さ7.5mの水路の底へ転落した。	419	1	1～9
2000	3	9 ～ 10	道路に置く縁石の運搬作業で、縁石1個(重さ80kg)をドラグ・ショベルで吊り込んでトラックに載せ、玉掛けされたベルトを外そうとしたが外れなかったため、ドラグ・ショベルの運転手が手伝うため運転席より降りようとしたときに上着が旋回レバーに引っ掛かったため、アームが左旋回してバケット部が作業者に当たった。	142	6	10～ 29

2000	7	14 ～ 15	ビル外壁改修工事において、高さ約8mの3階テラス上で足場の組立作業を行っていてテラス上から墜落した。	418	1	10～ 29
2000	5	13 ～ 14	工場増築工事において、枠組足場の解体作業中に「ちょっと下におりる」と他の3名に告げ下に降りる途中、足場の7層目から墜落した。	411	1	10～ 29
2000	5	15 ～ 16	高圧送電線鉄塔の防錆塗装工事において、準備作業として主柱に登り塗料の飛散防止ネットの固縛作業中に、地上約13mの所から墜落した。	418	1	1～9
2000	1	8 ～ 9	工事現場に向かっていたトラック(2t)で走行中、運転操作を誤って、道路脇の交通標識柱(鋼製)に衝突し、助手席に同乗の者が死亡した。	221	17	10～ 29
2000	10	18 ～ 19	物品搬入搬出用ステージに開閉式の手すりを設置するための蝶番を取り付け作業を行っていて、仮設手すりの中さんとステージ床面の隙間から7.6m下の地面に墜落した。	418	1	1～9
2000	7	10 ～ 11	工場事務所の外壁張替工事において、鋼管本足場2段目の作業床上(高さ3m90cm)で外壁撤去のため外壁材接合部の目地(ゴム系)をカッターナイフで切る作業を行っていたときに、作業床と手すりの間からアスファルトの駐車場に墜落した。	411	1	10～ 29
2000	2	9 ～ 10	足場の解体作業を行っていて、単管を取り外すときにバランスを崩し、約8.8m下の地上まで墜落した。	411	1	1～9
2000	12	9 ～ 10	公務員宿舎の屋上パラペット部分に防水シールを貼り付けるため、コイル状に巻かれたシート的一端を持って後退しながら引き出していたときに、パラペット(高さ25cm)に足をとられて14.6m下の地面に墜落した。	415	1	10～ 29
2000	10	16 ～	民家のブロック塀を取り壊す作業中に、塀脇の水路内の犬走り上(幅約60cm)へ転落した。	418	1	1～9

		17				
2000	10	18 ～ 19	工事現場からトラックに乗って帰る途中、市道交差点で電柱に衝突した。	221	17	10～ 29
2000	7	19 ～ 20	工事現場の廃材を田で焼却中に火傷を負った。	522	16	1～9
2000	4	14 ～ 15	橋梁につり足場を設置するため、河川敷に簡易枠で作業構台を組み立てラフタークレーンでつり足場の部材をその構台に降ろし、部材の荷はずし作業を行っていたときに同構台が倒壊した。	419	5	1～9
2000	10	11 ～ 12	解体するコンクリートプラント上に登って上部に設置された小屋の柱を焼き切り、プラント上で状況の確認をしていたときに突然小屋が崩れ落ち、小屋と一緒に5.6m下の地面に墜落した。	418	1	10～ 29
2000	4	16 ～ 17	農業用倉庫のシャッター枠(高さ3.1m、長さ2.7m)を倒してトラックに積み込もうとしていたところ、枠がトラックの反対側に倒れて前額部にあたり頸椎を損傷した。	419	5	1～9
2000	3	15 ～ 16	個人宅の解体工事において、丸太足場上でシートを張る作業中に2段目から、約3.45m下のコンクリート土間に墜落した。	411	1	10～ 29
2000	11	11 ～ 12	ひさしにカラーベストを貼る作業中に、ひさしから3m30cm下の隣家の敷地に転落した。	415	1	1～9
2000	8	18 ～ 19	最高気温が36.4度に達する猛暑の中で、屋根のない資材置場で作業中に気分が悪くなり、日陰で休んでいたが嘔吐して意識を失い、熱中症により死亡した。	715	11	1～9
2000	5	15 ～	屋根の瓦葺き替え作業が終了し、軒先に立て掛けていた瓦上げ機(5段組)を解体していたところ、2段目の曲がり部分を取り外すときに接続部分が	219	1	30～

		16	不備であったため3段目の梯子の方が外れてしまい、そのためバランスを崩して3段目の梯子とともに5m下へ墜落した。			49
2000	1	9 ～ 10	屋根瓦一部修復工事において、屋根上(高さ約5.4m)から古い瓦土を入れた土のう袋(質量約20kg)を道路上のダンプトラックの荷台へ放り投げる作業を行なっていてバランスを崩し、アスファルト舗装道路上へ墜落した。	415	1	1～9
2000	10	16 ～ 17	3階建の建物の解体で、屋上で作業をしていたときに屋上部分が突然崩壊し、地上に墜落してコンクリートブロックと壁との間に腰部を挟まれた。	415	5	1～9
2000	9	8 ～ 9	足場の組立作業中に、壁つなぎを取り付けるためのハンマーを取りに行くため足場から既設建設物の階段踊り場に移ろうとして、8.8m下の地上に墜落した。	411	1	1～9
2000	7	14 ～ 15	野外コンサート会場の設営作業中、スピーカースタンドから14メートル下の地面に墜落した。	418	1	10～ 29
2000	6	8 ～ 9	倉庫屋根鉄骨補強工事において、作業開始前に天井クレーンと近接したつり足場上に置いた水筒を取ろうと身をのり出したときに、天井クレーンが走行してきたので、咄嗟につり足場の単管を掴んだが足元がクレーンから離れぶら下がった状態となり、地上へ墜落した。(墜落高さ約12m)	416	1	1～9
2000	12	14 ～ 15	鉄筋コンクリート造5階建ビル解体工事において、4階外壁を倒すためのはつり作業中に突然、外壁が倒れ下敷きになった。	418	5	1～9
2000	12	14 ～ 15	コンクリート壁(高さ2m長さ5m)の倒壊工事で、倒壊前の準備作業としてコンクリート壁の縦方向に筋打ちの作業をハンマーで行っていたところ、突然、壁が倒壊し、その下敷きになった。	418	5	1～9
2000	11	8 ～	解体工事現場において、重機のオペレーターが壁を内側に倒すため、張出部分の壁を縁切りして次の作業の取り掛かろうとしたときに張出部分の壁、スラブ4スパン分がほぼ垂直に崩壊落下し、1名は3スパン目のスラブ	418	5	10～ 29

		9	下にいて落下してきたコンクリートの下敷きになり、2スパン目のスラブ上にいた1名はスラブとともに墜落した。			
2000	11	8 ~ 9	解体工事現場において、重機のオペレーターが壁を内側に倒すため、張出部分の壁を縁切りして次の作業の取り掛かろうとしたときに張出部分の壁、スラブ4スパン分がほぼ垂直に崩壊落下し、1名は3スパン目のスラブ下にいて落下してきたコンクリートの下敷きになり、2スパン目のスラブ上にいた1名はスラブとともに墜落した。	418	5	1~9
2000	6	0 ~ 1	工事現場の塗装作業で脚立が必要となり、2名で軽トラックに乗り同業者の軽トラックまで取りに行く途中、緩やかなカーブに差し掛かったときに荷台で塗料約10缶、塗料の空缶、バケツ等を押さえていた者がバランスを崩し、道路に転落した。	221	17	1~9
2000	3	11 ~ 12	個人住宅用車庫設置工事において、車庫の支柱にアルミ製の横梁(長さ8.6m)を取り付けるため、うま(高さ1.7m)の最上段をまたいだ姿勢で作業をしていたところ、強風のためバランスを失い横梁とともにアスファルト道路に落下した。	371	1	10~ 29
2000	3	10 ~ 11	マンションの外壁塗装工事において、塗装が終了して外部足場の解体中にマンション住人用通路の屋根の上に単管で組まれた養生の上を清掃していた約2.1m下のアスファルトに転落した。	411	1	10~ 29
2000	12	15 ~ 16	ビルの外壁タイルの剥離調査と補修のための足場組み立てで、休憩後、組立を始める位置(高さ5.36m)まで足場の筋交いを使い登っていたところ転落した。	411	1	10~ 29
2000	9	13 ~ 14	倉庫の解体作業で、高さ約1.6mのブロック塀に上り解体作業をしていたときに隣地の庭に墜落して頭を打った。	418	1	1~9
2000	5	13 ~ 14	墓石の解体作業で、トラックから構内運搬車に荷物の積み込み、構内運搬車を運転するためトラックの荷台と構内運搬車の隙間約50cmの間に入りエンジンを掛けたところ、構内運搬車の走行クラッチが「後進」に入っていたために後進し、トラックの荷台と構内運搬車との間に挟まれた。	229	7	1~9

2000	5	9 ～ 10	鉄塔組立工事現場において、地上で鉄塔組立の作業指揮をしていた被災者は、部材の組立状況を確認するため、あらかじめ部材に取付けられていた長さ5mのキーロック式移動ロープにより順次確保しながら鉄塔を登っていたところ、地上から31メートルの地点で後ろ向きに倒れ、約2.1m墜落した地点で宙吊り状態になり、そのときに鉄塔の部材に激突した。	418	1	50～ 99
2000	11	10 ～ 11	塗装作業で、屋根に掛かっていた足場あたりの塗り残し部分を塗るため、ひさし部分に移動はしごを掛けひさしに乗り移ったときに3.1m下のアスファルト上に頭から墜落した。	415	1	1～9
2000	2	9 ～ 10	外装フィルム接着のための墨出し作業中、外壁からはり出しているひさし(高さ4.16m)からアスファルトの地面に墜落した。	415	1	1～9
2000	8	15 ～ 16	工場スレート屋根の張替工事において、張替材料を運搬中にスレートを踏み抜いて約10メートル下のコンクリート床へ墜落した。	415	1	1～9
2000	3	11 ～ 12	鉄筋3階建の屋上で、アンテナの移設作業に使用するワイヤーロープ(30メートル)を引き伸ばすため屋上の端に向かって後ろ向きに移動していたときに、高さ30cmのパラペットを越えて9.8メートル下に転落した。	415	1	1～9
2000	3	15 ～ 16	倉庫の解体工事において、午後3時の休憩のためスレート屋根を移動中に、スレートを踏み抜き約8メートル下のコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2000	12	14 ～ 15	鉄骨庇の改修工事で、屋根鉄板を解体した木毛セメント板に載ってしまい木毛セメント板(約60cm×80cm)を踏抜いて約6m下の地上に転落した。	418	1	1～9
2000	11	7 ～ 8	自社のバスで現場に向かって高速道路を走行中、運転操作を誤ってガードレールに接触したときに車外に投げ出された。	231	17	10～ 29
		16	1階金庫室の解体工事中に、未解体の鋼板・コンクリート製の金庫室南側			10～

2000	10	～	側壁が倒壊し、既に解体した資材の搬出作業を行っていた2名がその下敷	418	5	29
	17		きとなり、1名が死亡、1名が重傷を負った。			
2000	10	～	鉄骨造2階建個人住宅建設工事において、2階床部分の小梁間に足場板を渡	418	5	1～9
	17		し、胴縁材を取り付けているときに1階床面に墜落(高さ3.9メートル)し			
			た。			
2000	10	～	鉄骨造2階建個人住宅建設工事において、2階床部分の小梁間に足場板を渡	416	1	1～9
	12		し、胴縁材を取り付けているときに1階床面に墜落(高さ3.9メートル)し			
			た。			
2000	7	～	枠組足場上で養生用メッシュシートの結束中に、うずくまっていたので救	715	11	1～9
	17		急車で病院に搬送したが熱中症で死亡した。			
2000	7	～	小学校の外部改修工事において、外部足場組立て中に足場第3層(高さ	411	1	10～
	14		5.8m)から墜落した。			29
2000	6	～	個人住宅の解体作業を終了し公道上でドラッグショベルを2tトラックに積	142	7	1～9
	17		み込むときに、バケットの先端をトラックの荷台に乗せその反力で機体を			
			持ち上げ、バケットを旋回させて路面につけバックで積み込もうとしたと			
			きにショベルが傾き、トラックとアームとの間に頭部を挟まれた。			
2000	6	～	4tトラックの荷台でアルミサッシ窓枠の水平部材のパレットの荷卸作業を	221	1	10～
	10		行っていて、2台目のパレット(重量約650kg)がフォークリフトのとどかな			29
			い位置にあったので、角材を用いて2人でこじりながら移動させていたと			
			ころ、角材がパレットからはずれたため後ろ向きに約1.3メートル転落し			
			た。			
2000	5	～	鋼管抱き足場の解体作業中、高さ約7mの足場上から隣地のコンクリート	411	1	1～9
	14		地面に墜落した。			
			11			10～
			木造2階建住宅の解体作業で、3.7tのダンプの荷台上で廃材の整理をして			

2000	4	～ 12	いて荷の上から転落し(約2.7m)、コンクリートの土間に激突した。	221	1	29
2000	3	17 ～ 18	建材店で4tトラックにセメントを積み込み、ロープで積荷を固定する作業をしていたときに荷台から道路に墜落し頭部を打った。	221	1	30～ 49
2000	3	16 ～ 17	2階建の屋根全面の塗装作業中、屋根(高さ7.2m)より墜落し死亡した。	415	1	1～9
2000	3	16 ～ 17	杭打設工事の準備作業で、トラックで搬入された荷を降ろすため杭打機を左に旋回させたところ、トラックの右後方で作業していた者が杭打機のカウンタウエイトとトラックの荷台との間にはさまれた。	143	7	30～ 49
2000	3	14 ～ 15	外部鉄骨階段の塗装に使用した仮設足場の解体後、塗装されていなかった足場の控えを取り付けたクランプの痕を塗装するため、7階鉄骨階段踊場の(高さ110cm)手すりに上がるとして、約25m下のコンクリート面に墜落した。	413	1	10～ 29
2000	2	9 ～ 10	エレベータ昇降路軀のコンクリートブロック壁の解体作業で、ガラの袋詰め作業のため足場上を移動中に突然作業床が崩壊し、約13m下の地下1階まで墜落した。	411	1	10～ 29
2000	1	9 ～ 10	鉄骨建物の解体作業現場において、解体物をトラックに載せるため建設機械ドラグショベルのバケットをフォークグラブに取り替えたものを旋回させたときに、建設機械と鉄骨建物の側にあった看板との間に胸部を挟まれた。	149	6	10～ 29
2000	7	14 ～ 15	工場内部の鉄骨等の塗装作業のため単管抱き足場上で塗装作業中に、高さ約5mのところから墜落した。	411	1	1～9
2000	10	10 ～	エスカレーター設置工事で、パネルの取り付け作業中に4階エスカレーター踊り場から建物の吹き抜け部へ転落した。	414	1	10～ 29

		11				
2000	8	10 ～ 11	個人住宅の屋根瓦の補修作業で、玄関の下屋根から休憩のため梯子に乗り移ろうとして、梯子から2.9メートル下のコンクリート面に墜落した。	413	1	10～ 29
2000	4	13 ～ 14	軒高6mの2階建てアパートの屋根(勾配20度～30度)の塗装作業を行っていたところ、地面に墜落、死亡したものの。	415	1	1～9
2000	9	14 ～ 15	台風の影響で天候が悪かったため現場での作業を切り上げ、乗用車で会社に戻る途中、国道で左側のガードレールに衝突した。	231	17	1～9
2000	2	11 ～ 12	高校の防球ネットの張り替え工事で、コンクリートポール(高さ約8m)に登って旧ネットをカッターで外す作業を行っていたときに、コンクリートポールに掛けていた安全帯が外れて約5mの高さから転落し、コンクリート塀にぶつかってから塀の外側の道路に転落した。	379	1	1～9
2000	2	10 ～ 11	家屋解体工事で樹木(高さ約20メートル)を伐採しようとしたが、伐採した樹木が近隣の建物を破壊するおそれがあったためバックホーで樹木を倒す方向に引っ張り、くさびをいれてその反対側をチェーンソーで切っていたところ突然、幹が割れて胸部に当たったため、登っていた木から5.5メートル下に落下した。	712	6	1～9
2000	1	9 ～ 10	電車の振動で生じる地階の外周コンクリート壁のクラックを最小限に押さえるため仮に設置したコンクリート仮設物(バットレスと呼称)を手持ちのコンクリートブレーカーで破砕していたところ、1つのバットレスが作業に倒れて来て押しつぶされた。	419	5	10～ 29
2000	11	14 ～ 15	屋根改修工事現場において、棟木取付け作業のため屋根上を移動していて約7.2メートル下の地面に墜落した。	415	1	1～9
		13	駅トイレの屋根の塗装作業中に高さ約3.4mの妻側から隣接する駐輪場に			

2000	9	～ 14	墜落した。	415	1	1～9
2000	8	～ 17	資材置場工事に伴う取付道路の造成作業で、ダンプで搬送した土を小型ドラグショベルで整地しているときに、作業中路肩が崩れ転落しドラグショベルと地面との間に挟まれた。	142	1	10～ 29
2000	3	～ 18	会社の倉庫で2tダンプのプロペラシャフトに絡み付いているビニールを取り除くため、ダンプの荷台を途中まで上げて荷台の下にもぐったときに、荷台が下降し、荷台とシャーシーとの間に胸を挟まれた。	221	7	1～9
2000	7	～ 15	倉庫のスレート屋根の補修作業の前に要補修箇所の確認を行い、次いで簡易処置(ビニールシート張り)を行う段取り中に、スレート屋根を踏み抜き8m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	30～ 49
2000	5	～ 7	乗用車で工事現場へ向かう途中、右カーブを終えたところでハンドル操作を誤って中央分離帯を乗り越えて反対車線に飛び出し、対向のトラックと衝突した。	231	17	1～9
2000	3	～ 9	看板の設置に伴う基礎工事のため、掘削準備のためバックホーをバックで移動中に、ダンプトラックの誘導を終えて歩行中の者をクローラーベルトでひいた。	142	7	1～9
2000	2	～ 8	工事請負契約前の調査のため乗用車で走行中、橋の上でスリップして対向車線にはみ出してきた11tトラックと正面衝突した。	231	17	100 ～ 299
1999	6	～ 5	駅前ビル店舗の解体をつんで4tトラックで走行中、後続の大型トラックに追突された。	221	17	1～9
1999	11	～ 8	交通規制表示に必要な機材を作業車に積み込み市道上に停車して、作業車の後方に回り積載済みの塗料溶解機等の点検を行っていたところ、後方から走行してきた乗用車に激突されて作業車との間に挟まれた。	231	17	10～ 29
		14	店舗の改修工事現場において、外部足場の三段目上(高さ5.3m)で看板の			

1999	3	～ 15	塗装作業中にアスファルト舗装道路上に墜落した。	411	1	1～9
1999	12	9 ～ 10	倉庫解体工事現場において、屋根トタンを外す作業を行っていたときに厚さ1.2センチメートルの木毛板を踏み抜き約8m下に墜落した。	415	1	1～9
1999	12	0 ～ 1	橋脚の型枠解体する作業で、頭部の型枠解体完了後、単管本足場の解体作業を行っているときに、最上層(4層)の足場作業床から6.55メートル下の地面に仰向けに墜落した。	411	1	1～9
1999	12	9 ～ 10	エレベーターのガイドレール(重量約242kg)を移動式クレーンで設置する作業で、補助フックと主フックを併用して吊り上げ、荷を垂直にするために補助フックの方を上へ上げたときにクランプが外れ、近くで検品作業をしていた者の頭部に当たった。	372	4	10～ 29
1999	12	20 ～ 21	5階エレベーター前ホールで水性塗料による内部壁塗装を行うため、エンジン駆動コンプレッサーを持ち込み作業をしていて排気ガスで一酸化炭素中毒となった。	514	12	1～9
1999	12	14 ～ 15	木造2階建住宅新築工事で、網戸取付け作業が終了したため、同僚が行っていたバルコニー手すり取付け箇所に立ち寄ったときに、仮止めしてあった手すりを押倒して高さ4.82メートルのバルコニーの床から地上に墜落した。	418	1	10～ 29
1999	11	13 ～ 14	単管足場の作業床上(高さ2.24m)で、工程の打合せをしていて下方の通路に墜落した。	411	1	10～ 29
1999	12	11 ～ 12	木工所の解体工事において、中2階の根太の上に張られていたベニヤ板(厚さ・2mm)の床の上に、木製の戸を渡して外壁材の取壊し作業をしていたが、1階に降りるときに作業床が天秤状態となってバランスを崩し、ベニヤ板の床を突き破って2.87m下の1階床に墜落した。	416	1	1～9
		9	フェリー乗降用可動橋の解体撤去工事において、歩道伸縮を制御する油圧			

1999	12	～	シリンダーをガス溶断したところ歩道部分が滑り出して歩道橋の下部H鋼	413	7	1～9
		10	と歩道橋のアンクルとの間にはさまれた。			
1999	10	～	鉄骨平屋建新築工事の内装作業において、高さ1.6mの足場上でベビーサ	153	8	1～9
		11	ンダーを使用して天井吊りエアコンのために鉄製軽量下地を切断中に、ベ			
		11	ビーサンダーが跳ね返り首右頸動脈を切断した。			
1999	11	～	工場の改修工事で、外階段のボルト頭の塗装作業のため、足場から階段の	415	1	1～9
		14	屋根に乗り移って移動中、足を滑らせて約4.4メートル下のアスファルト			
		14	に墜落した。			
1999	11	～	新築工事現場において、屋根の鉄骨接合部分等の塗装を行うため、高さ	411	1	1～9
		10	8.9メートルの移動足場の上で塗装作業の段取りをしている最中に作業床			
		10	の端から墜落した。			
1999	11	～	木造2階建て住宅の新築工事現場において、屋根の上に下地であるシート	415	1	1～9
		10	を貼る作業を行っていたところ、風にあおられ高さ6.4mの屋根の端より			
		10	地上に墜落した。			
1999	11	～	台風被害復旧でスレート屋根の修理作業中、誤ってスレートを踏み抜き約	415	1	10～
		12	5m下のコンクリート土間に墜落した。			29
1999	11	～	工場屋根のスレート葺き替え工事で、事前点検のため、スレート屋根上に	415	1	10～
		14	上がったときに、腐食していた母屋が折れたため、高さ約3.7メートル下			29
		14	のコンクリート上に墜落した。			
1999	11	～	高校の渡り廊下の屋根部分の塗装工事で、高さ2.3mのうま足場上で養生	411	1	1～9
		10	用シートを張っていて足場から転落した。			
1999	11	～	橋脚の防錆塗装が終了して吊り足場の解体作業中、被災者があらかじめ解	411	1	10～
		15	体された作業床(重さ20kgのパネル1枚)を運搬している時にバランスを崩			29
		15	し12m下に墜落した。			
		11	住宅の改装工事において、風呂場の壁をシーラーと呼ばれる塗料(トルエ			

1999	10	～ 12	ン40%以上含有)を用いて塗装していて、頭から浴槽に倒れ込んだ。	514	12	1～9
1999	9	10 ～ 11	屋根と屋根との間の清掃で、となりの棟に移動するときに、スレート屋根を踏み抜き墜落した。	415	1	10～ 29
1999	11	14 ～ 15	終末処理場の建築工事において、強風のため作業を中止し、強風対策のために型枠や足場の養生をしていたところ、強風が吹いたため、電気室の型枠を支えている支保工が崩壊してその下敷きになった。	412	5	10～ 29
1999	9	10 ～ 11	木造平屋の解体工事現場において、油圧ショベルで解体した家屋の柱を挟んで4トントラックに積み込む作業中、トラックの荷台上で積み込まれた廃材等を整理していた者が地面に墜落した。	221	1	1～9
1999	10	9 ～ 10	農協倉庫前の米の仮置き施設の屋根に掛けられていたテントを外すため、高さ5.3メートルのローリングタワー最上部に2人を乗せたままタワーの移動をしていたところ、タワーが転倒し屋根の梁材につかまったが耐え切れずに5.3メートル下の転倒したタワーの上に墜落した。また、もう1人も重傷を負った。	411	5	10～ 29
1999	9	16 ～ 17	台風により破損した屋根の修理を行っていて、屋根の庇(高さ6.24m)から墜落した。	415	1	10～ 29
1999	10	9 ～ 10	台風災害復旧工事のため、工場建屋のスレート屋根に上りコーキング作業を行っていて、高さ約8メートルのスレート屋根を踏み抜き墜落した。	415	1	10～ 29
1999	9	16 ～ 17	スレート屋根上(高さ16.2m)で台風により破損したスレートの葺き替え作業中、屋根スレートを踏み抜き高さ16.2mのスレート屋根から地上に墜落した。	415	1	1～9
1999	6	16 ～	工事現場から自動車に3名が同乗して帰る途中、スリップして、中央分離帯に接触し、反対側斜面に乗り上げて横転した。	231	17	1～9

		17				
1999	8	6 ～ 7	事業場所有のワゴン車で工事現場へ移動中、4トントラックがセンターラインを超えてきたため正面衝突した。	221	17	1～9
1999	9	11 ～ 12	解体中のビル8階で室内から外壁にコア抜(穴あけ)作業をしていたときに、同階の解体ガラを落とす開口部から1階床まで約22メートル墜落した。	416	1	1～9
1999	9	11 ～ 12	新築マンション建設の前作業において、現場責任者が自らドラッグショベルに乗って土中の埋設物や廃材の撤去、土の埋め戻し、整地作業を行っていてドラッグショベルの後では、瓦礫等の廃材の分別作業を行っていた者の存在に気づかず、そのまま後進させてキャタピラーでひいた。	142	7	1～9
1999	8	11 ～ 12	アパートの一室の浴室において、浴室の壁の塗装のための下地剤を塗布する作業をしていて、浴槽に倒れているのを部屋の住人に、発見された。(下地剤はトルエン70～80%を含有)	514	12	1～9
1999	7	9 ～ 10	デパート(地上7階建)の屋上で、広告塔(高さ約10m)の塗装修繕工事を行うため、鋼製枠組足場を、2段目まで組み上げたときに強風にあおられ、屋上から約25m下の道路に足場と共に墜落した。	411	1	1～9
1999	8	11 ～ 12	ダクトの撤去作業で、高さ2.1mのアルミ製の踏み台に上がり、天井裏から手渡された局所排気装置用ダクト(長さ3.3m、直径20cm、重量10kg)を受け取ったときに、バランスを崩して転落した。	411	1	1～9
1999	7	15 ～ 16	ダスト処理設備の改修工事で、コンベアー架台の補強リブ板をアーク溶接していたときに感電した。	332	13	1～9
1999	1	13 ～ 14	SRC造5階建の解体作業で、5階パラペットが外枠足場側へ倒れかけたので、パラペットにワイヤーロープを掛けて重機で支えようと5階へワイヤーロープを運び上げていたときに、4階スラブ上にいた重機オペレーターが防音パネル用足場と躯体との間(幅1.3mの開口部)から3階床へ	416	1	10～ 29

			5. 05m墜落した。			
1999	7	7 ～ 8	倉庫解体工事でドラグショベルを使って廃材を4トンダンプに積込み作業中、ダンプの後方で荷台後部に木製のおりを取り付けていて右旋回してきたドラグショベルのカウンターウェイトとダンプの左側後部との間に挟まれた。	142	7	1～9
1999	7	0 ～ 1	4tダンプで運んできた解体現場の廃材をドラグショベルで焼却穴に落とし込む作業を行なっているときに、廃材の木屑等が穴に落ちた反動で熱気と煙りがドラグショベルの運転席に流れ込んだため、慌てた運転者の手が右旋回レバーに触れ、近くに居た者の頭部にバケットが激突した。	142	6	1～9
1999	7	10 ～ 11	工場屋根の雨漏り補修中にスレート屋根を踏み抜き、8.5メートル下に墜落した。	415	1	1～9
1999	7	14 ～ 15	小型移動式クレーンの荷台からベニヤ製型枠用パネルの束を降ろすため、玉掛けの作業をしていたときに積載してあった型枠用パネルの束が倒壊してきて、その下敷きになった。	611	5	1～9
1999	7	11 ～ 12	船舶の塗装前に船体に付いた水滴を拭き取っていて、高さ3.43mの足場からコンクリートの地面に墜落した。	411	1	10～ 29
1999	7	10 ～ 11	2階ベランダ屋根への樋の取付作業を終了し、作業床からベランダに降りようとした時にバランスを崩して約4.4m下の地面上に墜落した。	416	1	1～9
1999	6	11 ～ 12	河川が増水したので河川のそばにある資材置場の資材が流出しないよう建築資材を片付けていたときに、増水した河川に転落し、約1km下流で発見された。	713	10	1～9
1999	6	15 ～ 16	鉄塔建設現場において、鉄塔のボルトの本締め作業を行っていたところ、両手の筋肉痛がしたので地上に降りて清掃作業を行ったが、その後鉄塔上でボルト締め作業を終えて降りてきた作業員が鉄塔の下で仰向けで倒れて	715	11	10～ 29

			いるのを発見した。			
1999	6	10 ～ 11	トラッククレーンに荷積作業中、2本吊りしたパイプサポートの束がバランスを崩して、激突された。	611	6	10～ 29
1999	6	14 ～ 15	工事現場で、屋根鉄骨を組み立てるために高さ6メートルの張り出し足場を組立しているときに、張り出し足場上で同僚から足場板を受け取った直後に張り出し足場の単管を緊結するクランプが外れたため、張り出し足場が傾き、バランスを崩して墜落した。	411	1	30～ 49
1999	2	9 ～ 10	個人住宅の外壁塗装工事現場で、高さ3・46メートルの下屋付近でウエスを使って塗料の拭き取り作業中に地上に墜落した。	418	1	1～9
1999	6	15 ～ 16	高さ178.5mの鉄塔の改修工事で使用した68.5mの足場の最上部を解体し、ウインチで足場材を降ろす作業中に墜落した。	411	1	10～ 29
1999	2	17 ～ 18	看板を撤去するため広告塔の内側からボルトを外していたときに、作業床を踏み抜いて12.6メートル下の地面に墜落した。	418	1	1～9
1999	6	14 ～ 15	地上3.8mのプラント操作室壁面の塗装作業で、ショベルローダーのバケットに乗って塗装作業を行い、少し前に出して上に上げるよう指示し、サイドブレーキを解除したところわずかに前に動いたため、プラント操作室とバケットとの間に挟まれた。	225	7	10～ 29
1999	6	14 ～ 15	廃材処理場内において、金属類の仕分け作業中に行方不明となったので探したところ、廃材の山の中で死亡していた。	141	6	10～ 29
1999	3	15 ～ 16	高さ約5メートルの屋根の上で作業中に、開口部から墜落した。	415	1	1～9

1999	5	11 ～ 12	工場の谷樋取り替え工事において、溶接用の発電機のスイッチを入れるため屋根下に降りたのち再び作業場所に戻るときに屋根の下地ボードを踏み抜いてコンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
1999	5	16 ～ 17	解体用機械で5階建て工場建物の塔屋部分を解体中、鉄筋コンクリート製の塔屋(3m×3m×6m)が崩れ落ちて解体用機械の運転席を直撃した。	418	4	10～ 29
1999	1	14 ～ 15	民家の外壁塗装工事において、一階の底上を歩行中に約4m50cm下の道路に墜落した。	415	1	1～9
1999	1	15 ～ 16	家屋解体で出た廃材を6tトラックで廃棄物処理場へ運ぶ途中、交差点で過積載(21t)のため横転した。	921	17	1～9
1999	4	17 ～ 18	解体工事現場で作業終了後に、大型トラックの荷台にドラグショベルをバックで積もうとしたがうまく行かず、次にアタッチメントを外しドラグショベルを荷台に載せ、そのままアームを伸ばしたところドラグショベルが横転し、側にいた者がコンクリート塀とドラグショベルのブーム部との間に胸部を挟まれた。	142	6	1～9
1999	3	16 ～ 17	部品棚を組立てるため、高さ2.5メートルの鉄骨上でボルト締め作業を行っていたときに、バランスを崩し、途中高さ1.25メートルのところにある鉄骨にバウンドして地上に墜落した。	418	1	1～9
1999	4	7 ～ 8	ワゴン車に4人が乗り建設現場に行く途中でトラックターミナルに迷い込み、コンテナの荷卸を行っていたフォークリフトとトラックの間を通り抜けようとして、助手席側がフォークに激突し、助手席にいた者が死亡した。	231	3	10～ 29
1999	4	11 ～ 12	資材置場で型枠の製作を行っていたところ、製作済みの型枠が突風にあおられて約15m飛来し、直撃された。	522	4	50～ 99

1999	3	8 ～ 9	鉄塔の撤去工事において、玉掛けするため鉄塔に登っていたところ、鉄塔が真中から折れて鉄塔と共に地面に墜落した。	418	1	1～9
1999	4	16 ～ 17	工場であった建物を倉庫とすることに伴って建屋の屋根を塗装することになり、塗装前の水洗を行っているときにスレート屋根を踏み抜き約7メートル下の工場内のピットに墜落した。	415	1	1～9
1999	4	14 ～ 15	火力発電所構内の排煙脱硫装置周辺の鉄骨を塗装中、階段足場から墜落した。	411	1	1～9
1999	4	13 ～ 14	貯水塔をガス溶断してクレーンで地上へ降ろし、不要となった足場を順次解体していたときに、解体した建地とともに17メートル下のコンクリートに墜落した。	411	1	1～9
1999	4	8 ～ 9	スレート屋根の葺き替え作業中に、スレートを踏み抜き高さ5.65mから土間コンクリート上に墜落した。	415	1	1～9
1999	1	17 ～ 18	借りた足場材を土場まで2tトラックで返却に行ったところ、足場材を入れる籠の前にフォークリフトが置いてあったので、退かそうと運転したところ転倒しフォークリフトの下敷きとなった。	222	2	10～ 29
1999	2	20 ～ 21	資材置場から翌日の資材を積み自分のバイクで事務所に戻る途中、信号機のない交差点で4トントラックと出会い頭に衝突した。	221	17	10～ 29
1999	3	14 ～ 15	保養施設の解体工事現場の破砕物を堆積した場所で発じん防止のためホースで散水作業を行い、終了後ポンプ車の散水ホースを片付けている間に地上まで約2.8メートル転落した。	416	1	50～ 99
1999	3	13 ～ 14	石材店のトタン板葺替工事中、明かり採りの塩ビ波板を踏み抜いて約5・7メートル下の加工石上に墜落した。	415	1	1～9

1999	1	13 ～ 14	老朽化したスレート屋根をトタン屋根に葺き替え工事で、屋根に上がり準備していたときにスレートを踏み抜き4、5メートル下に墜落した。	415	1	1～9
1999	2	11 ～ 12	工事完了の現場からのクレームに対応したのちバイクで帰社途中、市道で対向車線から右折してきた車に激突された。	231	17	1～9
1999	1	9 ～ 10	工事現場において、3階の外壁にタイルを貼り付けるため、枠組み足場の6層目の足場板の上で外壁タイルの裏地に接着剤を塗布していたときに、枠組み足場の筋交いの中から地上に転落した。	411	1	10～ 29
1999	1	10 ～ 11	足場解体作業で、足場上の建枠を移動式クレーンにより吊りおろすため玉掛け作業を行っていたときに、約18m下の地面に墜落した。	411	1	30～ 49
1999	1	9 ～ 10	2階建住宅の外壁塗装工事現場において建物の壁面にはしごを立てかけ上から3段目付近で塗装作業を始めようとしたときに、はしごが転倒して地面に墜落した。	371	1	1～9
1999	1	9 ～ 10	寺の屋根の雪下ろし作業で、屋根から下ろした雪で窓が割れないように、コンパネをあてようとしていたところに、高さ約7mの軒に垂れ下がっていた雪が落下し、下敷きとなった。	415	4	1～9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。